

---

---

# 相模原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 策定に係る基礎調査報告書

---

---

2016(平成 28)年 4 月

**SURV** さがみはら都市みらい研究所

# はじめに

## 1. まち・ひと・しごと創生（人口ビジョン策定の背景）

わが国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、わが国全体の人口、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを目指し、2014（平成 26）年 11 月にまち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号。以下「法」という。）が制定された。

国においては、国民一人ひとりが夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営むことができる地域社会を形成すること、地域社会を担う個性豊かで多様な人材について確保を図ること及び地域における魅力ある多様な就業の機会を創出することの一体的な推進（まち・ひと・しごと創生）を図ることとしており、2014（平成 26）年 12 月には、法に基づき、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示するまち・ひと・しごと創生長期ビジョン及びこれを実現するため、今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたまち・ひと・しごと創生総合戦略を閣議決定し、総合的に取り組んでいる。

## 2. 人口ビジョン策定の根拠と位置付け

本市の人口は、2010 年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計（2013（平成 25）年 3 月。以下「既存推計」という。）において、2019（平成 31）年までわずかながら増加を続け、ピーク時で 73 万人を超えた後に減少に転じ、2060（平成 72）年にはピーク時の 3/4 程度である約 54 万人まで減少すると予測しており、人口減少社会を見据えて、持続可能な都市経営に取り組まなければならない。

そのような中、まち・ひと・しごと創生については、法に基づき、国と地方が一体となり、中長期的視点に立って取り組む必要があることから、本市では、国の長期ビジョン及び総合戦略等を勘案しつつ、人口の現状と将来の展望を提示する相模原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（以下「相模原市人口ビジョン」という。）と、法第 10 条に基づく相模原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「相模原市総合戦略」という。）を策定し、実行していこうとするものである。

相模原市人口ビジョンは、相模原市総合戦略において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上での基礎資料と位置付けられるものである。

### 3.人口ビジョン策定に係る基礎調査の視点

相模原市人口ビジョンは、国の長期ビジョン及び国の総合戦略を勘案しつつ、既存推計において判明した諸課題の克服に向けて、一定の条件の下で人口シミュレーションを行うとともに、「人口移動に関する実態調査」や「市民の暮らしに関する調査」等を実施することにより、人口や市民の意識等を様々な観点から分析し、人口減少がもたらす影響等を考察し、その結果を踏まえて2060（平成72）年を見据え、地方創生及び持続可能な都市経営を行うために目指すべき将来の方向性や人口予測を提供するものである。

この将来の方向性や人口予測を行うためには、これまで、さがみはら都市みらい研究所で実施してきた各種調査、分析結果に加え、次の3つの視点からの分析も必要であると考え、今回、基礎調査を行ったものである。

- 視点1 市民が感じる暮らしやすさとは何かを明らかにする。  
相模原市民の暮らしに関するアンケート調査
- 視点2 市民の移動の実態について明らかにする。  
人口移動に係る実態アンケート調査
- 視点3 本市の世帯の実態について明らかにする  
相模原市の将来世帯推計

本報告書は、上記3つの視点から新たに実施した調査結果を取りまとめたものである。

相模原市人口ビジョン及び本報告書が効果的な施策を企画立案する上での基礎資料として活用されるとともに、人口減少に対する危機感を市民や企業、団体等、多様な主体と共有し、協働・連携しながら将来にわたって活力ある社会を維持していくための取組を始めるきっかけとなることを願うものである。

## ～ 目 次 ～

### 第1部 相模原市民の暮らしに関するアンケート調査

1. アンケート調査概要	1
2. 調査結果（単純集計結果）	2
(1) 暮らしやすさの評価	2
(2) 居住地域への評価	3
(3) 家族や親戚との関わり状況	7
(4) 地域活動について	11
(5) 暮らしに関する価値観について	14
(6) 回答者属性	16
3. 暮らしやすさ別に見た調査結果（クロス集計結果）	19
(1) 居住地域への評価	19
(2) 家族や親戚との関わり状況	25
(3) 暮らしに関する価値観について	29
(4) 回答者属性別暮らしやすさの評価	31
4. 暮らしやすさの要因分析	34
(1) 分析の方法	34
(2) 分析結果	38
(3) 「暮らしやすさ」から見た市民像の類型化	42
(4) 市民が感じる「暮らしやすさ」とは・・・	59

### 第2部 人口移動に係る実態アンケート調査

1. アンケート調査概要	65
2. 転入実態調査アンケート結果	66
(1) 回答者属性	66
(2) 転入したきっかけ（理由）について	67
(3) 現在の住まいを選んだ理由について	69
3. 転出実態調査アンケート結果	79
(1) 回答者属性	79
(2) 転出したきっかけ（理由）について	80
(3) 現在の住まいを選んだ理由について	82
4. 市内転居実態調査アンケート結果	92
(1) 回答者属性	92
(2) 市内転居したきっかけ（理由）について	93
(3) 現在の住まいを選んだ理由について	95
5. 調査結果から見える本市の人口移動（まとめ）	105

### 第3部 相模原市の将来世帯推計

1. 相模原市の将来世帯推計	109
1. 推計の枠組み	109
(1) 推計期間	109
(2) 推計方法	109
(3) 基準世帯数・人口等	110
(4) 将来の世帯主率仮定値の設定	111
(5) 1世帯当たりの人員の算出	111
2. 推計結果の概要	112
(1) 一般世帯数と1世帯当たりの人員	112
(2) 家族類型別一般世帯数及び割合	112
(3) 世帯主が65歳以上の一般世帯の見通し	114
(4) 世帯主が75歳以上の一般世帯の見通し	116
(5) 統計表	119
2. まちづくり区域別の将来世帯推計	121
1. 推計の枠組み	121
(1) 推計期間	121
(2) 推計方法	121
(3) 基準世帯数・人口等	122
(4) 将来の世帯主率仮定値の設定	122
(5) 1世帯当たりの人員の算出	122
2. 推計結果の概要	123
(1) 一般世帯数の推移	123
(2) 家族類型別一般世帯数の割合	124
(3) まちづくり区域別推計結果	125
緑区	125
中央区	132
南区	137
(4) 統計表	145

# 第1部

## 相模原市民の暮らしに関する アンケート調査

# 1. アンケート調査概要

既存推計によれば、本市の出生数は、2060(平成72)年には現在の半分となると予測している。また、団塊の世代・団塊ジュニア世代が多く住むため、今後、本市は死亡数が急増する。そのため、人口減少を避けられない。

その事実を受け入れつつも、本市が持つポテンシャルを十分に生かしながら首都圏南西部の拠点として、50年、100年先の未来を見通したまちづくりを進めていく必要がある。

そこで、相模原市民の暮らしに関する意識を統計的手法により的確に把握することで、まち・ひと・しごと創生に係る本市の「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定の基礎資料とすることを目的として「相模原市民の暮らしに関するアンケート調査」を行い、市民意識の分析を行った。

## アンケート調査概要

今よりも暮らしやすい相模原市にするためには、市民の生活実態を把握するとともに、市民が現在の生活を暮らしやすいと感じているかを明らかにする必要がある。そこで、20歳以上の市民3,000人を対象として、「相模原市民の暮らしに関するアンケート調査」を実施した。

図表 1-1 「相模原市民の暮らしに関するアンケート調査」概要

項目	詳細
1. 調査目的	相模原市民の暮らしに関する意識を統計的手法により的確に把握することで、まち・ひと・しごと創生に係る「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定の基礎資料とすることを目的として実施する。
2. 調査対象者	相模原市に在住する20歳以上の者 3,000名(住民基本台帳から無作為抽出)
3. 調査項目	本人の状況について(回答者属性) 年齢、性別、居住地域、世帯構成、居住年数等 現在居住している地域の特性について まちなみや環境、施設や交通の便、地域住民、地域への愛着度等 家族や親族との関わりについて 同居の状況、親族との関わり頻度、悩みごとや相談相手等 地域活動の状況について 現在の地域活動への参加状況、今後の地域活動への参加意向等 暮らしやすさに対する価値観 人とのつきあい方、信頼感、行政のあり方、社会貢献への意欲等
4. 実施時期	平成27年6月実施、郵送配布、郵送回収
5. 配布状況	配布数 3,000票 回収数 1,304票(43.5%)のうち、有効票が1,295票(43.2%)

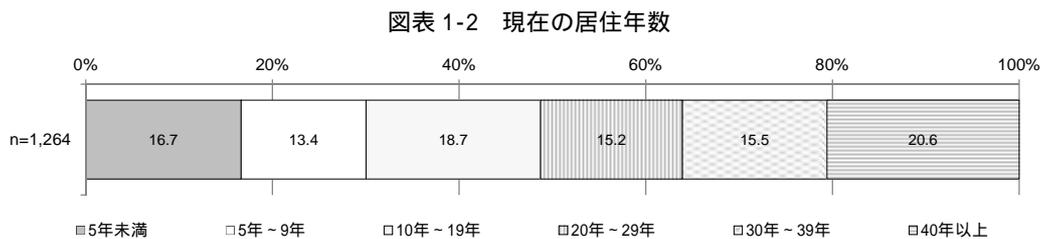
## 2. 調査結果(単純集計結果)

### (1)暮らしやすさの評価

#### 現在の居住年数について

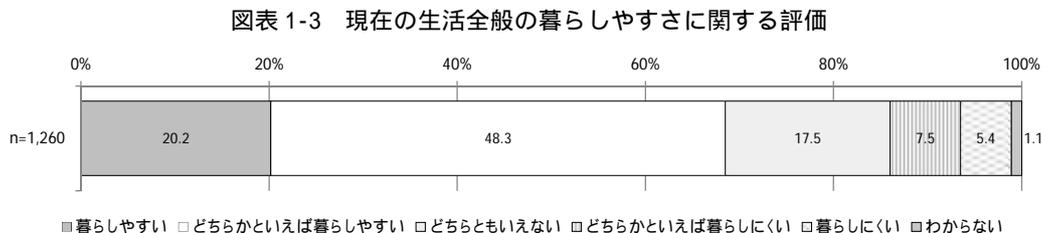
現在の居住年数について尋ねたところ、「40年以上」が20.6%で最も多く、次いで、「10年～19年」が18.7%、「5年未満」が16.7%となっている。

また、今回調査の平均居住年数は22.6年であった。



#### 暮らしやすさの評価

現在の生活全般の暮らしやすさについて尋ねたところ、「どちらかといえば暮らしやすい」が48.3%と最も多く、次いで「暮らしやすい」が20.2%となり、回答者の7割弱が現在の生活について暮らしやすいと回答している。

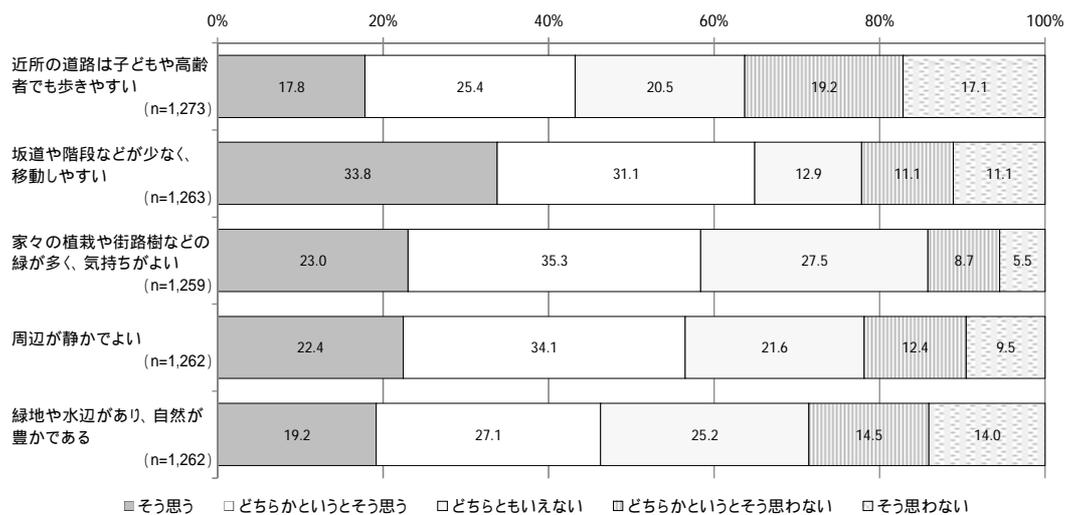


## (2) 居住地域への評価

### まちなみや環境に対する評価

自分が居住する地域のまちなみや環境への評価について尋ねたところ、全ての項目で「そう思う」「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」が「そう思わない」「そう思わない」及び「どちらかといえばそう思わない」を上回っている結果となった。特に移動のしやすさについては、「そう思う」が64.9%となっている。

図表 1-4 現在の居住地のまちなみや環境に対する評価

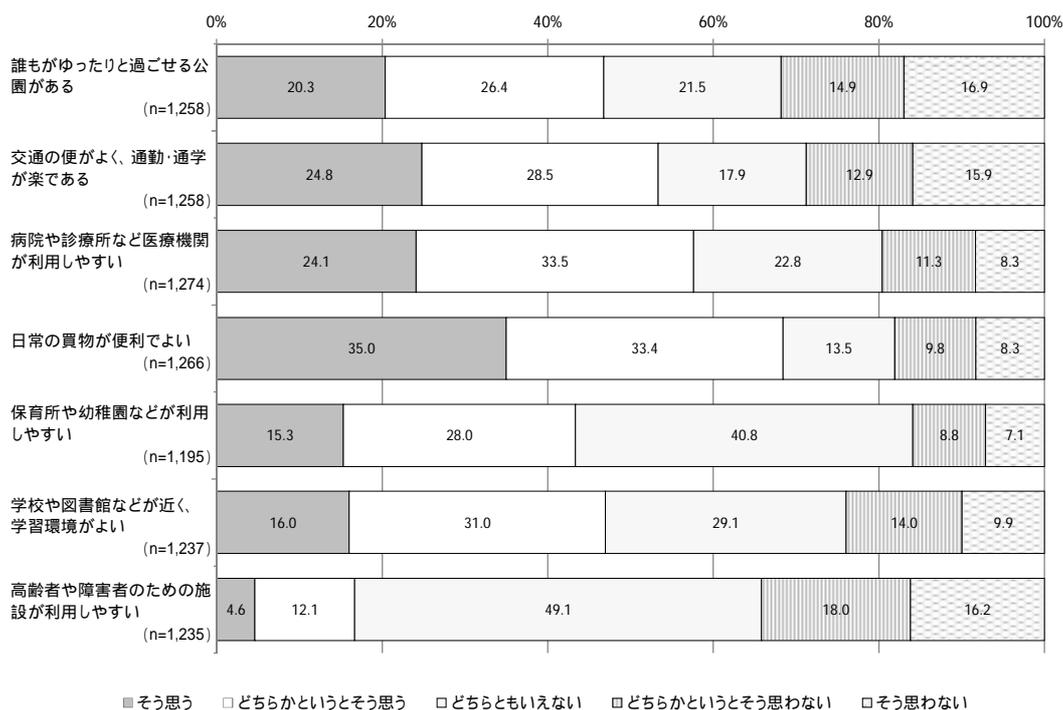


## 施設や交通の便に対する評価

自分が居住する地域の施設や交通の便の評価について尋ねたところ、日常生活を送る上で重要な買物や医療機関の利便性に対する評価は、半数以上が「そう思う」と回答している。

一方、保育所・幼稚園や高齢者や障害者のための施設の利用のしやすさは、「どちらともいえない」が最も多いが、高齢者や障害者のための施設の利用のしやすさは「そう思わない」(34.2%)が「そう思う」(16.7%)を大きく上回っている。

図表 1-5 現在の居住地の施設や交通の便に対する評価

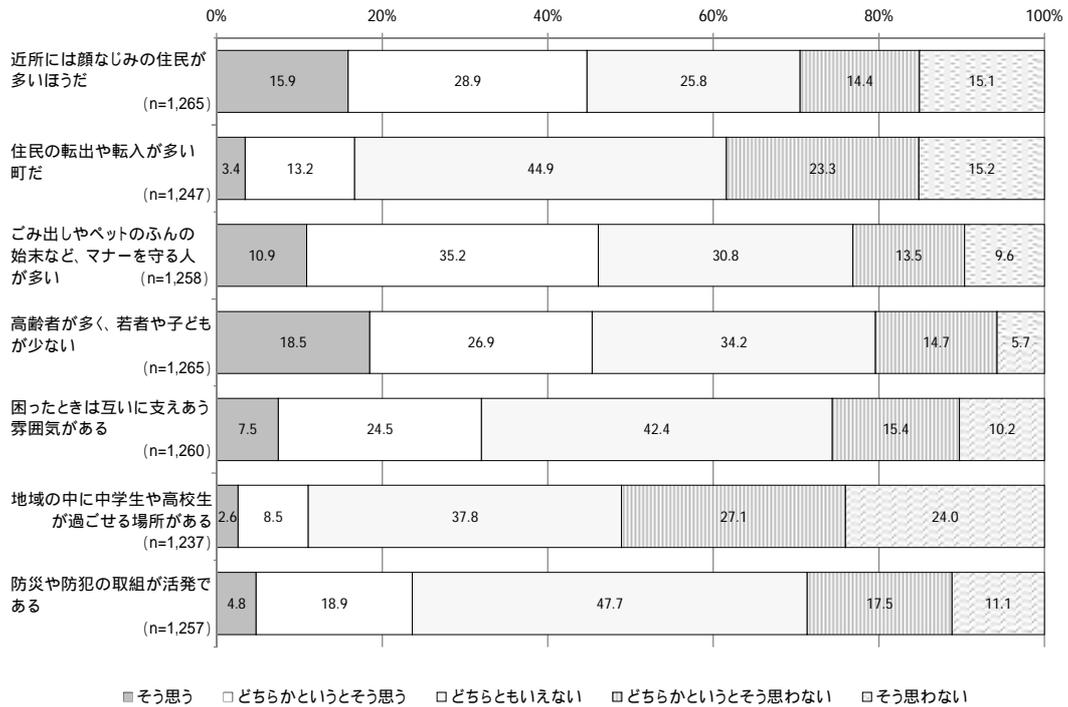


## 地域の住民に対する評価

自分が居住する地域の地域住民への評価について尋ねたところ、「近所には顔なじみの住民が多い」、「マナーを守る人が多い」、「困った時に支えあう雰囲気がある」については、「そう思う」が「そう思わない」を上回っており、総体として地域とのつながりや地域住民との良好な関係があることをうかがわせる。

一方、「地域の中に中学生や高校生が過ごせる場所がある」や「防災や防犯の取組が活発である」については、「そう思う」が「そう思わない」を下回っている。

図表 1-6 現在の居住地の地域の住民に対する評価

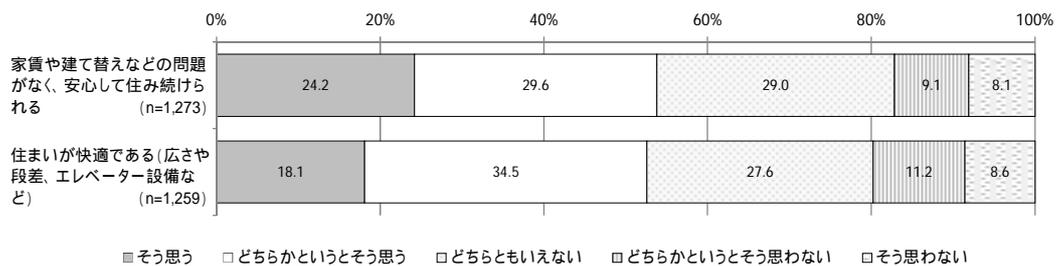


### 住まいに対する評価

自分が居住する住まいに対する評価を尋ねたところ、半数を超える人が「安心して住み続けられる」、「快適である」と回答している。

その一方で、おおむね2割程度の方が住居に対する不安や不満を抱えている。

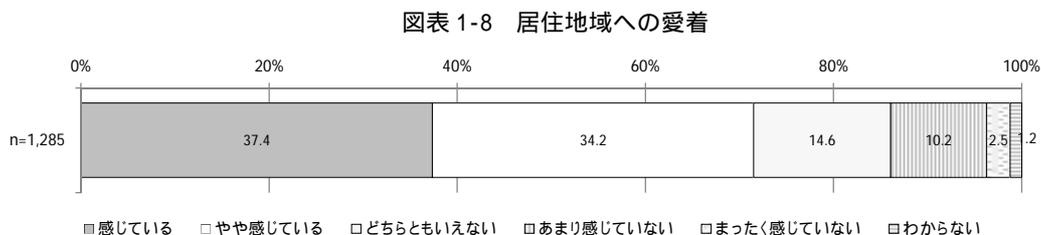
図表 1-7 現在の居住地の住まいに対する評価



## 居住地への愛着

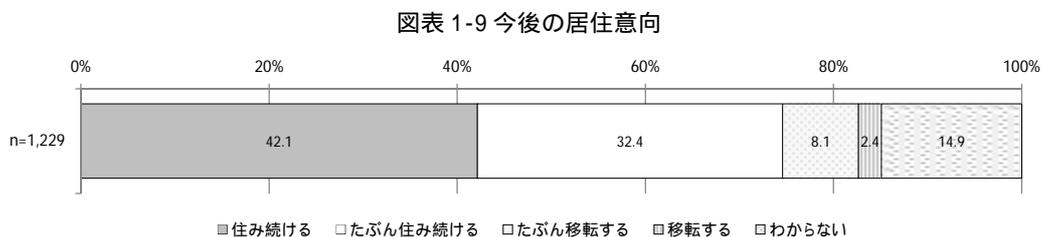
居住地に愛着を感じているかどうかを尋ねたところ、「感じている」が37.4%、「やや感じている」が34.2%で、愛着を感じている人は、約7割に上る。

一方、愛着を感じていない人は、12.7%（あまり感じていない10.2%、まったく感じていない2.5%）である。



## 今後の居留意欲

今後の居留意欲について尋ねたところ、「住み続ける」が42.1%で最も多く、次いで「たぶん住み続ける」が32.4%、「わからない」が14.9%となり、今後も本市へ居留意向があると回答した人は7割を超える結果となった。



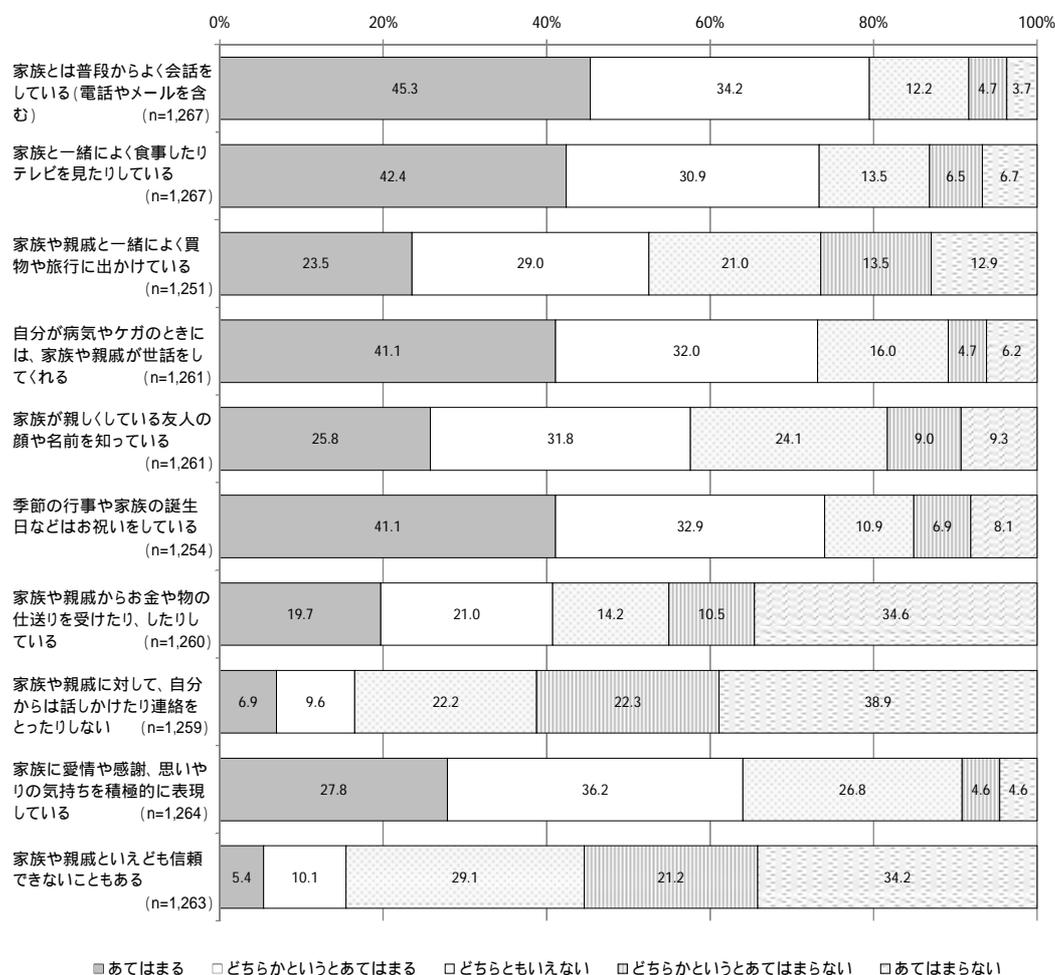
### (3) 家族や親戚との関わり状況

#### 家族や親戚との関わり

家族や親戚との関わりについて尋ねたところ、「家族とは普段からよく会話をしている（電話やメールを含む。）」、「家族と一緒によく食事をしたり、テレビを見たりしている」、「季節の行事や家族の誕生日などはお祝いをしている」等で「あてはまる」（「あてはまる」及び「どちらかといえばあてはまる」）と回答した割合が7割を超えている。

一方、家族との疎遠さを示す項目については、「家族や親戚に対して、自分からは話しかけたり連絡をとったりしない」では、「あてはまらない」（「あてはまらない」及び「どちらかといえばあてはまらない」）が61.2%、「家族や親戚といえども信頼できないこともある」が55.4%となっており、家族や親戚とのつながりが相当数あることがうかがえる。

図表 1-10 家族や親戚との関わり

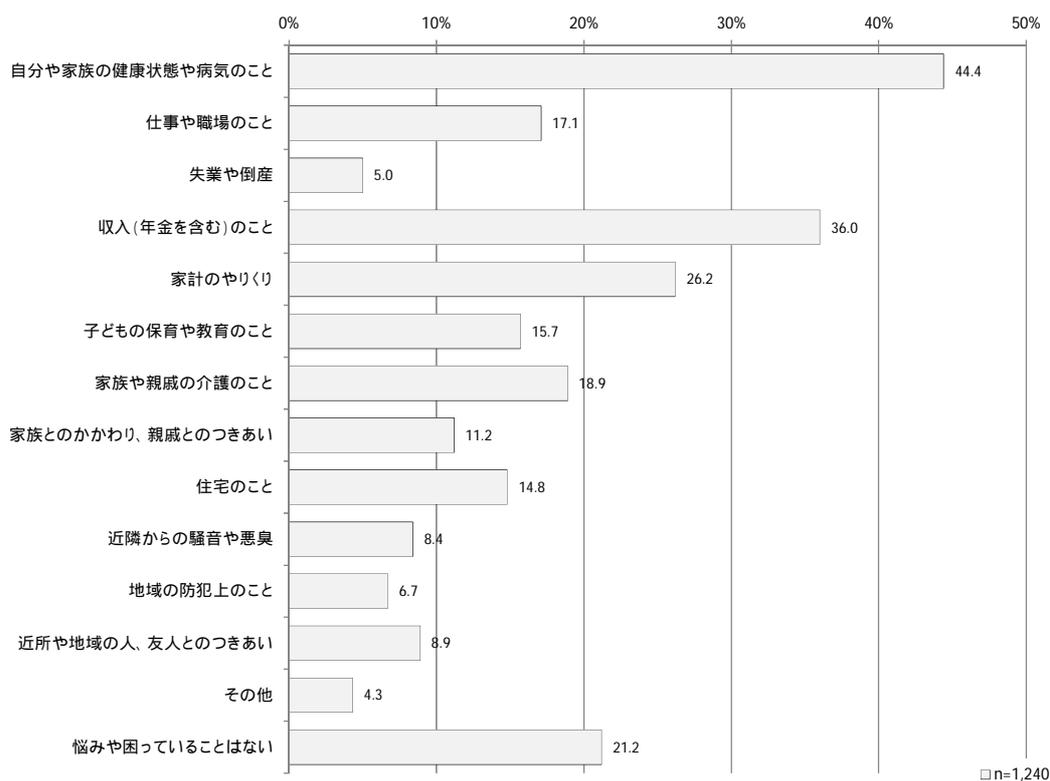


## 自分や家族のことでの悩みごと

自分や家族のことでの悩んでいることや困りごとについて尋ねたところ、「自分や家族の健康状態や病気のこと」が44.4%と最も多く、次いで「収入（年金を含む）のこと」が36.0%、「家計のやりくり」が26.2%となっている。

一方、「悩みや困っていることはない」と回答した人は21.2%となっている。

図表 1-11 自分や家族のことでの悩みごと（複数回答）

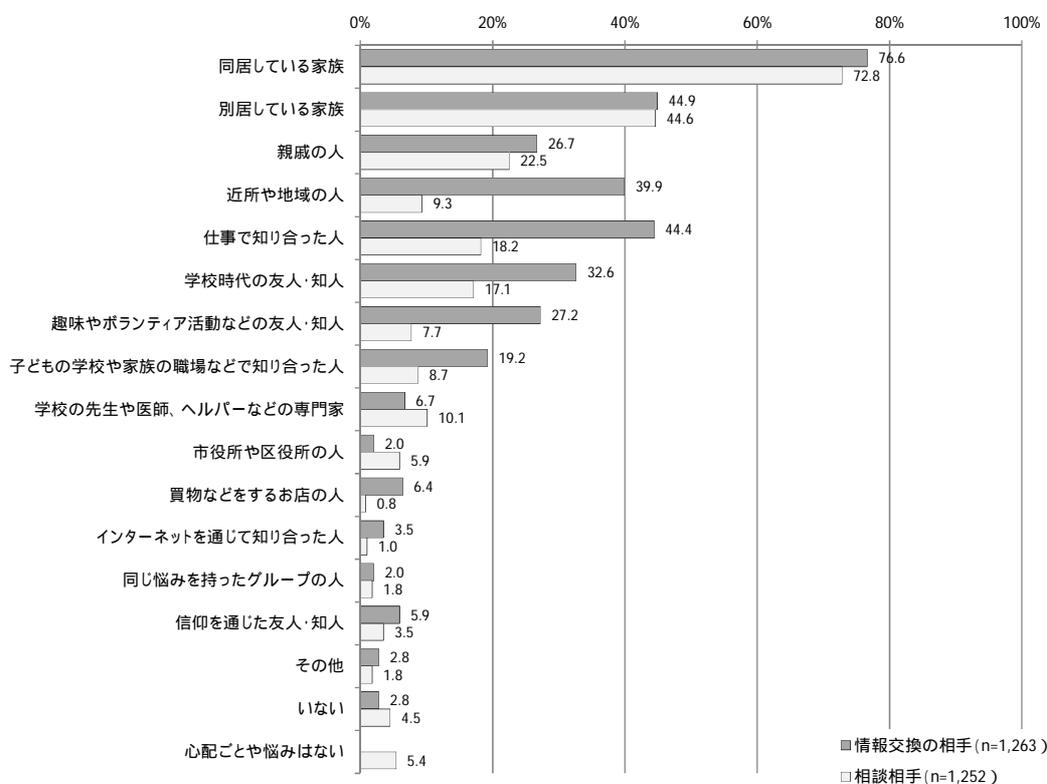


## 情報交換の相手、悩みごとの相談相手

日頃、世間話や情報交換をしている相手、悩みや困りごとを相談する相手について尋ねたところ、情報交換の相手は、「同居している家族」が76.6%と最も多く、次いで「別居している家族」44.9%、「仕事で知り合った人」44.4%、「近所や地域の人」39.9%となっており、幅広い相手と情報交換をしている結果となった。

一方、悩みや困りごとの相談相手については、情報交換をしている相手同様、「同居している家族」(72.8%)、「別居している家族」(44.6%)の割合は高いが、「仕事で知り合った人」が18.2%、「近所や地域の人」が9.3%となっており、情報交換の相手は、幅広いものが該当するが、相談相手としては、家族に限定されていることがうかがえる。

図表 1-12 情報交換の相手及び悩みごとの相談相手



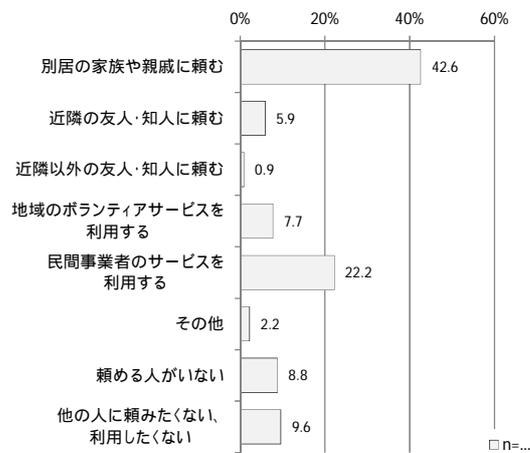
## 自分自身や同居の家族だけでは対応できない困りごとへの対応

自分自身や同居の家族で対応できない困りごとが起こった場合にどのように対応するか尋ねたところ、いずれの項目についても「別居の家族や親戚に頼む」が最も多い結果となった。

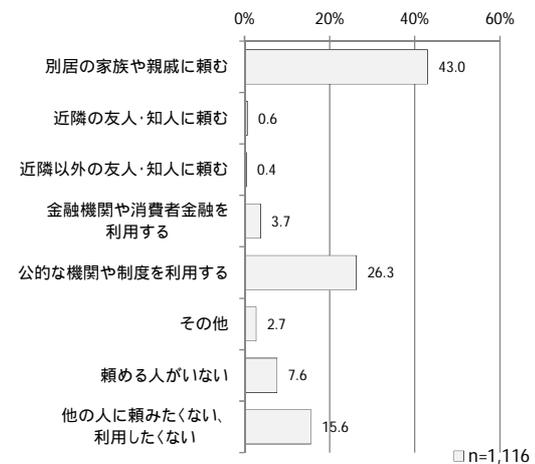
別居の家族や親戚以外では、部屋の掃除や買物については、「民間事業者のサービスを利用する」が22.2%、経済的に困った時の援助は「公的な機関や制度を利用する」が26.3%、家庭内の問題の相談は「公的な相談窓口に相談する」が17.6%と多い結果となったが、「頼める人がいない」、「他の人に頼みたくない、利用したくない」と回答する人も2割近く存在する。

図表 1-13 自分自身や同居の家族だけでは対応できない困りごとへの対応

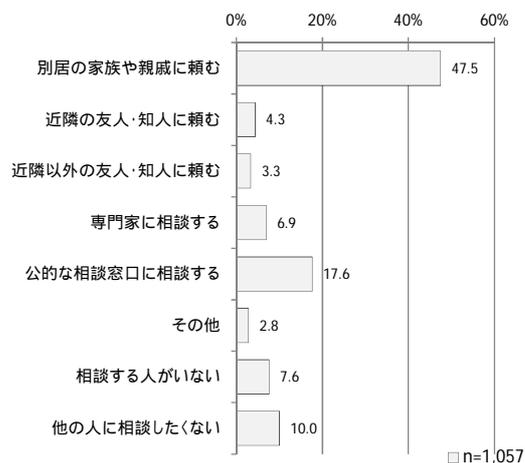
### 部屋の掃除や買物など



### 経済的に困ったときの援助



### 家庭内の問題の相談



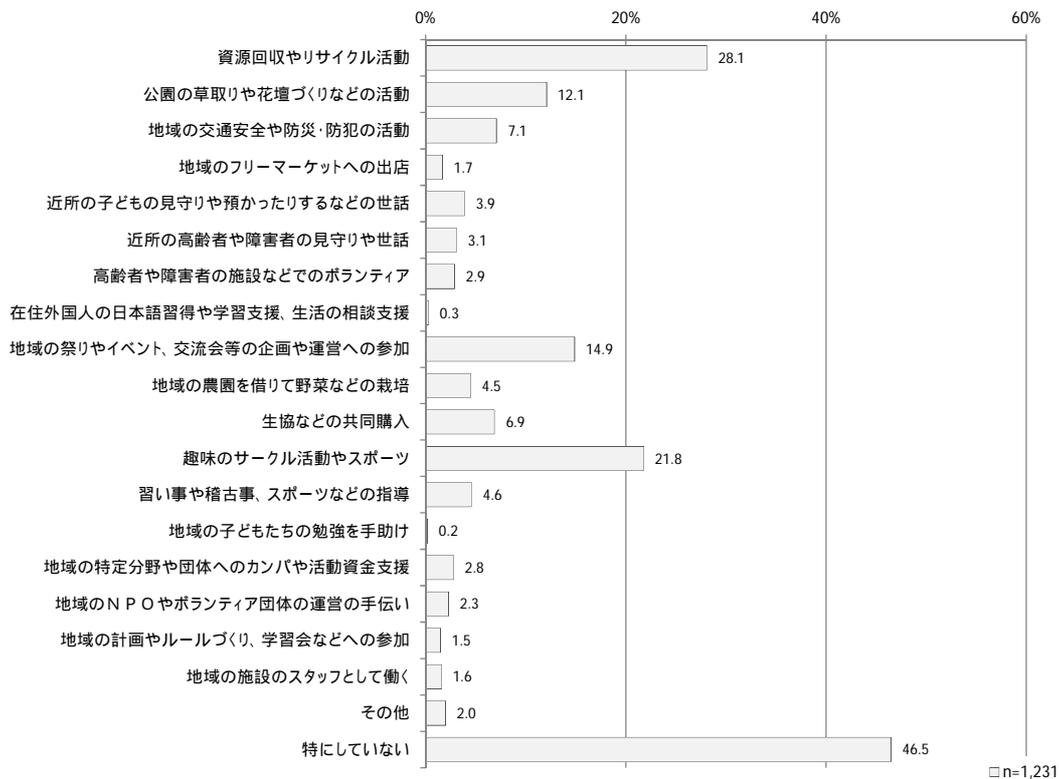
#### (4)地域活動について

##### 地域で行っている活動（個人的な活動を中心に）

地域の中で個人的に行っている活動について尋ねたところ、「特にしていない」が 46.5%と最も多く、半数近くの人が活動に参加していない結果となった。

一方、参加している人の活動内訳をみると、「資源回収やリサイクル活動」が 28.1%で最も多く、次いで「趣味のサークル活動やスポーツ」が 21.8%、「地域の祭りやイベント、交流会等の企画や運営への参加」が 14.9%となっている。

図表 1-14 地域の中で個人的に行っている活動（複数回答）

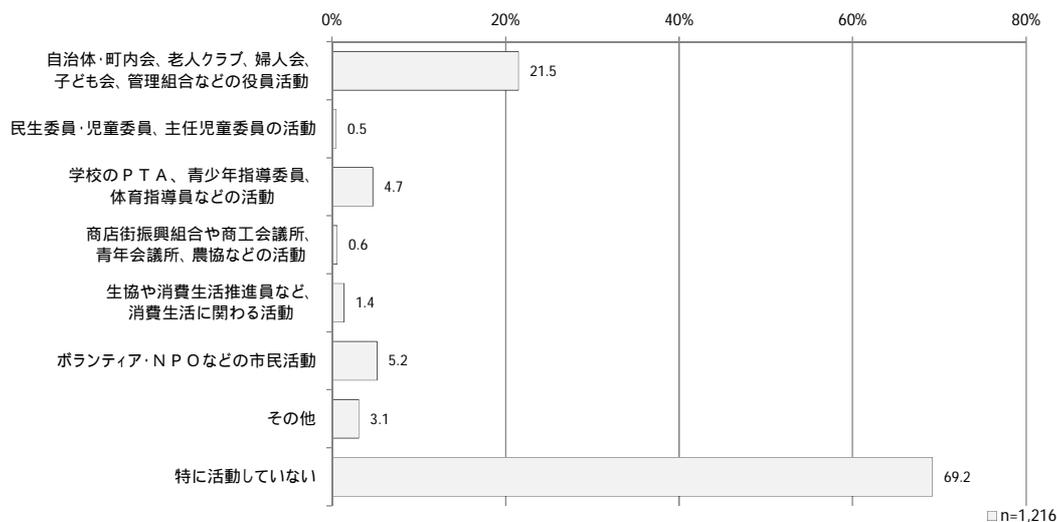


## 地域で行っている活動（組織団体での活動）

地域の中で何らかの組織や団体で活動しているか尋ねたところ、個人的な活動同様、「特に活動していない」が69.2%と最も多い結果となった。

一方、参加している組織での活動内訳をみると、「自治体・町内会、老人クラブ、婦人会、子ども会、管理組合などの役員活動」が21.5%と最も多く、次いで「ボランティア・NPOなどの市民活動」が5.2%、「学校のPTA、青少年指導委員、体育指導員などの活動」が4.7%となっている。

図表 1-15 地域の中で組織や団体として行っている活動（複数回答）

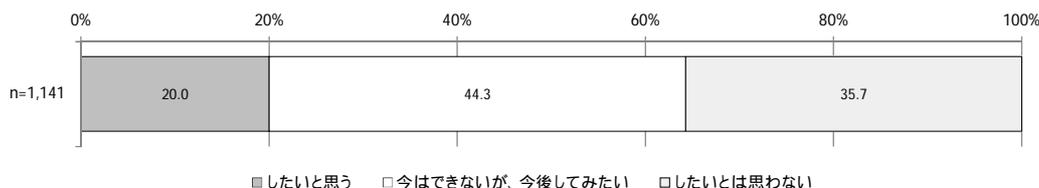


## 地域や社会に役立つ活動への参加意欲

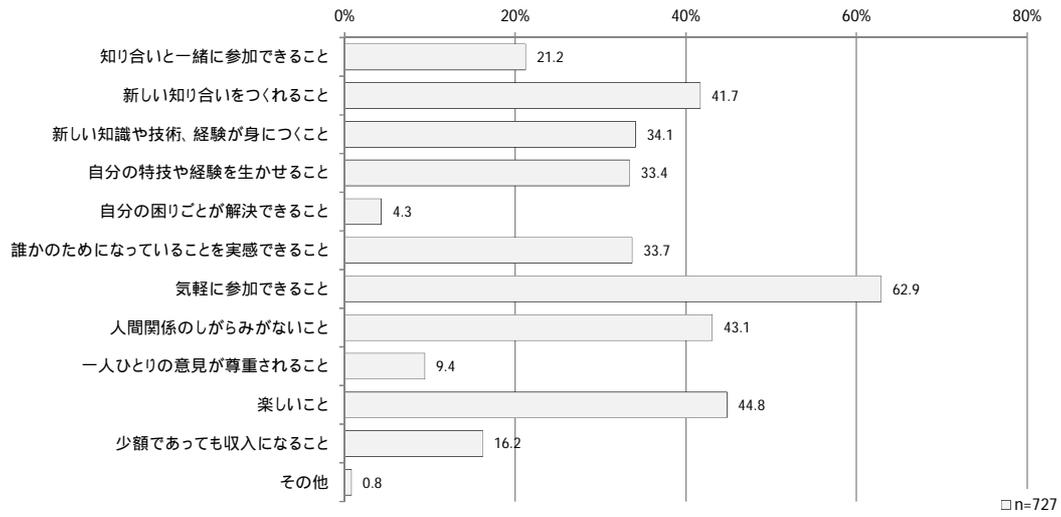
地域や社会のための役立つ活動への参加意欲について尋ねたところ、「したいと思う」が20.0%、「今はできないが、今後してみたい」が44.3%であり、回答者の6割強が地域や社会のために役立つ活動への参加意欲を持っていることがうかがえる。

また、活動に参加する際に期待することとしては、「気軽に参加できること」が62.9%と最も多く、次いで「楽しいこと」が44.8%、「人間関係のしがらみがないこと」が43.1%となっている。

図表 1-16 地域や社会に役立つ活動への参加意欲



図表 1-17 参加する際に期待すること（複数回答）



## (5)暮らしに関する価値観について

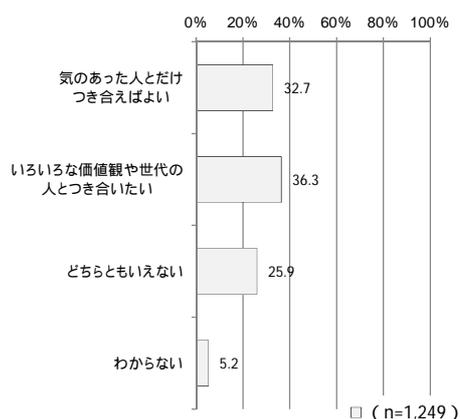
### 暮らしに関する価値観について

日常生活における様々な価値観について尋ねたところ、人とのつきあい方については「いろいろな価値観や世代の人とつき合いたい」と回答した割合が 36.3%で最も多いが、「気のあった人とだけつき合えばよい」も 32.7%となっており、意見が分かれている。また、住みやすい地域や他者への信頼感についても意見が分かれており、人との関わりについては、多様な価値観があることがうかがえる。

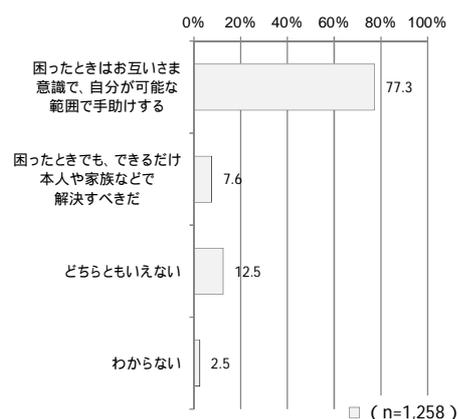
自分の居場所（安心して自分を素直に出せる場所や仲間の有無）や自分自身への評価（自分を頼りとしてくれる人の有無）については、約 6 割の人が肯定的な回答をしている。また、社会貢献については、「どちらともいえない」と回答した人の割合が 47.4%と最も多いが、社会貢献をしたいと考えている人の割合（34.0%）と考えていない人の割合（8.8%）を比較すると大きな差がある。

図表 1-18 暮らしに関する価値観

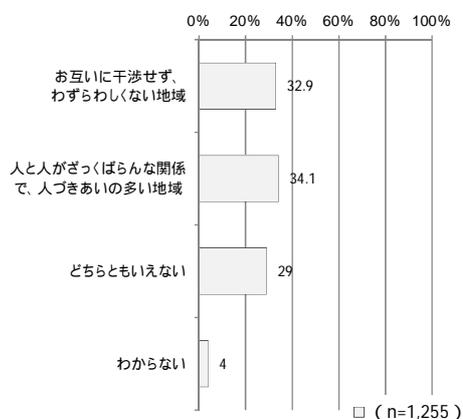
#### 人とのつきあい方



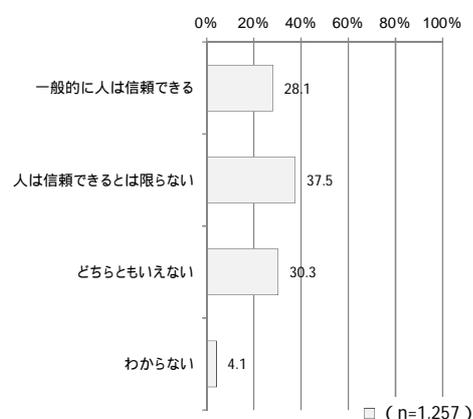
#### 知人が困っている時



#### 住みやすいと思う地域

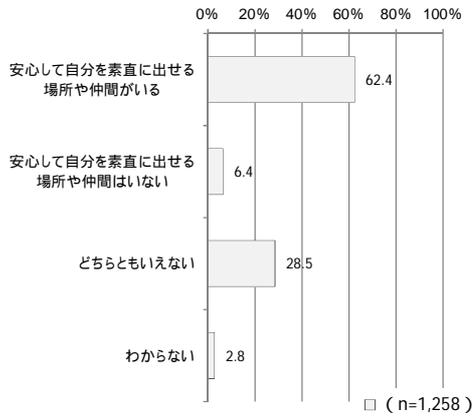


#### 信頼感

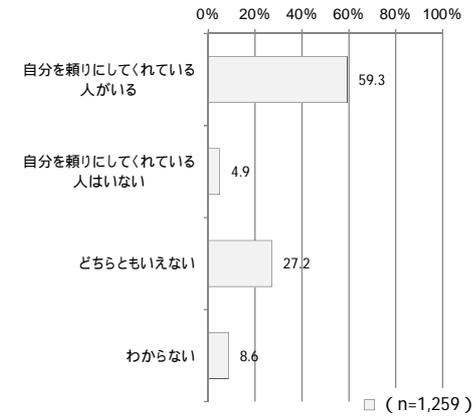


図表 1-18 暮らしに関する価値観（つづき）

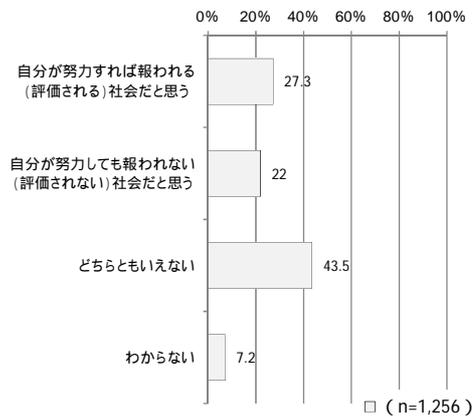
自分の居場所



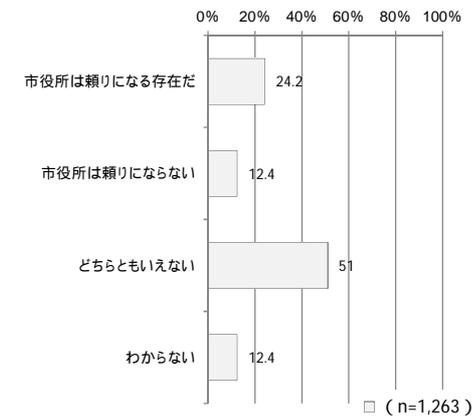
自分自身への評価



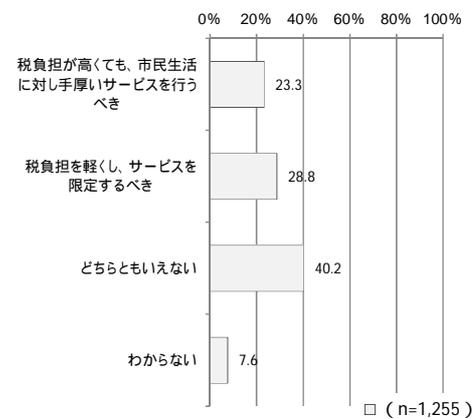
現代の社会



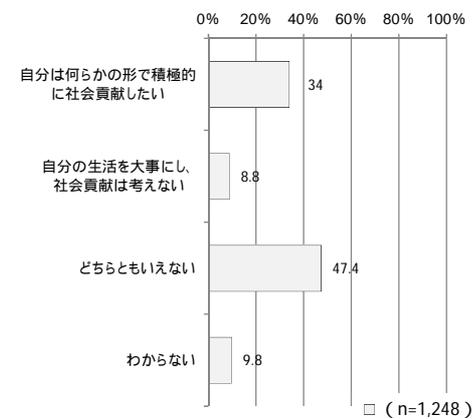
市役所への信頼



行政のあり方

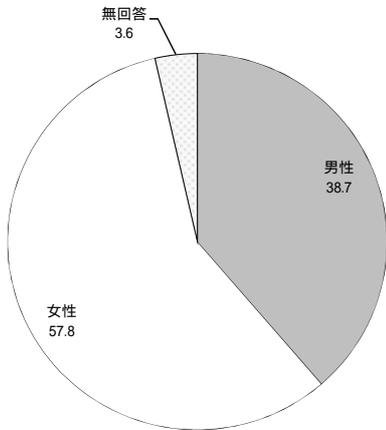


社会貢献



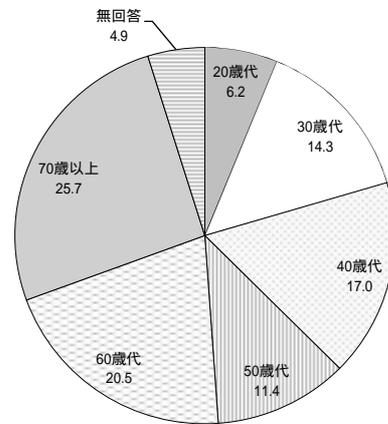
(6)回答者属性

(ア)性別



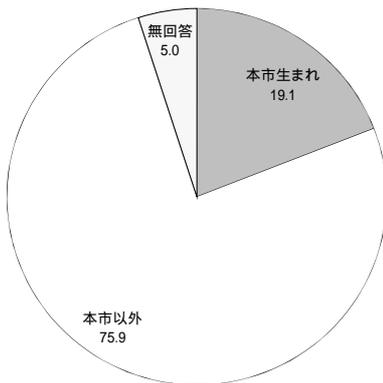
n=1,295

(イ)年齢



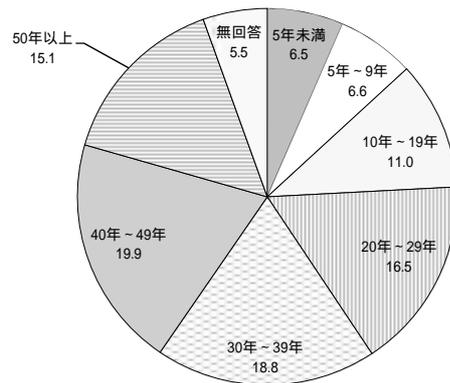
n=1,295

(ウ)出生地



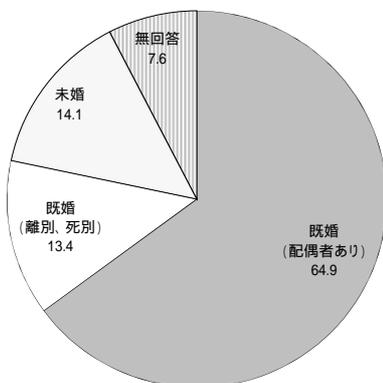
n=1,295

(エ)本市での居住年数



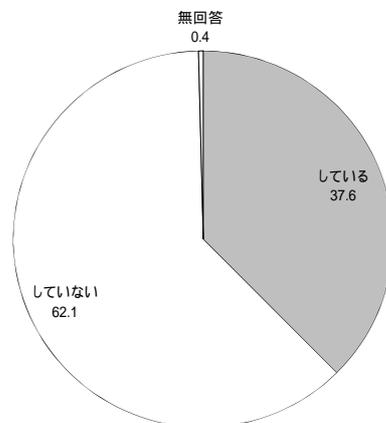
n=1,295

(オ)配偶関係



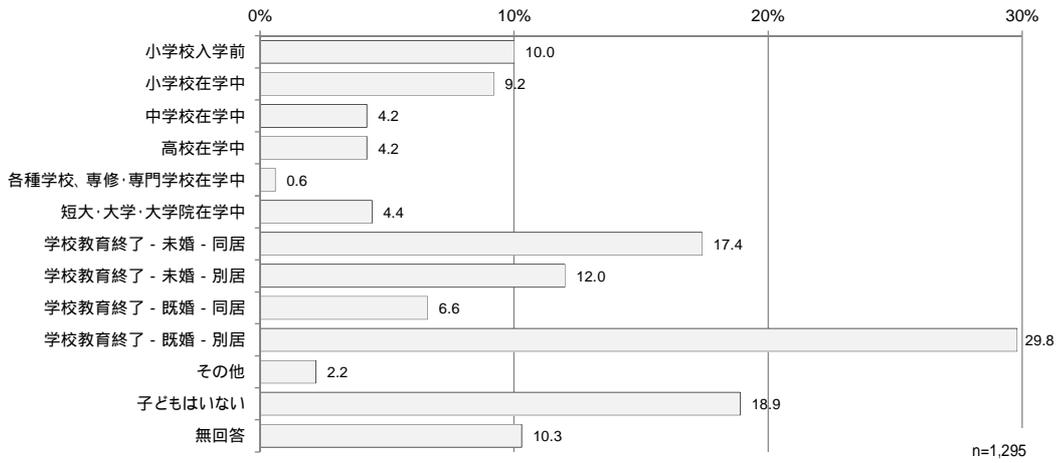
n=1,295

(カ)共働きの状況

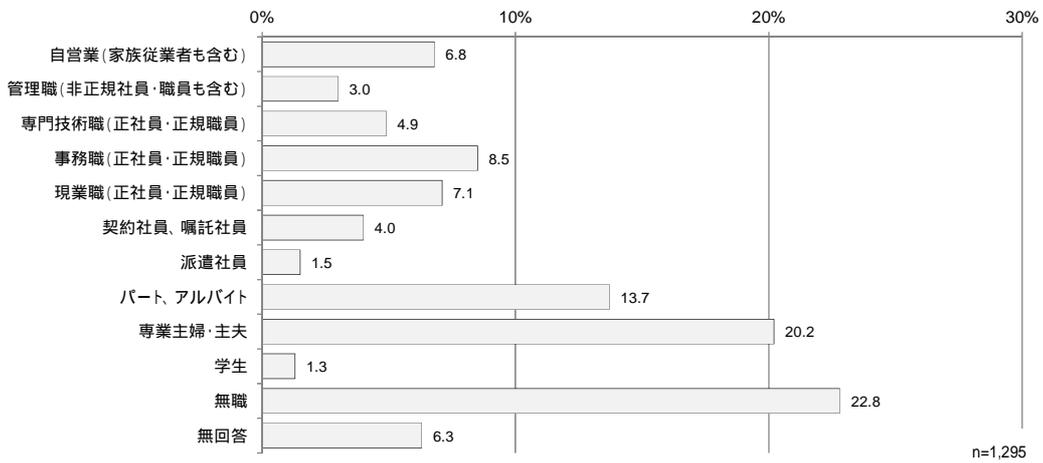


n=841

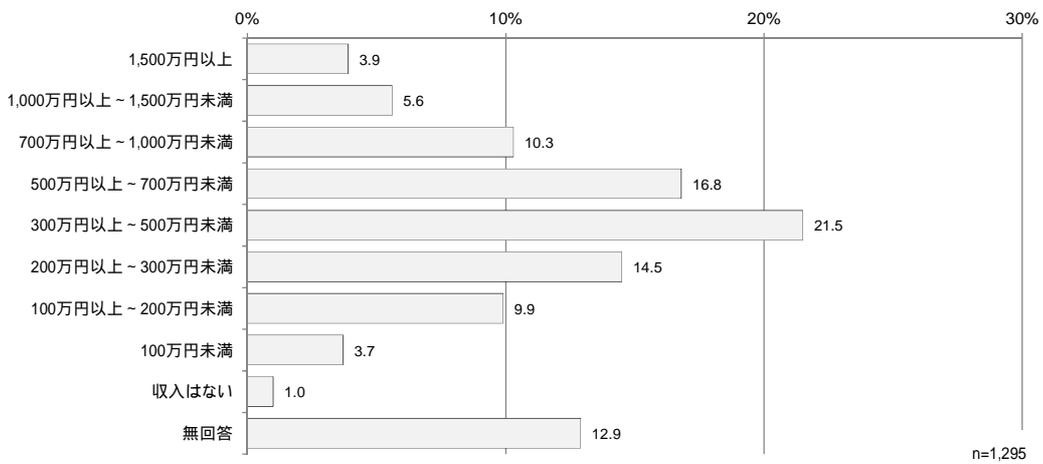
### (キ) 子どもの段階



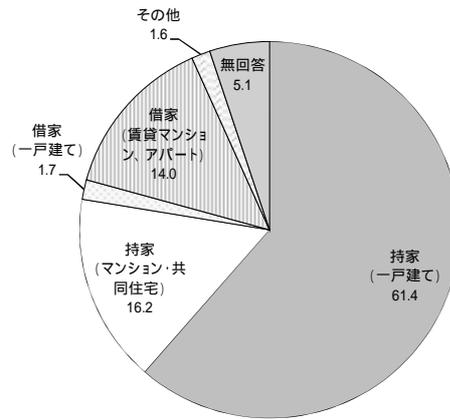
### (ク) 職業



### (ケ) 世帯年収

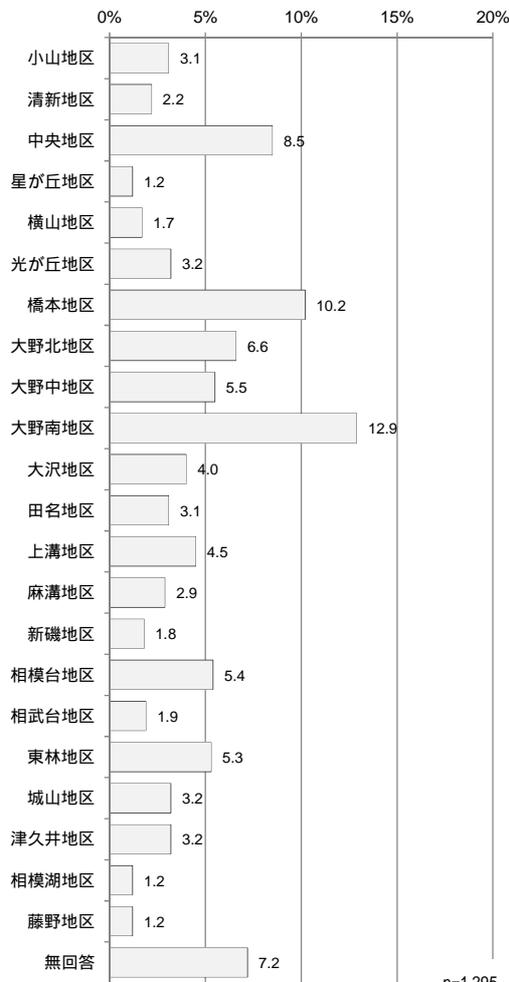


### (コ) 住居の種類



n=1,295

### (サ) 居住地区



n=1,295

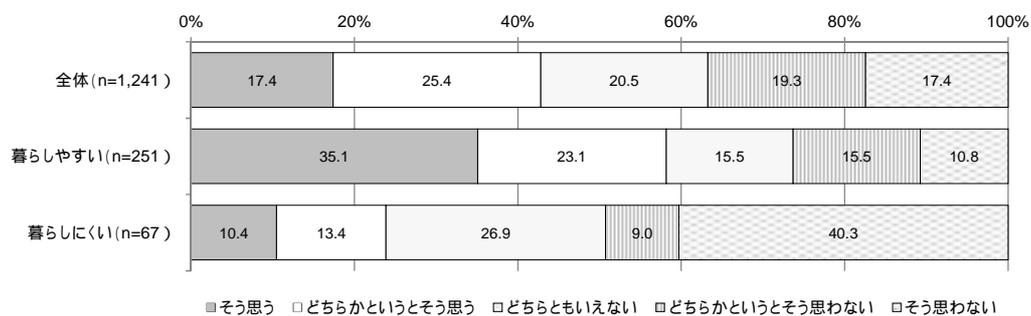
### 3. 暮らしやすさ別に見た調査結果(クロス集計結果)

現在の生活全般の暮らしやすさについて、「暮らしやすい」と回答した人と「暮らしにくい」と回答した人では、居住地域への評価や家族や親戚との関わり、価値観等に違いがあるのかをみるため、それぞれの項目について暮らしやすさ別にクロス集計を行った。

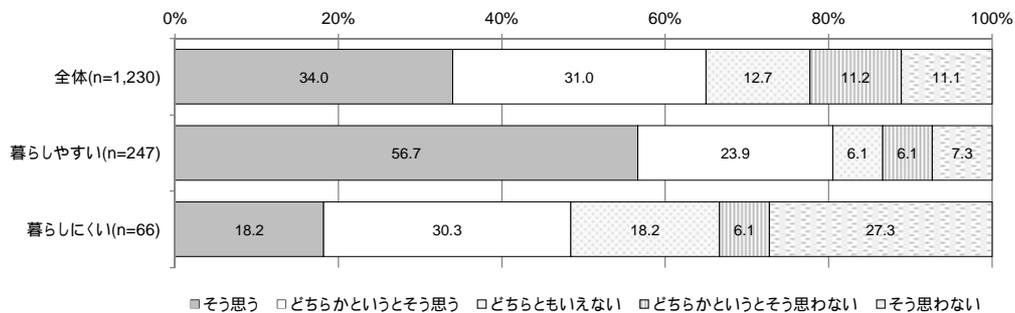
#### (1)居住地域への評価

##### まちなみや環境に対する評価

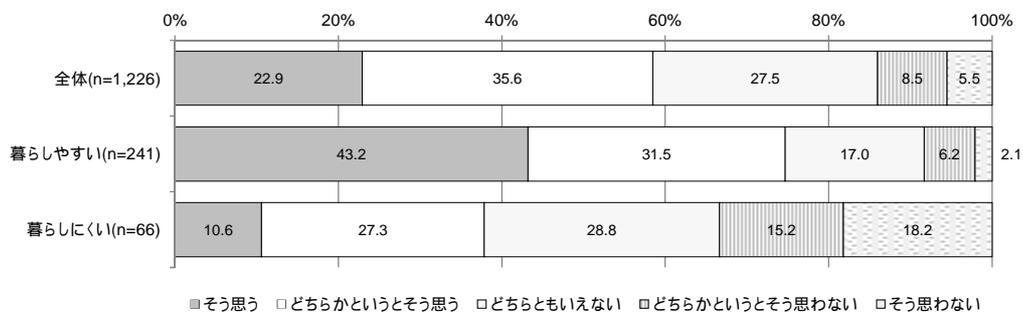
【設問】 近所の道路は子どもや高齢者でも歩きやすい



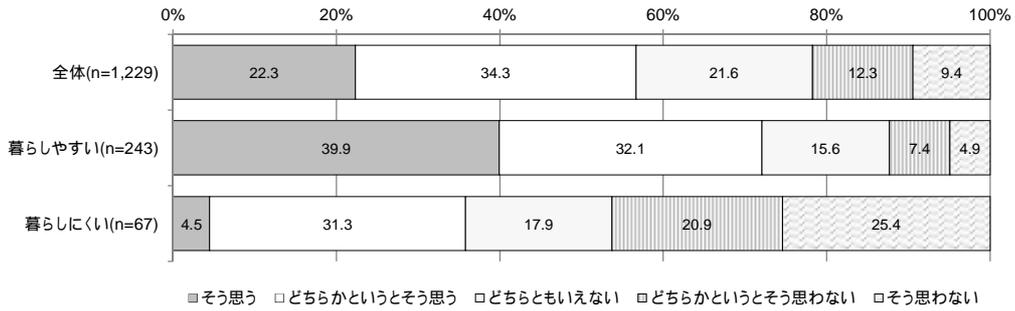
【設問】 坂道や階段などが少なく、移動しやすい



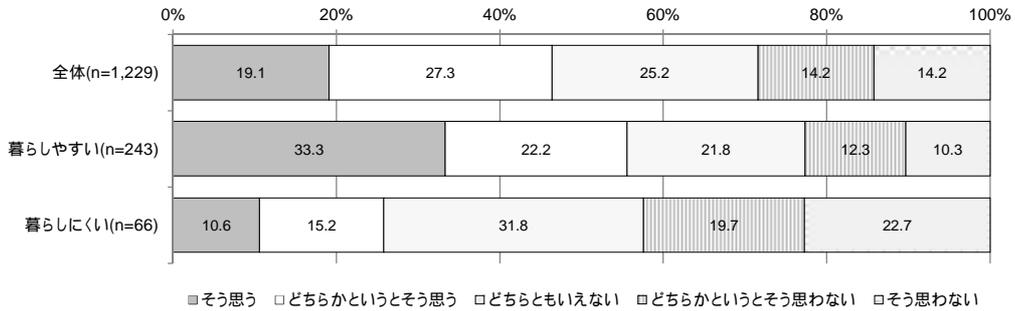
【設問】 家々の植栽や街路樹などの緑が多く、気持ちがいい



【設問】 周辺が静かでない

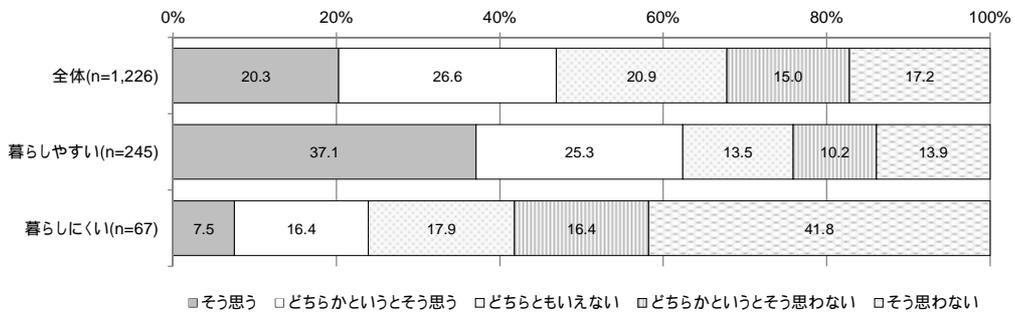


【設問】 緑地や水辺があり、自然が豊かである

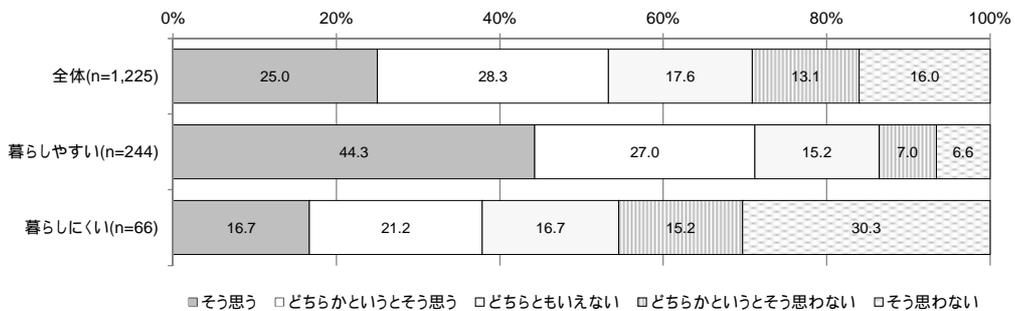


施設や交通の便に対する評価について

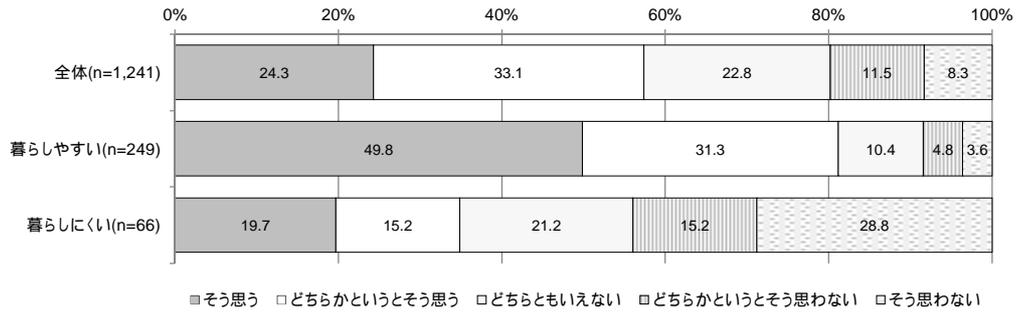
【設問】 誰もがゆったりと過ごせる公園がある



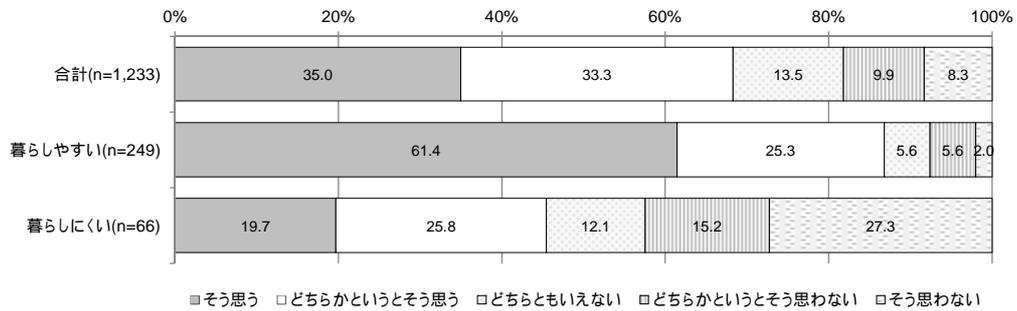
【設問】 交通の便がよく、通勤・通学が楽である



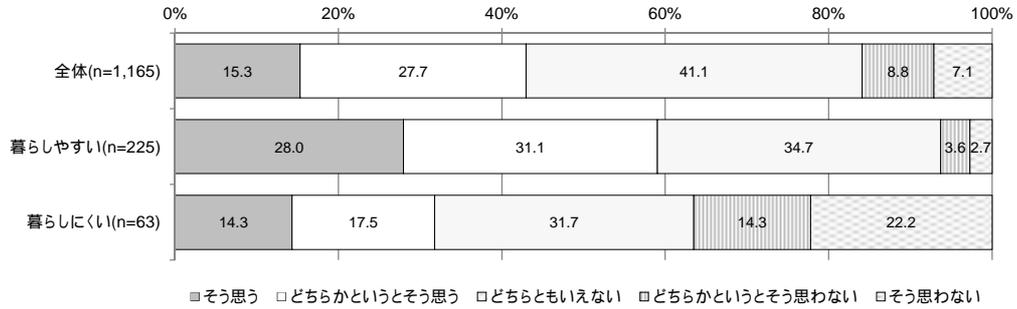
【設問】 病院や診療所など医療機関が利用しやすい



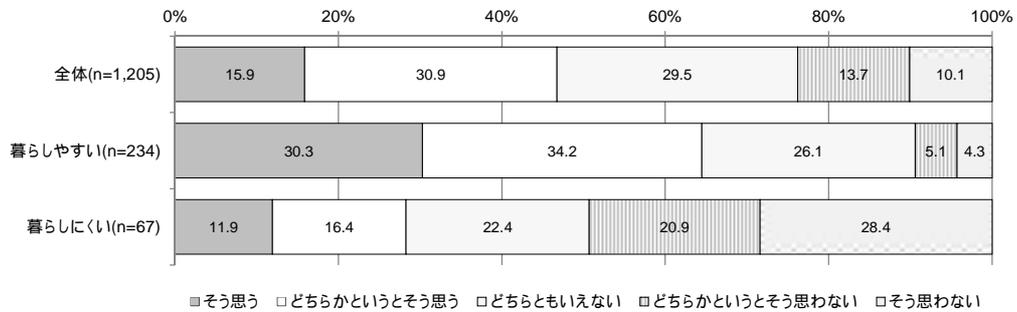
【設問】 日常の買物が便利でよい



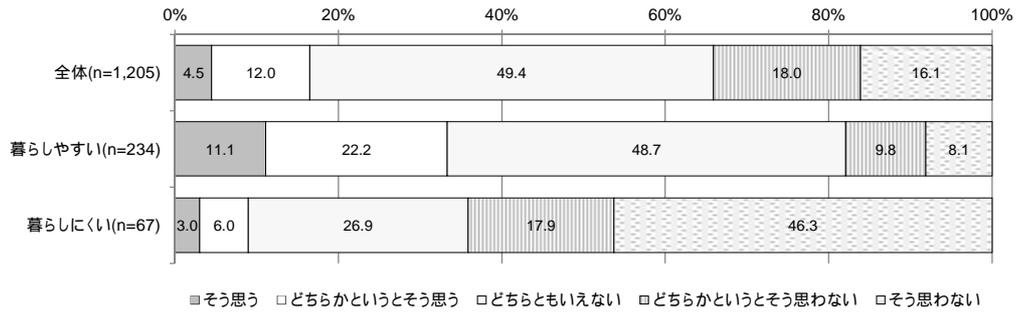
【設問】 保育所や幼稚園などが利用しやすい



【設問】 学校や図書館などが近く、学習環境がよい

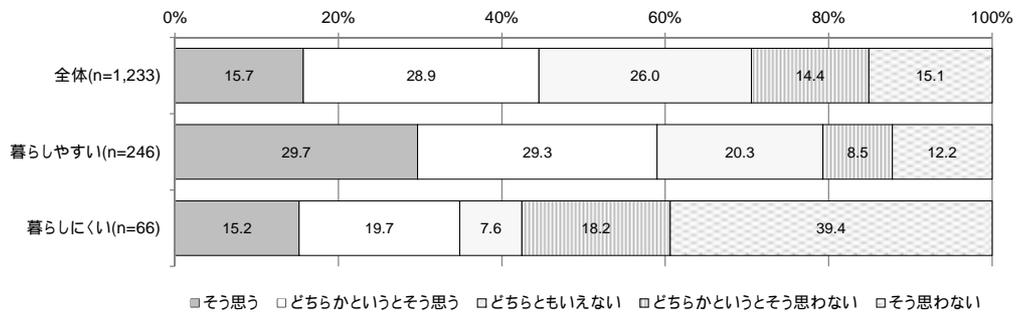


【設問】 高齢者や障害者のための施設が利用しやすい

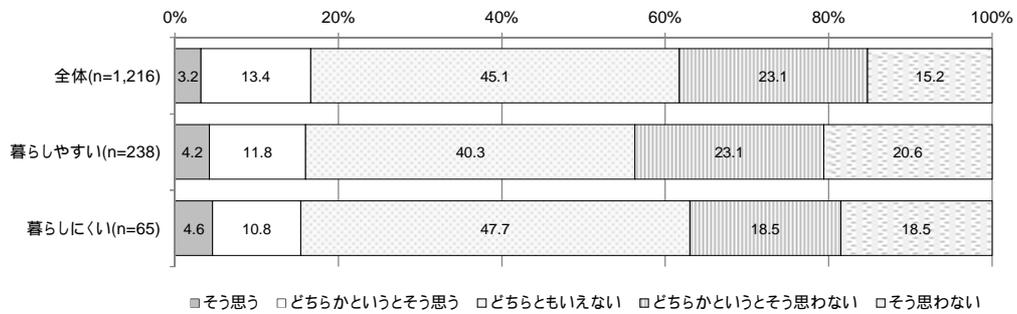


地域の住民に対する評価について

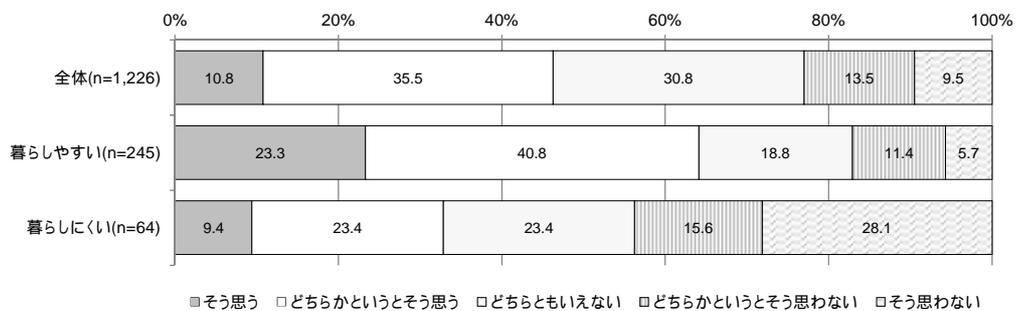
【設問】 近所には顔なじみの住民が多いほうだ



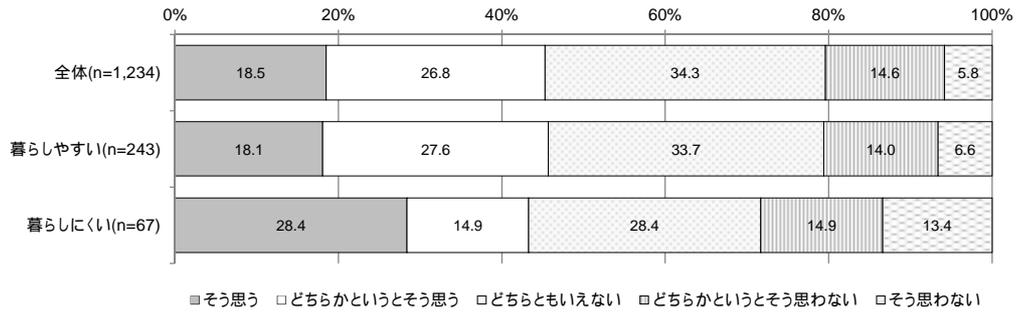
【設問】 住民の転出や転入が多い町だ



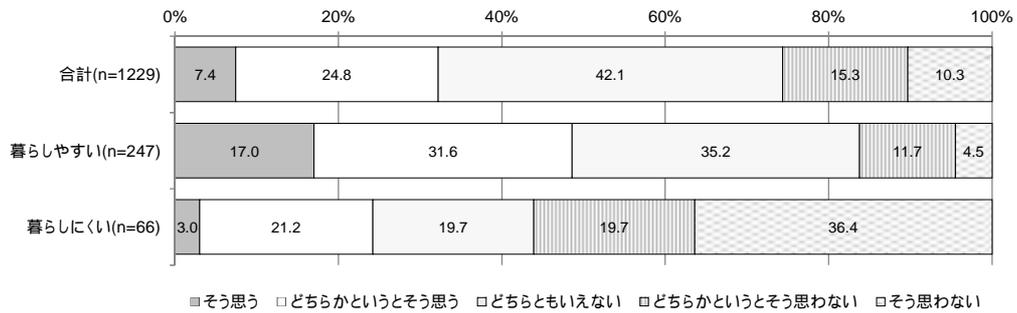
【設問】 ごみ出しやペットのふんの始末など、マナーを守る人が多い



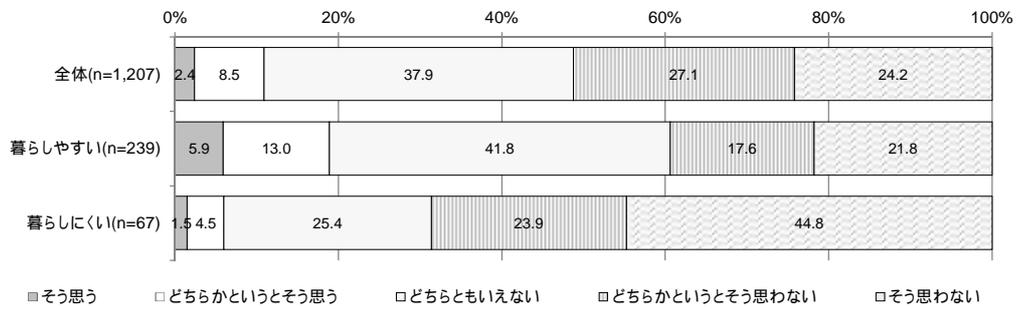
【設問】 高齢者が多く、若者や子どもが少ない



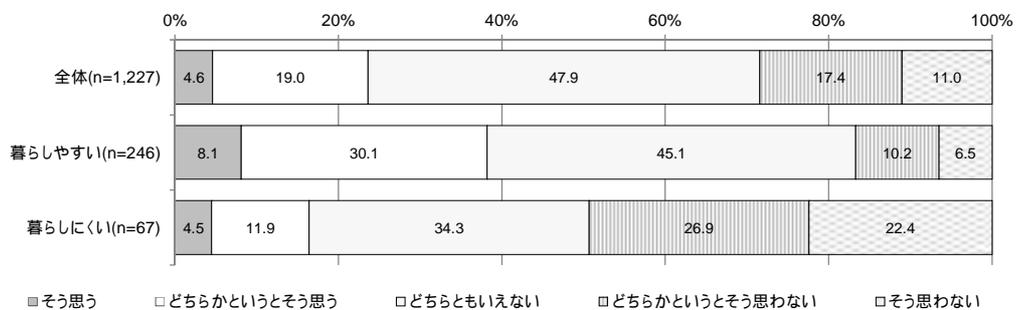
【設問】 困ったときは互いに支えあう雰囲気がある



【設問】 地域の中に中学生や高校生が過ごせる場所がある

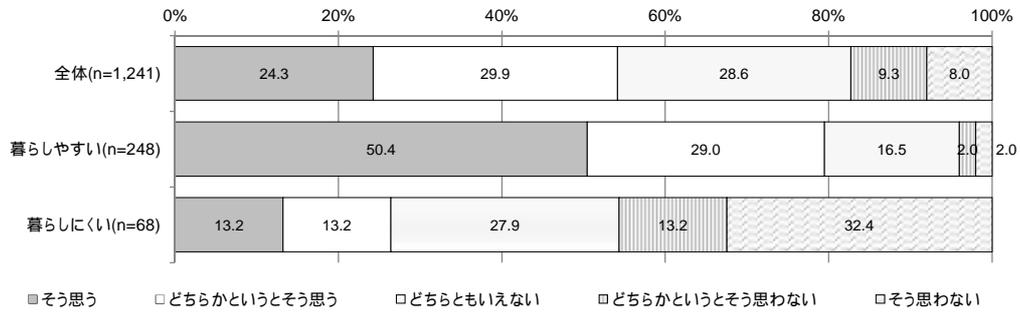


【設問】 防災や防犯の取組が活発である

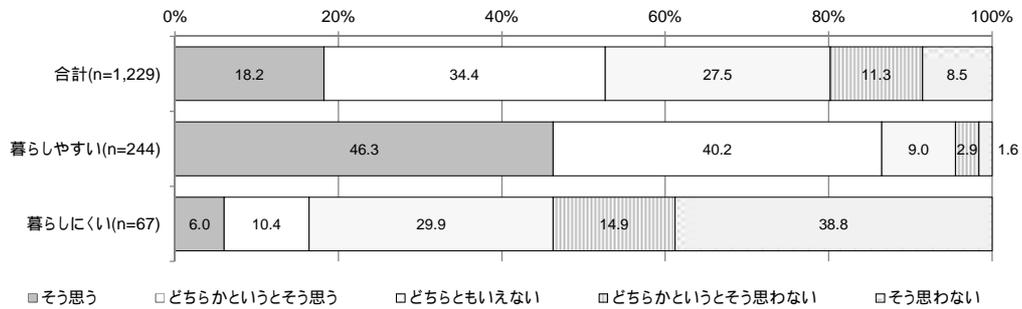


## 住まいに対する評価について

【設問】 家賃や建て替えなどの問題がなく、安心して住み続けられる

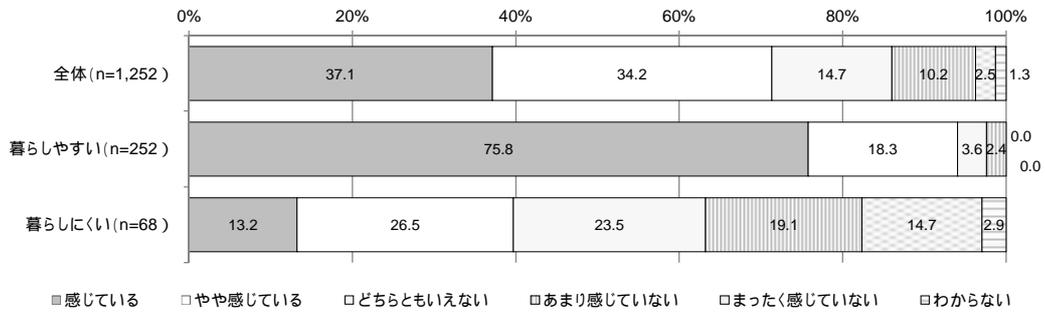


【設問】 住まいが快適である(広さや段差、エレベーター設備など)



## 居住地への愛着について

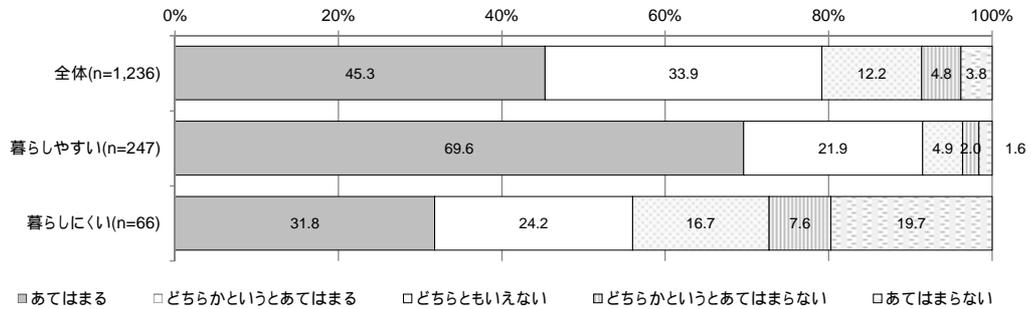
【設問】 現在お住まいの地域に対して、あなたは愛着を感じますか



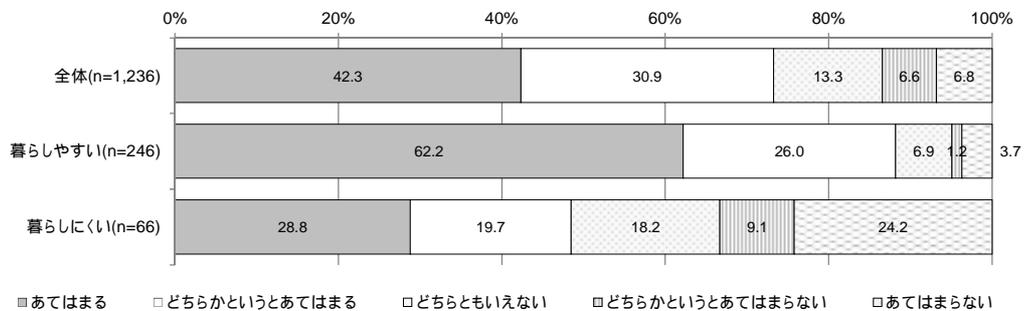
## (2) 家族や親戚との関わり状況

### 家族や親戚との関わりについて

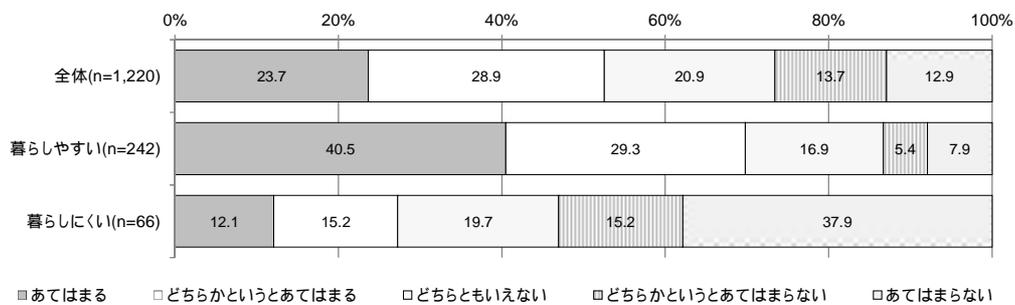
【設問】 家族とは普段からよく会話をしている（電話やメールを含む）



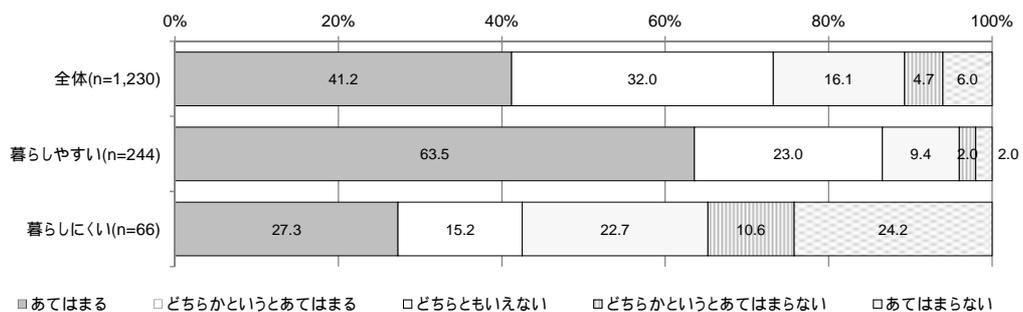
【設問】 家族と一緒によく食事したりテレビを見たりしている



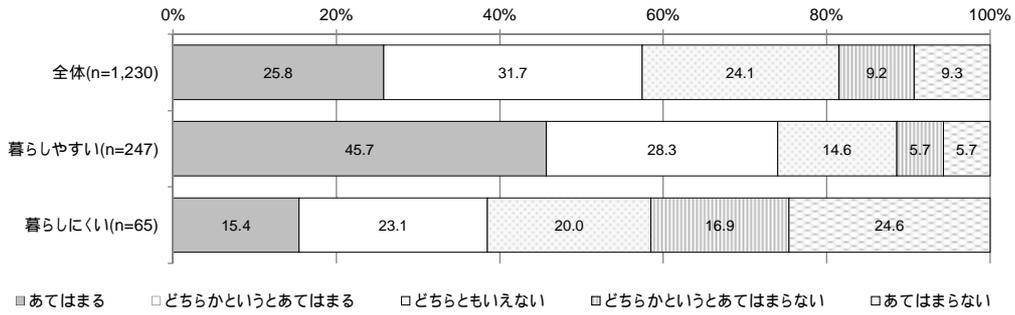
【設問】 家族や親戚と一緒によく買物や旅行に出かけている



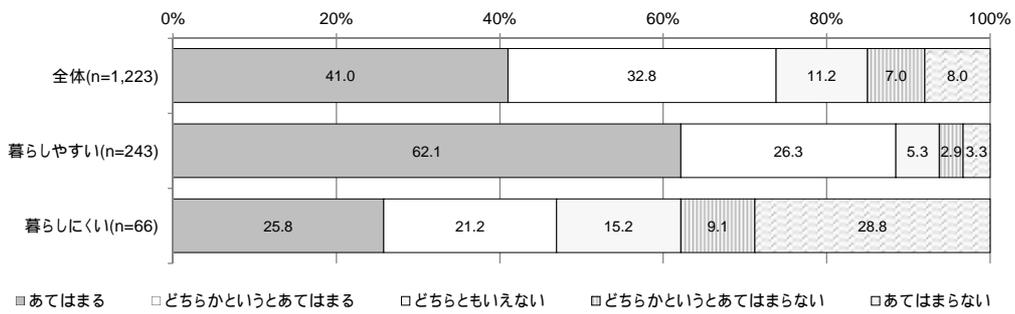
【設問】 自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる



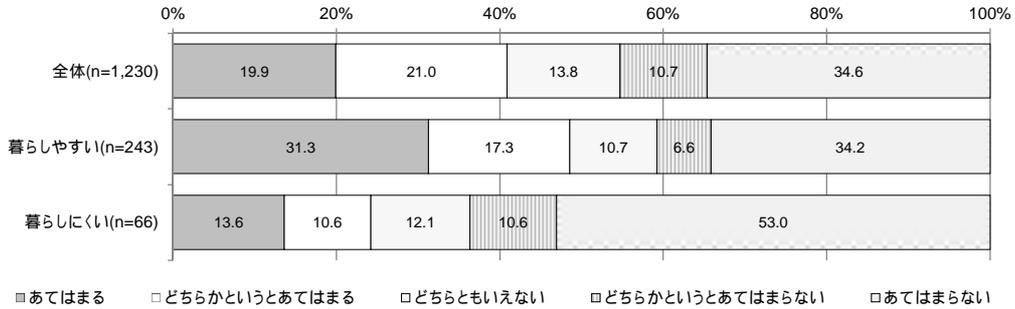
【設問】 家族が親しくしている友人の顔や名前を知っている



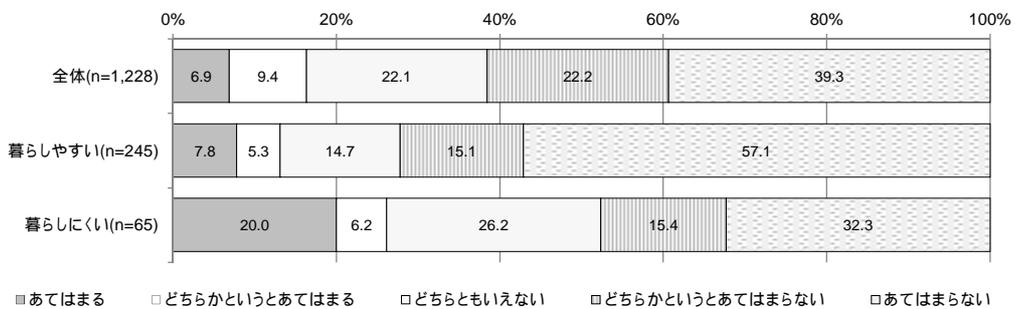
【設問】 季節の行事や家族の誕生日などお祝いをしている



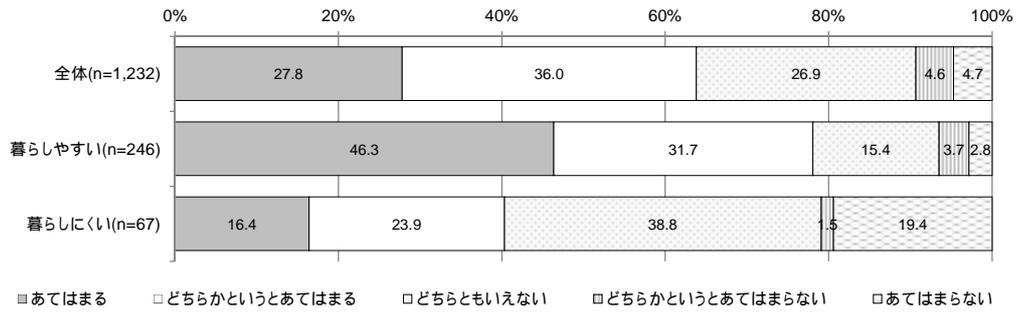
【設問】 家族や親戚からお金や物の仕送りを受けたり、したりしている



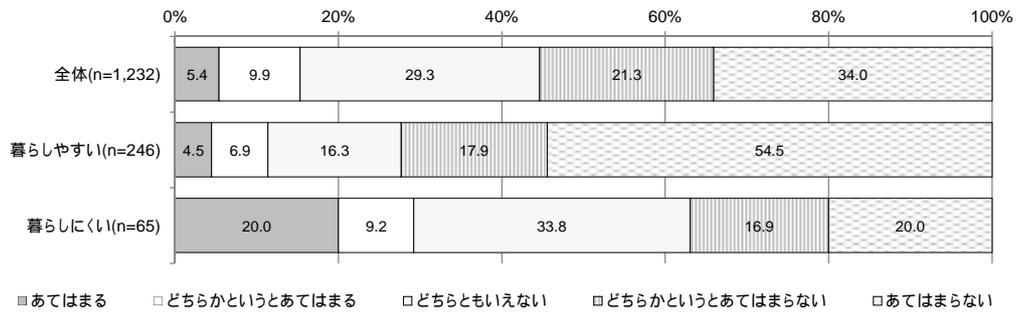
【設問】 家族や親戚に対して、自分からは話しかけたり連絡をとったりしない



【設問】 家族に愛情や感謝、思いやりの気持ちを積極的に表現している

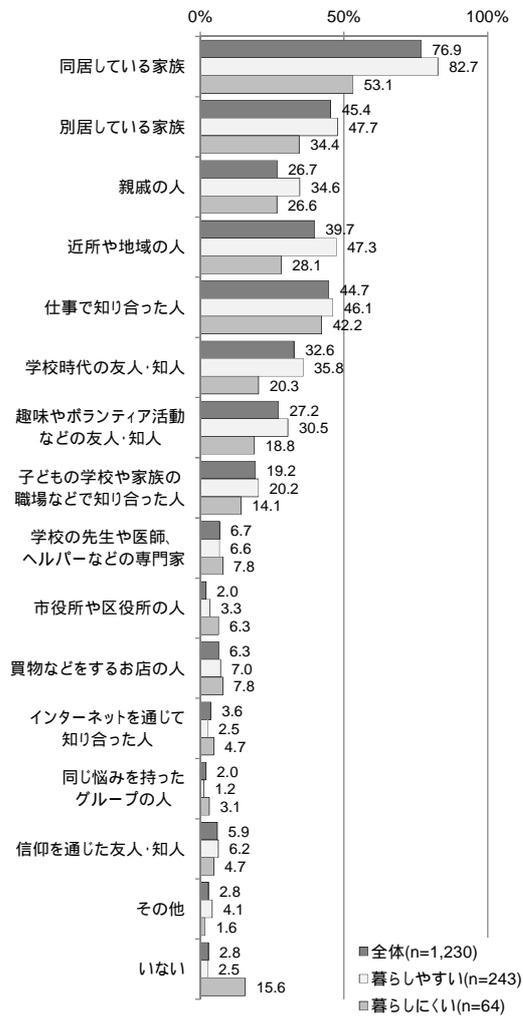


【設問】 家族や親戚といえども信頼できないこともある

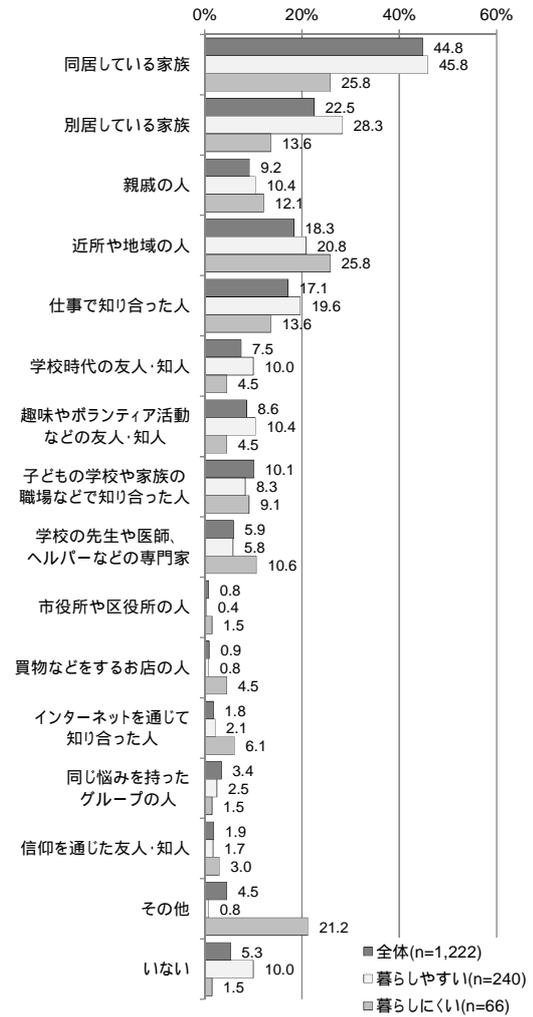


## 情報交換相手と相談相手

情報交換相手

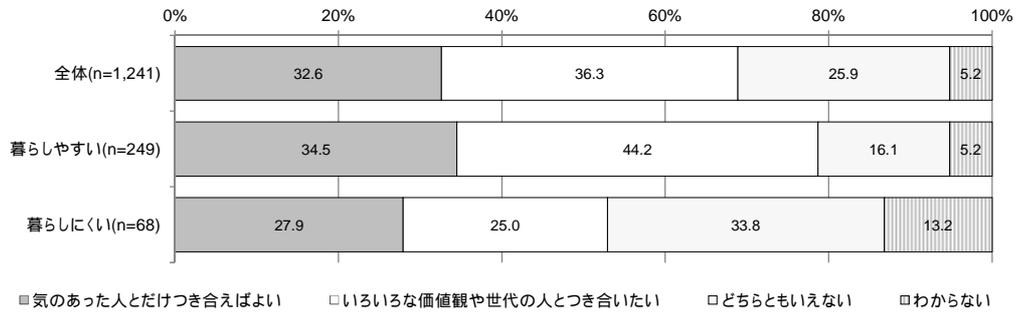


相談相手

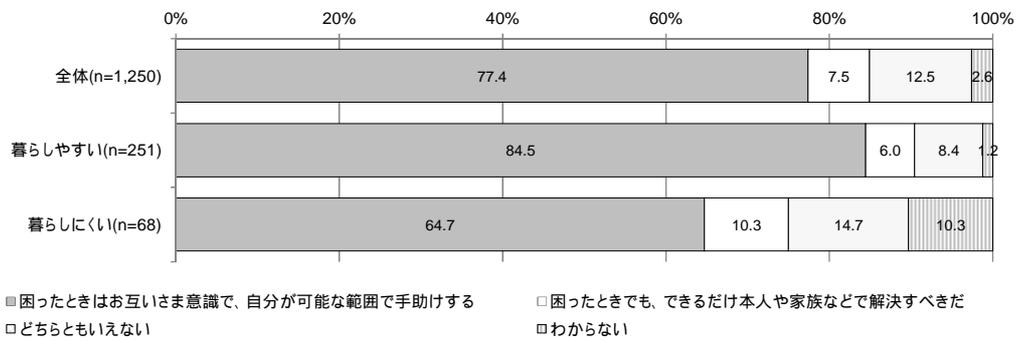


### (3)暮らしに関する価値観について

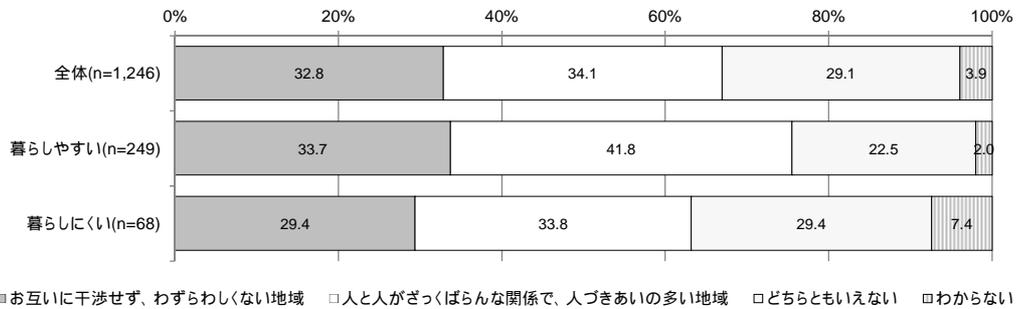
【設問】 人とのつきあい方



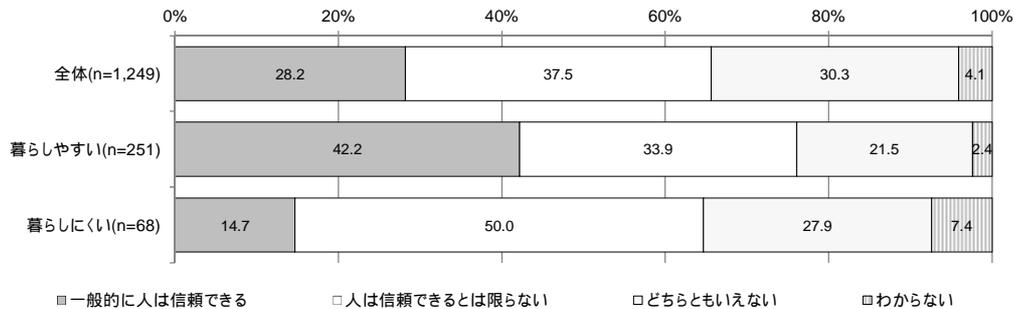
【設問】 知人が困っているとき



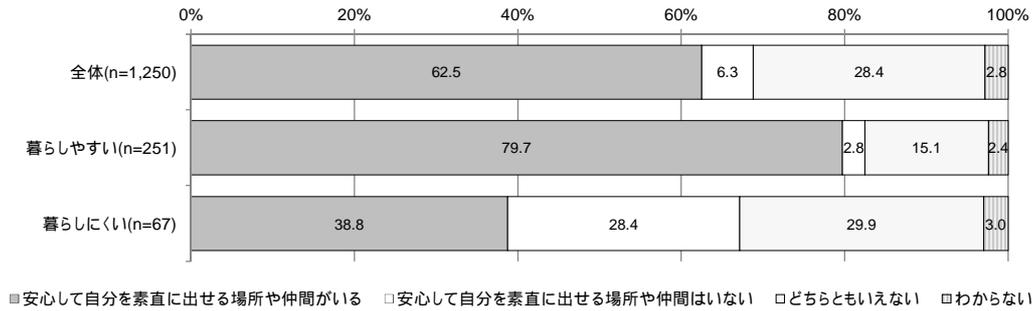
【設問】 あなたが住みやすいと思う地域



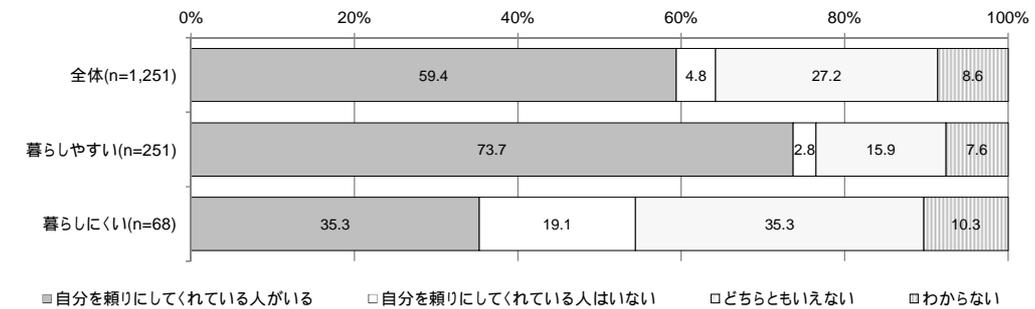
【設問】 信頼感



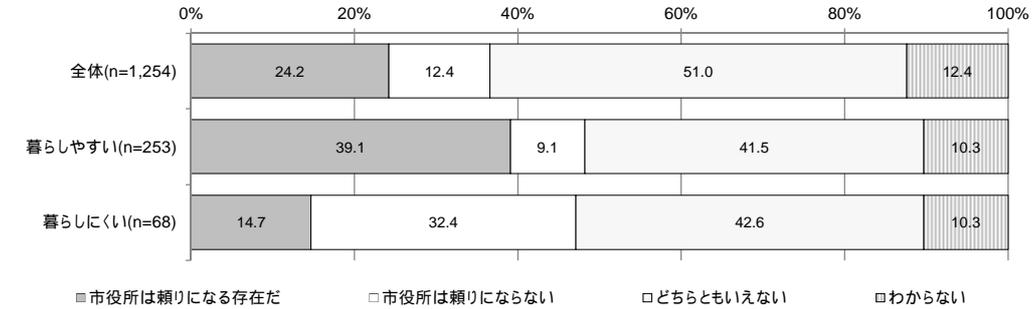
【設問】 自分の居場所



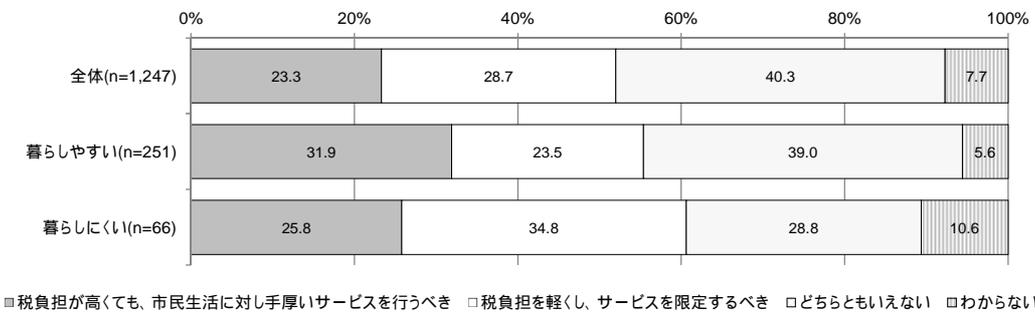
【設問】 自分自身の評価



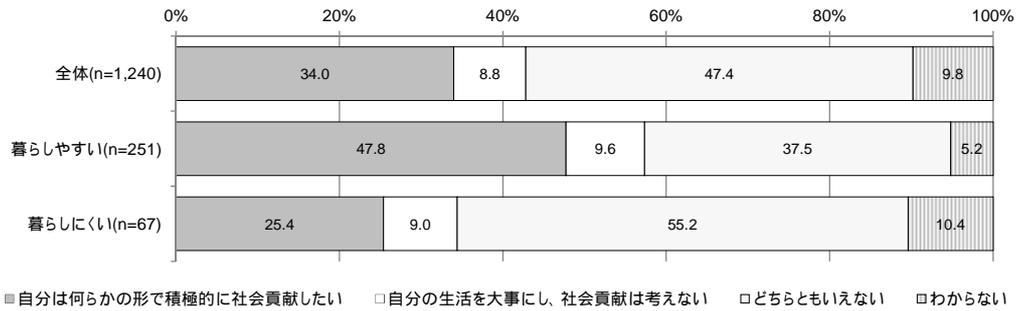
【設問】 市役所への信頼



【設問】 行政のあり方

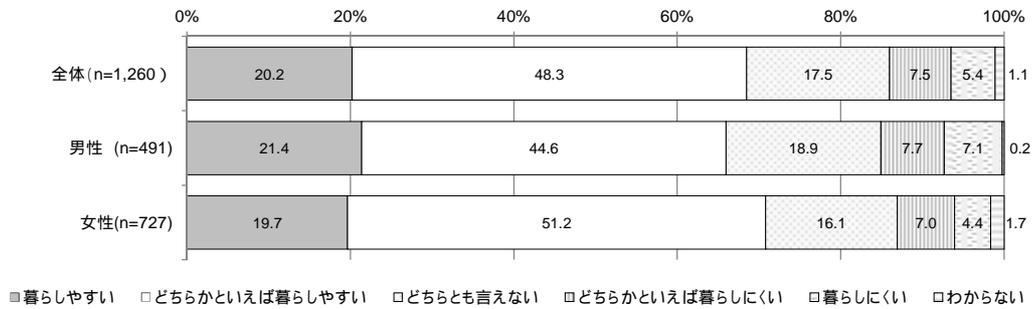


【設問】 社会貢献

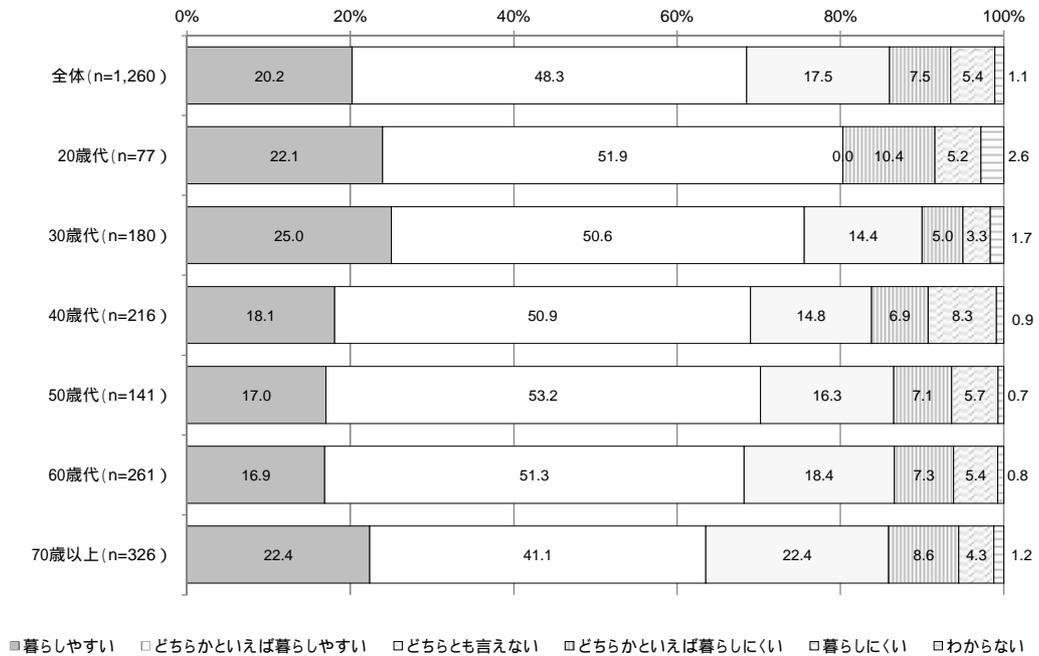


(4)回答者属性別暮らしやすさの評価

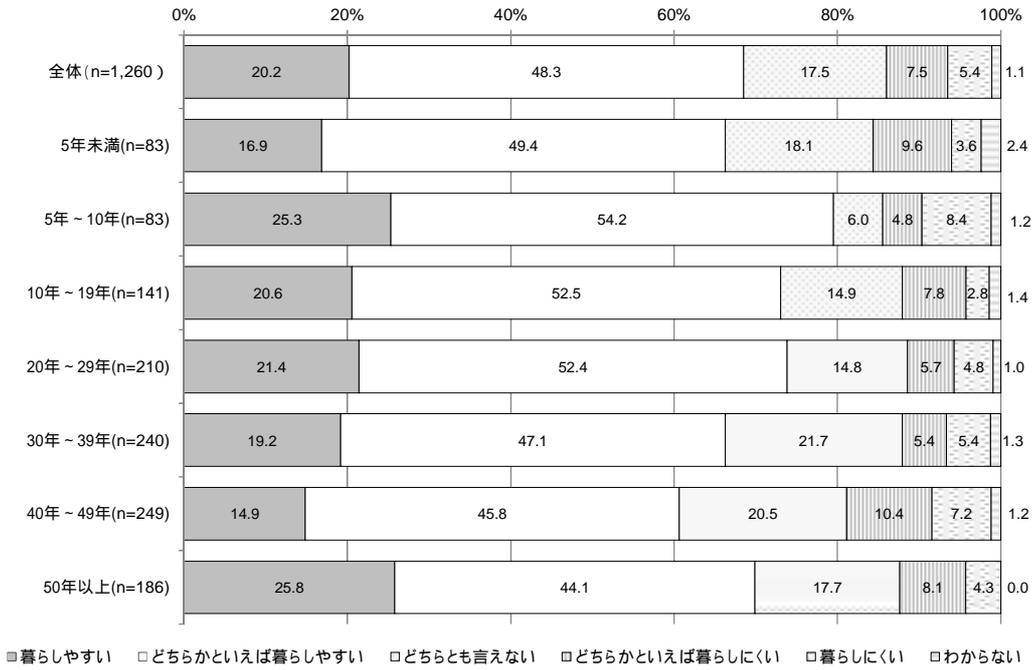
性別



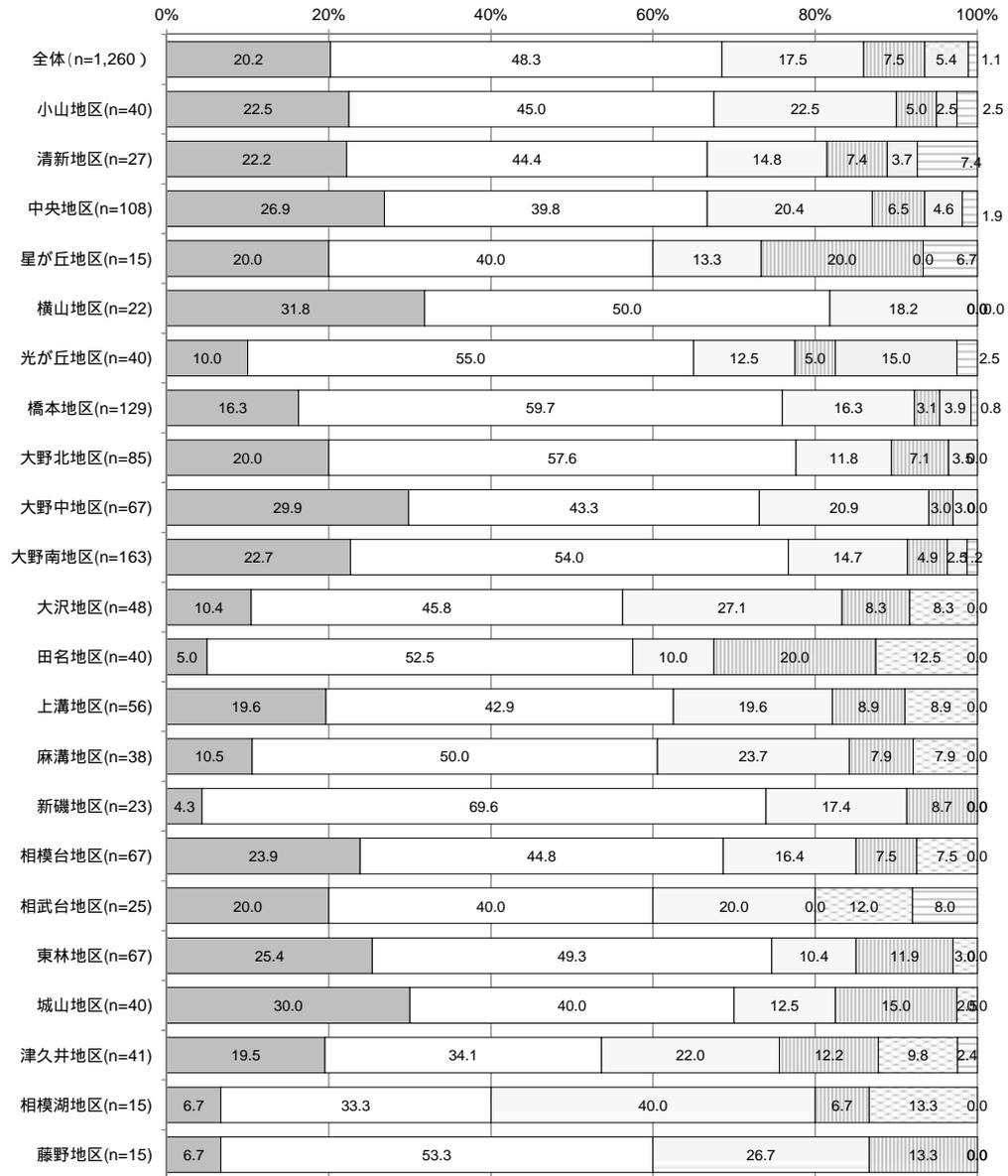
年代



相模原市での居住年数



居住地区



■暮らしやすい □どちらかといえば暮らしやすい □どちらとも言えない □どちらかといえば暮らしにくい □暮らしにくい □わからない

## 4. 暮らしやすさの要因分析

アンケート調査において「暮らしやすい」と回答した市民と「暮らしにくい」と回答した市民では何が異なっているかを数量的に明らかにするため、回答者の地域に対する意識、家族や親族との関わり方等の傾向を整理し、判別分析で「暮らしやすさ」の影響要因を分析した。

### (1)分析の方法

判別分析は回答者の個々の設問への回答を基に、回答者がどのグループに分類されるのかを判別する手法である。今回の分析では、「暮らしやすい」(「暮らしやすい」又は「どちらかといえば暮らしやすい」)と「暮らしにくい」(「暮らしにくい」又は「どちらかといえば暮らしにくい」)との回答を基にグループを設定し、以下の設問を説明要因として分析を行った。

図表 4-1 説明要因として用いた設問

設問	項目	
問 2 <sup>1</sup>	居住地域の評価について	
	まちなみや環境について	近所の道路は子どもや高齢者でも歩きやすい 坂道や階段などが少なく、移動しやすい 家々の植栽や街路樹などの緑が多く、気持ちが良い 周辺が静かであり 緑地や水辺があり、自然が豊かである
	施設や交通の便について	誰もがゆったりと過ごせる公園がある 交通の便がよく、通勤・通学が楽である 病院や診療所など医療機関が利用しやすい 日常の買物が便利でよい 保育所や幼稚園などが利用しやすい 学校や図書館などが近く、学習環境が良い 高齢者や障害者のための施設が利用しやすい
	地域住民について	近所には顔なじみの住民が多いほうだ 住民の転出や転入が多い町だ ごみ出しやペットのふんの始末など、マナーを守る人が多い 高齢者が多く、若者や子どもが少ない 困ったときは互いに支えあう雰囲気がある 地域の中に中学生や高校生が過ごせる場所がある 防災や防犯の取組が活発である
	住まいについて	家賃や建て替えなどの問題がなく、安心して住み続けられる 住まいが快適である(広さや段差、エレベーター設備など)
問 5 <sup>2</sup>	家族や親戚との関わりについて	家族とは普段からよく会話をしている(電話やメールを含む) 家族と一緒によく食事をしたり、テレビを見たりしている 家族や親戚と一緒によく買物や旅行に出かけている 自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる 家族が親しくしている友人の顔や名前を知っている 季節の行事や家族の誕生日などはお祝いをしている 家族や親戚からお金や物の仕送りを受けたり、したりしている 家族や親戚に対して、自分からは話しかけたり連絡をとったりしない 家族に愛情や感謝、思いやりの気持ちを積極的に表現している 家族や親戚といえども信頼できないこともある

設問	項目	
問6 <sup>3</sup>	悩み事ごとや困っていること	自分や家族の健康状態や病気のこと 仕事や職場のこと 失業や倒産 収入（年金を含む）のこと 家計のやりくり 子どもの保育や教育のこと 家族や親戚の介護のこと 家族とのかかわり、親戚とのつきあい 住宅のこと 近隣からの騒音や悪臭 地域の防犯上のこと 近所や地域の人、友人とのつきあい その他 悩みや困っていることはない
問7	情報交換する相手	同居している家族 別居している家族 親戚の人 近所や地域の人 仕事で知り合った人 学校時代の友人・知人 趣味やボランティア活動などの友人・知人 子どもの学校や家族の職場などで知り合った人 学校の先生や医師、ヘルパーなどの専門家 市役所や区役所の人 買物などをするお店の人 インターネットを通じて知り合った人 同じ悩みを持ったグループの人 信仰を通じた友人・知人 その他 いない
問8	悩みごとや困りごとの相談相手	同居している家族 別居している家族 親戚の人 近所や地域の人 仕事で知り合った人 学校時代の友人・知人 趣味やボランティア活動などの友人・知人 子どもの学校や家族の職場などで知り合った人 学校の先生や医師、ヘルパーなどの専門家 市役所や区役所の人 買物などをするお店の人 インターネットを通じて知り合った人 同じ悩みを持ったグループの人 信仰を通じた友人・知人 その他 いない 心配ごとや悩みはない

設問	項目	
問 9	自分や同居の家族だけでは対応できない事態への対応	
	(ア) 部屋の掃除や買い物	別居の家族や親戚に頼む 近隣の友人・知人に頼む 近隣以外の友人・知人に頼む 地域のボランティアサービスを利用する 民間事業者のサービスを利用する その他 頼める人がいない 他の人に頼みたくない、利用したくない
	(イ) 経済的に困った時の援助	別居の家族や親戚に頼む 近隣の友人・知人に頼む 近隣以外の友人・知人に頼む 金融機関や消費者金融を利用する 公的な機関や制度を利用する その他 頼める人がいない 他の人に頼みたくない、利用したくない
	(ウ) 家庭内の問題の相談	別居の家族や親戚に頼む 近隣の友人・知人に頼む 近隣以外の友人・知人に頼む 専門家に相談する 公的な相談窓口相談する その他 相談する人がいない 他の人に相談したくない
問 10	地域の中で行っている活動 (個人的な活動を中心に)	資源回収やリサイクル活動 公園の草取りや花壇づくりなどの活動 地域の交通安全や防災・防犯の活動 地域のフリーマーケットへの出店 近所の子どもの見守りや預かたりするなどの世話 近所の高齢者や障害者の見守りや世話 高齢者や障害者の施設などでのボランティア 在住外国人の日本語習得や学習支援、生活の相談支援 地域の祭りやイベント、交流会等の企画や運営への参加 地域の農園を借りて野菜などの栽培 生協などの共同購入 趣味のサークル活動やスポーツ 習い事や稽古事、スポーツなどの指導 地域の子どもたちの勉強を手助け 地域の特定分野や団体へのカンパや活動資金支援 地域のNPOやボランティア団体の運営の手伝い 地域の計画やルールづくり、学習会などへの参加 地域の施設のスタッフとして働く その他 特にしていない
問 11	組織団体での活動	自治体・町内会、老人クラブ、婦人会、子ども会、管理組合などの役員活動 民生委員・児童委員、主任児童委員の活動 学校のPTA、青少年指導委員、体育指導員などの活動 商店街振興組合や商工会議所、青年会議所、農協などの活動 生協や消費生活推進員など、消費生活に関わる活動 ボランティア・NPOなどの市民活動 その他 特に活動していない

設問	項目	
問 12	地地域活動への参加意欲	<p>したいと思う</p> <p>今はできないが、今後してみたい</p> <p>したいとは思わない</p>
問 14	<p>価値観</p> <p>(ア) 人とのつきあい方</p> <p>(イ) 知人が困っているとき</p> <p>(ウ) あなたが住みやすいと思う地域</p> <p>(エ) 信頼感</p> <p>(オ) 自分の居場所</p> <p>(カ) 自分自身の評価</p> <p>(キ) 現代の社会</p> <p>(ク) 市役所への信頼</p> <p>(ケ) 行政のあり方</p> <p>(コ) 社会貢献</p>	<p>気のあった人とだけつき合えばよい</p> <p>いろいろな価値観や世代の人とつき合いたい</p> <p>困ったときはお互いさま意識で、自分が可能な範囲で手助けする</p> <p>困ったときでも、できるだけ本人や家族などで解決すべきだ</p> <p>お互いに干渉せず、わずらわしくない地域</p> <p>人と人がざっくばらんな関係で、人づきあいの多い地域</p> <p>一般的に人は信頼できる</p> <p>人は信頼できるとは限らない</p> <p>安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいる</p> <p>安心して自分を素直に出せる場所や仲間はいない</p> <p>自分を頼りにしてくれている人がいる</p> <p>自分を頼りにしてくれている人はいない</p> <p>自分が努力すれば報われる（評価される）社会だと思う</p> <p>自分が努力しても報われない（評価されない）社会だと思う</p> <p>市役所は頼りになる存在だ</p> <p>市役所は頼りにならない</p> <p>税負担が高くても、市民生活に対し手厚いサービスを行うべき</p> <p>税負担を軽くし、サービスを限定するべき</p> <p>自分は何らかの形で積極的に社会貢献したい</p> <p>自分の生活を大事にし、社会貢献は考えない</p>

- 設問ごとに以下の2つのカテゴリに整理し、説明要因として投入  
Yes:「そう思う」もしくは「どちらかといえばそう思う」  
No:「そう思わない」もしくは「どちらかといえばそう思わない」
- 設問ごとに以下の2カテゴリに整理し、説明要因として投入。  
Yes:「あてはまる」もしくは「どちらかといえばあてはまる」  
No:「あてはまらない」もしくは「どちらかといえばあてはまらない」
- 残りの設問は、それぞれの選択肢を選択しているか否かで「該当する」/「該当しない」と整理し、選択肢ごとに説明要因として投入。

## (2)分析結果

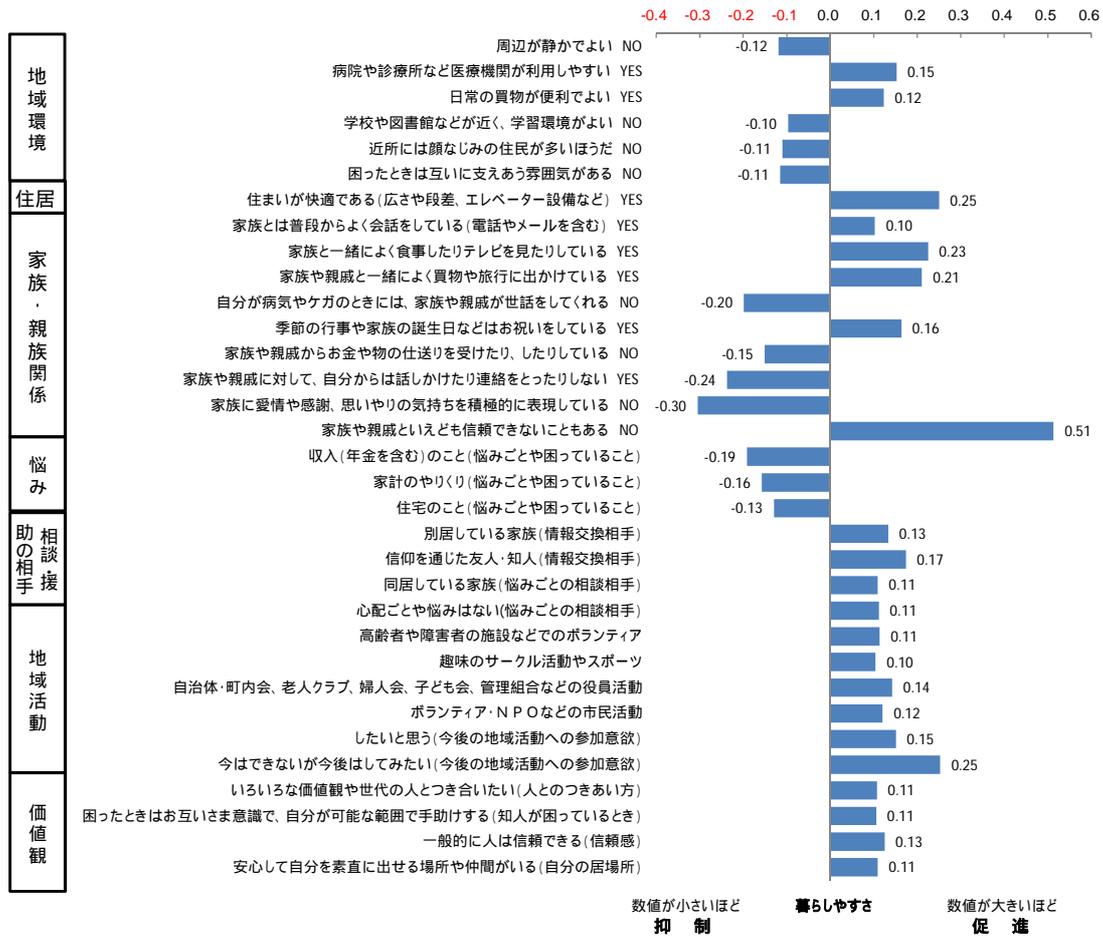
### 暮らしやすいと回答した市民の「暮らしやすさ」を促進する要因

「暮らしやすい」と回答した市民の判別分析結果を見ると、「暮らしやすさ」を促進する（抑制する）要因として、以下の項目が抽出された。特に、住まいの快適性や悩みがないこと、家族や親族との関係が親密であること及び地域活動への参加意欲があることが暮らしやすさに大きく影響を与えている。

図表 4-2 「暮らしやすい」と回答した市民の暮らしやすさを促進 / 抑制する要因

区分	暮らしやすさの促進 / 抑制要因
暮らしやすさの促進要因	<p>地域環境： 問 2 病院や診療所など医療機関が利用しやすい yes 問 2 日常の買物が便利でよい yes</p> <p>住まい： 問 2 住まいが快適である（広さや段差、エレベーター設備など） yes</p> <p>家族親族関係： 問 5 家族とは普段からよく会話をしている（電話やメールを含む） yes 問 5 家族と一緒によく食事したりテレビを見たりしている yes 問 5 家族や親戚と一緒によく買物や旅行に出かけている yes 問 5 季節の行事や家族の誕生日などはお祝いをしている yes 問 5 家族や親戚といえども信頼できないこともある no</p> <p>情報交換相手： 問 7 情報交換する相手：別居している家族 問 7 情報交換する相手：信仰を通じた友人・知人</p> <p>相談相手： 問 8 悩み事や困りごとの相談相手：同居している家族 問 8 悩み事や困りごとの相談相手：心配ごとや悩みはない</p> <p>地域活動等： 問 10 地域の中で行っている活動（個人的な活動を中心に）：高齢者や障害者の施設などでのボランティア 問 10 地域の中で行っている活動（個人的な活動を中心に）：趣味のサークル活動やスポーツ 問 11 組織団体での活動：自治体・町内会、老人クラブ、婦人会、子ども会、管理組合などの役員活動 問 11 組織団体での活動：ボランティア・NPOなどの市民活動 問 12 地域活動への参加意欲 したいと思う 問 12 地域活動への参加意欲今はできないが今後はしてみたい</p> <p>価値観： 問 14 価値観人とのつきあい方：いろいろな価値観や世代の人とつき合いたい 問 14 価値観知人が困っているとき：困ったときはお互いさま意識で、自分が可能な範囲で手助けする 問 14 価値観信頼感：一般的に人は信頼できる 問 14 価値観自分の居場所：安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいる</p>
暮らしやすさの抑制要因	<p>地域環境： 問 2 周辺が静かでよい no 問 2 学校や図書館などが近く、学習環境がよい no 問 2 近所には顔なじみの住民が多いほうだ no 問 2 困ったときは互いに支えあう雰囲気がある no</p> <p>家族親族関係： 問 5 自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる no 問 5 家族や親戚からお金や物の仕送りをを受けたり、したりしている no 問 5 家族や親戚に対して、自分からは話しかけたり連絡をとったりしない yes 問 5 家族に愛情や感謝、思いやりの気持ちを積極的に表現している no</p> <p>悩みや困りごと： 問 6 悩み事や困っていること：収入（年金を含む）のこと 問 6 悩み事や困っていること：家計のやりくり 問 6 悩み事や困っていること：住宅のこと</p>

図表 4-3 「暮らしやすい」と回答した市民の暮らしやすさを促進 / 抑制する要因 (グラフ)



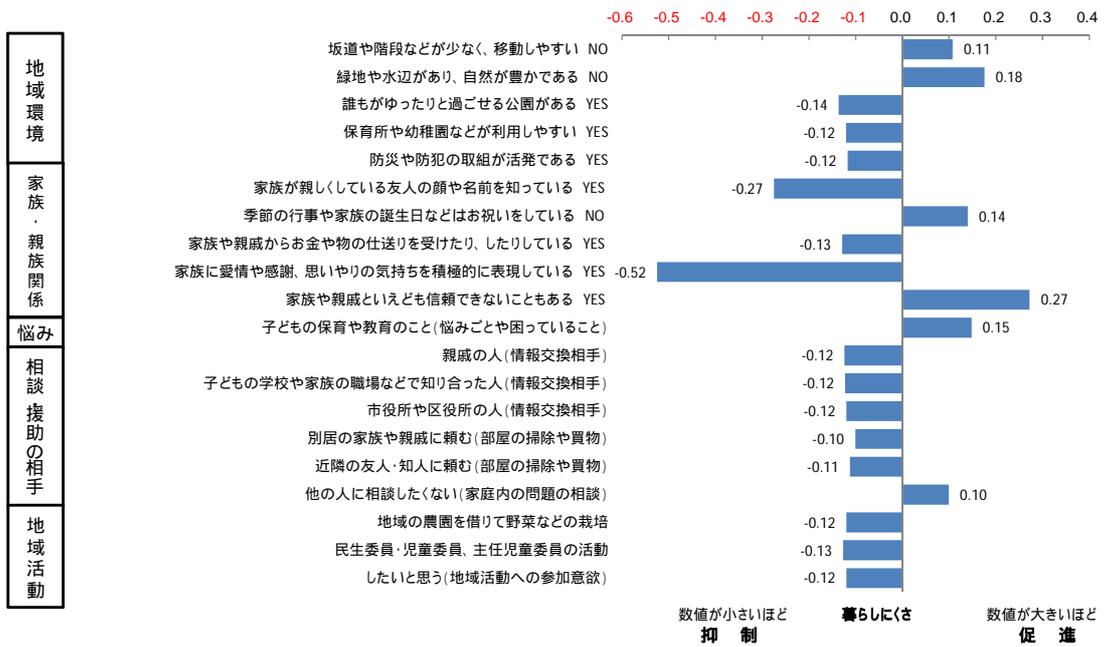
## 暮らしにくいと回答した市民の「暮らしにくさ」を促進する要因

「暮らしにくい」と回答した市民の判別分析結果を見ると、「暮らしにくさ」を促進する（抑制する）要因として、以下の項目が抽出された。特に居住地域に豊かな自然がないこと、家族や親族との関係が希薄さ、子どもの教育に関する悩み等が暮らしにくさに大きく影響している。

図表 4-4 「暮らしにくい」と回答した市民の暮らしにくさを促進 / 抑制する要因

区分	暮らしにくさの促進 / 抑制要因
暮らしにくさの促進要因	<p>地域環境： 問 2 坂道や階段などが少なく、移動しやすい no 問 2 緑地や水辺があり、自然が豊かである no</p> <p>家族親族関係： 問 5 季節の行事や家族の誕生日などはお祝いをしている no 問 5 家族や親戚といえども信頼できないこともある yes</p> <p>悩みや困りごと： 問 6 悩み事や困っていること：子どもの保育や教育のこと</p> <p>家庭内の問題の相談相手： 問 9-3 家庭内の問題の相談：他の人に相談したくない</p>
暮らしにくさの抑制要因	<p>地域環境： 問 2 誰もがゆったりと過ごせる公園がある yes 問 2 保育所や幼稚園などが利用しやすい yes 問 2 防災や防犯の取組が活発である yes</p> <p>家族親族関係： 問 5 家族が親しくしている友人の顔や名前を知っている yes 問 5 家族や親戚からお金や物の仕送りを受けたり、したりしている yes 問 5 家族に愛情や感謝、思いやりの気持ちを積極的に表現している yes</p> <p>情報交換相手： 問 7 情報交換する相手：親戚の人 問 7 情報交換する相手：子どもの学校や家族の職場などで知り合った人 問 7 情報交換する相手：市役所や区役所の人</p> <p>部屋の掃除や買い物頼む相手： 問 9-1 部屋の掃除や買い物：別居の家族や親戚に頼む 問 9-1 部屋の掃除や買い物：近隣の友人・知人に頼む</p> <p>地域活動等： 問 10 地域の中で行っている活動（個人的な活動を中心に）：地域の農園を借りて野菜などの栽培 問 11 組織団体での活動：民生委員・児童委員、主任児童委員の活動 問 12 地域活動への参加意欲：したいと思う</p>

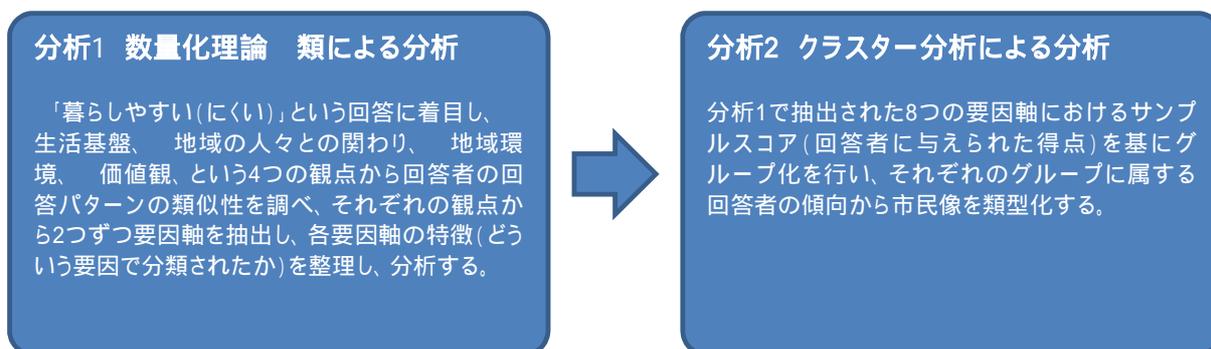
図表 4-5 「暮らしにくい」と回答した市民の暮らしにくさを促進/抑制する要因(グラフ)



### (3) 「暮らしやすさ」から見た市民像の類型化

アンケート回答者の生活環境や家族、地域社会等との関わり、地域社会に対する意識等に関する回答パターンの類似性から回答者をグループ分けし、「暮らしやすさ」から見た市民像の類型化を試みた。(図表 4-6)

図表 4-6 市民像の類型化に係る分析方法



図表 4-7 分析の観点と使用した設問

分析の観点		使用した設問	
全観点共通		問 13	暮らしやすさへの評価：暮らしやすい/暮らしにくい
		問 3	居住地域への愛着：感じている/感じていない
生活基盤			
生活基盤	所得	問 6	悩み事や困っていること ・収入（年金を含む）のこと ・家計のやりくり ・仕事や職場のこと ・失業や倒産
	健康	問 6	悩み事や困っていること ・自分や家族の健康状態や病気のこと ・家族や親戚の介護のこと
	住宅	問 2	住んでいる地域について思うこと (ト)家賃や建て替えなどの問題がなく、安心して住み続けられる (ナ)住まいが快適である（広さや段差、エレベーター設備など）
		問 6	悩み事や困っていること ・住宅のこと
家族や親族との関わり	問 5	家族や親族との関わり (ア) 家族とは普段からよく会話をしている（電話やメールを含む） (イ) 家族と一緒に食事したりテレビを見たりしている (ウ) 家族や親戚と一緒によく買物や旅行に出かけている (エ) 自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる (オ) 家族が親しくしている友人の顔や名前を知っている (カ) 季節の行事や家族の誕生日などはお祝いをしている (キ) 家族や親戚からお金や物の仕送りを受けたり、したりしている (ク) 家族や親戚に対して、自分からは話しかけたり連絡をとったりしない (ケ) 家族に愛情や感謝、思いやりの気持ちを積極的に表現している (コ) 家族や親戚といえども信頼できないこともある	
		問 6	悩み事や困っていること ・家族とのかかわり、親戚とのつきあい

分析の観点		使用した設問	
所得		問 7	情報交換する相手 ・同居している家族 ・別居している家族 ・親戚の人
		問 8	悩み事や困りごとの相談相手 ・同居している家族 ・別居している家族 ・親戚の人
		問 9	自分では対応できないこと 9-1.部屋の掃除や買い物：別居の家族や親戚に頼む 9-2.経済的に困った時の援助：別居の家族や親戚に頼む 9-3.家庭内の問題の相談：別居の家族や親戚に頼む
地域の人々との関わり			
近所づきあい		問 2	住んでいる地域について思うこと (ス)近所には顔なじみの住民が多いほうだ (セ)住民の転出や転入が多い町だ (ソ)ごみ出しやペットのふんの始末など、マナーを守る人が多い (タ)高齢者が多く、若者や子どもが少ない (チ)困ったときは互いに支えあう雰囲気がある (ツ)地域の中に中学生や高校生が過ごせる場所がある (テ)防災や防犯の取組が活発である
		問 6	悩み事や困っていること ・近隣からの騒音や悪臭 ・地域の防犯上のこと ・近所や地域の人、友人とのつきあい
		問 7 問 8	情報交換の相手,悩み事や困りごとの相談相手 ・近所や地域の人
		問 9	自分自身で対応できないこと 9-1.部屋の掃除や買い物：近隣の友人・知人に頼む 9-2.経済的に困った時の援助：近隣の友人・知人に頼む 9-3.家庭内の問題の相談：近隣の友人・知人に頼む
友人等との関わり		問 7 問 8	情報交換の相手,悩み事や困りごとの相談相手 ・仕事で知り合った人 ・学校時代の友人・知人 ・趣味やボランティア活動などの友人・知人 ・子どもの学校や家族の職場などで知り合った人 ・買い物などをするお店の人 ・インターネットを通じて知り合った人 ・同じ悩みを持ったグループの人 ・信仰を通じた友人・知人
		問 9	自分自身で対応できないこと 9-1.部屋の掃除や買い物：近隣以外の友人・知人に頼む 9-2.経済的に困った時の援助：近隣以外の友人・知人に頼む 9-3.家庭内の問題の相談：近隣以外の友人・知人に頼む
地域社会との関わり		問 12	地域活動への参加意欲 ・したいと思う ・今はできないが、今後してみたい ・したいとは思わない

分析の観点		使用した設問	
地域環境			
まちなみや環境に対して	問 2	住んでいる地域について思うこと (ア)近所の道路は子どもや高齢者でも歩きやすい (イ)坂道や階段などが少なく、移動しやすい (ウ)家々の植栽や街路樹などの緑が多く、気持ちが良い (エ)周辺が静かである (オ)緑地や水辺があり、自然が豊かである	
施設や交通の便等に関して	問 2	住んでいる地域について思うこと (カ)誰もがゆったりと過ごせる公園がある (キ)交通の便がよく、通勤・通学が楽である (ク)病院や診療所など医療機関が利用しやすい (ケ)日常の買物が便利である (コ)保育所や幼稚園などが利用しやすい (サ)学校や図書館などが近く、学習環境が良い (シ)高齢者や障害者のための施設が利用しやすい	
価値観	問 14	価値観 (ア)人とのつきあい方 ・いろいろな価値観や世代の人とつき合いたい ・気のあった人とだけつき合えばよい (イ)知人が困っているとき ・困ったときでも、できるだけ本人や家族などで解決すべきだ ・困ったときはお互いさま意識で、自分が可能な範囲で手助けする (ウ)あなたが住みやすいと思う地域 ・お互いに干渉せず、わずらわしくない地域 ・人と人がざっくばらんな関係で、人づきあいの多い地域 (エ)信頼感 ・一般的に人は信頼できる ・人は信頼できるとは限らない (オ)自分の居場所 ・安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいる ・安心して自分を素直に出せる場所や仲間はいない (カ)自分自身の評価 ・自分を頼りにしてくれている人がいる ・自分を頼りにしてくれている人はいない (キ)現代の社会 ・自分が努力しても報われない(評価されない)社会だと思う ・自分が努力すれば報われる(評価される)社会だと思う (ク)市役所への信頼 ・市役所は頼りにならない ・市役所は頼りになる存在だ (ケ)行政のあり方 ・税負担が高くて、市民生活に対し手厚いサービスを行うべき ・税負担を軽くし、サービスを限定するべき (コ)社会貢献 ・自分の生活を大事にし、社会貢献は考えない ・自分は何らかの形で積極的に社会貢献したい	

#### 設問の整理の考え方

##### 問 2 住んでいる地域について思うこと

Yes:「そう思う」および「どちらかといえばそう思う」

No:「そう思わない」および「どちらかといえばそう思わない」

##### 問 3 住んでいる地域への愛着

感じている:「感じている」および「やや感じている」

感じていない:「感じていない」および「やや感じている」

##### 問 5 家族や親族との関わりについて

Yes:「あてはまる」および「どちらかといえばあてはまる」

No:「あてはまらない」および「どちらかといえばあてはまらない」

##### 問 13 暮らしやすさ

暮らしにくい:「暮らしやすい」および「どちらかといえば暮らしやすい」

暮らしやすい:「暮らしにくい」および「どちらかといえば暮らしにくい」

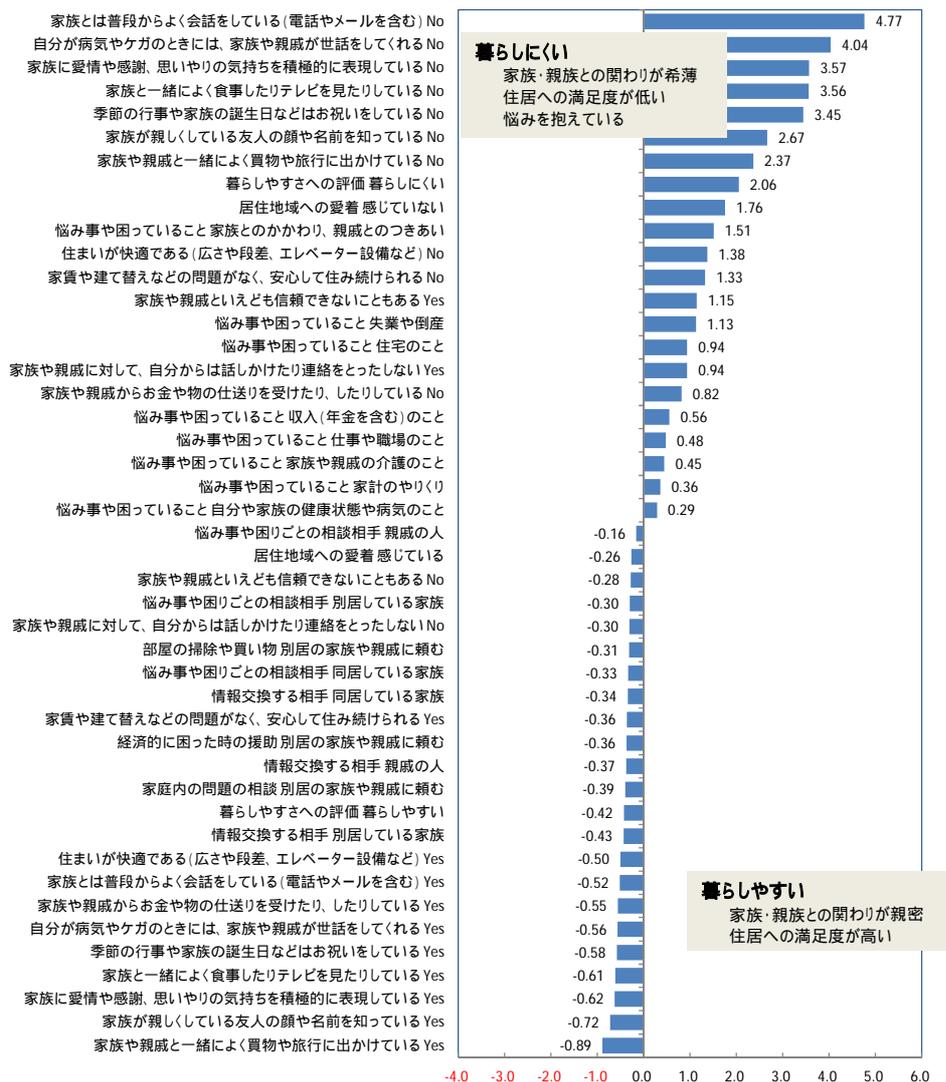
残りの設問 各選択肢に回答しているか

## 生活基盤から抽出された要因軸

生活基盤から抽出された1つ目の要因軸は、「家族とのつながりの強さに起因する暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、家族や親族とのつながりが親密であり、暮らしにくいと回答した人ほど、家族とのつながりが希薄である傾向が見られる。

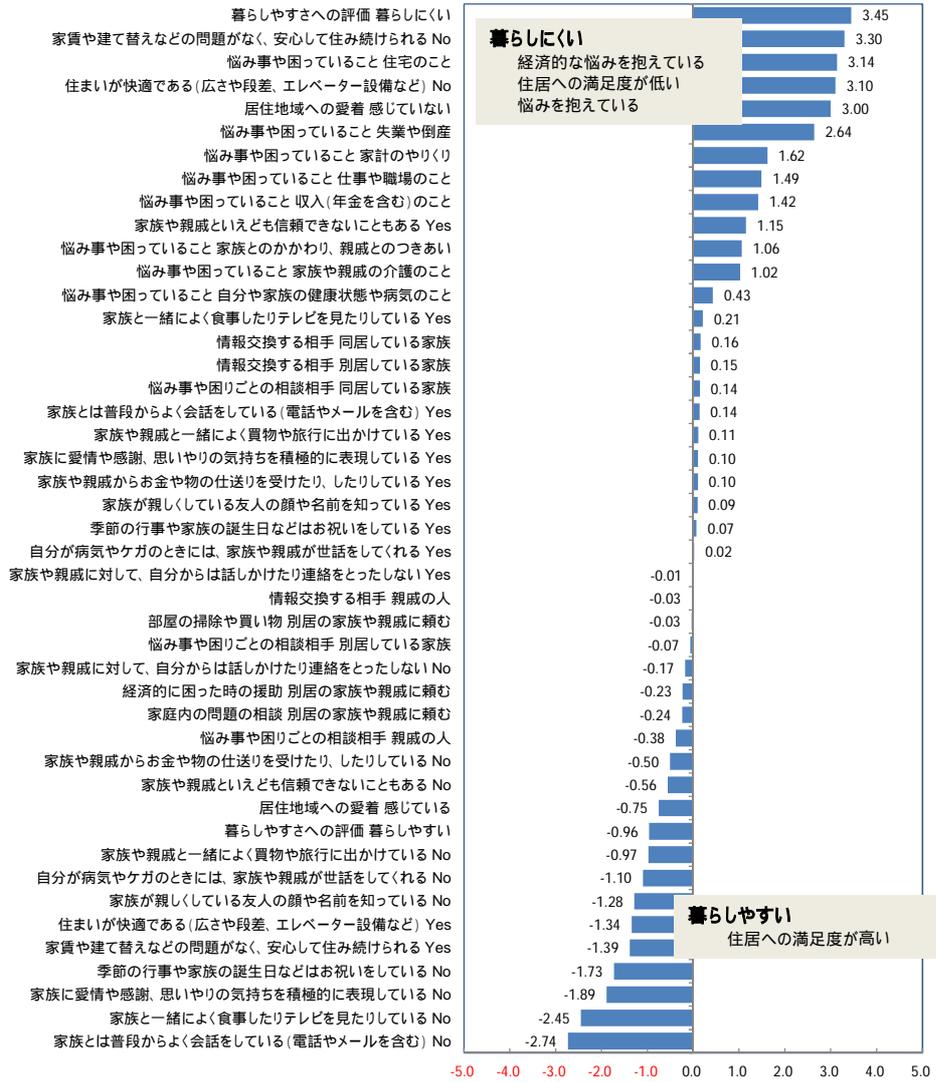
2つ目の要因軸は、「経済上の悩みの有無に起因する暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしにくいと回答した人ほど、収入や住まいといった経済上の悩みを有する傾向が見られる。

図表 4-8 生活基盤に係る第1 要因軸



回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

図表 4-9 生活基盤に係る第2要因軸



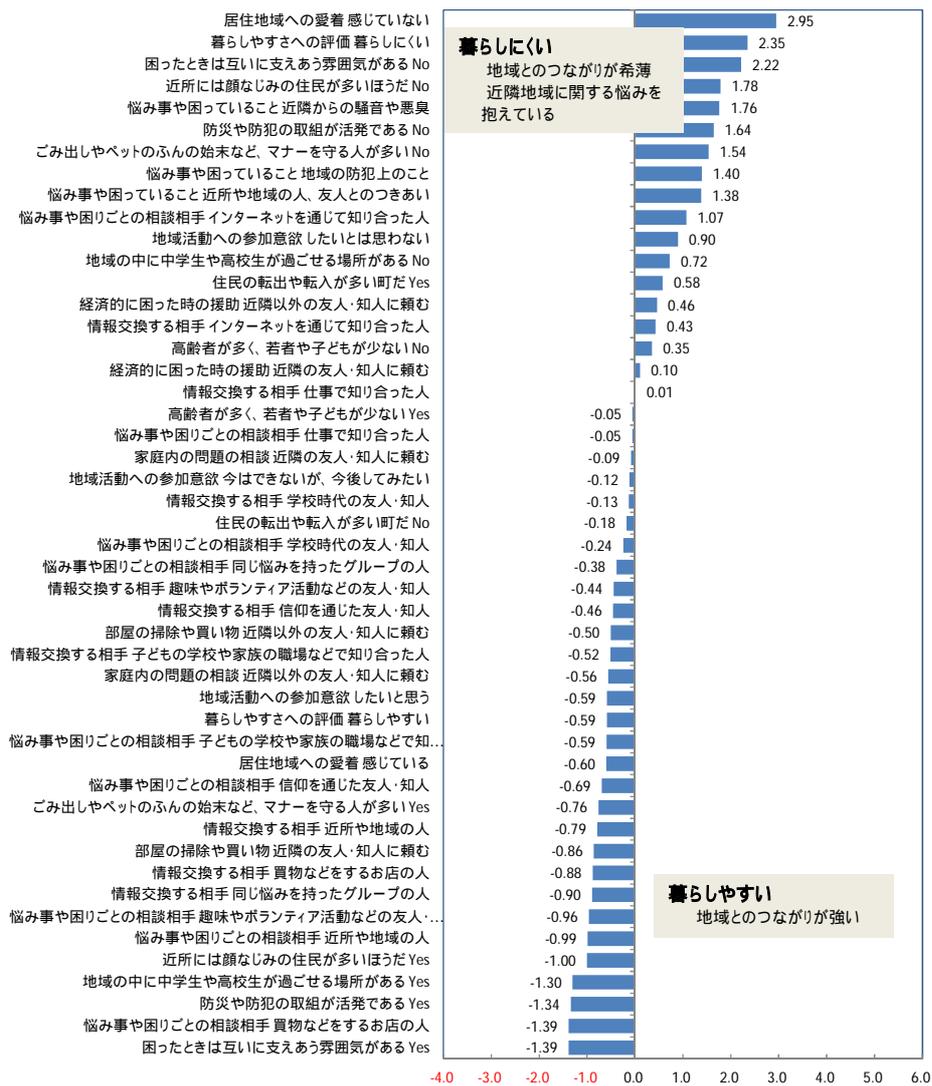
回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

## 地域や友人との関わりから抽出された要因軸

地域や友人との関わりから抽出された1つ目の要因軸は、「地域とのつながりに起因する暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、地域の住民とのつながりが強く、暮らしにくいと回答した人ほど、近隣の住民とのつながりが弱い傾向が見られる。

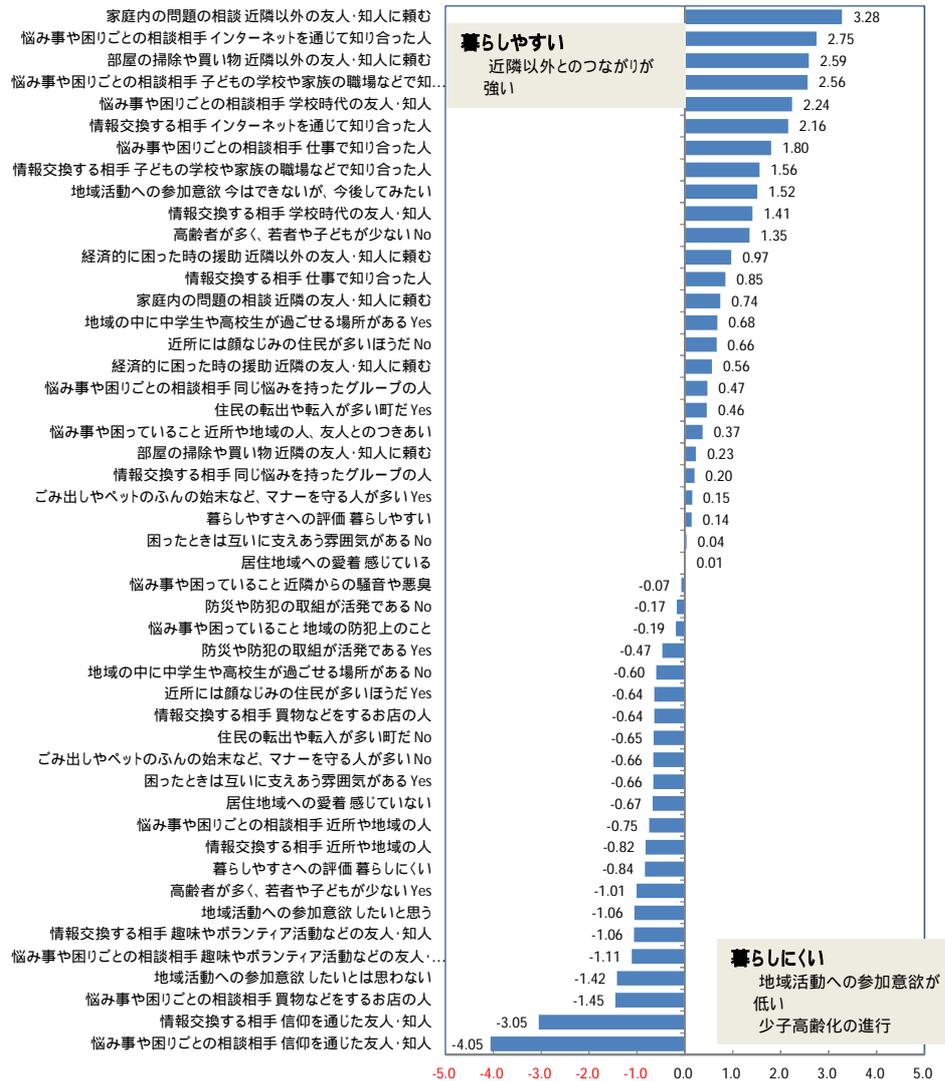
2つ目の要因軸は、「近隣以外の人間関係に起因する暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、近隣以外の人間とのつながりが強い傾向が見られる。

図表 4-10 地域や友人との関わりに係る第1要因軸



回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

図表 4-11 地域や友人との関わりに係る第2 要因軸



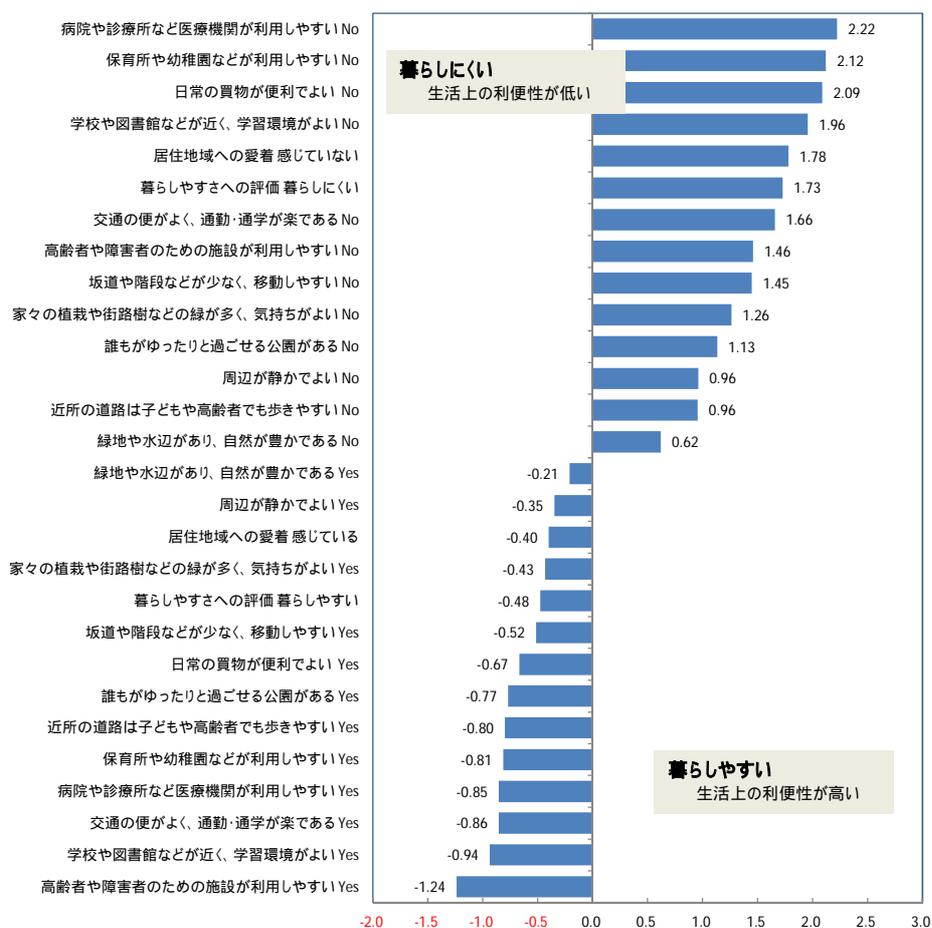
回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

## 地域環境から抽出された要因軸

地域環境から抽出された1つ目の要因軸は、「生活の利便性に起因する暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、施設や交通の利便性を高く評価し、暮らしにくいと回答した人ほど、低く評価する傾向が見られる。

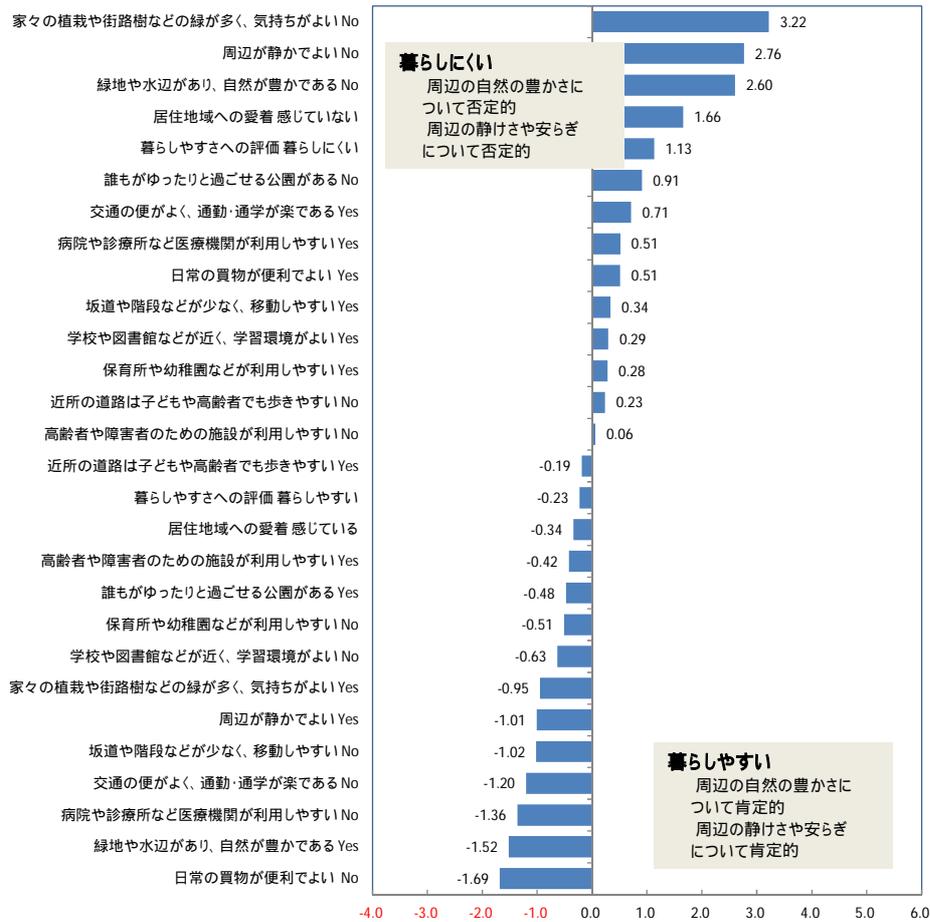
2つ目の要因軸は、「豊かな自然や静かで安らげる生活環境による暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、周辺の水辺や緑等の自然の豊かさや静けさを評価し、暮らしにくいと回答した人ほど、低く評価する傾向が見られる。

図表 4-12 地域環境に係る第1要因軸



回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

図表 4-13 地域環境に係る第 2 要因軸



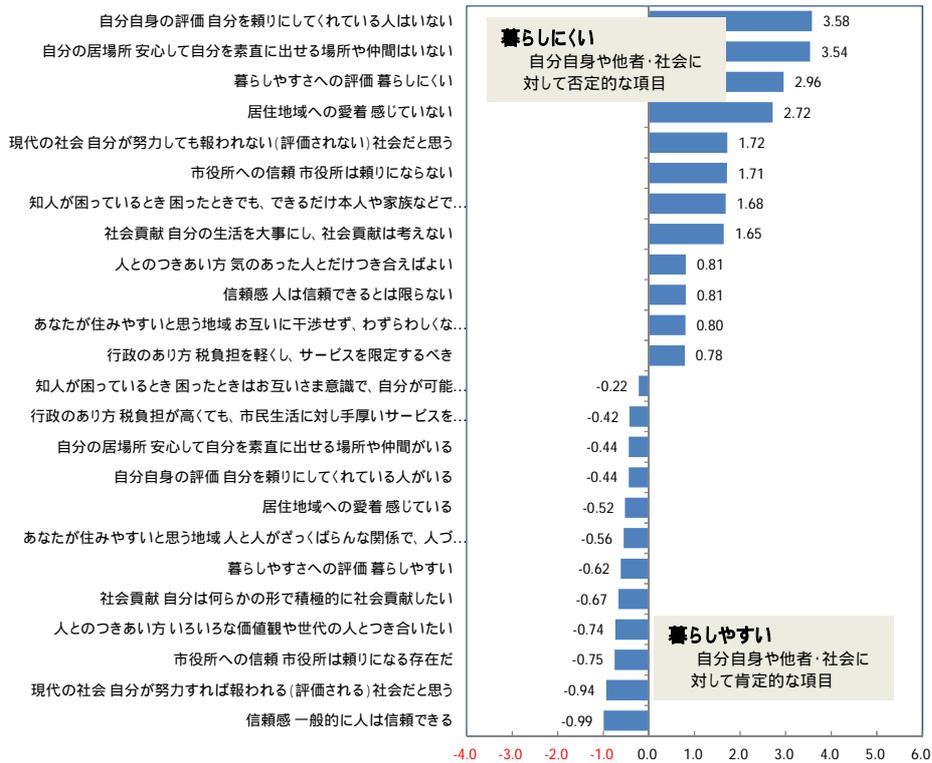
回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

### 価値観から抽出された要因軸

価値観から抽出された 1 つ目の要因軸は、「社会や他者の捉え方により規定される暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、「人は信頼できる」、「市役所は頼りになる」、「努力が報われる社会」といった社会や他者に対して肯定的に捉え、暮らしにくいと回答した人ほど、否定的に捉えている傾向が見られる。

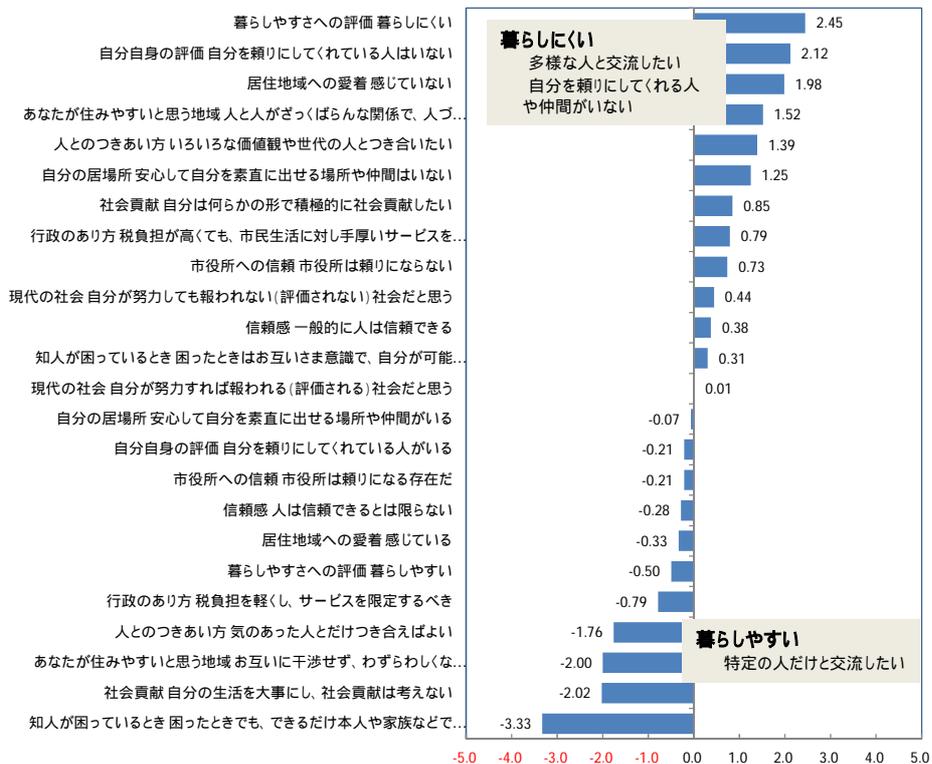
2 つ目の要因軸は、「身近な人間関係を重視することに起因する暮らしやすさ」から回答者を分類している。暮らしやすいと回答した人ほど、多様な人間との交流に対し否定的で特定の人間関係を好み、暮らしにくいと回答した人ほど、多様な人間との交流を好む傾向が見られる。また、暮らしにくいと回答した人は、自分自身の居場所がない、仲間がいないと考えている傾向が見られる。

図表 4-14 価値観に係る第1要因軸



回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

図表 4-15 価値観に係る第2要因軸



回答傾向が類似しているものほど数値が近くなる。

## クラスター分析による市民像の類型化

クラスター分析は、回答の類似性から回答者をグループに分類する手法である。

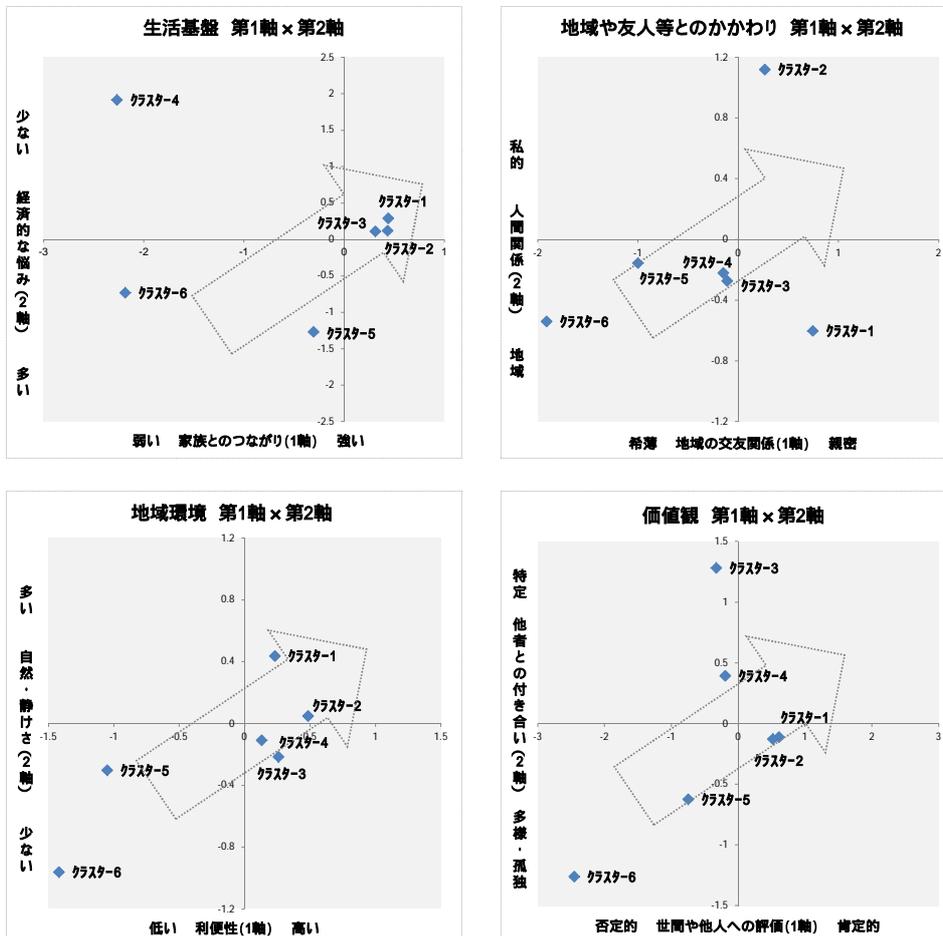
上述の数量化理論 類によって得られた 8 つの要因軸における各サンプルスコア（回答者の回答パターンを得点化したもの）をもとにクラスター分析により、グループ化し、それぞれのグループに属する回答者の傾向から市民像の類型化を試みた。

分析の結果、本調査においては、市民を 6 つのクラスターに類型化した。各クラスターのサンプルスコアの平均値(クラスター中心)は、図表 4-16 のとおりである。また、クラスター中心の各要因軸上での位置を示したのが図表 4-17 である。グラフの右上にあるクラスターほど「暮らしやすい」と回答する傾向を示している。

図表 4-16 各クラスターの中心位置

クラスター	要因軸		生活基盤		地域や友人等とのかかわり		地域環境		価値観	
	1軸	2軸	1軸	2軸	1軸	2軸	1軸	2軸	1軸	2軸
クラスター 1	0.44	0.29	0.75	-0.60	0.23	0.44	0.61	-0.11		
クラスター 2	0.43	0.12	0.27	1.12	0.49	0.05	0.52	-0.13		
クラスター 3	0.31	0.11	-0.11	-0.27	0.26	-0.22	-0.33	1.28		
クラスター 4	-2.27	1.91	-0.15	-0.22	0.13	-0.11	-0.19	0.39		
クラスター 5	-0.31	-1.27	-1.00	-0.16	-1.05	-0.30	-0.75	-0.62		
クラスター 6	-2.19	-0.73	-1.91	-0.54	-1.42	-0.96	-2.46	-1.26		

図表 4-17 要因軸上の各クラスター中心位置



## クラスターの特徴

各クラスターの特徴を見ると、規模については、クラスター1 及びクラスター2 が回答者の30%程度、クラスター3 及びクラスター5 が15%程度、クラスター4 及びクラスター6 が5%程度該当する。

暮らしやすさ別に見ると、クラスター1 からクラスター3 までは「暮らしやすい」又は「どちらかといえば暮らしやすい」が多い。一方、クラスター5 及びクラスター6 は、「暮らしにくい」又は「どちらかといえば暮らしにくい」が多く、クラスター4 は、「どちらともいえない」という回答が多い。

各クラスターの特徴の詳細は、図表 4-18 のとおりである。

### クラスター1

- ・ 裕福な老後世代。収入もあり、悩み事や住んでいる環境への不満も少ない。近所づきあいも積極的で、幅広い人間関係を望む傾向にある。

### クラスター2

- ・ 新しく相模原市に転入してきた子育て世代。住んでいる地域への不満や生活上の悩みは少ないが、近所づきあいに関しては否定的な回答が多く、交友関係も近隣以外の人が多い。

### クラスター3

- ・ 子どもが独立した老後世代。近所づきあいには否定的で、限定された人間関係を望む傾向にある。

### クラスター4

- ・ 壮年期や老後を迎えた男性。収入もあり、悩み事も少ないが、他人との交流への関心は大きくはない。限定的な人間関係を望み、社会貢献についても関心を示さない。

### クラスター5

- ・ 20 歳代～30 歳代の若い世代や壮年期の労働世代。悩み事が多いものの、困った時に頼れる相手が少ない人が多い。住んでいる地域への不満も多く、地域への愛着も少ない。

### クラスター6

- ・ 低収入で社会から孤立傾向にある男性。悩み事も多く、他人との関わりも消極的な人が多い。

図表 4-18 各クラスターの特徴（詳細）

項目	クラスター1 該当者 363 人(29.8%) 男女比 39:61	クラスター2 該当者 318 人(26.1%) 男女比 34:66
暮らしやすさ	「暮らしやすい」(27.8%)、又は「どちらかといえば暮らしやすい」(58.7%)という回答が合計で 8 割強を占める。	「暮らしやすい」(25.2%)、又は「どちらかといえば暮らしやすい」(62.9%)という回答が合計で 9 割弱を占める。
年齢	65 歳以上の人口が多い。	20～40 歳未満及び 40 歳～65 歳未満の人口が多い。
世帯構成	三世代で同居又は夫婦のみが多い。	二世代で同居が多い。
子どもの状況	65 歳以上で独立した子どもを持つ人が多い。特に独立し、既婚の子どもを持つ人が多い。	居住年数が全体より短い。 20 歳～40 歳、40 歳～65 歳で高校生以下の子どもがいる人が多い。 一方で、20 歳～40 歳、40 歳～65 歳では子どもがいない人も一定数存在する。
住まいの種類	住まいは、一戸建ての持ち家が多い。	マンション、共同住宅の持ち家又は賃貸マンションやアパートの借家が多い。
収入	収入は、200 万円～300 万円、300 万円～500 万円、500 万円～700 万円を中心に分布 職業は自営業や専業主婦という回答が多い。	収入は、300 万円～500 万円、500 万円～700 万円、700 万円～1,000 万円を中心に分布 職業は、管理職、専門技術職、事務職、現業職という回答が全体より多く、無職という回答は少ない。
住んでいる地域への評価	住んでいる地域についておおむね評価が高い。	住んでいる地域について、おおむね評価が高いが、地域の住民については、顔見知りが少ないという回答が多い。また、地域の防災活動や支え合う雰囲気に対しては、意見が分かれている。
悩みや困りごと	全体的に悩みは少なく、悩み事はないという回答が多い。 情報交換や悩み事の相談相手は家族や親族の他、近所の人間や趣味やボランティア活動などの友人・知人という回答が多い。	全体的に悩みは少ないが、仕事や家計、教育や介護への悩みが全体を上回る。 情報の交換相手や悩みの相談相手は家族の他、仕事や学生時代、子どもの学校などで知り合った人間が多い。
地域への愛着	地域への愛着を感じている人が多い。	地域への愛着を感じている人が多い。
意識面	人とのつき合い方に関して、「いろいろな価値観や世代の人とつき合いたい」、住みやすい地域に関して、「人と人がざっくばらんな関係で、人づきあいの多い地域」といった多様な人間関係を望む回答が多い。また、信頼感についても、「一般的に人は信頼できる」という回答が多い。 自分の居場所については、「安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいる」、現代の社会については、「自分が努力したら報われる社会だ」、社会貢献については、「自分は何らかの形で積極的に社会貢献したいと思う」と肯定的な回答が多い。 行政については、「市役所は頼りになる」と評価しており、高負担であっても多様なサービスを望んでいる。	人とのつき合い方に関して、「いろいろな価値観や世代の人とつき合いたい」、住みやすい地域に関して、「人と人がざっくばらんな関係で、人づきあいの多い地域」といった多様な人間関係を望む回答が多い。また、信頼感についても、「一般的に人は信頼できる」という回答が多い。 自分の居場所については、「安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいる」、現代の社会については、「自分が努力したら報われる社会だ」、社会貢献については、「自分は何らかの形で積極的に社会貢献したいと思う」と肯定的な回答が多い。 行政については、「市役所は頼りになる」と評価しており、高負担であっても多様なサービスを望んでいる。
まとめ	裕福な老後世代。収入もあり、悩み事や住んでいる環境への不満も少ない。近所づきあいも積極的で、幅広い人間関係を望む。	新しく相模原市に転入してきた子育て世代。住んでいる地域への不満や生活上の悩みは少ないが、近所づきあいに関しては否定的な回答が多く、交友関係も近隣以外の人が多い。

項目	クラスター3 該当者 203 人(16.7%) 男女比 40:60	クラスター4 該当者 70 人(5.8%) 男女比 54:46
暮らしやすさ	「暮らしやすい」(24.1%)又は「どちらかといえば暮らしやすい」(55.2%)という回答が合計で8割弱を占める。	暮らしやすさに関して、「どちらともいえない」(30.0%)という回答が多い。
年齢	65歳以上の人口が多い。	40歳～65歳未満、65歳以上の割合が高い。
世帯構成	二世帯で同居、三世帯で同居が多い。	一人暮らしが多い。
子どもの状況	65歳以上で独立した子どもを持つ人が多い。	全年齢を通し子どもがいない、一人暮らしという回答が多い。また、未婚の人も多い。 一方で、40歳～65歳では、独立し、未婚の子どもを持つ人も一定数存在する。
住まいの種類	一戸建て又はマンション・共同住宅の持ち家が多い。	一戸建て又は賃貸マンション・アパートの借家が多い。
収入	収入は、200万円～300万円、300万円～500万円、500万円～700万円を中心に分布。また、700万円～1,000万円という人も多い。 職業は専業主婦という回答が多い。	収入は、100万円～200万円、200万円～300万円、300万円～500万円を中心に分布。また、1,000万円～1,500万円と回答した人も一定数存在する。 職業は事務職・現業職の割合が多い。
住んでいる地域への評価	住んでいる地域について評価が分かれている。 まちなみや環境については、道の状況への肯定的な回答が多い。一方で、自然や静けさへの否定的な回答が多い。 施設や交通の便については、高齢者・障害者のための施設以外は肯定的な回答が多い。 地域の住民については、否定的な回答が多い。 住まいについては、肯定的な回答が多い。	住んでいる地域について評価が分かれている。 まちなみや環境については、道の状況への意見は分かれる。一方で、自然については否定的な回答が多い。 施設や交通の便のうち、交通の便や医療機関、学習環境については肯定的な回答が多いが、買物や高齢者・障害者のための施設への意見は分かれる。保育園や幼稚園については否定的な回答が多い。 地域の住民については、顔なじみが少なく、互いに支え合う雰囲気へも否定的な回答が多い。また、住民のマナーや防災・防犯への取組に対する意見は分かれる。 住まいについては、快適さについて意見は分かれるものの、安心して住み続けられるという回答も多い。
悩みや困りごと	全体的に悩みは少ないが、健康や失業・倒産、近隣からの騒音悪臭への悩みが全体を上回る。 情報の交換相手や悩みの相談相手が家族という回答に集中している。	家族との関わり、親戚づきあいを除く悩み事は少ない。悩み事がないという回答が最も多い。 情報交換や悩みの相談相手は、職場の人間という回答が多い。また、いないと回答する人も多い。
地域への愛着	地域への愛着を感じている人が多い。	地域への愛着を感じている人が多い。
意識面	人とのつきあい方に関して、「気のあった人とだけ付き合い合えばよい」、住みやすい地域に関して、「お互い干渉せず、わずらわしくない地域」、信頼感については、「人は信頼できるとは限らない」と他者との関わりを避ける回答が多い。 自分の居場所については、「安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいない」、社会貢献については、「自分の生活を大事にし、社会貢献は考えない」と否定的な回答が多い。 行政には低負担で限定的なサービスを望んでいる。	人とのつきあい方に関して、「気のあった人とだけ付き合い合えばよい」、住みやすい地域に関して、「お互い干渉せず、わずらわしくない地域」、信頼感については、「人は信頼できるとは限らない」と他者との関わりを避ける回答が多い。 自分の居場所については、「安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいない」、社会貢献については、「自分の生活を大事にし、社会貢献は考えない」と否定的な回答が多い。 行政については「市役所は頼りになる」と評価しており、高負担だが多様なサービスを望んでいる。
まとめ	子どもが独立した老後世代。近所づきあいには否定的で、限定された人間関係を望む。	壮年期や老後を迎えた男性。収入もあり、悩み事も少ないが、他人との交流への関心は大きくはない。限定的な人間関係を望み、社会貢献についても関心を示さない。

項目	クラスター5 該当者 198 人(16.3%) 男女比 42:58	クラスター6 該当者 65 人(5.3%) 男女比 61:39
暮らしやすさ	「暮らしにくい」(17.7%)又は「どちらかといえば暮らしにくい」(29.3%)という回答が多い。	「暮らしにくい」(38.5%)又は「どちらかといえば暮らしにくい」(27.7%)という回答が合計で7割弱を占める。
年齢	20歳～40歳未満、40歳～65歳未満の人口が多い。(特に20歳代の人口が多い。)	40歳～65歳未満、65歳以上の人口が多い。
世帯構成	三世代で同居が多い。	一人暮らしもしくは夫婦のみが多い。
子どもの状況	40歳～65歳の高校生の子どもを持つ人が多い。 20歳～40歳の中学生の子どもを持つ人が多い。 20歳代の子育て世代が全体より多い。 一方で、20歳～40歳では子どもがいないという回答も一定数存在する。	65歳以上では、独立した子を持つ人が多い。 20歳～40歳及び40歳～65歳では子どもがいない人が多い。
住まいの種類	一戸建て又は賃貸マンション・アパートの借家が多い。	賃貸マンション又はアパートの借家が多い。
収入	収入は、100万円～200万円、200万円～300万円、300万円～500万円を中心に分布 職業は、自営業や現業職という回答が多い。	収入は、100万円未満、100万円～200万円、200万円～300万円を中心に分布。また、収入なしと回答する人が全体より多い。 職業は、無職という回答が多い。
住んでいる地域への評価	住んでいる地域について、おおむね評価が低い。	住んでいる地域について、おおむね評価が低い。
悩みや困りごと	全体的に悩み事が多い。 情報交換の相手は、学校の先生等の専門家という回答が多い。 相談相手は、職場や学校で知り合った人間という回答が多い。	子育て・教育を除く悩み事が全体的に多い。 情報交換・悩み事の相談の相手や、困った時に頼ったりする人間もいないという回答が多い。
地域への愛着	地域への愛着を感じていない人が多い。	地域への愛着を感じていない人が多い。
意識面	住みやすい地域に関して、「人と人がざっくばらんな関係で、人づきあいの多い地域」と多様な人間関係を好む人が多い一方で、他者への信頼感については「人は信頼できるとは限らない」という回答も多い。 自分の居場所については、「安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいない」、現代の社会については、「自分が努力しても報われない(評価されない)社会だと思う」、社会貢献については、「自分の生活を大事にし、社会貢献は考えない」と否定的な回答が多い。 行政については、「市役所は頼りにならない」と評価しており、低負担で限定的なサービスを望んでいる。	人とのつきあい方に関して、「気のあった人とだけ付き合えばよい」、住みやすい地域に関して、「お互い干渉せず、わずらわしくない地域」、信頼感については、「人は信頼できるとは限らない」と他者との関わりを避ける回答が多い。 自分の居場所については、「安心して自分を素直に出せる場所や仲間がいない」、現代の社会については、「自分が努力しても報われない(評価されない)社会だと思う」、社会貢献については、「自分に生活を大事にし、社会貢献は考えない」と否定的な回答が多い。 行政については、「市役所は頼りにならない」と評価しており、低負担で限定的なサービスを望んでいる。
まとめ	20～30代の若い世代や壮年期の労働世代。悩み事が多いものの、困った時に頼れる相手が少ない人が多い。住んでいる地域への不満も多く、地域への愛着も少ない。	低収入で社会から孤立傾向にある男性。悩み事も多く、他人との関わりも消極的

図表 4-19 各クラスターの特性

項目	クラスター	1	2	3	4	5	6
暮らしやすさ		+	+	+		-	-
性別							
	男性	-	-	-	+	+	+
	女性	+	+	+	-	-	-
年齢							
	20～24歳	-	+	-	+	+	-
	25～29歳	-	+	-	-	+	+
	30～34歳	-	+	-	-	-	-
	35～39歳	-	+	-	-	-	-
	40～44歳	-	+	+	-	+	-
	45～49歳	-	+	-	-	-	+
	50～54歳	-	+	-	+	+	-
	55～59歳	-	+	-	+	+	+
	60～64歳	+	-	-	+	+	-
	65～69歳	+	-	-	+	+	+
	70～74歳	+	-	+	-	-	+
	75歳以上	+	-	+	+	-	+
	40歳未満 合計	-	+	-	-	+	-
	40～65歳 合計	-	+	-	+	+	+
	65歳以上 合計	+	-	+	+	-	+
世帯構成							
	三世代で同居	+	-	+	-	+	-
	二世代で同居	-	+	+	-	-	-
	夫婦のみ	+	-	-	-	-	+
	一人暮らし	-	-	-	+	-	+
子どもの状況							
	第一子の状況	小学生未満	-	+	-	-	-
		小学生	-	+	-	-	-
		中高生	-	+	+	-	+
		大学・短大等	-	+	-	-	+
		第一子が学校卒業かつ末子が教育期	+	-	-	-	+
	子どもがいない	-	+	-	+	+	+
住まいの種類							
	持家（一戸建て）	+	-	+	-	-	-
	持家（マンション・共同住宅）	-	+	+	-	-	-
	借家（一戸建て）	-	-	-	+	+	-
	借家（賃貸マンション、アパート）	-	+	-	+	+	+
収入							
	収入はない	-	-	+	+	+	+
	100万円未満	+	-	-	+	+	+
	100万円以上～200万円未満	+	-	-	+	+	+
	200万円以上～300万円未満	+	-	+	+	+	+
	300万円以上～500万円未満	+	+	-	+	+	-
	500万円以上～700万円未満	-	+	+	-	-	-
	700万円以上～1000万円未満	-	+	+	-	-	-
	1000万円以上～1500万円未満	-	+	-	+	+	-
	1500万円以上	+	-	-	-	+	-

図表中「+」は全体の平均以上、「-」は平均以下

項目	クラスター	1	2	3	4	5	6
<b>職業</b>							
自営業（家族従業者も含む）		+	-	-	-	+	-
管理職（非正規社員・職員も含む）		+	+	-	-	-	+
専門技術職（正社員・正規職員）		-	+	+	-	-	-
事務職（正社員・正規職員）		-	+	-	+	-	-
現業職（正社員・正規職員）		-	+	-	+	+	-
契約社員、嘱託社員		-	+	-	+	-	-
派遣社員		-	+	+	+	+	+
パート、アルバイト		-	+	+	-	+	-
専業主婦・主夫		+	-	+	-	-	-
学生		-	+	-	+	+	+
無職		+	-	+	+	+	+
<b>悩み</b>							
自分や家族の健康状態や病気のこと		-	-	+	-	+	+
仕事や職場のこと		-	+	-	-	+	+
失業や倒産		-	-	+	-	+	+
収入（年金を含む）のこと		-	-	-	-	+	+
家計のやりくり		-	+	-	-	+	+
子どもの保育や教育のこと		-	+	-	-	+	-
家族や親戚の介護のこと		-	+	-	-	+	+
家族とのかかわり、親戚とのつきあい		-	-	-	+	+	+
住宅のこと		-	-	-	-	+	+
近隣からの騒音や悪臭		-	-	+	-	+	+
地域の防犯上のこと		-	-	-	-	+	+
近所や地域の人、友人とのつきあい		-	-	-	-	+	+
その他		-	-	+	+	-	+
悩みや困っていることはない		+	-	+	+	-	-
<b>居住する地域について</b>							
まちなみや環境について		+	+	+	-	-	-
施設や交通の利便性について		+	+	+	+	-	-
地域の住民について		+	+	-	-	-	-
住まいについて		+	+	+	-	-	-
家族や親せき関係の親密さ		+	+	+	-	-	-
地域への愛着		+	+	+	+		
<b>価値観</b>							
人とのつきあい・いろいろな人		+	+				
人とのつきあい・気のあった人				+	+		+
住みやすい地域・干渉のない地域				+	+		+
住みやすい地域・ざっくばらんな地域		+	+			+	
他者への信頼・一般的に人は信頼できない				+	+	+	+
他者への信頼・一般的に人は信頼できる		+	+				
自分の居場所・あり		+	+				
自分の居場所・なし				+	+	+	+
現代社会・努力は報われる		+	+				
現代社会・努力は報われない						+	+
社会貢献・したい		+	+				
社会貢献・したくない				+	+	+	+

図表中「+」は全体の平均以上、「-」は平均以下

#### (4) 市民が感じる「暮らしやすさ」とは・・・

アンケート調査の分析結果から見える市民の暮らしやすさの要因を整理すると、大きく3つに分類できる。

##### **多様な人間関係（つながり）が作り出す暮らしやすさ**

判別分析において、暮らしやすさを促進する項目の1つとして、「家族や親族との関係の親密さ」が挙げられ、クラスター分析においては、暮らしやすいと回答した人は、家族・親族とのつながりや地域内外とのつながりが親密な傾向があることが分かった。

また、市政に関する世論調査の「地域活動に参加して感じたこと」の回答を見ると、「地域の人々と交流し、顔が見える関係が作れた」や「自分自身の知識が広がった」、「地域への愛着や親しみが増した」等、地域活動に対する肯定的な回答が多く、多様なつながりは、つきあいの煩わしさはあるものの、総じて暮らしやすさを促進する要因であると言える。

##### **経済上の悩み（不安）を取り除くことによる暮らしやすさ**

判別分析において、暮らしやすさを促進する項目の1つとして、「住まいの快適性や悩みがないこと」が挙げられ、クラスター分析においては、暮らしにくいと回答した人ほど、収入や住まいといった経済上の悩みを有する傾向があることが分かった。

クラスター分析において、経済上の悩みが比較的高いのは「暮らしにくい派」であるクラスター5及びクラスター6と、「暮らしやすい派」のクラスター2である。

クラスター5及びクラスター6は生活全般に悩み事が多く、他のクラスターよりも比較的収入が低い。また、悩みや困りごとを相談する相手も少ないため、これらの生活基盤を安定させていくことが暮らしやすさの促進に繋がっていくと思われる。

一方、暮らしやすい派であるクラスター2の多くは、若い子育て世代である。子育て世代が子育ては経済的負担が大きいと感じている現状を踏まえると、ライフステージに合わせた経済的支援の継続及び強化が暮らしやすさを促進していくと思われる。

##### **生活の利便性が作り出す暮らしやすさ**

数量化理論 類による分析においては、暮らしやすいと回答した人ほど、施設や交通の利便性を高く評価し、また、周辺の水辺や緑等の自然の豊かさや静けさを評価する傾向があることが分かった。

クラスター分析において、住んでいる地域への評価が総じて高いのはクラスター1からクラスター4までである。これらのクラスターは、地域へ愛着を感じている人の割合も多い。一方、クラスター5及びクラスター6は、住んでいる地域への評価が総じて低く、地域への愛着を感じている人の割合も低い。地域への愛着は、生活の利便性だけではなく、上記に挙げた様々な要因が複雑に絡み合って形成されるものと考えられるが、生活の利便性の向上が地域への愛着を形成する1つの要因であると言える。

平成 27 年 6 月

人口ビジョンを策定するため  
『相模原市民の暮らしに関するアンケート調査』に  
ご協力願います。



市民の皆様には、日頃から市のご発展にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。  
さて、近年、急速な少子高齢化の進展や人口減少、子育て・介護・福祉不安など私たちの生活環境は大きく変化しております。特に人口については、2060年(令和14年)後には現在(2万人)の1/3となる54万人程度まで本市の人口は減少すると予測されており、人口減少が急がれ、今より暮らしやす、相模原とするための取組が急務となっております。

そこで、本市の将来像を予測する「人口ビジョン」を策定する基礎資料とするため、本アンケート調査の20歳以上の方から無作為で3,000人を選び、暮らし、暮らしの環境や社会のありかたなどについてアンケート調査を実施することになりました。

お忙しいところ、まことに勝手なお問い合わせは存じますが、趣意をご回答の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートにはご選んだ方は△人で全体の□%等の形で集計するもので、回答された方の氏名や住所などが判明されることは一切ございません。また、ご回答いただいた内容は本調査の目的のために使用し、個人情報の保護につきましては厳正に取扱いいたします。

相模原市長 加山 俊夫

「ご記入いただく上でのお願い」  
○ 郵送またはメールを送信してください。  
○ 回答については、あくはまる郵便物の番号をひた隠してください。  
○ ご自分のご意見を正確に伝えている場合は、「その他( )」の郵便物の番号を○で囲み、( )の中にその内容を具体的に記入してください。  
○ 一部の方だけに限定している質問もありますが、その場合は敢て回答に答えてください。

ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに  
**平成 27 年 6 月 30 日 (火) まで** にご返函ください。

この調査に関するご不明な点は、市役所内の下記部署までお問い合わせください。  
(問い合わせ先)  
相模原市役所 企画財政課 企画政策課 さのめはら都市暮らし研究所  
電 話：024-769-6224 (直通) 024-769-1111 (代装) 内線 2378  
メールアドレス: saenomehara@city.sagamahara.lg.jp

1. 住みたい地域やお住まいの地域についてお答えをお願いします。

Q1 お住まい、現在お住みにお住まいになって、おおよそ何年ですか。  
おおよそ  年

Q2 現在お住まいの地域について、お住まいは満足していますか。  
次の(ア)～(イ)の項目それぞれについて、「1.お満足」「2.お満足しない」の中から一つ選ば、○印をつけてください。(複数回答可)

	満足	満足しない
(ア) 交通の便	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
(イ) 生活や娯楽などの利便性	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
(ロ) 居住環境や自然環境などの良さ	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
(ハ) 子育ての環境	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
(ニ) 高齢者の暮らし	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5	1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5

【お住まいの環境について】

- (ア) 交通の便は子どもや高齢者でも歩きやすい
- (イ) 生活や娯楽などが少なく、移動しにくい
- (ロ) 居住環境や自然環境などの良さが多く、足跡がよい
- (ハ) 子育ての環境がよい
- (ニ) 高齢者の暮らしがよい、自然環境がよい

【通勤や交通の便について】

- (イ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ロ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ハ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ニ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ホ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ヘ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ニ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ホ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ヘ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ニ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ホ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である
- (ヘ) 通勤や交通の便は多く、通勤や通学が楽である

【住居について】

- (イ) 家賃や家賃補助などの負担が少なく、安心して住み続けられる
- (ロ) 住みやすい環境である (住宅や設備、エンターテインメントなど)

問3 現在住むお家の敷地が広くて、あなたも庭を願っていますか。(○は1点)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 感じている     | 4. あまり感じている   |
| 2. やや感じている   | 5. まったく感じていない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない      |

2. ご家族やご親戚との付き合いがよくなっておられますか。

問4 現在、あなたはお孫さんと同居していますか、あるいは、ひとりで暮らしていますか。また、同居している場合は、この中心の人にのみですか。(○は1点)

- |             |                     |
|-------------|---------------------|
| 1. ひとり暮らし   | 4. 3世代（祖父・祖母と孫と子など） |
| 2. 夫婦のみ     | 5. その他              |
| 3. 2世代（親と子） | (具体的に)              |

問5 前問のご家族を含め、ご家族やご親戚の方のなかにはどのような状態ですか。  
次の(ア)～(ロ)が該当する方について、「1」あるいは「2」または「3」をお選びください(○は1点)

- |                                       | あ | あじ | あじ | あじ |
|---------------------------------------|---|----|----|----|
| (ア) 家族の介護からよく会話をしている。(電話やメールを含む)      | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (イ) 家族と一緒によく食事したりテレビを見たりしている          | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (ウ) 家族や親戚と一緒によく買物や旅行に出かけている           | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (エ) 自分が病気やケガのときには、家族や親戚が世話をしてくれる      | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (オ) 家族が楽しくしている本人の趣味や暇を知っている           | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (カ) 家族の行事や家族の誕生日などはお祝いをしている           | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (ク) 家族や親戚からお土産や物の代送りを受け取り、したりしている     | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (ク) 家族や親戚に対して、自分からは話しかけたり連絡をとったりしていない | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (コ) 家族に愛情や感謝、思いやりや気遣いを積極的に表現している      | 1 | 2  | 3  | 4  |
| (コ) 家族や親戚といえども信頼できないことがある             | 1 | 2  | 3  | 4  |

問6 現在、あなたは自分の家族のことで悩んでいることがあるでしょうか。以下が項目からあてはまるものがあれば○印をつけてください。(○は1点)

- |                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 1. 自分や家族の健康状態や病状のこと | 8. 家族とのいざこざや、親戚とのかつきあひ |
| 2. 仕事や職場のこと         | 9. 住居のこと               |
| 3. 失業や転職            | 10. 近所からの騒音や悪臭         |
| 4. 収入（年金を含む）のこと     | 11. 地域の福祉のこと           |
| 5. 家のかかりくり          | 12. 近所や隣家の人、友人とのつきあひ   |
| 6. 子どもの教育や進学のこと     | 13. その他                |
| 7. 家族や親戚の介護のこと      | 14. 悩みや困っていることなど       |

問7 日頃、あなたは他人と話をしたり、情報交換したりしていますか。あてはまる人すべてに○印をつけてください。(○は1点)

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族             | 9. 学校の先生や教師、ヘルパーなどの専門家 |
| 2. 別居している家族             | 10. 非親族や近所の人           |
| 3. 親戚の人                 | 11. 買物などをするお客の人        |
| 4. 近所や地域の人              | 12. インターネットを通じて知り合った人  |
| 5. 仕事や知り合った人            | 13. 同じ悩みを持ったグループの人     |
| 6. 学校時代の友人、知人           | 14. 近所を同じ友人、知人         |
| 7. 趣味やボランティア活動などの友人、知人  | 15. その他                |
| 8. 子どもの学校や家族の親戚など知り合った人 | 16. いない                |

問8 自分の家族の病状や介護、子育て、経済的なことで心配や悩みがある時、あなたはどのように相談していますか（あなたは、どれに最も相談できると思いますか）。  
あてはまる人すべてに○印をつけてください。(○は1点)

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 同居している家族             | 9. 学校の先生や教師、ヘルパーなどの専門家 |
| 2. 別居している家族             | 10. 非親族や近所の人           |
| 3. 親戚の人                 | 11. 買物などをするお客の人        |
| 4. 近所や地域の人              | 12. インターネットを通じて知り合った人  |
| 5. 仕事で知り合った人            | 13. 同じ悩みを持ったグループの人     |
| 6. 学校時代の友人、知人           | 14. 近所を同じ友人、知人         |
| 7. 趣味やボランティア活動などの友人、知人  | 15. その他                |
| 8. 子どもの学校や家族の親戚など知り合った人 | 16. いない                |
|                         | 17. 心配ごとや悩みはない         |

問9 既に、ご自身や利用している事業者ではおこなってまい(ア)～(ウ)のご対応はありますか。おこなっていただく場合は、おこなった対応をお知らせください。

(ア) 事業者の運営や業務など

1. 別居の家族や親類に頼む	5. 民間事業者のサービスを利用する
2. 近隣の友人・知人に頼む	6. その他( )
3. 近隣以外の友人・知人に頼む	7. 頼める人がいない
4. 地域のボランティアサービスを利用する	8. 頼める人に頼みたくない

(イ) 経済的に困窮した場合

1. 別居の家族や親類に頼む	5. 公的な補助や制度を利用する
2. 近隣の友人・知人に頼む	6. その他( )
3. 近隣以外の友人・知人に頼む	7. 頼める人がいない
4. 金融機関や消費者金融を利用する	8. 頼める人に頼みたくない

(ウ) 事業者の運営の相談

1. 別居の家族や親類に頼む	5. 公的な相談窓口を利用する
2. 近隣の友人・知人に頼む	6. その他( )
3. 近隣以外の友人・知人に頼む	7. 相談する人がいない
4. 専門家に相談する	8. 頼める人に相談しなくない

3 地域での活動などについてお答えください。

問10 あなたは、お住まいの地域の中で、次のようなことを行っていますか。おこなっているものすべてに○印をつけてください。(○は1つまで)

1. 習い事やボランティア活動	10. 地域の会議を繰り返して町会などの維持
2. 公職の応募や見習いなどの活動	11. 生活などの共同購入
3. 地域の会議や委員会や若者・若者の活動	12. 地域のボランティア活動やスポーツ
4. 地域のフリーマーケットへの出店	13. 若い事や習い事、スポーツなどの習得
5. 近所の子どもの見守りや関わったりするなどの活動	14. 地域の子どものための活動を展開
6. 近所の高齢者や障害者の見守りや世帯	15. 地域の若年層や若者へのメンタルや活動資金支援
7. 高齢者や障害者の施設などでのボランティア	16. 地域のNPOやボランティア団体の運営の手助け
8. 在外帰りの日本語習得や学習支援、生活の相談支援	17. 地域の会議やイベントづくり、学習会などへの参加
9. 地域の祭りやイベント、交歓会等の企画や運営への参加	18. 地域の施設のスタッフとして働く
	19. その他( )
	20. 答に当てはまらない

問11 あなたは現在、以下の3つの若者団体や活動を行っていますか。おこなっているものすべてに○印をつけてください。(○は1つまで)

1. 自治体・町内会、老人クラブ、婦人会、子ども会、児童会などの役員活動
2. 民生委員・児童委員、主任児童委員の活動
3. 学校のPTA、青年学生指導委員、体育指導員などの活動
4. 商店街振興組合や商工会連合、青年会議所、農協などの活動
5. 生協や消費者生活連盟など、消費者団体に属する活動
6. ボランティア・NPOなどの市民活動
7. その他( )
8. 答に当てはまらない

問12 あなたは今後、仕事や学業以外に、何か自分ができることで地域や社会に役立つ活動はしてみたいと思いませんか。(○は1つ)

1. したいと思う	2. 今はできないが、今後してみたい	3. したいとは思わない
-----------	--------------------	--------------

問13 あなたは、お住まいの地域で、おこなっている活動はありますか。

付録 あなたが活動に参加するとき、どのようなことを期待しますが、おこなっているものすべてに○印をつけてください。(○は1つでも)

1. 知り合いと一緒に参加できること	7. 気軽に参加できること
2. 新しい知り合いをつくられること	8. 人間関係のしほらみがあること
3. 新しい知識や技術、技術の習得につくこと	9. 一人ひとりの意見が尊重されること
4. 自分の特技や知識を生かせること	10. 楽しいこと
5. 自分の思い通りになれること	11. 多様であっても他人になること
6. 誰かのためになっっていることを実感できること	12. その他( )

4 暮らしやあなたの暮らしについてお答えください。

問13 現在の生活全般について、あなたは暮らしやすさを感じていますか。(○は1つ)

1. 暮らしやすい	4. どちらかといえば暮らしやすい
2. どちらかといえば暮らしやすい	5. 暮らしにくい
3. どちらかといえば暮らしにくい	6. 暮らしにくい

問14 あなたは以下の(ア)～(カ)のことがついて、どのようにお考えですか。(それぞれ○は1つ)

(ア) 人とのつきあいや	1. 誰のあった人とだけつきあえばよい 2. いろいろな年齢層や世代の人とつきあいたい 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(イ) 他人の困っているとき	1. 困ったときは助いさま意識で、自分力所能及の範囲で支援する 2. 困ったときでも、できるだけ本人や家族などで解決すべきだ 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(ウ) あなたが生きやすいと感じる環境	1. お互いに手助けし、おすわりよく助け合う 2. 人と人がささるくばらんな関係で、人づきあいの多い地域 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(エ) 信頼感	1. 一般の人に人は信頼できる 2. 人は信頼できるとは信らない 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(オ) 自分の活躍時	1. 安心して自分を表面に出せる場所や機会がある 2. 安心して自分を表面に出せる場所や機会はない 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(カ) 自分自身の評価	1. 自分を誇りに思っている人がいる 2. 自分を誇りに思っていない人がいる 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(キ) 現在の社会	1. 自分が誇りに思われる(評価される)社会だと思う 2. 自分が誇りに思えない(評価されない)社会だと思う 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(ク) 市道庁への信頼	1. 市道庁は信頼に値する存在だ 2. 市道庁は信頼に値しない 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(コ) 行動のやり方	1. 経済力があっても、市民生活に役立つサービスを行うべき 2. 経済力を増やし、サービスを限定するべき 3. どちらともいいえない 4. おからぬ
(ク) 社会貢献	1. 自分は何らかの形で積極的に社会貢献したい 2. 自分の生活を本業にし、社会貢献は考えない 3. どちらともいいえない 4. おからぬ

5 職業に関することについてお考えをお願いします。

F 1 あなたの性別は。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

F 2 あなたの年齢はおいくつですか。(○は1つ)

1. 20～24歳	5. 40～44歳	9. 60～64歳
2. 25～29歳	6. 45～49歳	10. 65～69歳
3. 30～34歳	7. 50～54歳	11. 70～74歳
4. 35～39歳	8. 55～59歳	12. 75歳以上

F 3 あなたが所属する市町村についてお答えをお願いします。

(1) あなたは福岡県内住ですか。(○は1つ)

1. はい	2. いいえ
-------	--------

(2) 福岡県内に居住するお住まいの年齢はどのくらいですか。

通算で  年くらい

(3) あなたはご家族で元々お住まいの地域に引き続きお住ですか。(○は1つ)

1. 住み続ける	3. たぶら移動する	5. おからぬ
2. たぶら住み続ける	4. 移動する	

F 4 あなたは話通じが上手ですか、話通じの方はどの程度ですか。(○は1つ)

1. 上手 (配属者あり)	2. 既通 (通訳、通訳)	3. 未通
---------------	---------------	-------

【F 4で1選択 (既通者あり) した場合は右に必ずお答え下さい】

何回 あなたは話通じしていますか。(○は1つ)

1. している	2. していない
---------	----------

F 5 あなたはお子さんはいませんか、いる場合はお子さんの現在の年齢にあたり、所属しているお子さんの年齢を同じくして、それぞれお答えください。(○は1つでも)

1. 4. 小学校入学前	7. 小学校を卒業した - 1年級 - 1年級
2. 4. 小学校在学中	8. 小学校を卒業した - 1年級 - 1年級
3. 5. 中学校在学中	9. 小学校を卒業した - 1年級 - 1年級
4. 6. 高校在学中	10. 小学校を卒業した - 1年級 - 1年級
5. 各種学校、専修・専門学校の在学中	11. その他 (具体的に)
6. 短大・大学・大学院在学中	12. 子どもにいない

F 6 あなたの職業は次のとおりですか。複数ある場合は、主たるものを答えたい。(1つは1つ)

1. 自営業 (専業主業者も含む)
2. 管理職 (非正規社員・職員も含む) ……会社の常務取締役以上、官公庁の課長級以上など
3. 専門技術職 (正社員・正課職員) ……開発技術、研究開発員、技術員、技師など
4. 事務職 (正社員・正課職員) ……簿記係、営業職、経理員など
5. 製造職 (正社員・正課職員) ……生産工員、販売・サービス、運転手、保安員など
6. 契約社員、嘱託社員
7. 派遣社員
8. パート、アルバイト
9. 専業主婦・主夫
10. 学生
11. 無職

F 7 あなたの世帯の年所得 (年金を含む) はどのくらいですか。複数ある場合は、次の中から1つ選び、○印をつけたい。(1つは1つ)

1. 収入はない	4. 300万円以上～399万円未満	7. 700万円以上～999万円未満
2. 100万円未満	5. 400万円以上～499万円未満	8. 1,000万円以上～1,499万円未満
3. 100万円以上～299万円未満	6. 500万円以上～799万円未満	9. 1,500万円以上

F 8 あなたの世帯数は、次のうち、どれにあたりますか。(1つは1つ)

1. 単身 (一人暮らし)	3. 3人 (一戸建て)
2. 2人 (マンション・共同住宅)	4. 4人 (賃貸マンション、アパート)
	5. その他 (具体的に)

F 9 お住みの地区はどのですか。(1つは1つ)

1. 中山地区	7. 南本地区	13. 上野地区	19. 柳山地区
2. 須崎地区	8. 大野北地区	14. 新津地区	20. 津久井地区
3. 中島地区分	9. 大野中地区	15. 新塚地区	21. 津久野地区
4. 船が丘地区	10. 大野南地区	16. 甲斐台地区	22. 船野地区
5. 藤山地区	11. 大谷地区	17. 甲府台地区	
6. 光が丘地区	12. 船名地区	18. 新林地区	

※「中山地区」をお選んだのはいくらもお願いいたします。



◎質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入が終わりましたら調査票は、

6月30日(火)までに同封の封筒に入れて、切手を貼らずに  
そのままご返願くださいますようお願いいたします。

※本調査の是非や内容の一部を民間業者に委託しますが、お名前や個人情報を公開することはありません。  
無断での複製はできません。

## 第2部

# 人口移動に係る実態アンケート調査

# 1. アンケート調査概要

本市は市制施行以降、一貫して人口増加が続いてきた。そのため、転入・転出及び市内転居者数については統計として取りまとめているものの、どのような理由で移動をしているのかまで把握はしていない現状である。

そこで、本市の人口移動の実態をもう少し深く掘り下げるために、どのような理由により移動しているか等を把握し、まち・ひと・しごと創生に係る「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定の基礎資料とすることを目的として人口移動に係る実態アンケート調査を実施した。

## アンケート調査概要

今回実施した実態アンケート調査の概要は、図表 1-1 のとおりである。2014（平成 26）年中に住民基本台帳上、移動のあった人（転入・転出・市内転居）に対し、それぞれの移動形態にあわせた設問を設定し、アンケート調査を実施した。

図表 1-1 「人口移動に係る実態アンケート調査」概要

アンケート調査名	調査期間	配布数	回収数	回収率	主な調査項目
転入実態調査	平成27年 7月15日～31日 郵送配布、郵送回収	1,500	483	32.2%	移動したきっかけ 移動人数、移動した理由 現在の住まいを選んだ理由 現住所及び住居形態、住居選択の候補地、現在の住居に決めた理由、住居を決める際に行政サービスを考慮したか、相模原市のイメージ等 基本属性 回答者の性別、年代、通勤通学の状況等
転出実態調査		1,500	411	27.4%	
市内転居実態調査		1,500	578	38.5%	

## 2. 転入実態調査アンケート結果

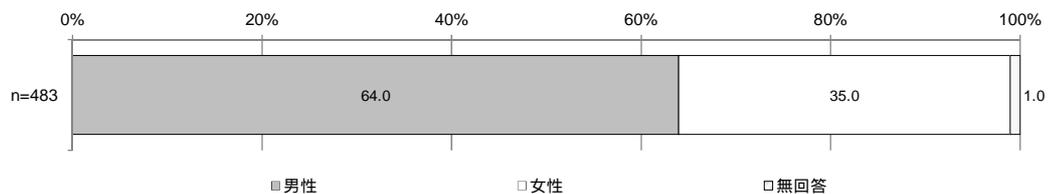
### (1) 回答者属性

今回の回答者属性は図表 2-1 から図表 2-4 のとおりである。

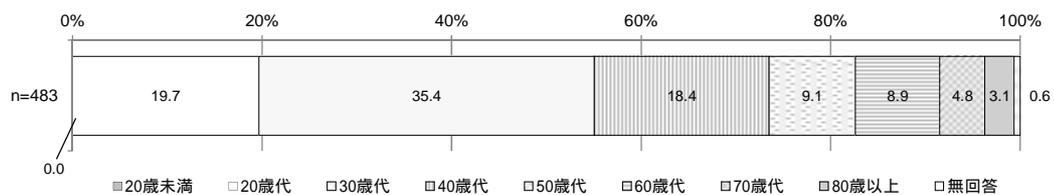
回答者のうち、75.4%が通勤（通学）しており、そのうち、3/4 は相模原市外へ通勤（通学）している。

通勤（通学）先を市区町村別にみると、本市以外では、「東京 23 区」が 20.7%と最も多く、次いで「横浜市」が 13.6%、「町田市」が 7.1%となっている。

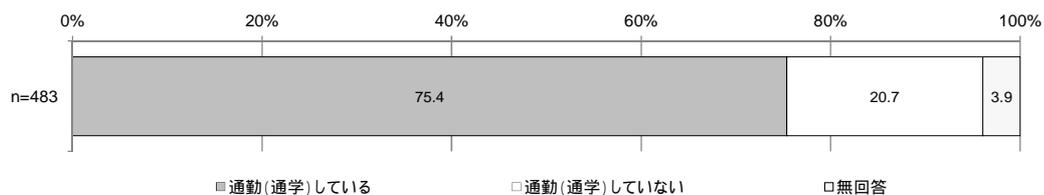
図表 2-1 回答者属性（性別）



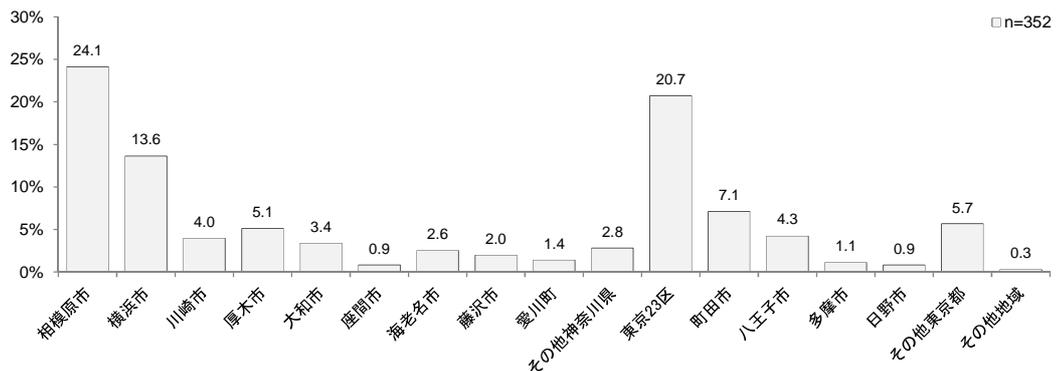
図表 2-2 回答者属性（年代）



図表 2-3 回答者属性（通勤（通学）状況）



図表 2-4 回答者属性（通勤（通学）している人の通勤（通学）先）



## (2) 転入したきっかけ（理由）について

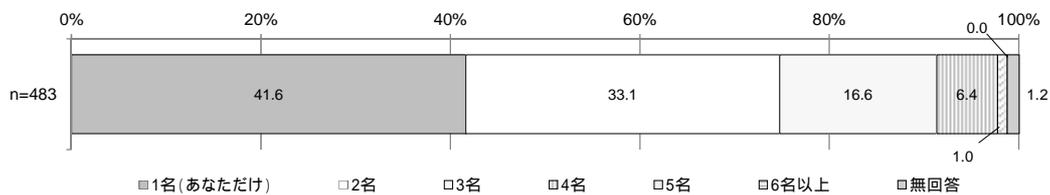
### 転入人数

回答者に本市へ転入した人数を尋ねたところ、「1名（あなただけ）」が41.6%で最も多く、次いで、「2名」が33.1%、「3名」が16.6%となっており、3名以下での転入が全体の9割を超える結果となった。

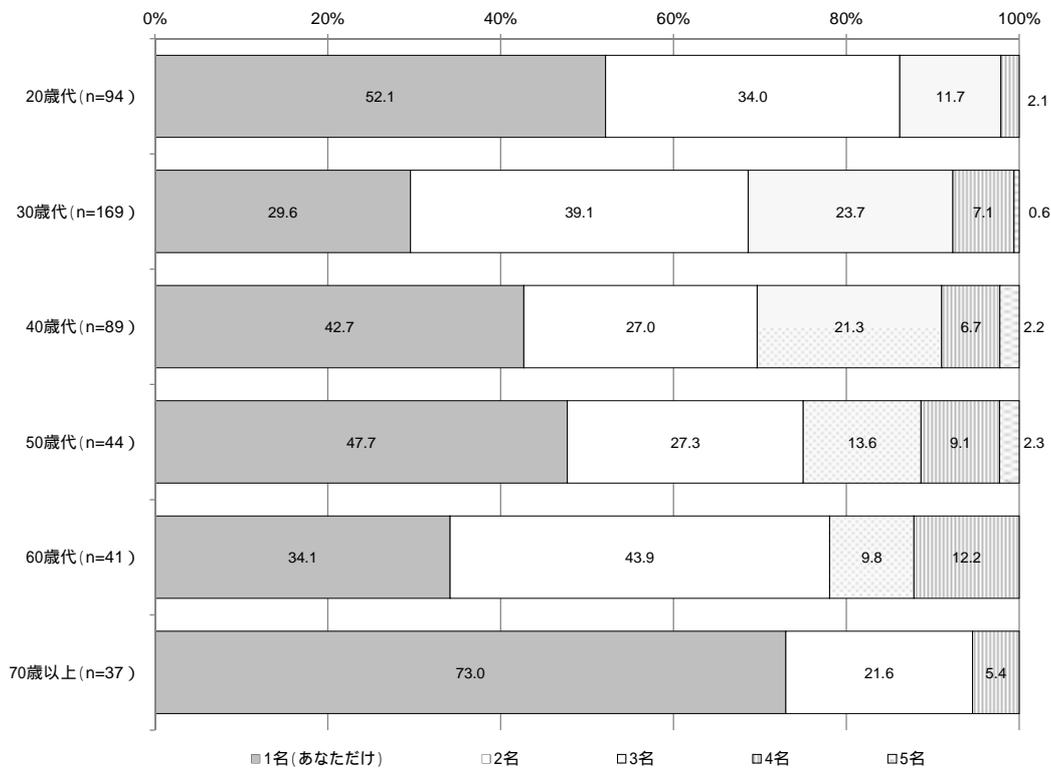
また、複数名で転入してきた人に対し、一緒に転入した人の続柄をあわせて尋ねたところ、「配偶者」が87.3%で最も多く、次いで「子」が44.6%となっており、夫婦世帯または2世代世帯での転入が多いことがうかがえる。

なお、今回調査における1世帯あたりの平均転入者数は1.91人であった。

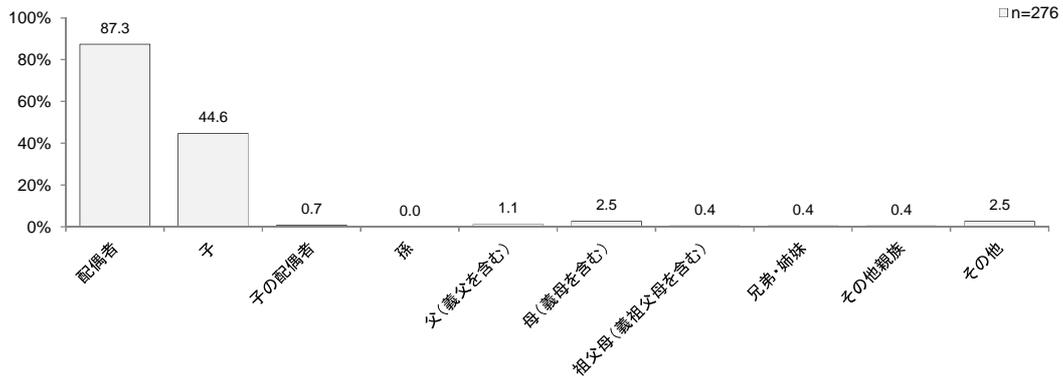
図表 2-5 本市へ転入した人数



図表 2-6 本市へ転入した人数（年代別）



図表 2-7 一緒に転入してきた人の続柄（複数回答）

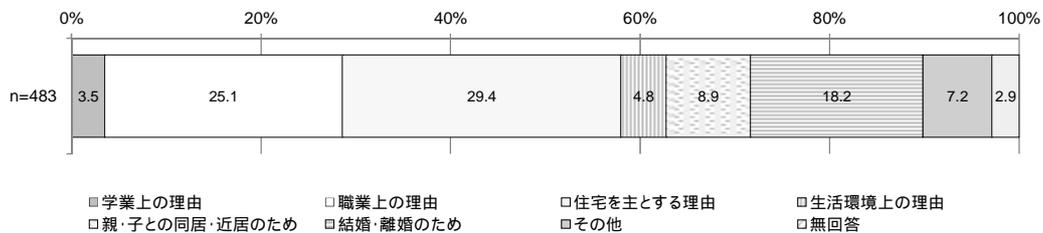


### 転入理由

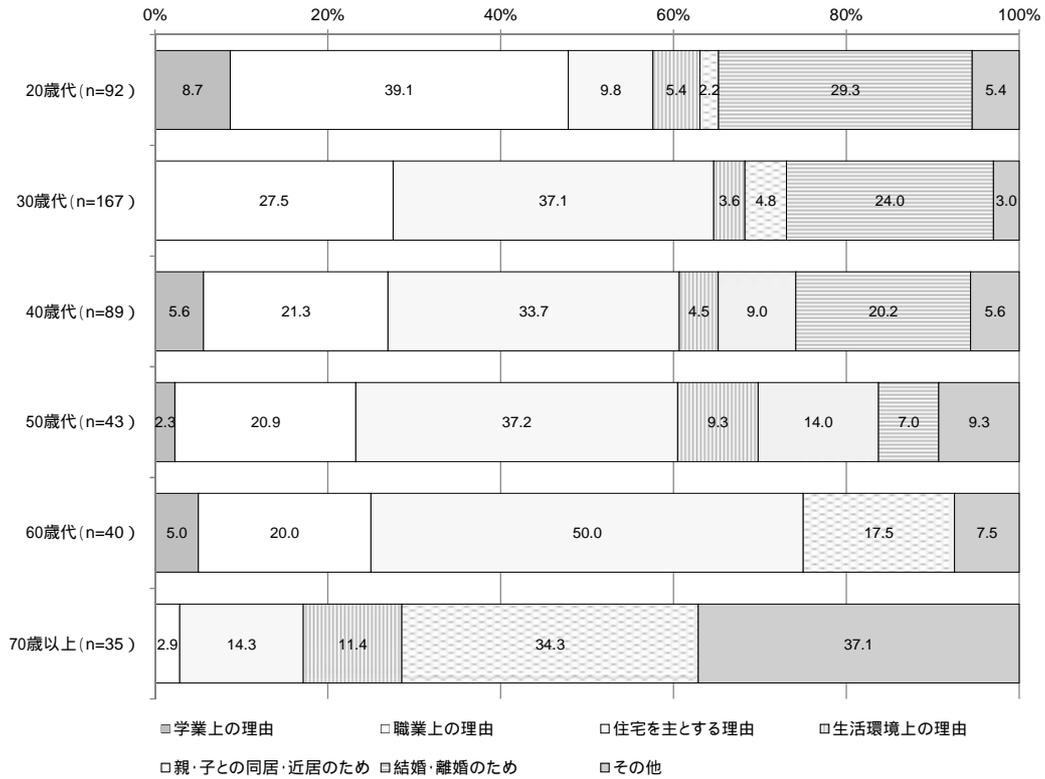
本市へ転入した理由のうち、最も大きな理由について尋ねたところ、「住宅を主とする理由(住宅の購入、家の広さや家賃等)」が 29.4%と最も多く、次いで「職業上の理由(就職、転職、転勤、定年退職、通勤の利便性等)」が 25.1%、「結婚・離婚のため」が 18.2%となっており、この3つの理由で全体の7割を超える。

この結果を年代別にみても、20歳代から40歳代では、「住宅を主とする理由」、「職業上の理由」、「結婚・離婚のため」が大きな理由であるが、50歳代以降では、「親・子との同居・近居のため」という理由が高くなっている。

図表 2-8 本市へ転入した理由のうち最も大きな理由



図表 2-9 本市へ転入した理由のうち最も大きな理由（年代別）



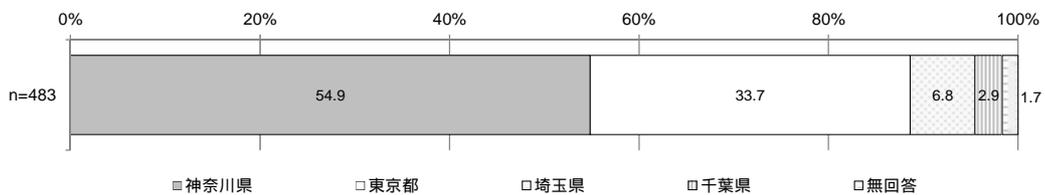
### (3)現在の住まいを選んだ理由について

#### 転入前の居住地

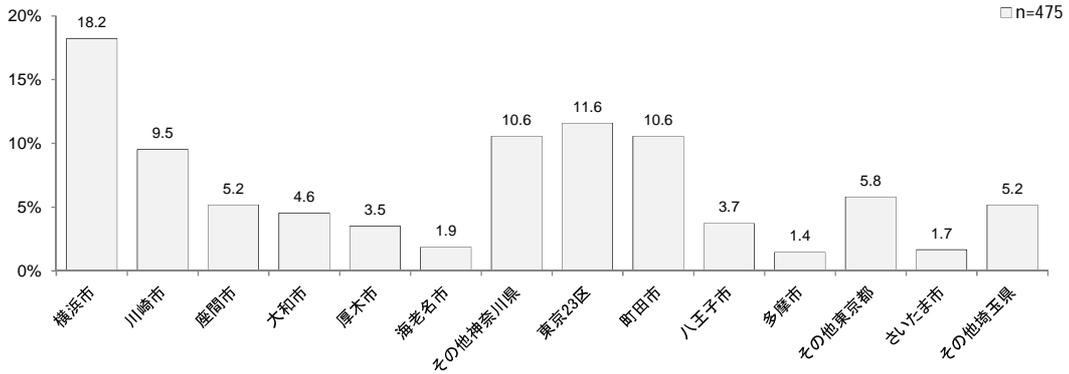
転入前の居住地について尋ねたところ、「神奈川県」が54.9%で最も多く、次いで「東京都」が33.7%となっており、この2地域で全体の約9割となっている。

この結果を市区町村別にみると、「横浜市」が18.2%と最も多く、次いで「東京23区」が11.6%、「町田市」10.6%となっている。また、座間市や大和市、厚木市等の県央地域からも一定数の転入がある。

図表 2-10 転入前の居住地（都道府県別）



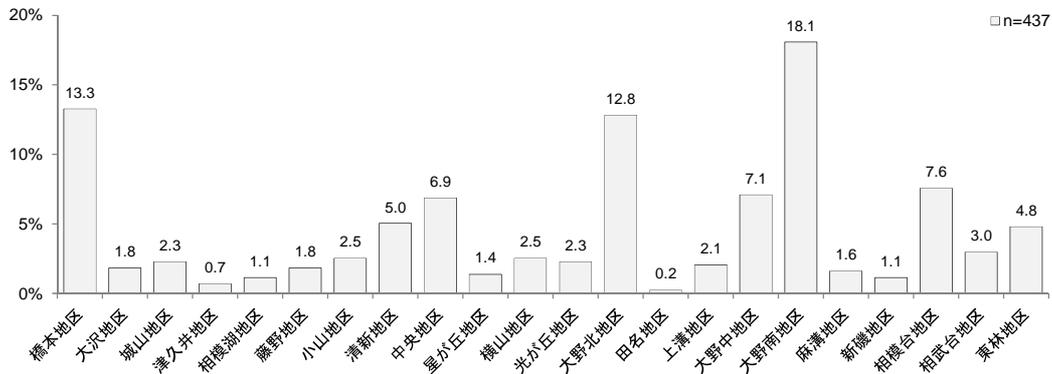
図表 2-11 転入前の居住地（市区町村別）



### 転入後の居住地

転入後の居住地について尋ねたところ、「大野南地区」が18.1%と最も多く、次いで「橋本地区」が13.3%、「大野北地区」が12.8%となっており、JR横浜線及び小田急線沿線の地区が多くなっている。

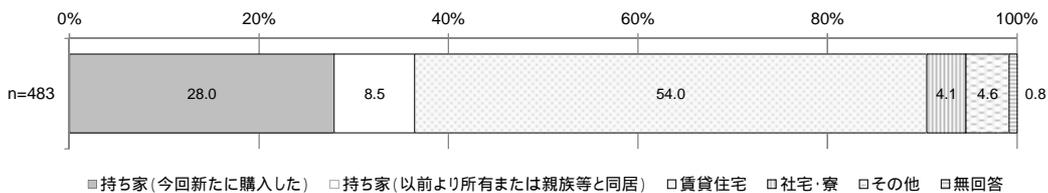
図表 2-12 転入後の居住地（まちづくり地区単位）



### 現在の住居形態

現在の住居形態について尋ねたところ、「賃貸住宅」が54.0%と最も多く、次いで「持ち家（今回新たに購入した）」が28.0%となっている。

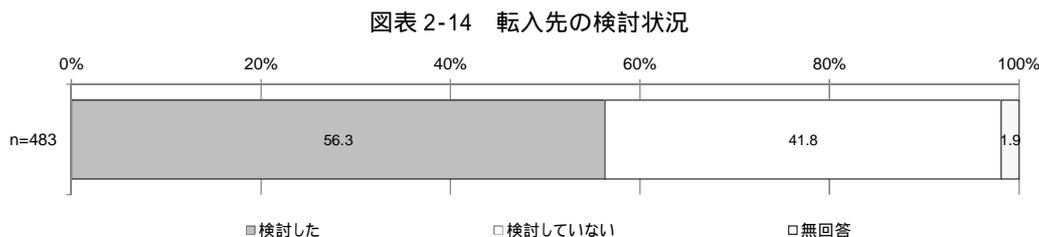
図表 2-13 現在の住居形態



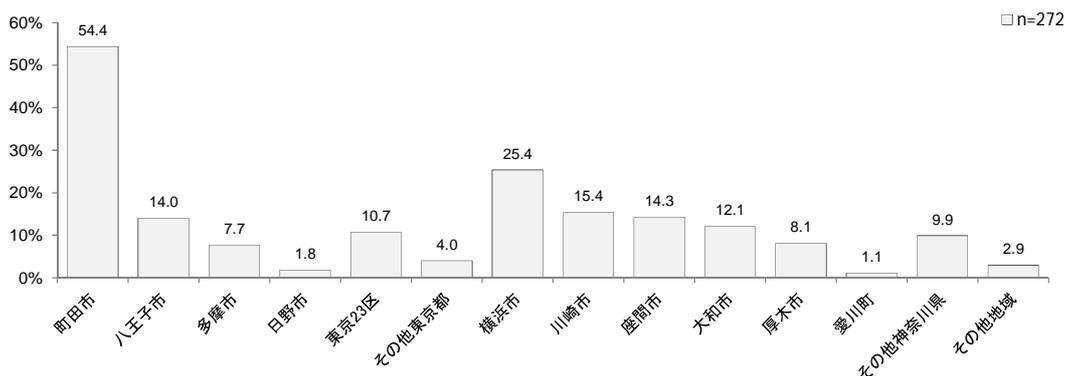
## 転入先の検討状況

本市へ転入するにあたり、他の地域についても検討したか尋ねたところ、おおむね6割の人が検討したと回答している。

また、検討した人に対して、検討した地域を併せて尋ねたところ、「町田市」が54.4%と最も多く、次いで「横浜市」が25.4%、「川崎市」が15.4%、「座間市」14.3%となっており、本市周辺が検討地域となっている。



図表 2-15 市区町村別転入先の検討状況（複数回答）

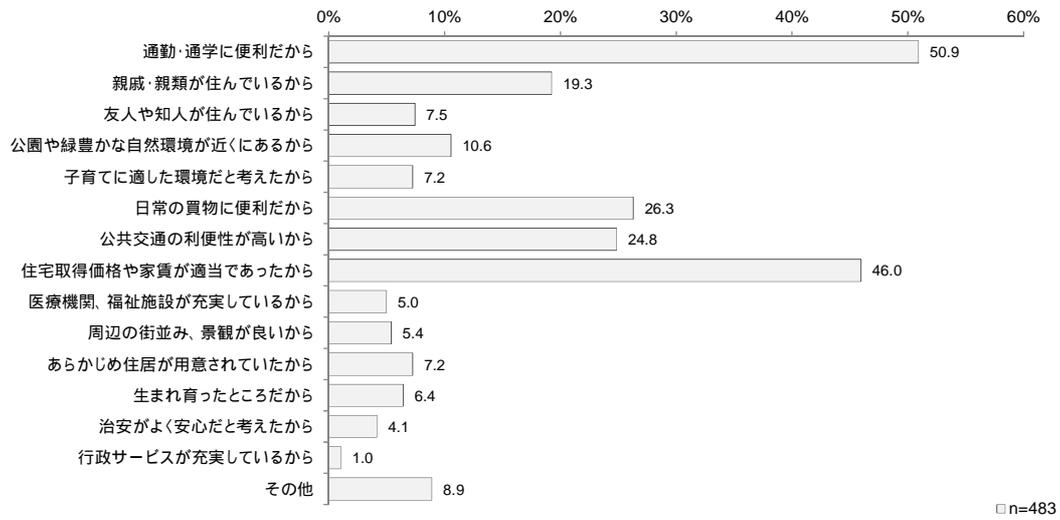


## 現在の居住地を選択した理由

現在の居住地を選択した理由について尋ねたところ、「通勤・通学に便利だから」が50.9%と最も多く、次いで、「住宅取得価格や家賃が適当であったから」が46.0%、「日常の買物に便利だから」が26.3%、「公共交通の利便性が高いから」が24.8%となっており、日常生活の利便性を重視した回答が多い結果となった。

一方で、「親戚・親類が住んでいるから」と回答した人も19.3%おり、利便性を重視するも、人とのつながりも住居選択の大きな理由となっていることがうかがえる。

図表 2-16 現在の居住地を選択した理由（複数回答）

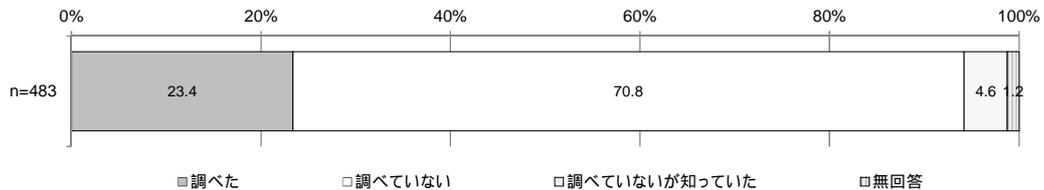


### 行政サービスの検索状況

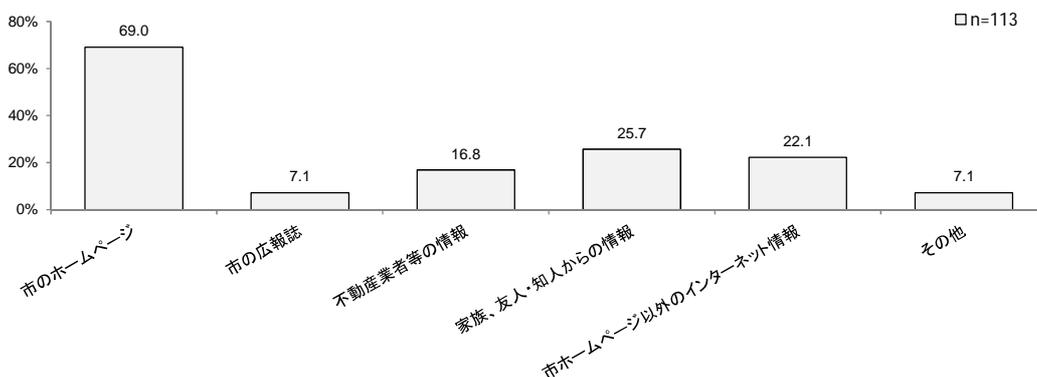
本市へ転入する前に、本市の行政サービスや政策について事前に調べたか尋ねたところ、約7割の人は「調べていない」という結果となった。

また、調べた人に対して、どのような手段で検索したかをあわせて尋ねたところ、約7割の人が「市のホームページ」を利用している。

図表 2-17 行政サービスの検索状況



図表 2-18 行政サービスの検索手段

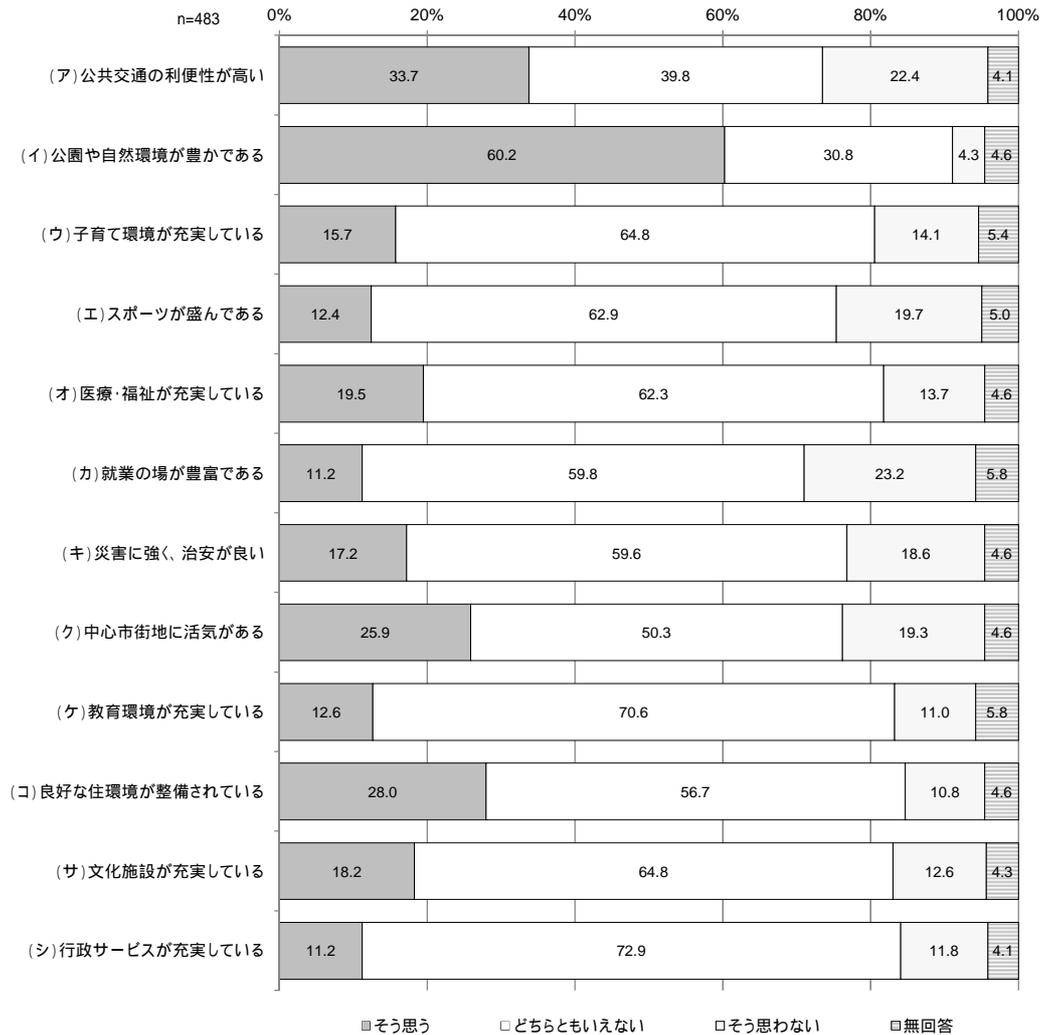


## 相模原市のイメージ

回答者が本市へ転入する前に、本市に対してどのようなイメージを持っていたかを尋ねたところ、「公園や自然環境が豊かである」や「良好な住環境が整備されている」については、「そう思う」が「そう思わない」を大きく上回る結果となった。

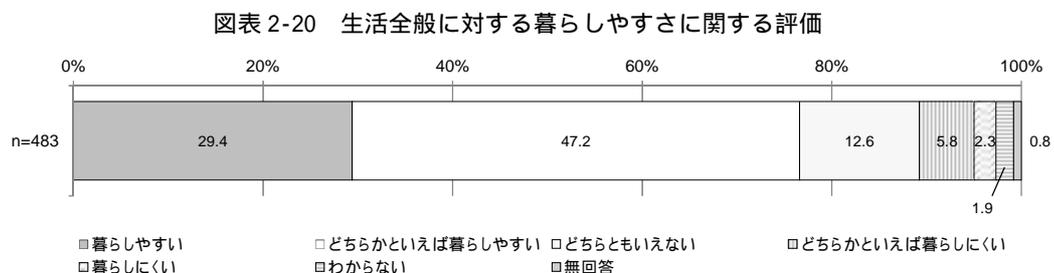
一方で、「就業の場が豊富である」や「スポーツが盛んである」は「そう思わない」が「そう思う」を上回っている。

図表 2-19 転入前に持っていた相模原市のイメージ



## 暮らしやすさの評価

現在の生活全般に対する暮らしやすさを評価してもらったところ、「どちらかといえば暮らしやすい」が47.2%で最も多く、次いで「暮らしやすい」が29.4%となり、7割強の人が暮らしやすいと評価している。

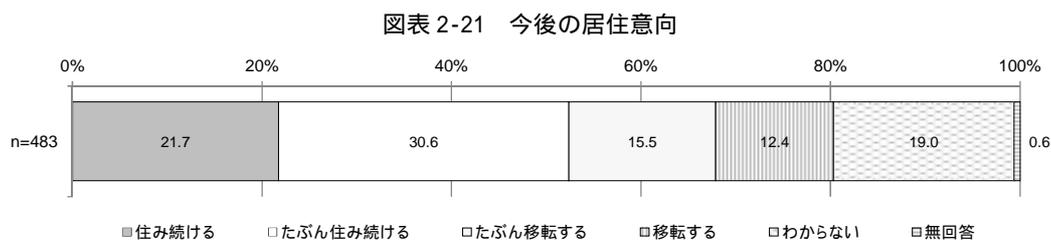


## 今後の居留意向

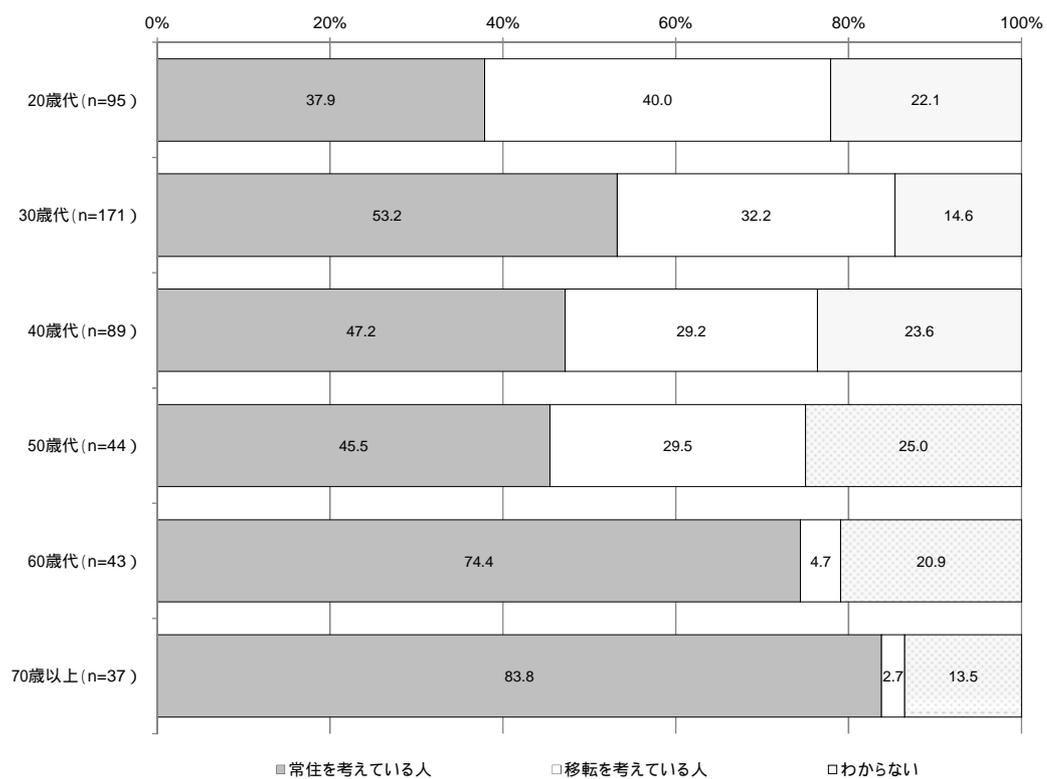
今後の居留意向について尋ねたところ、「たぶん住み続ける」が30.6%と最も多く、次いで「住み続ける」が21.7%となり、常住を考えている人（「住み続ける」及び「たぶん住み続ける」と回答した人の合計）は約半数である。

一方、移転を考えている人（「たぶん移転する」及び「移転する」と回答した人の合計）は27.9%であるが、「わからない」と回答した人を含めると、半数は移転する可能性がある。

また、この結果を年代別にみても、60歳代以降は移転を考えている人（「たぶん移転する」及び「移転する」と回答した人の合計）の割合は低いが、50歳代以下の年代では、どの年代も3割程度は移転を考えている。



図表 2-22 今後の居住意向（年代別）



参考 転入者実態アンケート調査票

平成 27 年 7 月



人口ビジョンを前するため、  
「転入者実態アンケート調査」にご協力願います。

このたびは、相模原市にご転入いただき、誠にありがとうございます。また、日頃からの政令ご  
属順にご協力いただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、近年、急速な少子高齢化の進展や人口減少、子育て・介護・雇用不安など様々な社会  
問題は深刻化しております。特に本市の人口については、2065年(今年から16年後)には現  
在(73万人)の半分の56万人程度まで減少すると予測されており、人口減少を食い止める  
必要があります。ご理解を促すための取組が急務となっております。

そこで、本市の将来を予測する人口ビジョン(仮定する基礎資料)とするため、平成 25 年  
中に東京圏から本市にご転入された18歳以上の転入者のうち、無作為で1,500人を選び、「目  
録転入」に転入されたこと(か?)や「現在の居住地を遷された理由」などについてアンケート調  
査を実施させていただきましたこととさせていただきます。

お忙しいところ、まことに勝手なお問い合わせは承ります。ご留意とご理解の上、ご協力くださいま  
すようお願いいたします。

なお、このアンケートは“ご返信の方は人でも全体の人口”等の形で集計するもので、回答  
された方の氏名や住所などが特定されることは一切ございません。また、ご回答いただいた内容  
は本調査の目的のみに使用し、個人情報の保護につきましては厳正に取扱いいたします。

相模原市長 野田 敬 夫

- 「ご記入いただく上でのお願い」
- 郵送またはメール便を使用してください。
  - 回答については、あてはまる選択肢の番号を○で選んでください。
  - ご自分ご自身に記入の趣旨が不明な場合は、「その他( )」の選択肢の番号を○で読み、  
( )の中にその内容を具体的に記入してください。
  - 一部の方だけに限定している質問もありますが、その場合は特記文で教えてください。

ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて、お手を配らずに  
**平成 27 年 7 月 31 日(金) まで** にご返願ください。

この調査に際してご不明な点は、市役所内の下記部署までお問い合わせください。  
(問い合わせ先)  
相模原市役所 企画財政課 企画係 企画政策課 資料係(お電話のみ) 調査所  
電 話：042-767-2324 (直通) 042-767-1411 (代電) 内線 2575  
FAX：042-767-2327 (直通) 042-767-1411 (代電) 内線 2575  
Eメール：surveys@city.sagamahara.lg.jp

1. はじめに、相模原市で転入されたきっかけ(理由) などについてお答えをお願いします。

問1 今回転入された方はあなたを誘って何人ですか、あてはまるものを1つ○をつけてください。(○は1つ)

1. 1名 (あなただけ)	→ 1番	4. 4名	→ 4番
2. 2名	→ 2番	5. 5名	→ 5番
3. 3名	→ 3番	6. 6名以上	→ 6番

問2 あなたと一緒にご一緒に転入された方は何人ですか、あてはまるものを1つ○をつけてください。(○は1つ)

1. 配偶者	5. 次 (異姓を含む)	9. その他(既婚)
2. 子	6. 孫 (異姓を含む)	10. その他
3. 子の配偶者	7. 祖父母 (養祖父母を含む)	(具体的に)
4. 孫	8. 兄弟・姉妹	

問3 今回、転入された理由が、ちとど大きな理由は次のうちどれですか、あてはまるものを1つ○をつけてください。(○は1つ)

1. 学業上の理由 (進学、進学、通学の利用性 等)	
2. 職業上の理由 (転職、転職、転職、定年退職、退職の利便性 等)	
3. 伴侶を主とする理由 (伴侶の購入、家の広さや家賃 等)	
4. 近隣環境上の理由 (子育て環境に満足している、日本の買物の利便性、治安が関係 等)	
5. 親・子どもの関係 (近所のため(子育て支援、親等の介護 等)	
6. 結婚・離婚のため	
7. その他 (具体的に)	

問4 転入される前と現在の居住状況をお答えください。

転入前	転入後
市区町村名	市区町村名
区	区
町名	町名
丁目	丁目
番地	番地
丁目	丁目
番地	番地

問5 現在の居住まいは次のどれですか、あてはまるものに1つを付けてください。(○は1つ)

- 1. 持ち家（合組新築に購入）
  - 2. 持ち家（改築より新築または賃貸と同等）
  - 3. 賃貸住宅
  - 3. 社宅・寮
  - 5. その他
- (具体的に)

問6 現在の居住まいはあてはまるもののほか、相模原市以外の地域も移住を検討していますが、あてはまるものに1つを付けてください。また、検討された方は検討した地域も教えてください。

- 1. 検討した
- 2. 検討していません

【相模原市以外に検討した移住した地域】※○は1つまで

1. 町田市	6. 昭島市	11. 栗川町
2. 八王子市	7. 厚木市	12. 1～5以外の東京都
3. 多摩市	8. 大和市	13. 6～11以外の神奈川県
4. 日野市	9. 横浜市	14. その他
5. 東大塚区	10. 川崎市	(具体的に)

問7 現在の居住まいに決めた理由は何ですか、あてはまる理由のうち、上段3つまで選んで○をつけてください。(○は3つまで)

- 1. 通勤・通学に便利だから
- 2. 家族・親戚が住んでいるから
- 3. 友人や知人が住んでいるから
- 4. 以前や検討していた地域が近くにあるから
- 5. 子育てに適した環境だと考えたから
- 6. 現在の居住地に便利だから
- 7. 公共施設の利便性が高いから
- 8. 住宅設備や環境が良かったから
- 9. 医療機関、福祉施設が充実しているから
- 10. 居住の利便性、景観が良いから
- 11. あらかじめ訪問の用意ができていたから
- 12. 生まれ育ったところだから
- 13. 治安がよく安心だと考えたから
- 14. 行政サービスの充実しているから
- 15. その他
- (具体的に)

問8 現在の居住まいはあてはまるものほか、相模原市の行政サービスを改善について、お聞かせ頂きたいものがあてはまるものに○を1つ付けてください。また、調べた方はその手段もあわせてお答えください。

- 1. 調べた
  - 2. 調べていない
  - 3. 調べていないが知っている
- 【調べた手段】※あてはまるものをすべて○をつけてください。
- 1. 市のホームページ
  - 2. 市の広報誌
  - 3. 不動産業者等の情報
  - 4. 家族、友人、知人からの情報
  - 5. 市ホームページ以外のインターネット情報
  - 6. その他
- (具体的に)

問9 輸入される前、あるいは相模原市にどのようなイメージをお持ちでしたが、次の(A)～(I)の項目それぞれについて、「1. そう思うが少し、そう思わないが中から1つ選び、○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	そう思う 1	どちらか 2	どちらか 3	思わない 4
(A) 公共サービスのレベルが高い	1	...	2	...
(B) 公園や自然環境が豊かである	1	...	2	...
(C) 子育て環境が充実している	1	...	2	...
(D) スポーツが盛んである	1	...	2	...
(E) 医療・福祉が充実している	1	...	2	...
(F) 高度の雇用環境がある	1	...	2	...
(G) 交通に強く、治安が良い	1	...	2	...
(H) 中心市街地に活気がある	1	...	3	...
(I) 教育環境が充実している	1	...	2	...
(II) 自然環境が豊かである	1	...	2	...
(III) 文化施設が充実している	1	...	2	...
(IV) 行政サービスの充実している	1	...	2	...

※上記のほか、イメージなどご自由にご書きください。

問10 あなたは、現在の生活全般について、どのように感じていますか、あてはまるものに1つを付けてください。(○は1つ)

- 1. 悪くはない
- 2. どちらかといえば悪くはない
- 3. どちらかといえば悪い
- 4. どちらかといえば悪くはない
- 5. 悪くはない
- 6. 悪くない

問11 あなたは、これから何年か今の居住まいに住民票を移すお考えですか、あてはまるものに1つを付けてください。(○は1つ)

- 1. 移す
- 2. たぶん移す
- 3. たぶん移さない
- 4. 移さない
- 5. 移さない
- 6. 移さない

3 郵便は、お名前についてお心がかります。

問 12 あなたの性別はおどですか。おてはまるものに1つをおつけてください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問 13 あなたの年齢はおいくつですか。おてはまるものに1つをおつけてください。(○は1つ)

1. 20歳未満	6. 40歳～44歳	11. 65歳～69歳
2. 20歳～24歳	7. 45歳～49歳	12. 70歳～74歳
3. 25歳～29歳	8. 50歳～54歳	13. 75歳～79歳
4. 30歳～34歳	9. 55歳～59歳	14. 80歳以上
5. 35歳～39歳	10. 60歳～64歳	

問 14 あなたは、運動(通字)おれていますか。おてはまるものに1つをおつけてください。また、運動(通字)おれている場合は、具体的な運動(通字)をおあわせてお答えください。

1. 運動(通字)おている	2. 運動(通字)おていない
---------------	----------------

【運動(通字)おれているおの具体的な運動(通字)お】

市区町村名	町丁名
-------	-----

【お1】お地区  
【お2】お町おお地区 郵便 番号



◎質問は以上です。ご協力ありがとうございます。

記入が終わりました調査票は、

7月31日(金)までに同封の封筒に入れて、切手を貼らずに  
そのままご返函くださいますようお願いいたします。

※本調査の調査結果は一般に公開されるおはしません。お調査結果が個人のおデータを公開するおはできません。

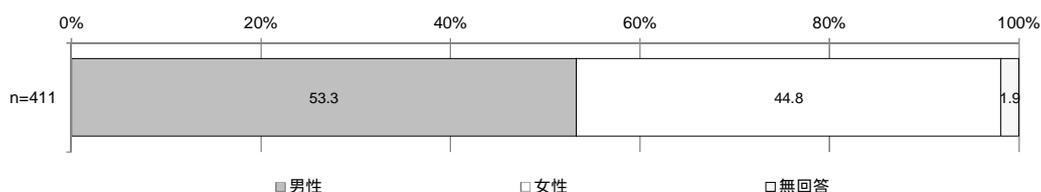
### 3. 転出実態調査アンケート結果

#### (1) 回答者属性

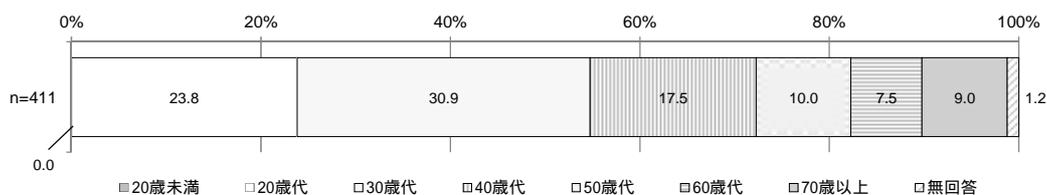
今回の回答者属性は図表 3-1 から図表 3-4 のとおりである。

回答者のうち、70.6%が通勤(通学)しており、そのうち、15.1%は相模原市内へ通勤(通学)している。

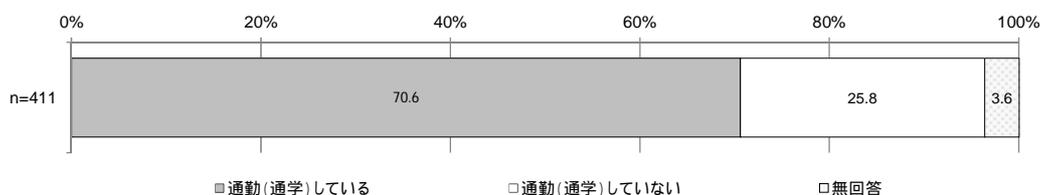
図表 3-1 回答者属性(性別)



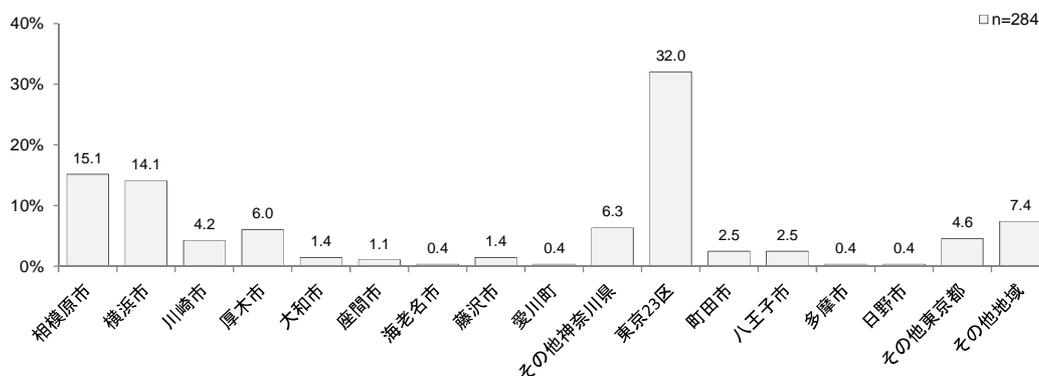
図表 3-2 回答者属性(年代)



図表 3-3 回答者属性(通勤(通学)状況)



図表 3-4 回答者属性(通勤(通学)している人の通勤(通学)先)



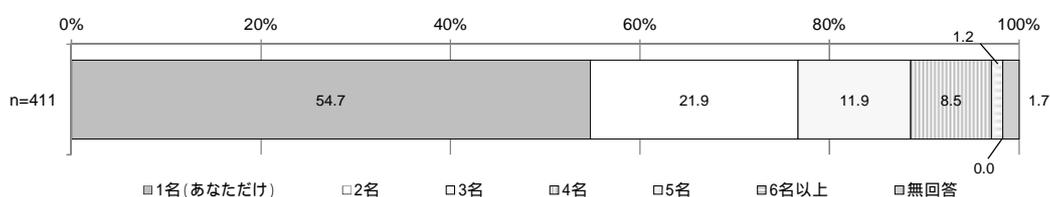
## (2) 転出したきっかけ（理由）について

### 転出人数

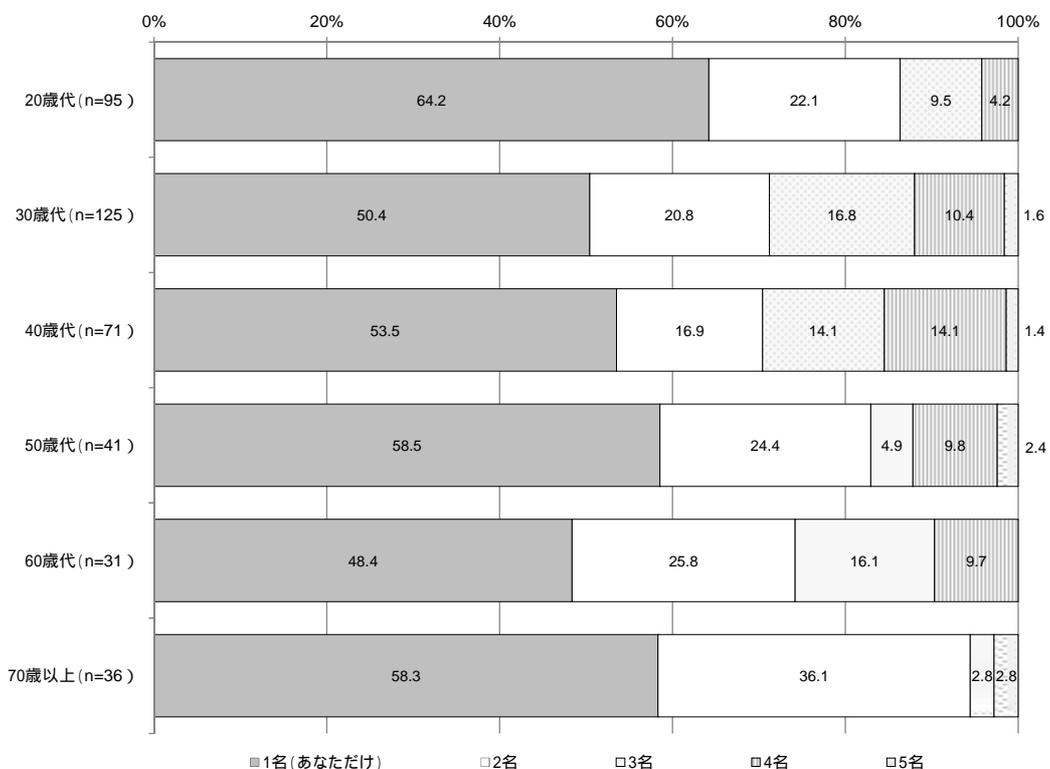
回答者に、本市から転出した人数を尋ねたところ、「1名（あなただけ）」が54.7%で最も多く、次いで、「2名」が21.9%、「3名」が11.9%となっており、転入同様、3名以下での移動が全体の約9割となっている。この結果を年代別にみると、どの年代も「1名（あなただけ）」がおおむね半数以上となっている。

また、複数名で転出した人に対し、一緒に転出した人の続柄をあわせて尋ねたところ、「配偶者」が83.8%で最も多く、次いで「子」が54.7%となっており、転入同様、夫婦世帯または2世代世帯での転出が多いことがうかがえる。なお、今回調査における1世帯当たりの平均転出者数は1.77人であった。

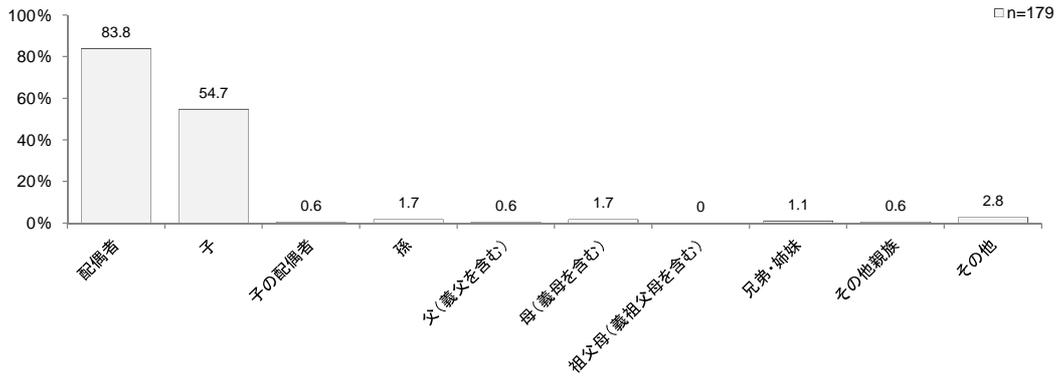
図表 3-5 本市から転出した人数



図表 3-6 本市から転出した人数（年代別）



図表 3-7 一緒に転出した人の続柄（複数回答）

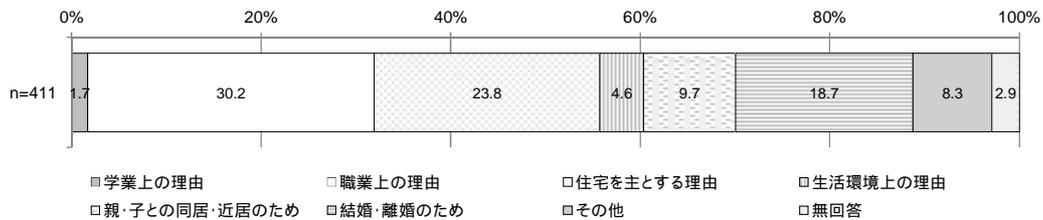


### 転出理由

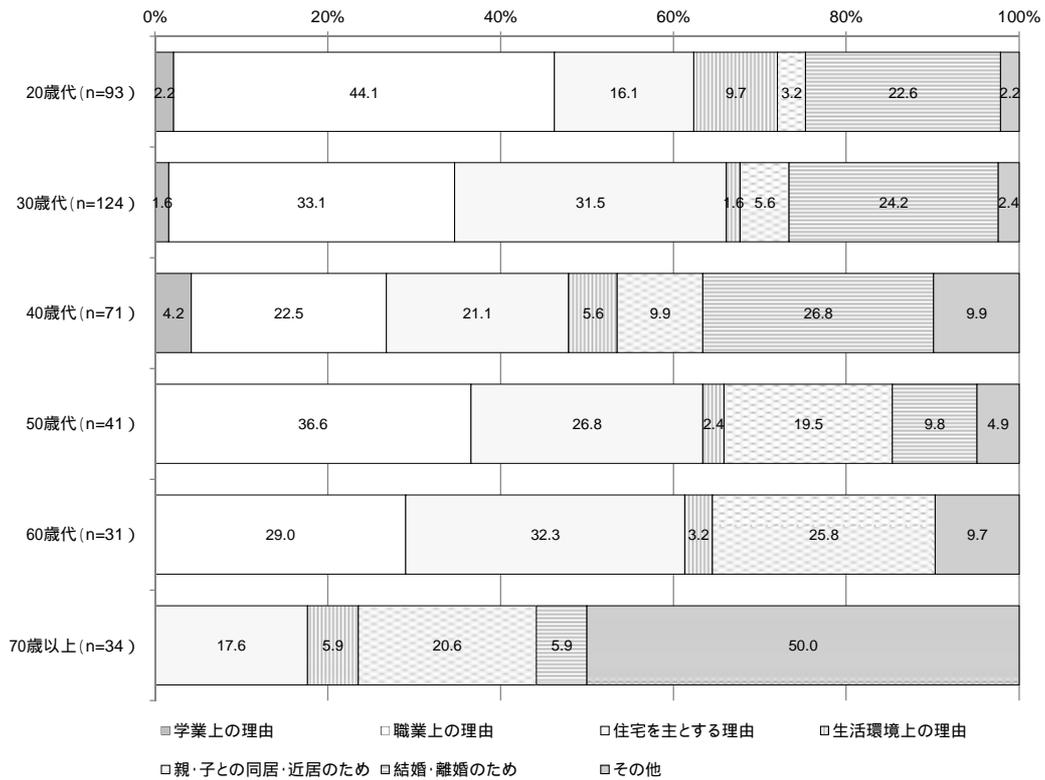
本市から転出した理由のうち、最も大きな理由について尋ねたところ、「職業上の理由(就職、転職、転勤、定年退職、通勤の利便性等)」が 30.2%と最も多く、次いで「住宅を主とする理由(住宅の購入、家の広さや家賃等)」が 23.8%、「結婚・離婚のため」が 18.7%となっており、転入同様、この3つの理由で全体の7割を超える。

この結果を年代別に見てみると、転入と同様の傾向を示しており、50歳代以降では、「結婚・離婚のため」という理由は低くなり、「親・子との同居・近居のため」という理由が高くなっている。

図表 3-8 本市から転出した理由のうち最も大きな理由



図表 3-9 本市から転出した理由のうち最も大きな理由（年代別）

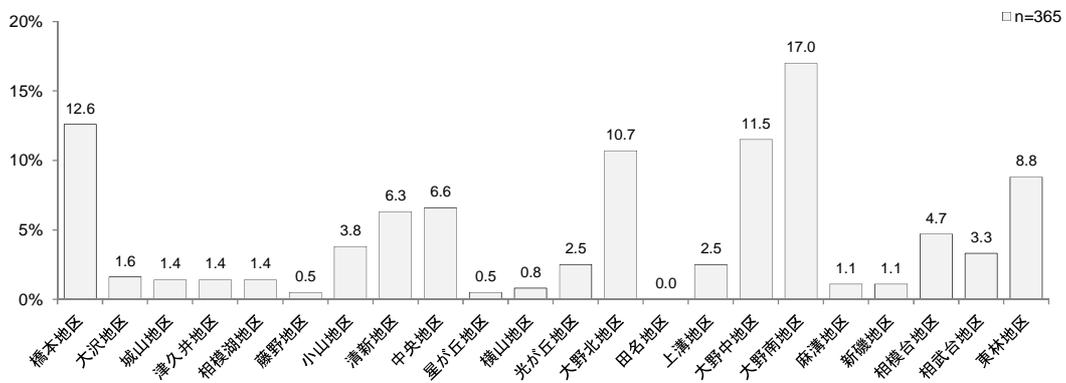


(3)現在の住まいを選んだ理由について

転出前の居住地

転出前の居住地について尋ねたところ、「大野南地区」が 17.0%で最も多く、次いで「橋本地区」が 12.6%、「大野中地区」が 11.5%、「大野北地区」が 10.7%となっている。

図表 3-10 転出前の居住地（まちづくり地区単位）

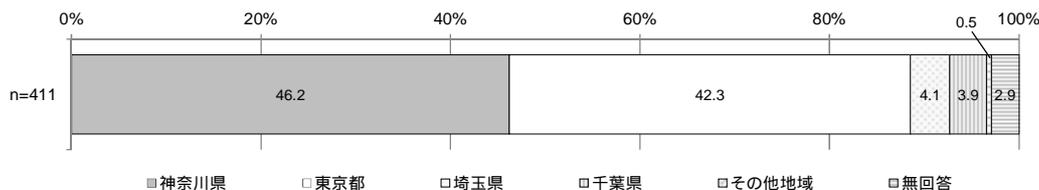


## 転出後の居住地

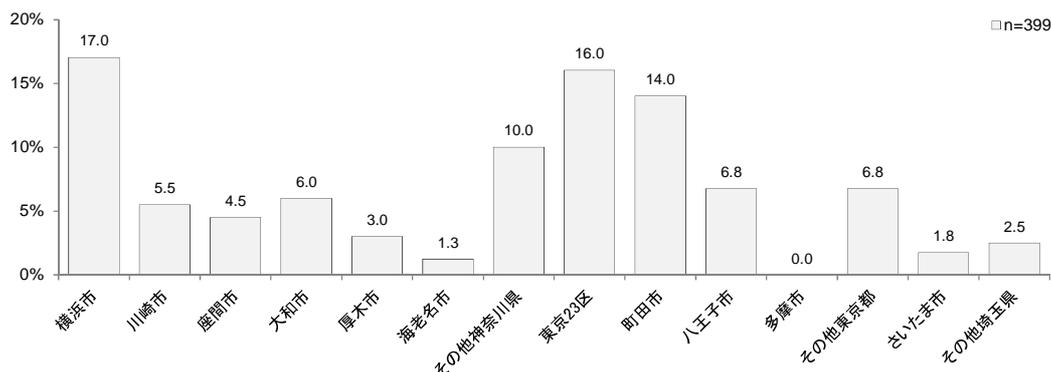
転出後の居住地について尋ねたところ、「神奈川県」が46.2%と最も多く、次いで「東京都」が42.3%となっている。転入同様、この2地域で全体の約9割であるものの、東京都が占める割合が転入よりも高くなっており、都心回帰が進んでいることがうかがえる。(図表 2-10 参照)

また、転出先を市区町村別にみても、「横浜市」が17.0%で最も多く、次いで「東京23区」が16.0%、「町田市」が14.0%となっている。

図表 3-11 転出後の居住地（都道府県別）



図表 3-12 転出後の居住地（市区町村別）

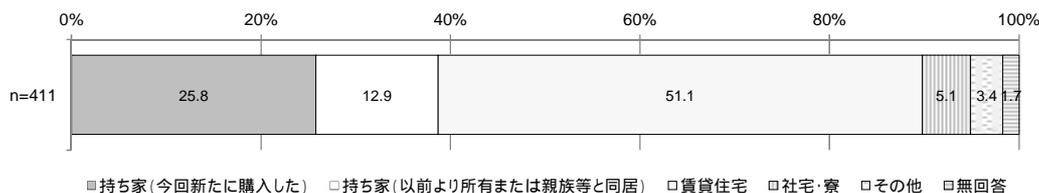


## 現在の住居形態

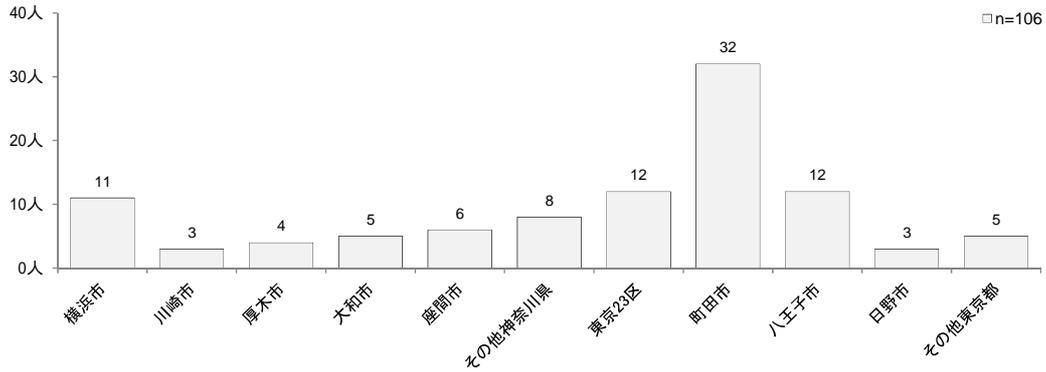
現在の住居形態について尋ねたところ、「賃貸住宅」が51.1%と最も多く、次いで「持ち家（今回新たに購入した）」が25.8%、「持ち家（以前より所有または親族等と同居）」が12.9%となっている。

また、今回新たに持ち家を購入した人の転出先をみても、「町田市」が32人と最も多く、次いで「東京23区」と「八王子市」が12人、「横浜市」が11人となっている。

図表 3-13 現在の住居形態



図表 3-14 新たに持ち家を購入した人の転出先

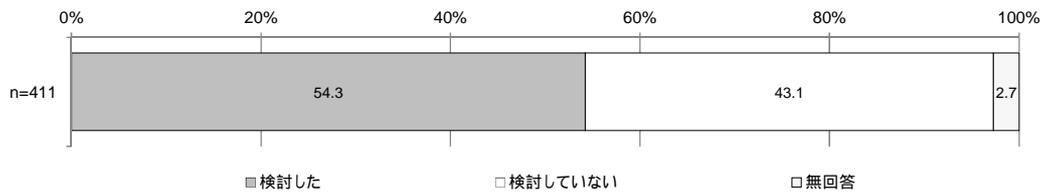


### 転出先の検討状況

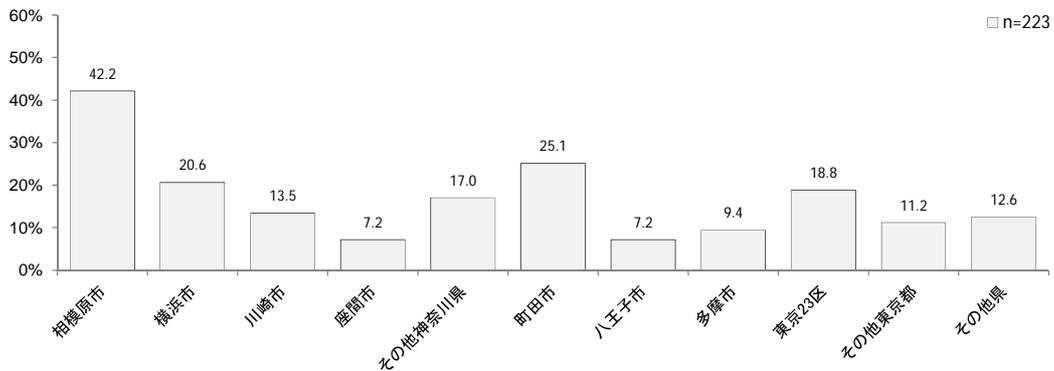
現在の居住地に決めるにあたり、他の地域についても転出先として検討したか尋ねたところ、54.3%の人が検討したと回答している。

また、検討した人に対して、検討した地域を併せて尋ねたところ、「相模原市」を検討した人は42.2%おり、この数値は転出者全体の2割を超える。

図表 3-15 転出先の検討状況



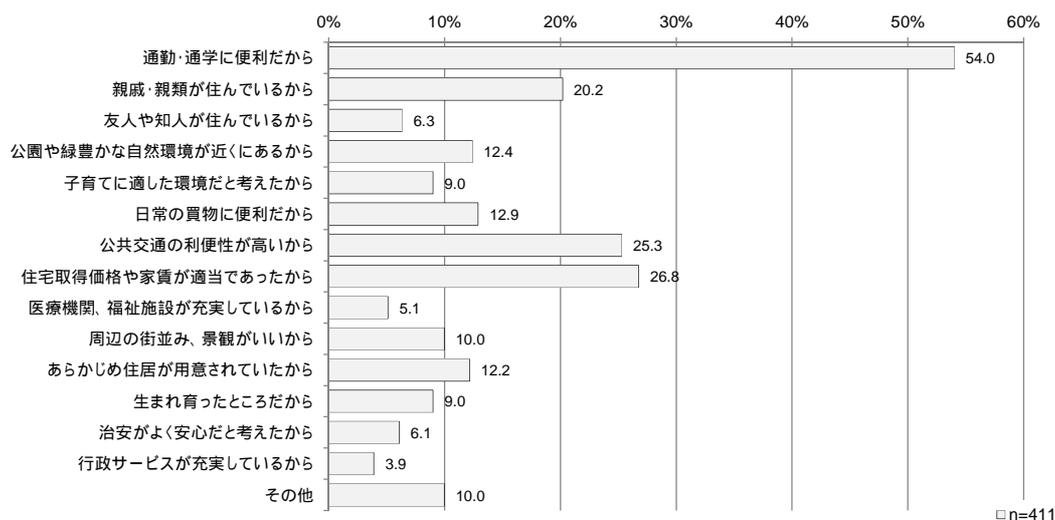
図表 3-16 市区町村別転出先の検討状況（複数回答）



### 現在の居住地を選択した理由

現在の居住地を選択した理由について尋ねたところ、「通勤・通学に便利だから」が 54.0%と最も多く、次いで、「住宅取得価格や家賃が適当であったから」が 26.8%、「公共交通の利便性が高いから」が 25.3%となっており、転入同様、日常生活の利便性を重視した回答が多い結果となっているが、「住宅取得価格や家賃が適当であったから」という項目は、転入よりも 19.2ポイント低い結果となっている。(図表 2-16 参照)

図表 3-17 現在の居住地を選択した理由（複数回答）

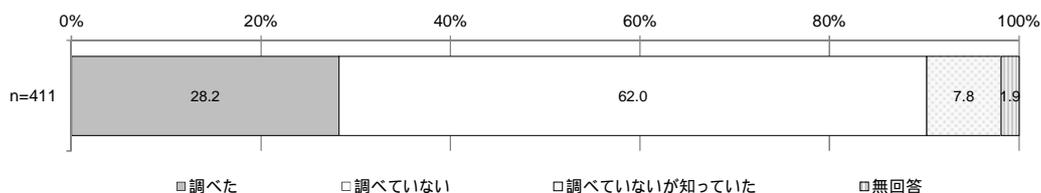


### 行政サービスの検索状況

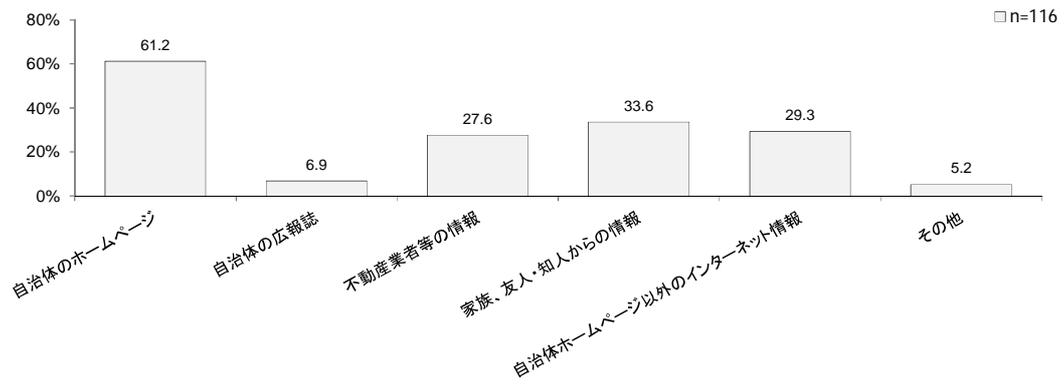
現在の居住地に決めるにあたり、居住地（自治体）の行政サービスや政策について事前に調べたか尋ねたところ、62.0%の人は「調べていない」という回答しており、転入同様、行政サービスや政策等は移動に関してあまり重要視されていないことがうかがえる。

また、調べた人に対して、どのような手段で検索したかを併せて尋ねたところ、約 6 割の人が「市のホームページ」を利用している。

図表 3-18 行政サービスの検索状況



図表 3-19 行政サービスの検索手段

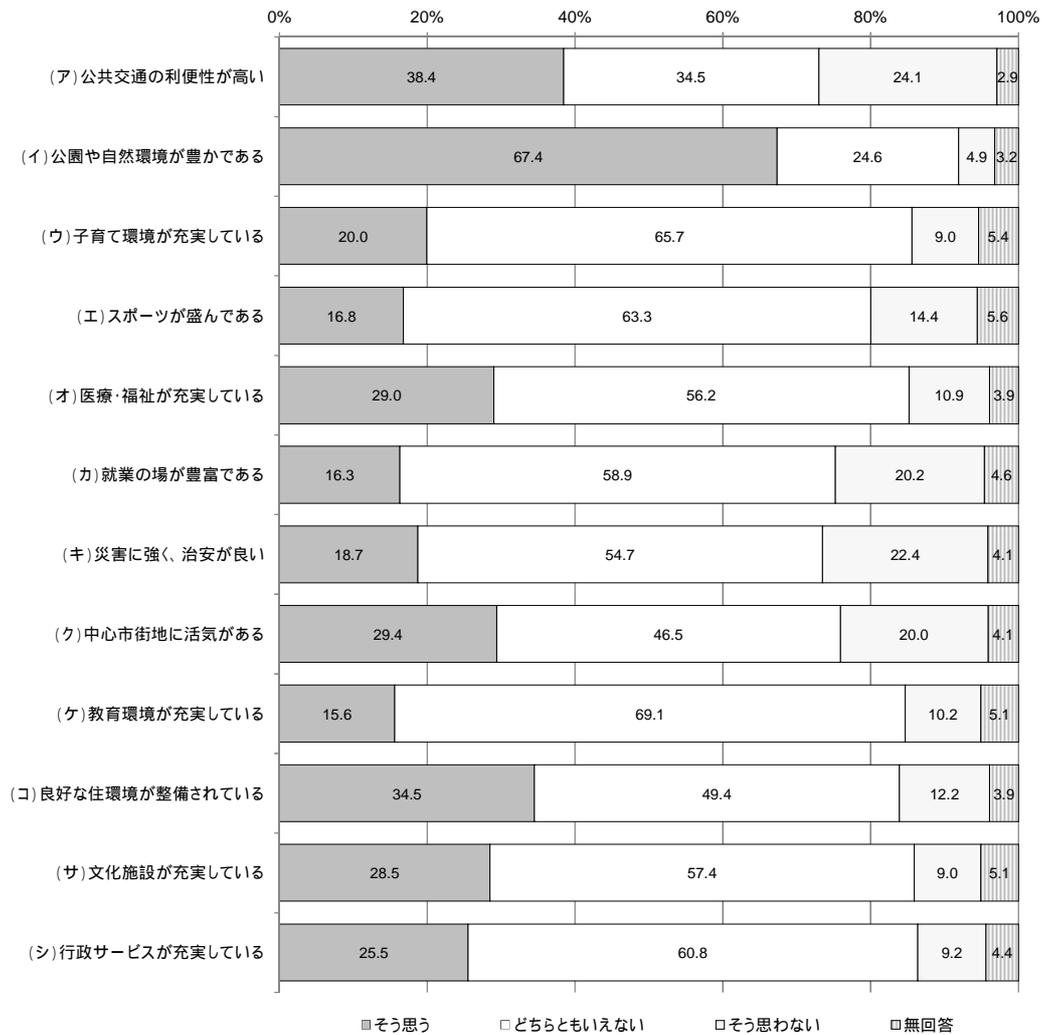


## 相模原市のイメージ

本市で実際に生活をして感じた本市のイメージを尋ねたところ、「就業の場が豊富である」及び「災害に強く治安が良い」以外は「そう思う」が「そう思わない」を上回る結果となった。

一方、「公園や自然環境が豊かである」という項目については、転入同様、「そう思う」が「そう思わない」を大きく上回っている。

図表 3-20 相模原市のイメージ

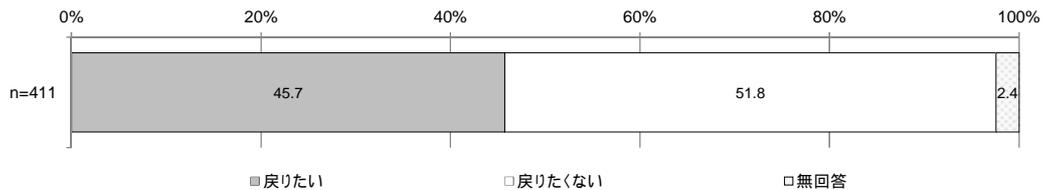


## 本市への帰還意向

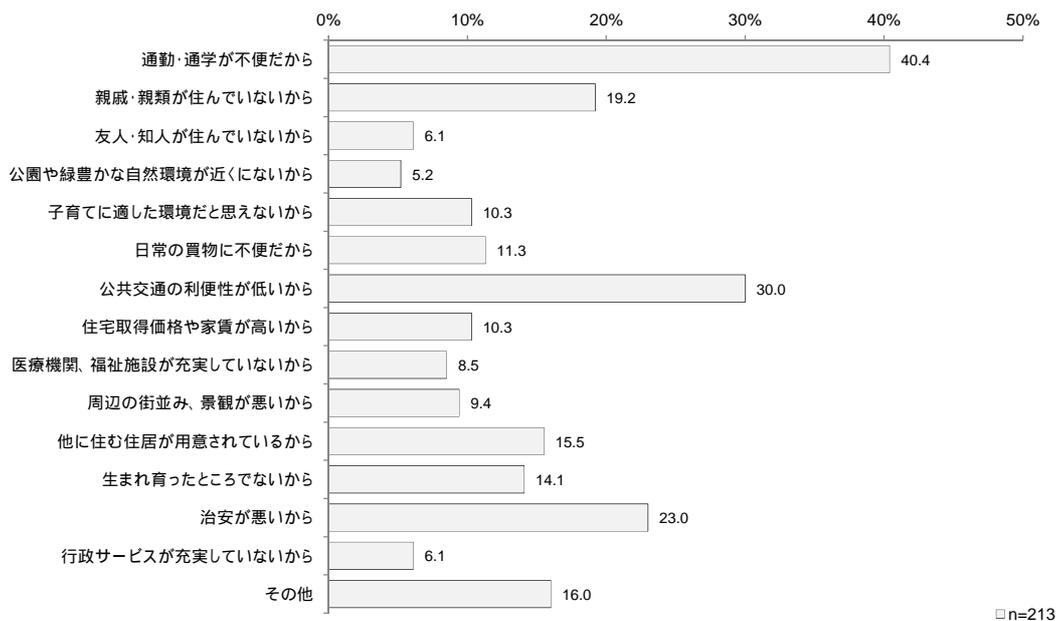
今回転出した人に対し、機会があれば、相模原市に戻りたいと思うか尋ねたところ、約半数は「戻りたくない」と回答している。

また、「戻りたくない」と回答した人に対し、戻りたくない理由についてあわせて尋ねたところ、「通勤・通学が不便だから」が40.4%と最も多く、次いで「公共交通の利便性が低いから」が30.0%、「治安が悪いから」が23.0%となっている。

図表 3-21 本市への帰還意向



図表 3-22 本市へ戻りたくない理由



参考 転出者実態アンケート調査票

平成27年7月



人口ビジョンを策定するため、**『転出者実態アンケート調査』にご協力願います。**

日頃から市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、これまで同様駅前にお住まいいただき、風おで感謝申し上げます。

さて、近年、急速な少子高齢化の進展や人口減少、子育て・介護・雇用不安など私たちの生活に深刻な影響を与えています。特に本市の人口については、2022年(今から15年後)には現在(2万人)の4分の1となる3,000人程度まで減少すると推定されており、人口減少を食い止める、命をお守りし、相手を支えるための施策が急務となっております。

そこで、本市の将来像を予測する「人口ビジョン」を策定する基礎資料とするため、平成25年中に本市から東京圏へ転出された18歳以上の転出者の方から無作為で1,000人を選び、「転出者実態アンケート調査」を実施いたしました。

お忙しいところ、まことに勝手なお断りとは存じますが、趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、このアンケートは「O」を選んだ方が本人で全体の口割等の形で統計するもので、回答者の方の氏名や住所などが特定されることはございません。また、ご回答いただいた内容は本調査の目的のために使用し、個人情報が保護につとめられ、転出には配慮いたします。

市長 藤原 雅 加山 隆 夫

※ご記入いただくようお願いいたします

- 郵便またはバーコードペンを活用してください。
- 回答については、あてはまる選択肢の番号を○で記入してください。
- ご自分のご意見に近い選択肢がない場合は、「その他」の選択欄の番号を○で書き、( ) の中にその内容を具体的に記入してください。
- 一部の方だけに限定している質問もありますが、その場合は説明文に従ってください。

ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて、**切手を貼らずに平成27年7月31日(金)まで**にご返送ください。

この調査に関するご不明な点は、市役所内の総務課までお問い合わせください。  
 (問い合わせ先)  
 相模原市役所 総務課 企画総務課 企画総務課 企画総務課 企画総務課 企画総務課  
 電話：042-758-6121(直通) 042-754-1111(代答) 内線2578  
 メール：sawashita\_sugahara@city.saga.lg.jp

1. はじめに、相模原市から転出されたきっかけ(理由)などについてお答えください。

問1 今回転出された方はあなたの場合で何人ですか。あてはまるものを1つ○をつけてください。(Oは1つ)

1. 1名(あなただけ)	1. 1名	→問2へ
2. 2名	2. 2名	
3. 3名	3. 3名以上	

問2 転出された理由(複数回答可)をお答えください。

問2 あなたと一緒に転出された方はおられますか。あなたから見た結婚先まであてはまるものをすべて○をつけてください。(Oは1つでも)

1. 配偶者	5. 女(親父を含む)	9. その他別居
2. 子	6. 母(親母を含む)	10. その他
3. 子の配偶者	7. 親父(養親父を含む)	(具体的に)
4. 孫	8. 兄弟・姉妹	

問3 今回、転出された理由のうち、もっとも大きな理由は次のうちどれですか。あてはまるものを1つ○をつけてください。(Oは1つ)

1. 学業上の理由(入学、進学、通学の利便性 等)
2. 職等上の理由(就職、転職、転勤、定年退職、通勤の利便性 等)
3. 住宅を主とする理由(住宅の購入、家の広さや設備 等)
4. 生活環境上の理由(子育て環境に選んでいる、日本の買物の利便性、治安の優越 等)
5. 親・子との関係(結婚のため(子育て支援、祖父母の介護 等)
6. 結婚・離婚のため
7. その他(具体的に)

2. 現在の居住先(転出先)の理由をお答えください。

問4 転出される前と現在のご住所をお答えください。

転出前	転出先
区名	町名
区	丁目
(例) 中央区 晴海4丁目	(例) 相模原市緑区 緑5-1
区名	町名
区	丁目
(例) 相模原市緑区 緑5-1	(例) 相模原市緑区 緑5-1

問5 現在のお住まいの状況がどれですか。あてはまるものに1つを○をつけてください。(〇は1つ)

1. 専ら家（今迄専らに購入した）
2. 専ら家（以前より所有するまたは相続等と同様）
3. 賃貸住宅
4. 住宅・家
5. その他

問6 現在のお住まいを決めるにあたり、他の地域も検討されましたが、あてはまるものに1つを○をつけてください。また、検討された方を検討した理由をお答えください。

1. 検討した

2. 検討していない

【現在のお住まい以外に検討して検討した地域】 〇は1つまで

1. 千歳区清	6. 町田市	11. さいたま市西	16. 千葉市
2. 横浜市	7. 八王子市	12. 横浜府	17. 市川市
3. 川崎市	8. 多摩市	13. 川口市	18. 松戸市
4. 佐野市	9. 東武東上線区	14. 徳谷市	19. 船橋市
5. 1～4以外の 神奈川県	10. 8～9以外の 東京都	15. 11～14以外の 東京都	20. 16～19以外の 千葉県

※上記以外に検討して検討した地域がある場合は具体的な住所を記入ください

問7 現在のお住まいを決めた理由は何ですか。あてはまる理由のうち、上位3つまで選んで○をつけてください。(〇は3つまで)

1. 通勤・通学に便利だから
2. 家族・親類が住んでいから
3. 友人や知人が住んでいるから
4. 公園や緑豊かな自然環境が近くにあるから
5. 子育てに適した環境だと考えたから
6. 日頃の買物に便利だから
7. 公共交通の利便性が高いから
8. 住宅設備価格や家賃が適当であったから
9. 医療機関、緑地施設が充実しているから
10. 周辺の治安が、景観が良いから
11. あらかじめ住居が用意されていたから
12. 生まれ育ったところだから
13. 治安がよくなることを考えたから
14. 行政サービスの充実しているから
15. その他

問8 現在のお住まいを決めるにあたり、お住まいの地域の行政サービスや設備について、お調べになりました。あてはまるものに1つを○をつけてください。調べられた方はその手段をお答えください。

1. 調べた

2. 調べていない

3. 調べていないが知っている

【調べた手段】 ※あてはまるものをすべて○をつけてください。

1. 自治体のホームページ	5. 1以外のインターネット閲覧
2. 自治体の方に直接	6. その他
3. 不動産業者等の情報	7. 同僚から
4. 家族、友人・知人からの情報	

問9 あなたの「相模原市のイメージ」がどれくらい好きですか。実際に転出されて困ったことなどの（7）～（9）の項目それぞれについて、「1」ほど悪く、「3」ほど悪くないが中から1つ選んで○をつけてください。（それぞれ〇は1つ）

	とても好き	まあまあ好き	まあまあ嫌い	とても嫌い
(ア) 公共施設の利便性が良い	1	...	2	...
(イ) 公園や自然環境が豊かである	1	...	2	...
(ウ) 子育て環境が充実している	1	...	2	...
(エ) スポーツ施設が盛んである	1	...	2	...
(オ) 医療・福祉が充実している	1	...	2	...
(カ) 交通の便が豊富である	1	...	2	...
(キ) 風情が良く、景観が良い	1	...	2	...
(ク) 中心市街地に活気がある	1	...	2	...
(ケ) 教育環境が充実している	1	...	2	...
(コ) 良い仕事環境が豊富にある	1	...	2	...
(サ) 交通設備が充実している	1	...	2	...
(シ) 行政サービスの充実している	1	...	2	...

※上記以外、イメージ別も（同定）に記す自由な書き込みは、

問10 機会があれば、相模原市に戻りたいと思いませんか。あてはまるものに1つを○をつけてください。どちらでもない場合は、お答えが近いほうに○をつけてください。(〇は1つ)

1. 戻りたい 1票は
2. 戻りたくない 1票は

問11 相模原市に戻らない理由は何かありますか。

問12 相模原市に戻らない理由は何かありますか。あてはまる理由のうち、上位3つまで選んで○をつけてください。(〇は3つまで)

1. 通勤・通学に不便だから
  2. 家族・親類が住んでいないから
  3. 友人や知人が住んでいないから
  4. 公園や緑豊かな自然環境が近くないから
  5. 子育てに適した環境だと考えないから
  6. 日頃の買物に不便だから
  7. 公共交通の利便性が低いから
  8. 住宅設備価格や家賃が高いから
  9. 医療機関、緑地施設が充実していないから
  10. 周辺の治安が、景観が悪いから
  11. 他に住む居居が用意されているから
  12. 生まれ育ったところではないから
  13. 治安が悪いから
  14. 行政サービスの充実していないから
  15. その他
- (具体的に)

3 取扱は、お返状についてお心がかります。

問 12 あなたの性別はおどですか。あてはまるものを1つおつけてください。(○は1つ)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問 13 あなたの年齢はおいくつですか。あてはまるものを1つおつけてください。(○は1つ)

1. 20歳未満	6. 40歳～44歳	11. 65歳～69歳
2. 20歳～24歳	7. 45歳～49歳	12. 70歳～74歳
3. 25歳～29歳	8. 50歳～54歳	13. 75歳～79歳
4. 30歳～34歳	9. 55歳～59歳	14. 80歳以上
5. 35歳～39歳	10. 60歳～64歳	

問 14 あなたは、運動(通学)おとれていますか、あてはまるものを1つおつけてください。また、運動(通学)おとれている場合は、具体的な運動(通学)先をお知らせください。

1. 運動(通学)おとれている	2. 運動(通学)おとれていない
-----------------	------------------

【運動(通学)おとれている方の具体的な運動(通学)先】

市区町村名	町丁名
-------	-----

【郵便番号】〒 区 町 丁目 番 号



◎質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入が終わりましたら封筒裏は、

7月31日(金)までに同封の封筒に入れて、切手を貼らずに  
そのままご返函くださいますようお願いいたします。

※本調査の委託先(株式会社)が調査結果を公表します。お名前が個人情報は掲載されません。  
掲載された場合は、匿名で調査結果を公表するものとさせていただきます。

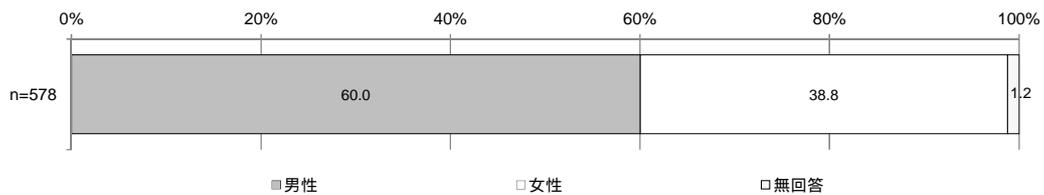
## 4. 市内転居実態調査アンケート結果

### (1) 回答者属性

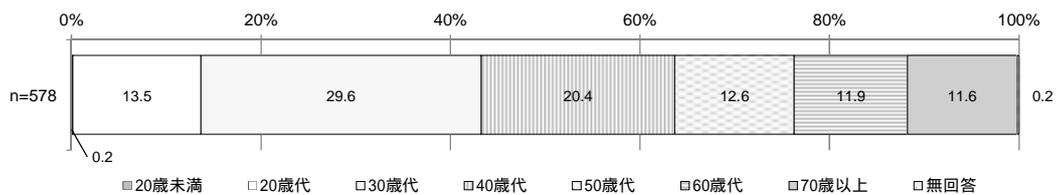
今回の回答者属性は図表 4-1 から図表 4-4 のとおりである。

回答者のうち、70.9%が通勤（通学）しており、そのうち、半数は相模原市内へ通勤（通学）している。

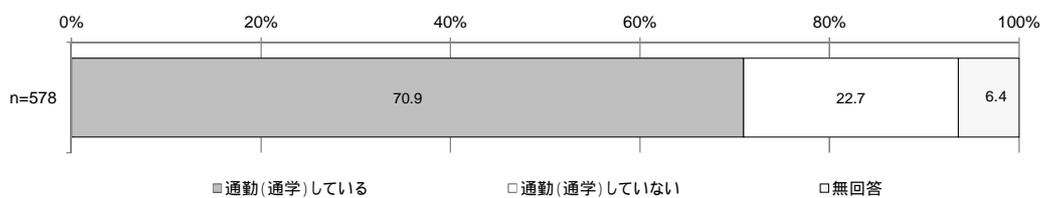
図表 4-1 回答者属性（性別）



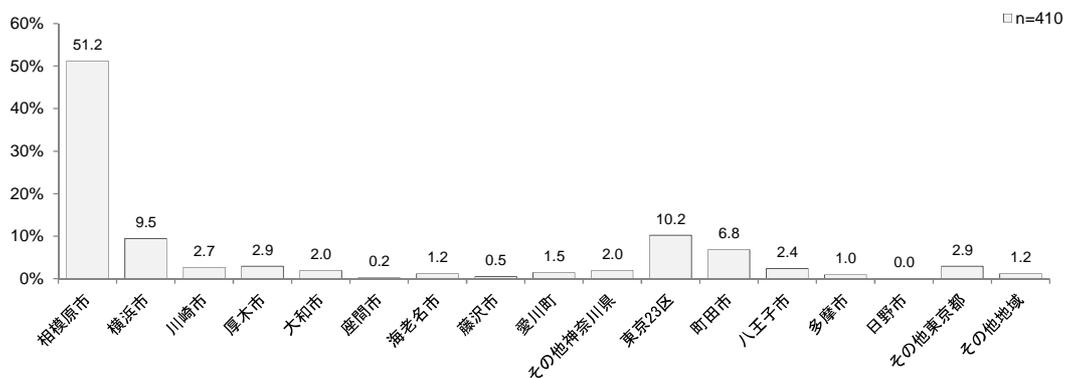
図表 4-2 回答者属性（年代）



図表 4-3 回答者属性（通勤（通学）の状況）



図表 4-4 回答者属性（通勤（通学）している人の通勤（通学）先）



## (2)市内転居したきっかけ（理由）について

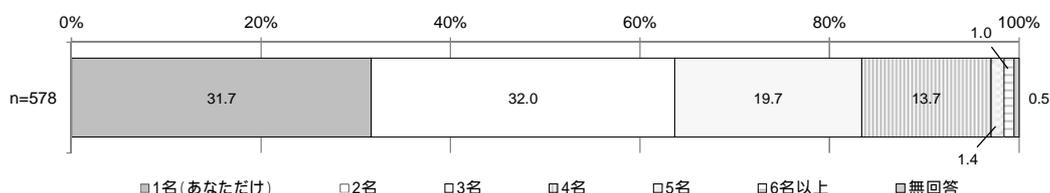
### 転居人数

回答者に、転居した人数を尋ねたところ、「2名」が32.0%で最も多く、次いで、「1名（あなただけ）」が31.7%、「3名」が19.7%となっており、「1名（あなただけ）」が最も多かった転入及び転出とは異なる結果となった。

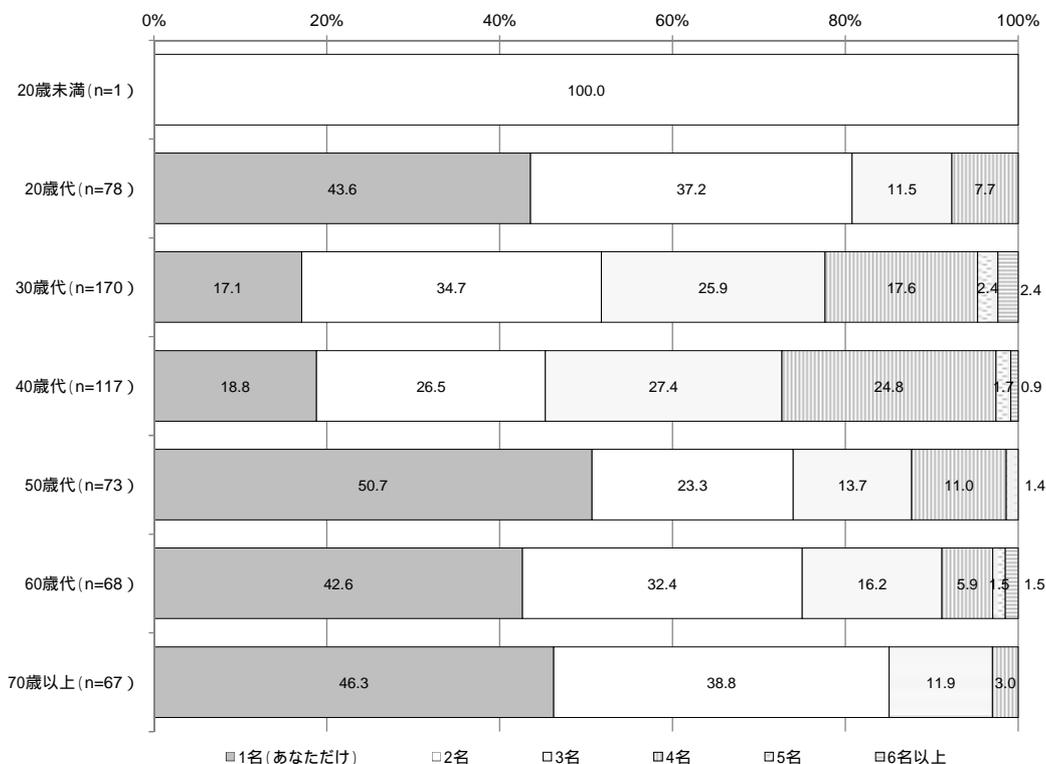
この結果を年代別にみても、30歳代及び40歳代で単身での移動が転入及び転出に比べて特に低く、転居は転入・転出とは移動の構造が若干異なると考えられる。

また、複数名で転居した人に対し、一緒に転居した人の続柄をあわせて尋ねたところ、「配偶者」が76.8%で最も多く、次いで「子」が58.9%となっており、この傾向は転入及び転出と同様である。なお、今回調査における1世帯あたりの平均転居者数は2.24人であった。

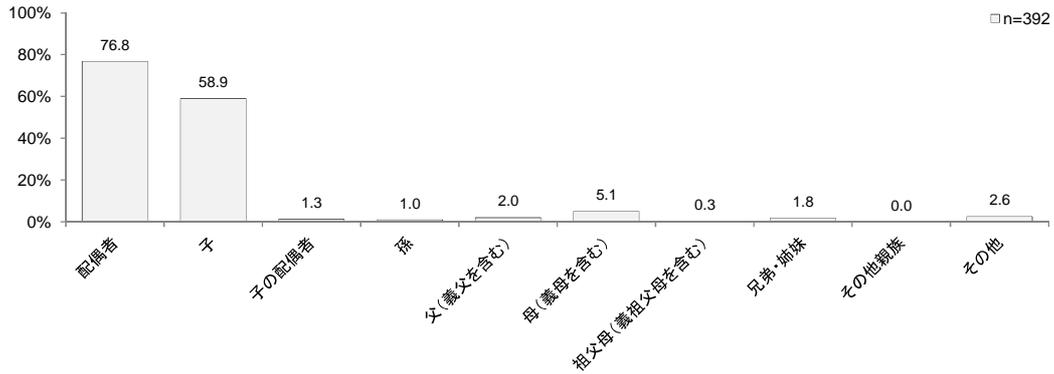
図表 4-5 今回転居した人数



図表 4-6 今回転居した人数（年代別）



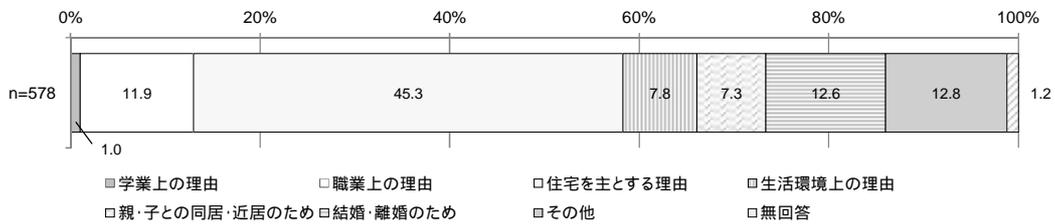
図表 4-7 一緒に転居した人の続柄（複数回答）



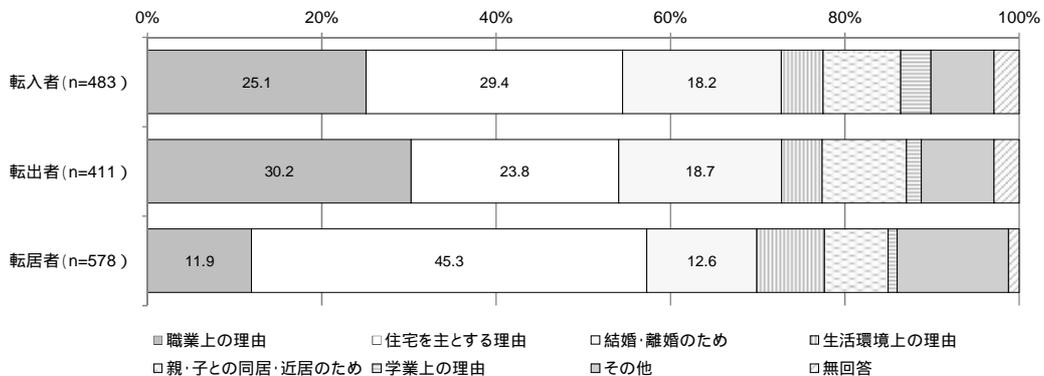
### 転居理由

今回転居した理由のうち、最も大きな理由について尋ねたところ、「住宅を主とする理由（住宅の購入、家の広さや家賃等）」が45.3%と最も多く、次いで「結婚・離婚のため」が12.6%、「職業上の理由（就職、転職、転勤、定年退職、通勤の利便性等）」が11.9%となっており、転入及び転出で同様、「住宅を主とする理由」、「結婚・離婚のため」、「職業上の理由」の3つの理由で全体の約7割を占めるが、転入及び転出と比較し、「住宅を主とする理由」の割合が高い。

図表 4-8 転居した理由のうち最も大きな理由



図表 4-9 移動した理由の比較（転入者、転出者、転居者）

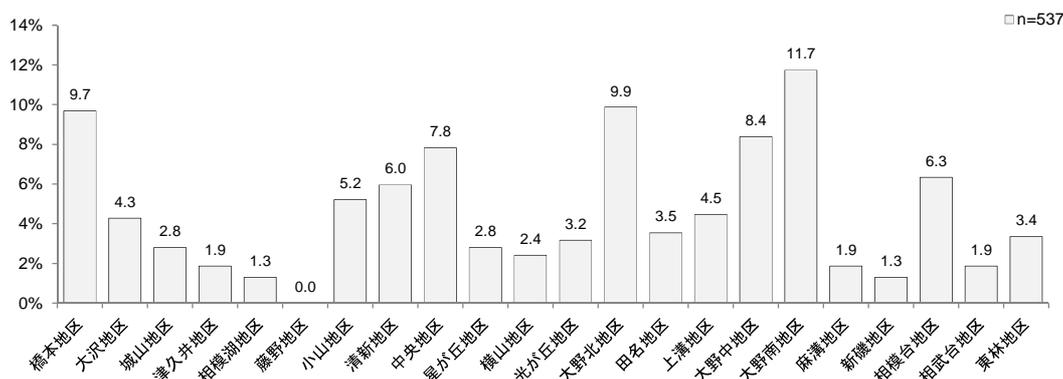


### (3)現在の住まいを選んだ理由について

#### 転居前の居住地

転居前の居住地について尋ねたところ、「大野南地区」が11.7%で最も多く、次いで「大野北地区」が9.9%、「橋本地区」が9.7%、「大野中地区」が8.4%となっている。

図表 4-10 転居前の居住地（まちづくり地区単位）

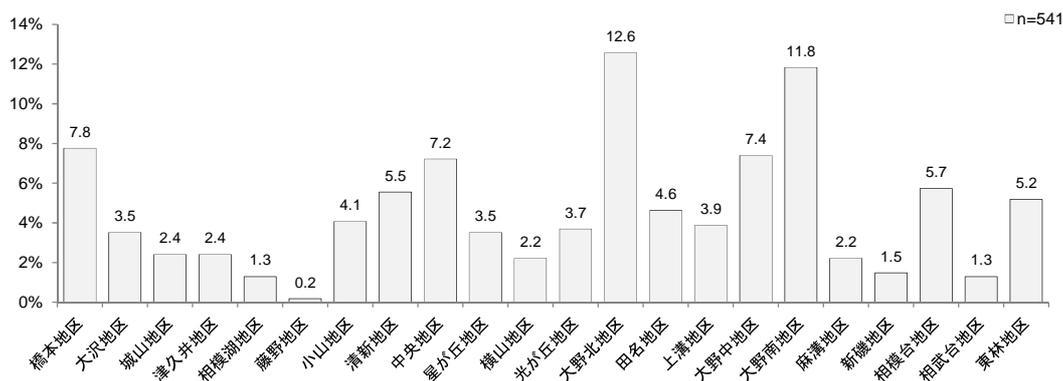


#### 転居後の居住地

転居後の居住地について尋ねたところ、「大野北地区」が12.6%と最も多く、次いで「大野南地区」が11.8%、「橋本地区」が7.8%、「大野中地区」が7.4%となっている。

また、転居前の地区ごとにどの地区へ転居したかを割合で示すと、図表 4-12 のとおりとなり、転居前の居住地区と同じ地区へ転居した人が多いことがわかる。

図表 4-11 転居後の居住地（まちづくり地区単位）



図表 4-12 転居先の分布（まちづくり地区単位）

単位：％	転居後居住地																						
	橋本地区	大沢地区	城山地区	津久井地区	相模湖地区	藤野地区	小山地区	清新地区	中央地区	星が丘地区	横山地区	光が丘地区	大野北地区	田名地区	上溝地区	大野中地区	大野南地区	麻溝地区	新磯地区	相模台地区	相武台地区	東林地区	
橋本地区 n=52	53.8	5.8	3.8	1.9	1.9	0.0	5.8	5.8	1.9	1.9	1.9	0.0	7.7	1.9	0.0	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
大沢地区 n=23	8.7	26.1	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	0.0	17.4	0.0	4.3	13.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
城山地区 n=15	20.0	6.7	33.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	13.3	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
津久井地区 n=10	0.0	0.0	10.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
相模湖地区 n=7	0.0	0.0	0.0	14.3	71.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
藤野地区 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小山地区 n=28	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	17.9	17.9	10.7	0.0	3.6	3.6	21.4	0.0	3.6	7.1	3.6	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
清新地区 n=32	9.4	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	9.4	25.0	15.6	3.1	3.1	0.0	12.5	3.1	6.3	3.1	0.0	3.1	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
中央地区 n=42	2.4	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	11.9	7.1	33.3	2.4	0.0	4.8	14.3	0.0	4.8	7.1	0.0	2.4	2.4	2.4	0.0	0.0	2.4
星が丘地区 n=15	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	6.7	33.3	0.0	6.7	6.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
横山地区 n=12	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	16.7	8.3	0.0	25.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
光が丘地区 n=17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	5.9	5.9	11.8	0.0	35.3	11.8	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0
大野北地区 n=53	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	11.3	3.8	0.0	3.8	49.1	3.8	0.0	13.2	3.8	1.9	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0
田名地区 n=19	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	5.3	36.8	21.1	5.3	0.0	5.3	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
上溝地区 n=24	8.3	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0	8.3	4.2	0.0	12.5	4.2	8.3	4.2	4.2	33.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
大野中地区 n=45	0.0	2.2	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	6.7	0.0	4.4	15.6	0.0	0.0	42.2	11.1	2.2	0.0	6.7	0.0	2.2	2.2
大野南地区 n=62	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	4.8	0.0	0.0	6.5	64.5	1.6	1.6	4.8	1.6	9.7	9.7
麻溝地区 n=10	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	0.0
新磯地区 n=7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0
相模台地区 n=33	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	3.0	18.2	3.0	0.0	33.3	6.1	27.3	27.3
相武台地区 n=10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	50.0	20.0	20.0	20.0
東林地区 n=15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	6.7	46.7	46.7

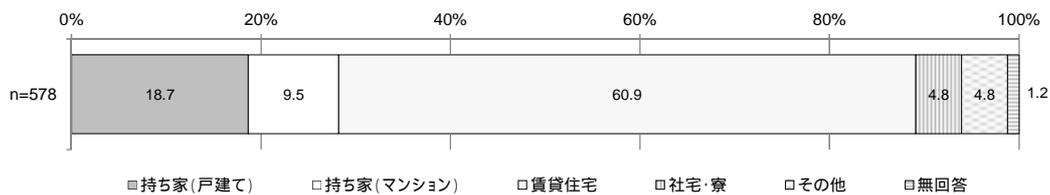
## 住居形態の変化

転居前の住居形態と転居後の住居形態について尋ねたところ、転居前は「賃貸住宅」が60.9%と最も多く、次いで「持ち家(戸建て)」が18.7%、「持ち家(マンション)」が9.5%となっている。

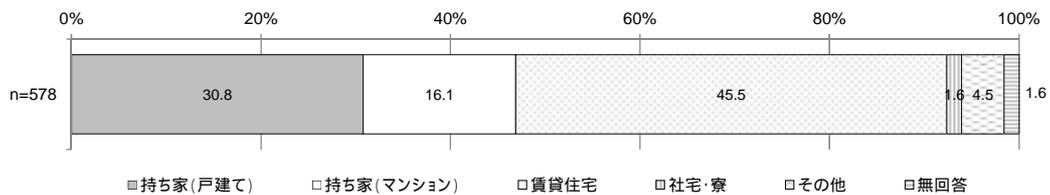
一方、転居後は、転居前と同様「賃貸住宅」が45.5%と最も多いものの、「持ち家(戸建て)」が18.7%から30.8%へ、「持ち家(マンション)」が9.5%から16.1%へ上昇しており、住宅購入により転居をしていることがうかがえる。

また、転居前の住宅形態別に転居後の住宅形態をみると、「持ち家」から「賃貸住宅」へ変更している人が半数近くいることがわかる。

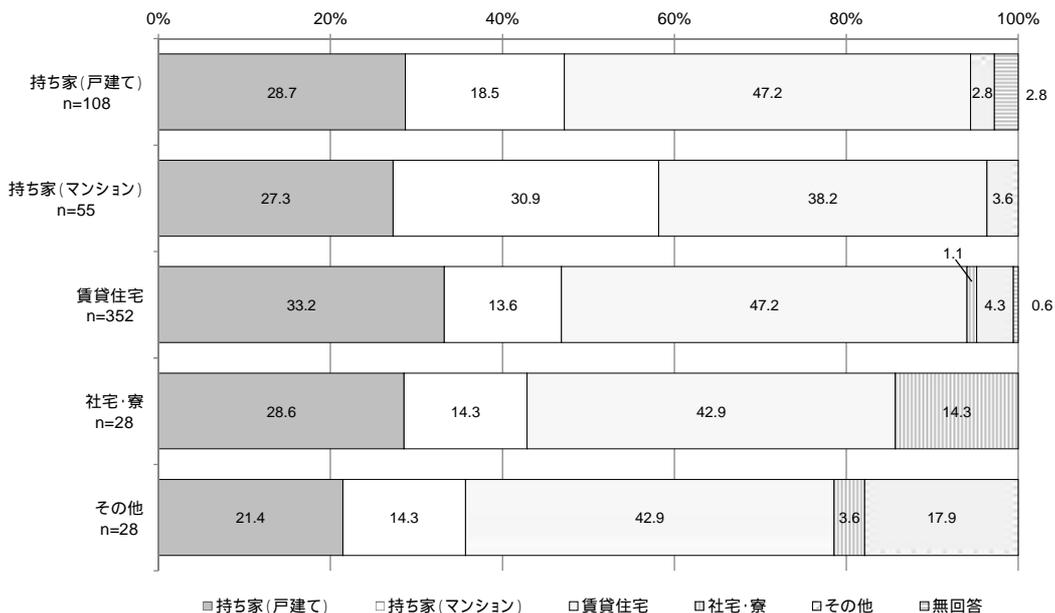
図表 4-13 転居前の住居形態



図表 4-14 転居後の住居形態



図表 4-15 転居前の住居形態別転居後の住居形態割合

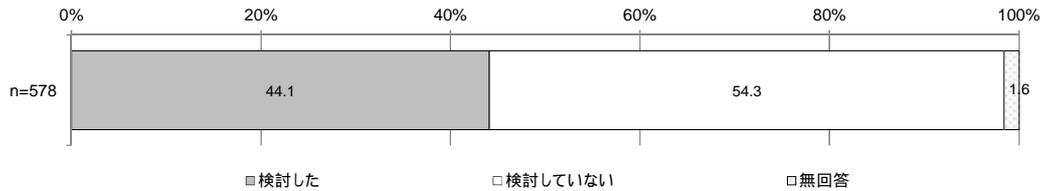


## 転居先の検討状況

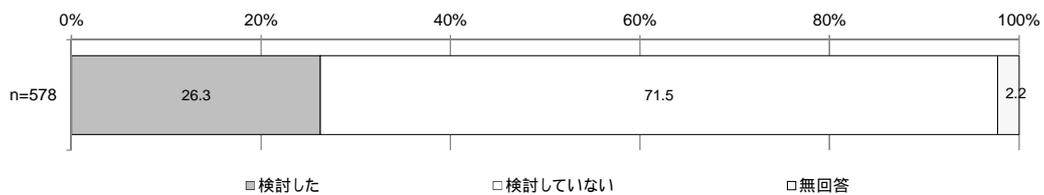
現在の居住地へ転居するにあたり、市内の他地区も転居先として検討したか尋ねたところ、44.1%の人が検討したと回答している。

また、市外について検討したか合わせて尋ねたところ、26.3%の人が「検討した」と回答しており、うち、6割の人が町田市を候補地として検討している結果であった。

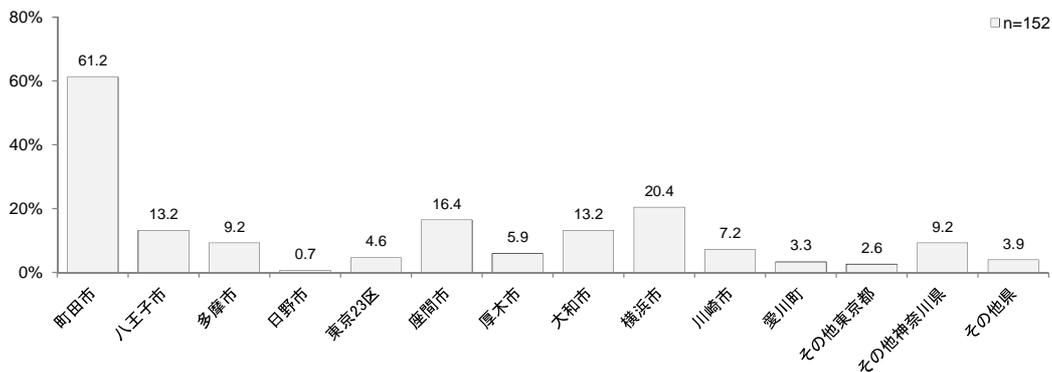
図表 4-16 転居先の検討状況（市内他地区）



図表 4-17 転居先の検討状況（市外）



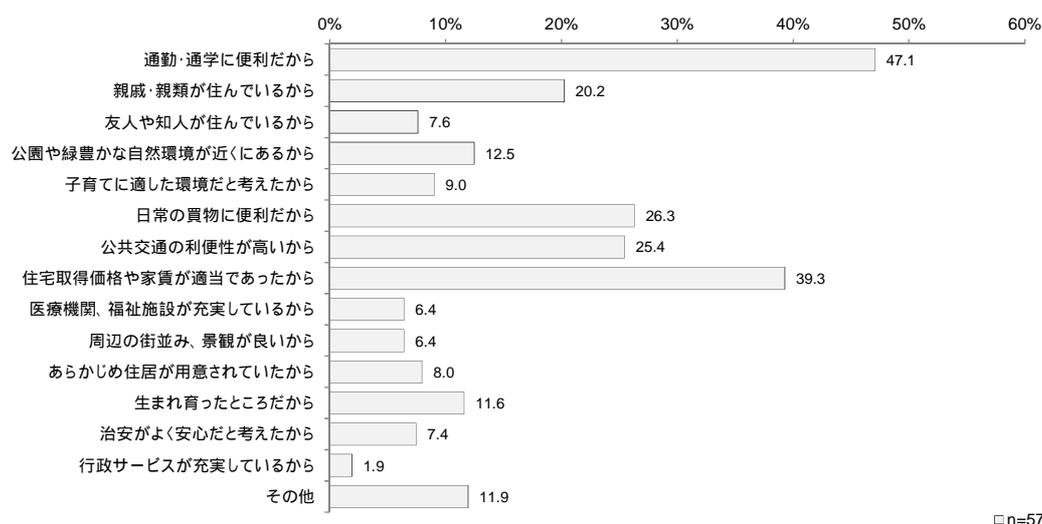
図表 4-18 市外の検討状況（複数回答）



## 現在の居住地を選択した理由

現在の居住地を選択した理由について尋ねたところ、「通勤・通学に便利だから」が 47.1% と最も多く、次いで、「住宅取得価格や家賃が適当であったから」が 39.3%、「日常の買物に便利だから」が 26.3%、「公共交通の利便性が高いから」が 25.4%となっており、転入及び転出同様、日常生活の利便性を重視した回答が多い結果となっている。

図表 4-19 現在の居住地を選択した理由（複数回答）

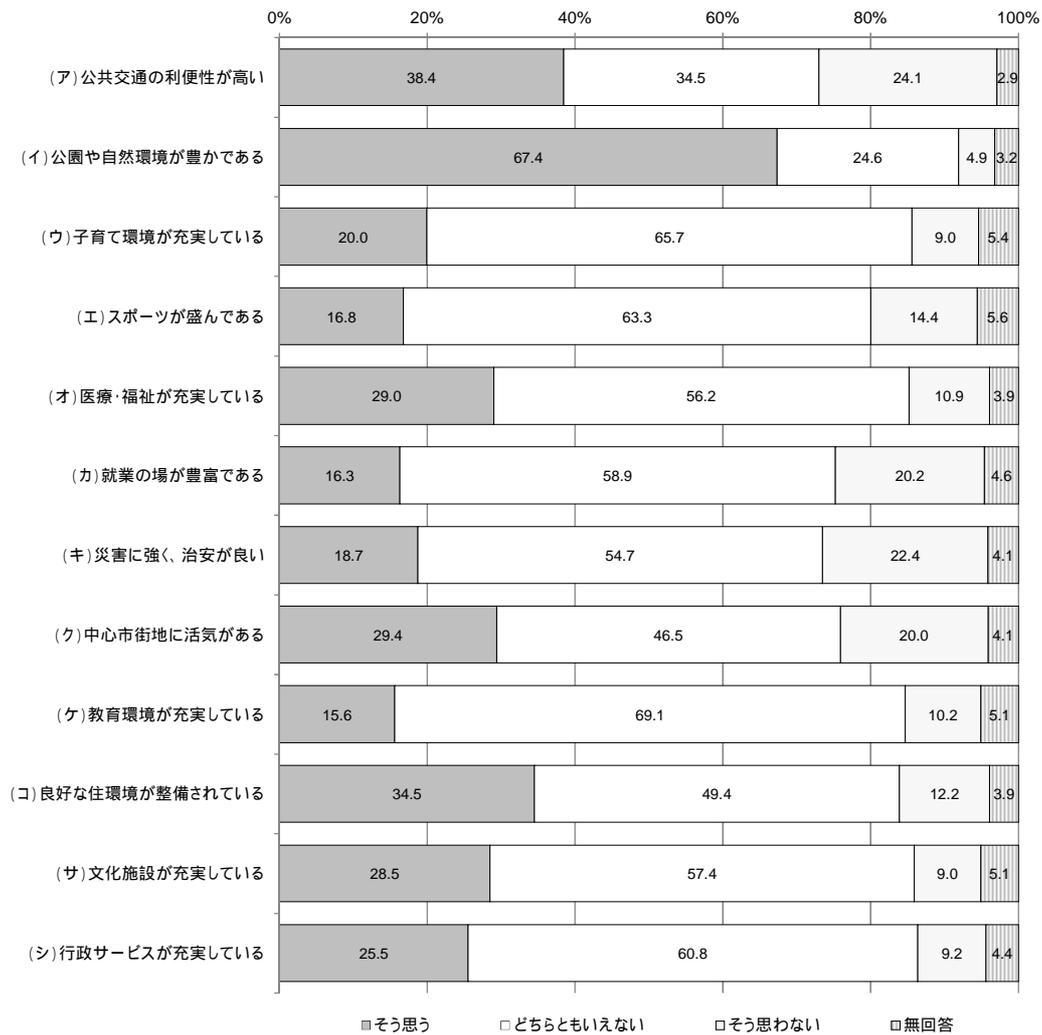


## 相模原市のイメージ

本市で実際に生活し、感じている本市のイメージを尋ねたところ、転出同様、「就業の場が豊富である」及び「災害に強く治安が良い」以外は「そう思う」が「そう思わない」を上回る結果となった。

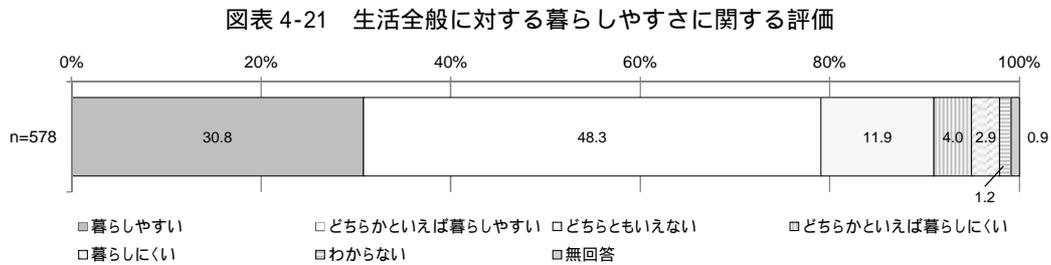
また、「公園や自然環境が豊かである」という項目については、転入及び転出同様、「そう思う」が「そう思わない」を大きく上回っており、本市は公園や自然環境が豊かであるというイメージが強いと考えられる。

図表 4-20 相模原市のイメージ



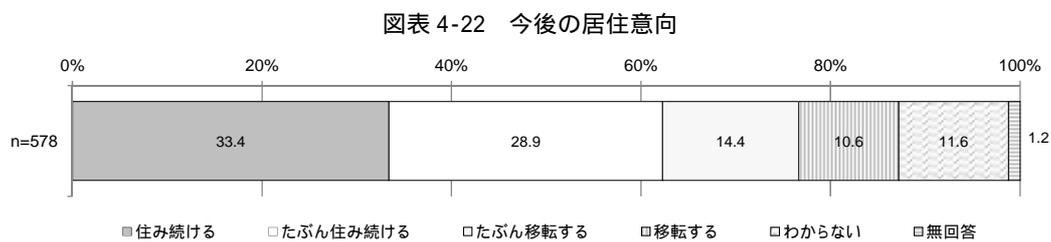
## 暮らしやすさの評価

現在の生活全般に対する暮らしやすさを評価してもらったところ、「どちらかといえば暮らしやすい」が48.3%で最も多く、次いで「暮らしやすい」が30.8%となり、転入同様、7割強の人が暮らしやすいと評価している。



## 今後の居留意向

今後の居留意向について尋ねたところ、「住み続ける」と回答した人が33.4%と最も多く、次いで「たぶん住み続ける」が28.9%となっており、おおむね6割の人が住み続けると回答している。



参考 市内転居者実態アンケート調査票

平成27年7月



人ロビションを促進するため、  
『市内転居者実態アンケート調査』にご協力願います。

市議会が市におこなう調査ですが、誠にありがとうございます。  
さて、近年、急速な少子高齢化の進展や人口減少、子育て・介護・雇用不安など私たちの生活活動は大きく変化しております。特に本市の人口については、2003年(平成15年度)には増加(12万人)の4分の1となる31万人程度まで減少すると予測されており、人口減少を食い止めるための施策の検討を進めるため、調査が必要となっております。  
そこで、本市の将来像を予測する「人ロビション」を調査する基幹資料とするため、平成25年中に市内転居された18歳以上の世帯主のみなさまを対象として、アンケート調査を実施いたしました。アンケート調査の結果、市内転居者の実態についてアンケート調査を実施させていただきます。  
なお、このアンケートには「○」を記入していただく必要はありません。ご協力ください。  
なお、このアンケートには「○」を記入していただく必要はありません。ご協力ください。

市長 佐藤 誠 市長 佐藤 誠

- 「ご記入いただく上でのお願い」
- 郵便またはポータルページを使用してください。
  - 郵票については、おてはまる番組の番号を○で囲んでください。
  - ご自分の意見に近い番組がない場合は、「その他」の番組の番号を○で囲み、( ) の中にその内容を具体的に記入ください。
  - 一部の方だけに限定している質問もありますが、その場合は郵票に添付してください。

ご記入いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに  
**平成27年7月31日(金)まで**にご返函ください。

この調査にご協力するご市民の皆様は、市役所内の下記部署までお問い合わせください。  
市民生活課  
市民生活課 企画課 企画課 企画課 企画課 企画課 企画課 企画課 企画課 企画課  
電話：042-799-2200(直通) 042-799-1111(代番) 内線2200  
〒100-8501 東京都千代田区千代田1-1-1 (東京都千代田市千代田1-1-1)

1. はしめに、市内転居されたきっかけ(理由) などについてお答えをお願いします。

例1 今回、転居された方はおたまたまの何名ですか。おてはまるものに「○」を一つつけてください。(○は1つ)

1. 1名 (おたまたま) 一回1ヶ所 } 一回1ヶ所  
2. 2名 } 一回2ヶ所  
3. 3名 } 一回3ヶ所以上

例2 転居された理由(理由)を複数記入してください。

例2 あなたと一緒に転居された方はおたまたま何名ですか。おたまたまの何名ですか。おてはまるものに「○」を一つつけてください。(○は1つ)

1. 配偶者 2. 父(養父を含む) 3. その他(理由)

4. 子 5. 母(養母を含む) 6. その他(理由)

7. 祖父母(養祖父母を含む) (具体的に)

8. 兄弟・姉妹

例3 今回、転居された理由のうち、もっとも大きな理由は次のどれですか。おてはまるものに「○」を一つつけてください。(○は1つ)

1. 学業上の理由(入学、進学、通学の利用性等) 2. 職上の理由(就職、転職、転勤、定年退職、通勤の利用性等)

3. 住居を主とする理由(住居の購入、家の広さや家賃等)

4. 生活環境上の理由(子育て環境に満足している、日本の気候の好悪性、治安の悪化等)

5. 親・子との関係・近居のため(子育て支援、親等の介護等)

6. 結婚・離婚のため (子育て支援、親等の介護等)

7. その他(具体的に)

2. 現在のお住まいの市は転居された理由などについてお答えをお願いします。

例4 転居される前に現在のご住所をお答えください。

転居前	転居後
区名	区名
町名	町名
丁目	丁目
番地	番地
丁目	丁目

(例) 例3 下丸区 例4 下丸区

問5 転居される前の現在の住居形態をお答えください。(それぞれ○は1つ)

転居前	現在
1. 持ち家(戸建て)	1. 持ち家(戸建て)
2. 持ち家(マンション)	2. 持ち家(マンション)
3. 賃貸住宅	3. 賃貸住宅
4. 社宅・寮	4. 社宅・寮
5. その他(具体的に)	5. その他(具体的に)

問6 現在の住まいを決めるにあたり、転居意向のある地区も検討されましたが、あてはまるものに1つを付けてください。また、検討された方は検討した地区も合わせてお答えください。

1. 検討した

2. 検討していない

緑 区	中央区	南 区
1. 橋本地区	7. 小山地区	16. 大野口地区
2. 大丸地区	8. 清瀬地区	17. 大野青地区
3. 桜山地区	9. 中央地区	18. 旗本地区
4. 赤入井地区	10. 原が丘地区	19. 新橋地区
5. 毛塚地区	11. 旗山地区	20. 相模台地区
6. 新井地区	12. 栄が丘地区	21. 相模台地区
	13. 大野北地区	22. 東林地区
	14. 白鳥地区	
	15. 上野地区	

※地区以外での検討(例:中央区・相模台駅、小山地区、ユウテック等)

問7 現在の住まいを決めるにあたり、転居意向のある地区も検討されましたが、あてはまるものに1つを付けてください。また、検討された方は検討した地区も合わせてお答えください。

1. 検討した

2. 検討していない

【相模原市以外で検討した検討先(都道府県)】	【○は1つでも】
1. 町田市	6. 沼津市
2. 八王子市	7. 原宿市
3. 多摩市	8. 大和市
4. 日野市	9. 横浜府
5. 東京23区	10. 川崎市
	11. 愛知県
	12. 1～5以外の東京都
	13. 6～11以外の都道府県
	14. その他

(具体的に)

問9 現在の住まいを決めるにあたり、理由は何ですか、あてはまる理由のうち、上位3つまでを選んでください。(○は3つまで)

1. 通勤・通学に便利だから	8. 近所関係、福祉施設が充実しているから
2. 利便・機能が良いから	9. 周辺の環境が、良縁が良いから
3. 友人や知人が住んでいるから	10. あらかじめ民間が用意されていたから
4. 公園や緑地などの自然環境が近くにあるから	11. 生まれ育ったところだから
5. 子育てに適した環境だと考えるから	12. 治安がよく安心だと考えるから
6. 自身の年齢に適切だから	13. 治安がよく安心だと考えるから
7. 公共交通の利便性が良いから	14. 行政サービスが充実しているから
8. 住む取得価格や家賃が適当であったから	15. その他

(具体的に)

問9 あなたは相模原市どのようなイメージをお持ちですか。次の(A)～(シ)の項目それぞれについて、

【1. とても悪いから、とても良いから】の中から1つ選び、○をつけてください。(それぞれ○は1つ)

	とても悪いから	とても良いから
(ア) 公共施設の利便性が悪い	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(イ) 公園や緑地が豊富にある	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(ウ) 子育て環境が整っている	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(エ) スポーツ施設がある	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(オ) 商業・娯楽施設が充実している	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(カ) 夜間の静けさがある	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(キ) 駅周辺に多く、治安が良い	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(ク) 中心街地がある	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(ケ) 教育環境が整っている	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(コ) 良好な住環境が整っている	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(サ) 交通利便性が整っている	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3
(シ) 行政サービスが充実している	1 ... 2 ... 3	1 ... 2 ... 3

※上記のほか、イメージされたことについて自由にご回答ください。

問10 あなたは、現在の住まいについて、どのように感じていますか。あてはまるものに1つを付けてください。(○は1つ)

1. 暮らしやすい	4. どちらかといえば暮らしにくい
2. どちらかといえば暮らしやすい	5. 暮らしにくい
3. どちらかといえば悪い	6. おおくない

問 11 あなたは、どのからずと今の住まいに在り続けるおつもりですか、あてはまるものに1つを付けてください。(〇は1つ)

- |             |          |
|-------------|----------|
| 1. 住み続ける    | 4. 移転する  |
| 2. たぶん住み続ける | 5. わからない |
| 3. たぶん移転する  |          |

3. 断続に、あなたについてお尋ねいたします。

問 12 あなたが性別はどちらですか、あてはまるものに1つを付けてください。(〇は1つ)

- |       |       |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問 13 あなたの年齢はおいくつですか、あてはまるものに1つを付けてください。(〇は1つ)

- |            |             |             |
|------------|-------------|-------------|
| 1. 20歳未満   | 6. 40歳～44歳  | 11. 65歳～69歳 |
| 2. 20歳～24歳 | 7. 45歳～49歳  | 12. 70歳～74歳 |
| 3. 25歳～29歳 | 8. 50歳～54歳  | 13. 75歳～79歳 |
| 4. 30歳～34歳 | 9. 55歳～59歳  | 14. 80歳以上   |
| 5. 35歳～39歳 | 10. 60歳～64歳 |             |

問 14 あなたは、運動（通学）されていませんか、あてはまるものに1つを付けてください。また、運動（通学）されている場合は、具体的な運動（通学）先をお知らせください。

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. 運動（通学）していない | 2. 運動（通学）している |
|----------------|---------------|

【運動（通学）されている方の具体的な運動（通学）先】

市区町村名	町丁名
-------	-----

【例1】青陽区 区 町名  
【例2】青陽区青陽町 区 町名

◎質問は以上です。ご協力ありがとうございました。  
記入が終わりましたら調査票は、  
7月31日（金）までに同封のお筒に入れて、切手を貼らずに  
そのまま送付ください。よろしくお願いいたします。

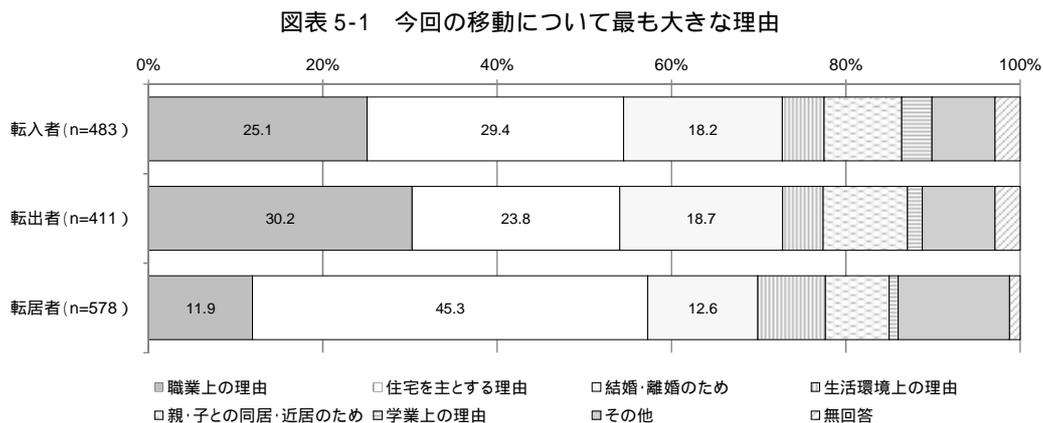


※本調査の調査結果は一般に公開するものではありません。お住いの町や区、市町村のホームページ等で発表することはありません。

## 5. 調査結果から見える本市の人口移動(まとめ)

### 人口移動のキーワードは仕事と住居と結婚・離婚

今回の移動のきっかけとなった事由で最も大きな理由を移動形態別に（転入・転出・転居）比較してみると、住居を主とする理由（住宅の購入、家の広さ、家賃等）、職業上の理由（就職、転職、転勤、通勤の利便性等）、結婚・離婚のためという3つに分類され、この3つの事由で全体の7割を超える。



### 現在の住居を選んだ理由は、通勤・通学の利便性を重視

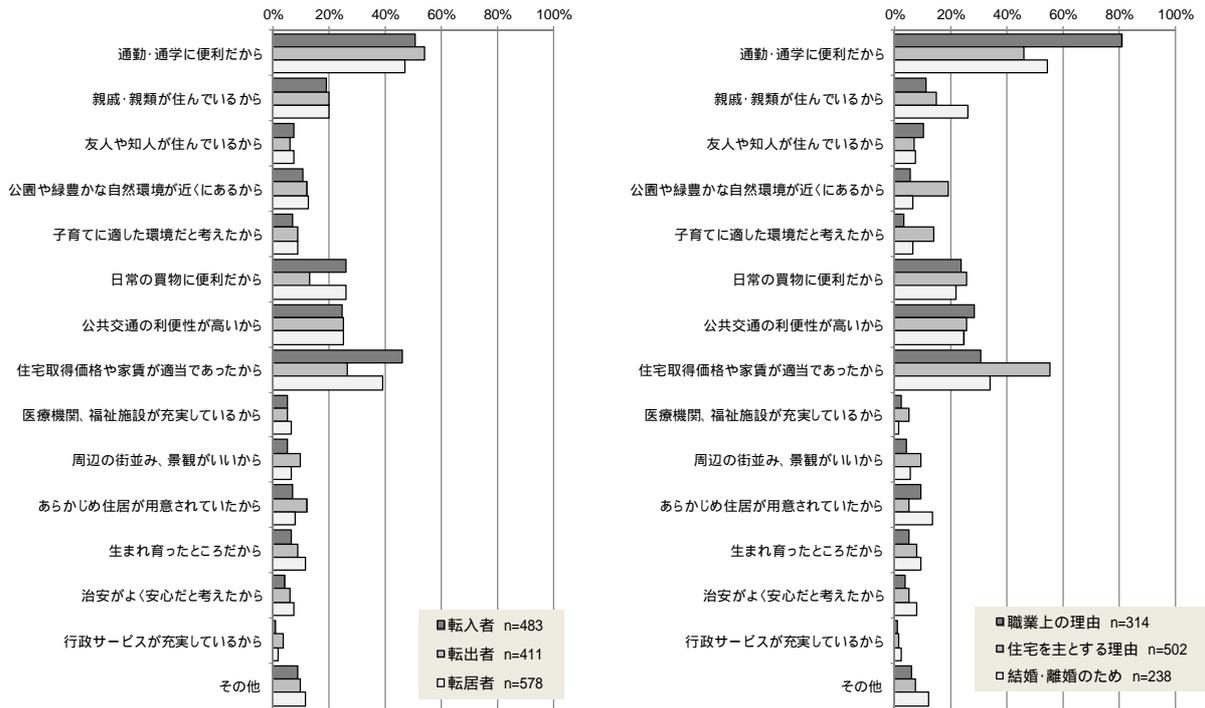
現在の住居を選んだ理由については、転入・転出・転居とも通勤・通学の利便性や買物、公共交通機関の利便性等、日常生活の利便性を重視した回答が多い結果となった。

この結果を移動のきっかけとなった理由別（住居を主とする理由、職業上の理由、結婚・離婚のため）にみても、住宅を主とする理由で移動した人は住宅取得、価格又は家賃と回答した割合が一番高いものの、通勤・通学の利便性と回答した割合も高く、この2つが大きな理由となっている。

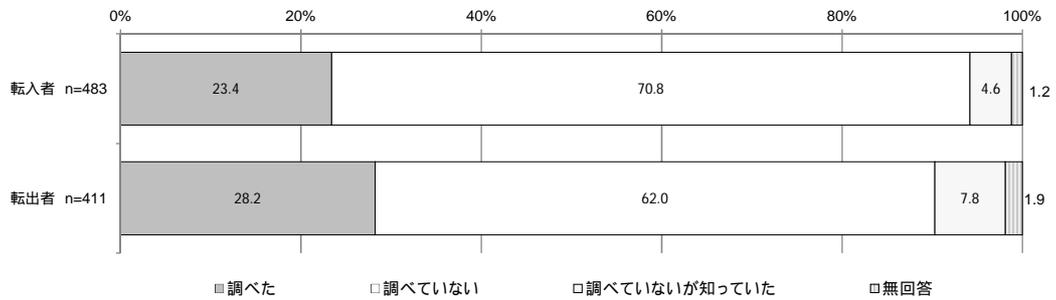
また、職業上の理由及び結婚・離婚を理由として移動した人もこの2つの割合が高く、特に職業上の理由で移動した人は、通勤通学の利便性と回答した割合が突出している。これらの結果から、個人の経済事情と通勤・通学の利便性との兼ね合いで居住地を選択している姿がうかがえる。

一方で、行政サービスの充実度、周辺の街並み、景観等はあまり重要視されていない結果となった。移動に際して、地域の行政サービスや政策等について調べたか尋ねたところ、約7割の人が調べていないという結果であった。

図表 5-2 現在の住居を選択した理由（複数回答）



図表 5-3 移動先の行政サービスの検索状況

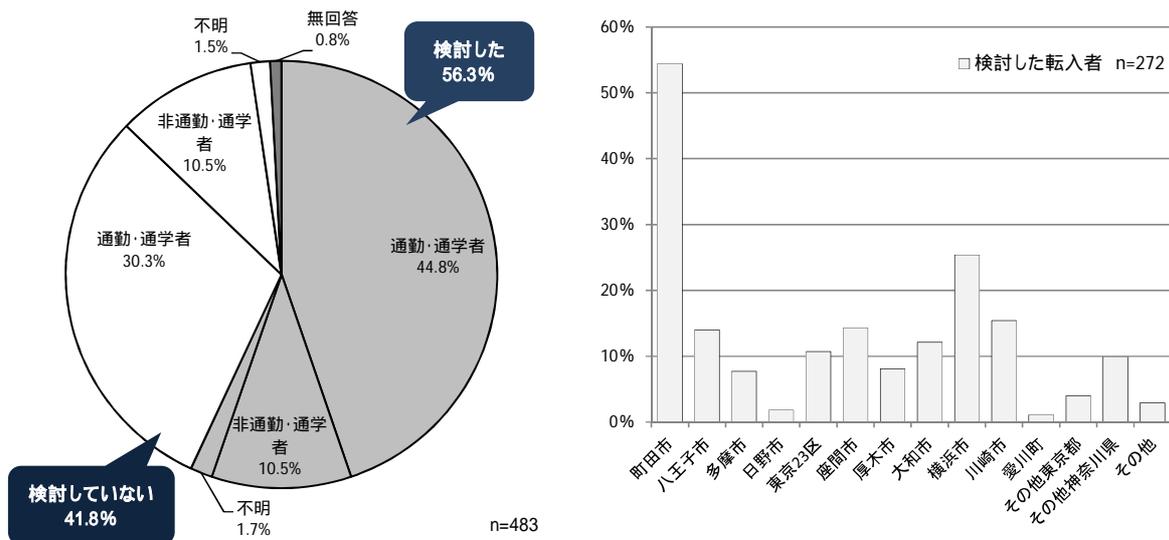


## 転出者の2割は、市民として引き留められる可能性がある

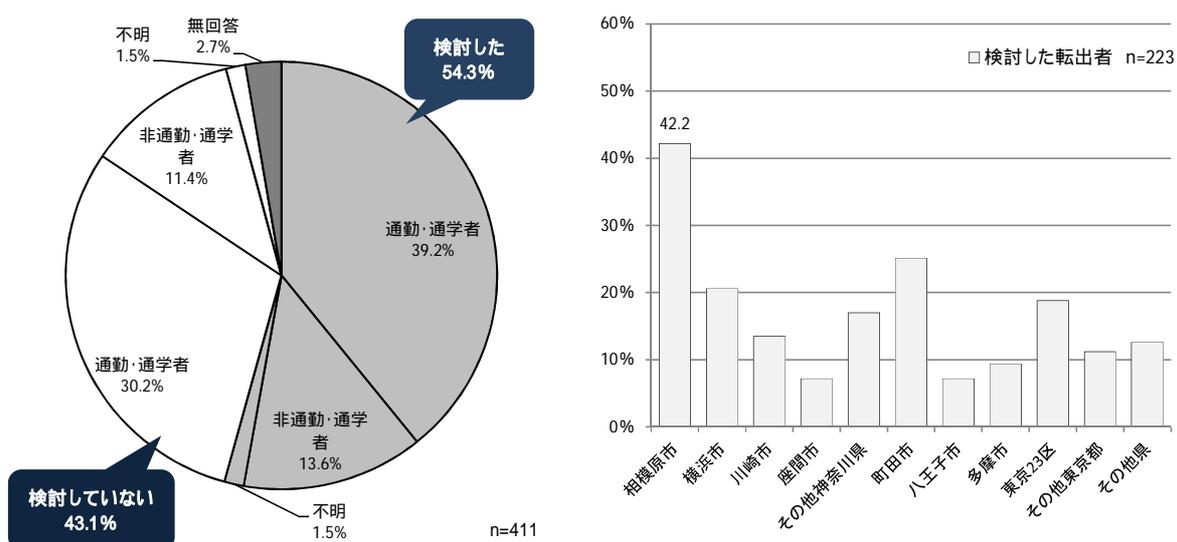
本市に転入してきた人のうち、本市以外の地域も転居先として検討した人は、56.3%であり、その候補地として考えられた地域は、町田市が最も高い割合だった。

一方、転出した人で現在の居住先以外の転出先を検討した人は、54.3%である。そのうち、相模原市を検討したという人は、42.2%であり、転出者全体の2割程度は、市民として引き留められる可能性がある。

図表 5-4 本市へ転入した人の転居先の検討状況



図表 5-5 本市から転出した人の転居先の検討状況

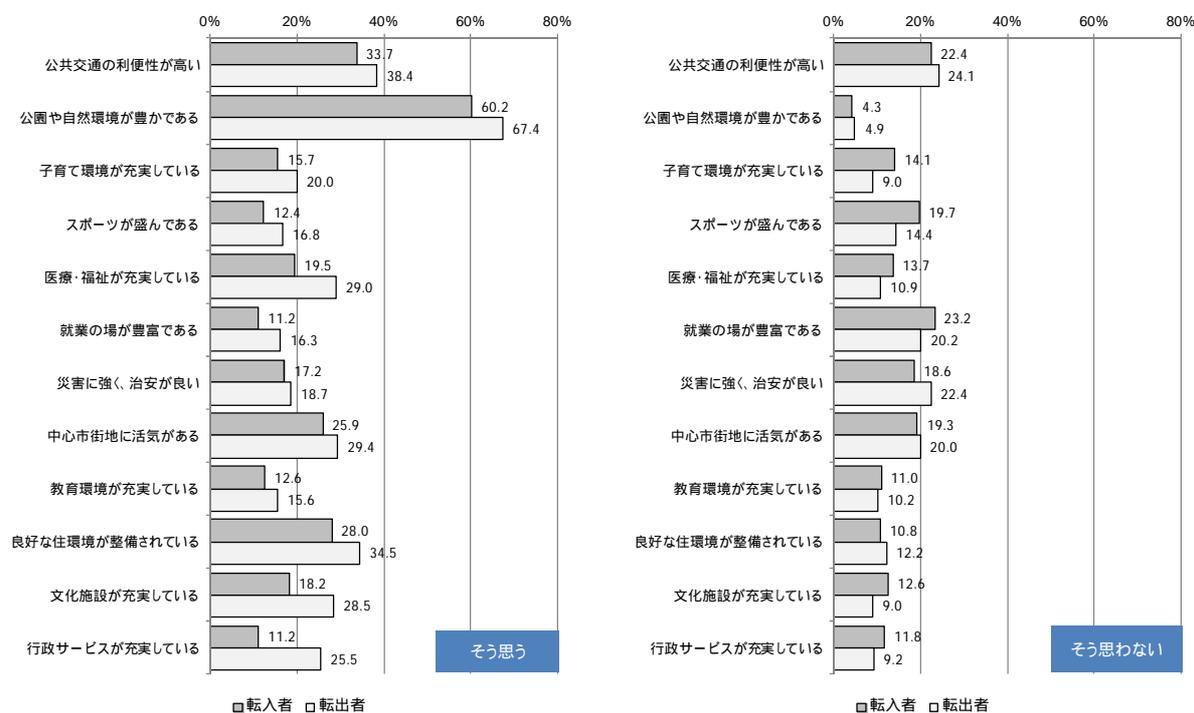


## 本市のイメージ

同じ設問を用い、転入者には転入前に本市に持っていたイメージを、転出者には実際に生活をして感じた本市のイメージを尋ねたところ、本市は、公園や自然環境が豊かであるというイメージが強い結果となった。その一方で、「就業の場が豊富である」及び「災害に強く治安が良い」というイメージはあまり持たれていない結果となった。

転入者と転出者の回答結果を比較すると、全ての項目で転入者よりも転出者のほうが肯定的なイメージを持っており、(「そう思う」という回答が転入者よりも転出者のほうが上回る結果となっている。)住むことで本市の良さが実感できていることがうかがえる。

図表 5-6 転入者及び転出者の本市イメージ



## **第 3 部**

### **相模原市の将来世帯推計**

# 1. 相模原市の将来世帯推計

## 1. 推計の枠組み

### (1) 推計期間

推計期間は、2010（平成 22）年～2035（平成 47）年の 5 年毎の 25 年間とした。

### (2) 推計方法

本推計には世帯主率法を用いた。世帯主率法とは、世帯数が世帯主率に等しいことを利用して、人口に世帯主率（人口に占める世帯主の割合）を乗じることで、世帯主数、すなわち世帯数を求めるという手法である。

図表 1-1 人口と世帯数の関係式

$$\text{世帯数} = \text{世帯主数} = \text{人口} \times \text{世帯主率（人口に占める世帯主数の割合）}$$

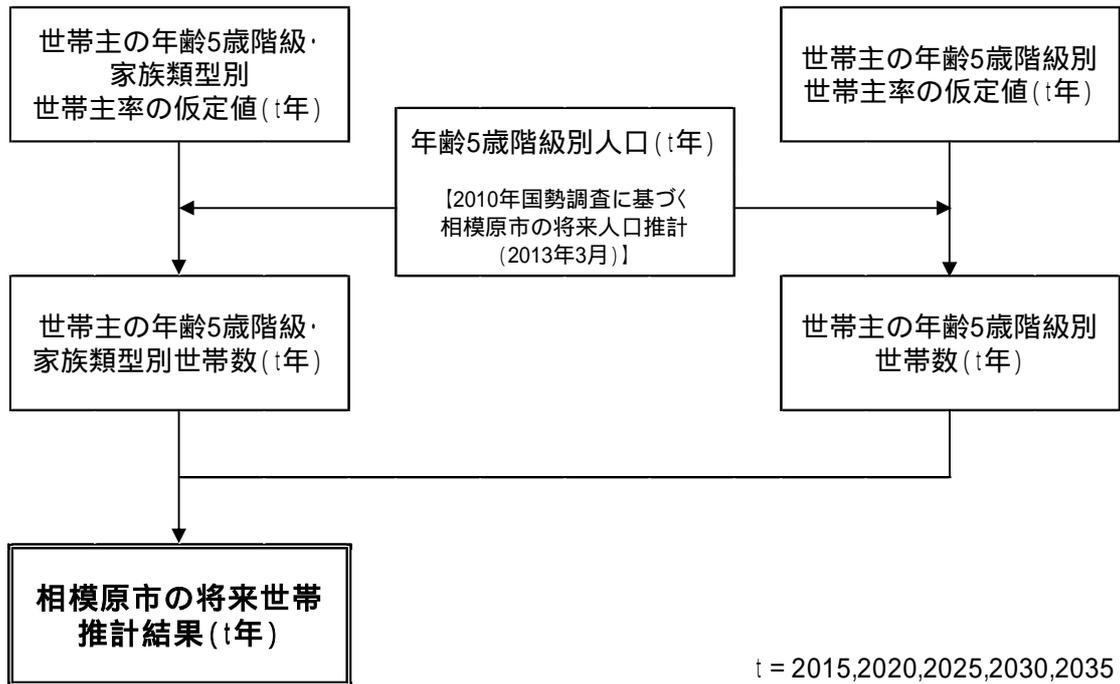
人口と世帯数との関係は図表 1-1 の式で表現でき、将来の人口と将来の世帯主率を掛け合わせれば、将来の世帯数が得られることになる。将来の世帯数を得るために必要な将来の人口と世帯主率のうち、人口はさがみはら都市みらい研究所が 2012（平成 24）年に実施した既存推計を利用することとし、本推計では将来の世帯主率について仮定値を設定する。

将来の世帯主率の仮定値設定においては、1995（平成 7）年～2010（平成 22）年国勢調査の結果から傾向を推測し、将来の世帯主率を設定した。

本推計では、世帯主率を世帯主の年齢 5 歳階級別・家族類型別に区分して扱う。家族類型は「単独世帯」、「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」、「ひとり親と子供から成る世帯」、「その他の一般世帯」の 5 類型である。

また、総世帯数と家族類型別の世帯数でそれぞれ推計を行い、家族類型別の世帯数の合計が、総世帯数に一致するように補正した。本推計の枠組みは図表 1-2 のフローチャートの通りである。

図表 1-2 推計の枠組み



### (3) 基準世帯数・人口等

本推計の対象は国勢調査における一般世帯数であり、推計の起点となる基準世帯数と基準人口はそれぞれ、国勢調査による2010（平成22）年10月1日現在の世帯主の年齢5歳階級・家族類型別一般世帯数、年齢5歳階級別総人口である。

年齢不詳人口は男女・年齢5歳階級別に按分して含めた。また、2010（平成22）年国勢調査から一般世帯数に家族類型不詳の世帯数が含まれるようになったため、これについても年齢5歳階級・家族類型別に按分して含めた。

なお、本推計は合併前の旧津久井郡4町（現在の城山地区・津久井地区・相模湖地区・藤野地区）の世帯主の男女・年齢5歳階級・家族類型別一般世帯数の調査結果が得られないため男女総数で行った。

将来人口として利用するのは、既存推計で推計した人口である。

#### (4) 将来の世帯主率仮定値の設定

世帯主率法を用いて将来の世帯数を求めるためには、将来の世帯主率を仮定する必要がある。

将来の世帯主率は 1995（平成 7）年～2010（平成 22）年の年齢 5 歳階級・家族類型別世帯主率の実績値から、近似曲線を求め、その近似曲線から得られた関数により算出した。

近似曲線については、過去の伸び率が徐々に低くなっていることから、これまでの趨勢は続くものの、変化の度合いは次第に収束していくという前提に立ち、対数曲線を用いた。なお、対数曲線の当てはまりが良くない場合は、変動パターンに応じて次のように設定した。

図表 1-3 対数曲線の変動パターンによる将来の動向の設定方法

過去の動向	将来の動向
: 過去 15 年間（5 年ごと 3 期間）に一貫して減少している	2010 年の値で固定する
: 過去 15 年間（5 年ごと 3 期間）に一貫して増加している	2010 年の値で固定する
: 上記以外	実績値の平均値で固定する

#### (5) 1 世帯当たりの人員の算出

1 世帯当たりの人員は「一般世帯人員 ÷ 一般世帯数」によって算出できる。

しかし、世帯推計に使用する将来推計人口には一般世帯人員に加えて施設等の世帯人員が含まれているため、平均世帯人員を算出するには将来の一般世帯人員を別途求める必要がある。

本推計では 2010（平成 22）年国勢調査から得られる総人口に対する一般世帯人員の割合が将来にわたって維持されると仮定し、その割合を使って既存推計で推計した人口から将来の一般世帯人員を算出した。

## 2. 推計結果の概要

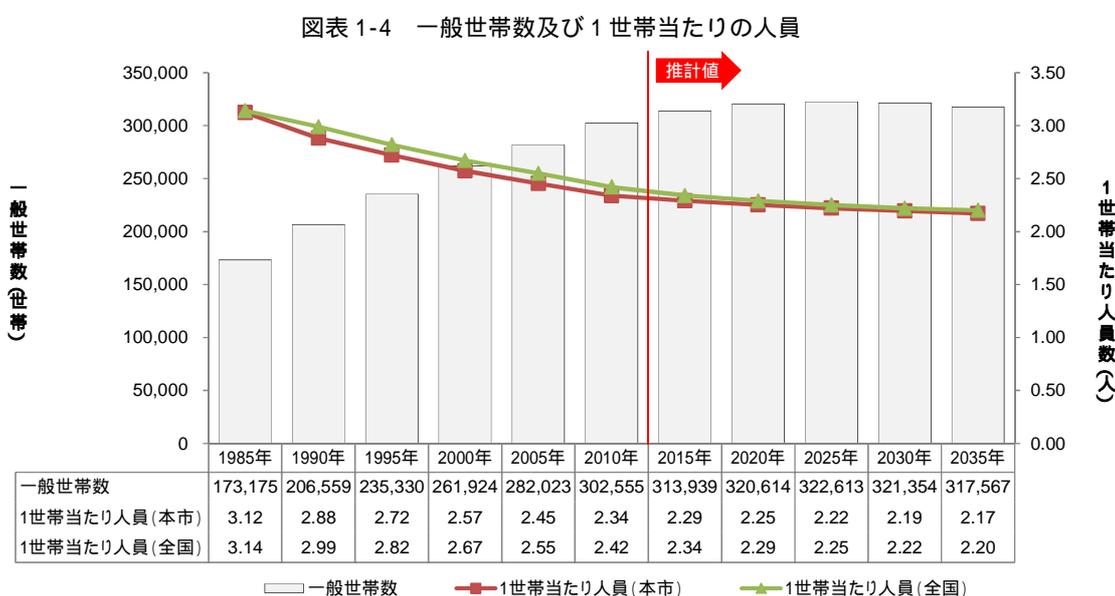
### (1) 一般世帯数と1世帯当たりの人員

図表 1-4 は推計結果を含む本市の一般世帯数と1世帯当たり人員の推移を示したグラフである。

一般世帯数は、2010（平成 22）年の 302,555 世帯から増加して、2025（平成 37）年に 322,613 世帯でピークを迎え、2035（平成 47）年には 317,567 世帯となる。25 年間で 15,012 世帯の増加（増加率 5.0%）が見込まれる。

既存推計において、人口は 2019（平成 32）年にピークを迎えるとしているが、一般世帯数はその後も増加を続け、2025（平成 37）年の 322,613 世帯をピークに減少に転じるという推計結果となった。

また、1世帯当たりの人員は、1985（昭和 60）年から減少を続けているが、将来推計においても 2010（平成 22）年の 2.34 人から 2035（平成 47）年には 2.17 人まで減少する結果となった。



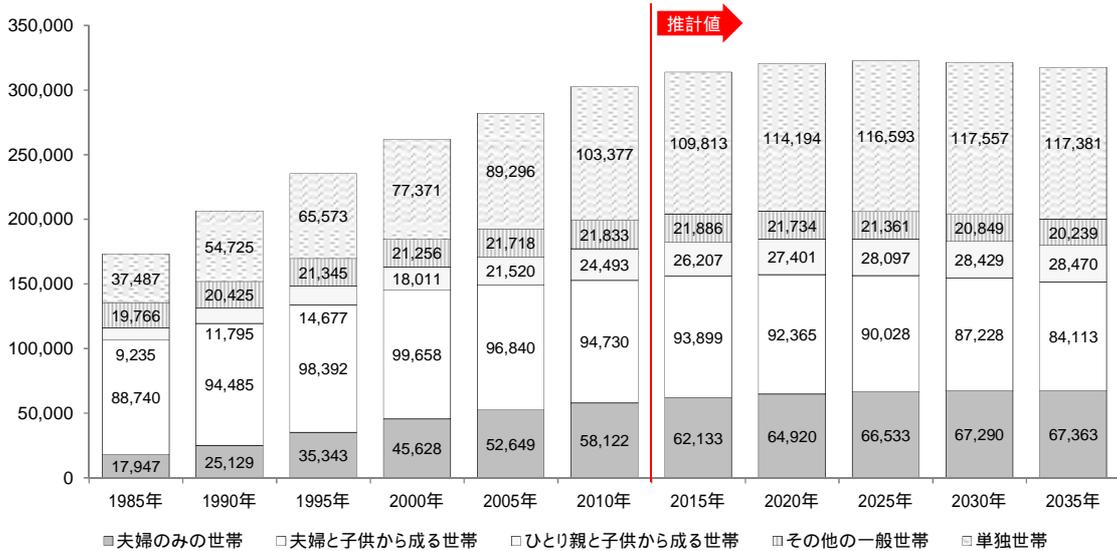
### (2) 家族類型別一般世帯数及び割合

図表 1-5 は家族類型別一般世帯数の推移を示したグラフである。

「夫婦のみの世帯」、「ひとり親と子供から成る世帯」及び「単独世帯」は 2010（平成 22）年より増加しているが、「夫婦と子供から成る世帯」及び「その他の一般世帯」は 2010（平成 22）年より減少に転じている。

2010（平成 22）年から 2035（平成 47）年までの 25 年間で、「夫婦のみの世帯」は 9,241 世帯の増加（増加率 15.9%）、「ひとり親と子供から成る世帯」は 3,977 世帯の増加（増加率 16.2%）、「単独世帯」は 14,004 世帯の増加（増加率 13.5%）となっている。一方、「夫婦と子供から成る世帯」は 10,617 世帯の減少（減少率 11.2%）、「その他の一般世帯」は 1,594 世帯の減少（減少率 7.3%）となっている。

図表 1-5 家族類型別一般世帯数の推移



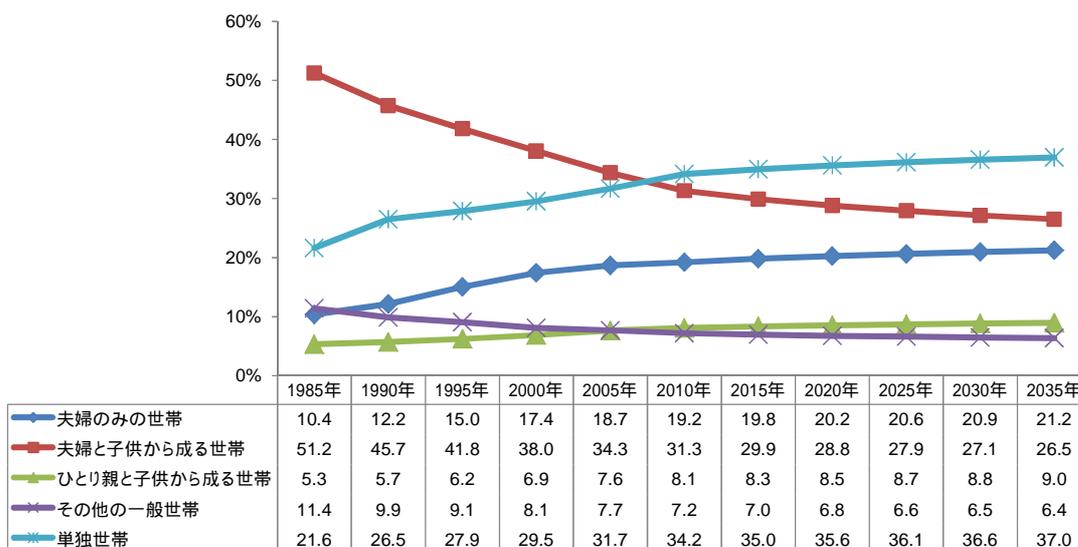
	実数						増加数					
	総数	夫婦のみの世帯	か夫婦と成る世帯	かひとり成る世帯	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫婦と成る世帯	かひとり成る世帯	その他の一般世帯	単独世帯
1985年	173,175	17,947	88,740	9,235	19,766	37,487	-	-	-	-	-	-
1990年	206,559	25,129	94,485	11,795	20,425	54,725	33,384	7,182	5,745	2,560	659	17,238
1995年	235,330	35,343	98,392	14,677	21,345	65,573	28,771	10,214	3,907	2,882	920	10,848
2000年	261,924	45,628	99,658	18,011	21,256	77,371	26,594	10,285	1,266	3,334	-89	11,798
2005年	282,023	52,649	96,840	21,520	21,718	89,296	20,099	7,021	-2,818	3,509	462	11,925
2010年	302,555	58,122	94,730	24,493	21,833	103,377	20,532	5,473	-2,110	2,973	115	14,081
2015年	313,939	62,133	93,899	26,207	21,886	109,813	11,384	4,011	-831	1,714	53	6,436
2020年	320,614	64,920	92,365	27,401	21,734	114,194	6,675	2,787	-1,534	1,194	-152	4,381
2025年	322,613	66,533	90,028	28,097	21,361	116,593	1,999	1,613	-2,337	696	-373	2,399
2030年	321,354	67,290	87,228	28,429	20,849	117,557	-1,259	757	-2,800	332	-512	964
2035年	317,567	67,363	84,113	28,470	20,239	117,381	-3,787	73	-3,115	41	-610	-176
1985年 2010年	-	-	-	-	-	-	129,380	40,175	5,990	15,258	2,067	65,890
2010年 2035年	-	-	-	-	-	-	15,012	9,241	-10,617	3,977	-1,594	14,004

図表 1-6 は家族類型別一般世帯数の一般世帯総数に対する割合を示したグラフである。

1985 (昭和 60) 年以降、「単独世帯」の割合が大きく上昇しており、2005 (平成 17) 年には 30% を超え、2035 (平成 47) 年には 37.0% に達する。また、「夫婦のみの世帯」及び「ひとり親と子供から成る世帯」も 2035 (平成 47) 年まで緩やかに上昇を続ける結果となった。

その一方で、「夫婦と子供から成る世帯」は 1985 (昭和 60) 年には過半数を占めていた家族類型であるが、年々減少を続け、2010 (平成 22) 年には、「単独世帯」の割合の方が高くなる。また、2015 (平成 27) 年には 30% を下回り、2035 (平成 47) 年には 26.5% まで減少し、1985 (昭和 60) 年と比べて総世帯に占める割合が半分になる結果となった。また、「その他の一般世帯」も 1985 (昭和 60) 年から減少を続け、核家族化が進み、世帯の多様性が減ってきていることがわかる。

図表 1-6 家族類型別一般世帯数の割合の推移



### (3)世帯主が65歳以上の一般世帯の見通し

#### 世帯数の推移

図表 1-7 は世帯主が 65 歳以上の一般世帯数の推移を示したグラフである。

図表 1-7 を見ると、2010（平成 22）年に 79,287 世帯であった世帯主が 65 歳以上の一般世帯数は、2035（平成 47）年には 132,237 世帯となり、25 年間で 52,950 世帯の増加（増加率 66.8%）となった。また、一般世帯総数（市全体）に占める割合は、1995（平成 7）年においては 11.5%であったものの、2010（平成 22）年には 26.2%となり、2035（平成 47）年には 41.6%まで上昇する見込みである。

家族類型別に見ると、どの家族類型も 2010（平成 22）年より世帯数が増加している。最も増加するのは「単独世帯」で 23,091 世帯の増加（増加率 104.7%）となり、増加率も一番高い。「夫婦のみの世帯」は 10,947 世帯の増加（増加率 38.2%）、「夫婦と子供から成る世帯」は 9,739 世帯の増加（増加率 61.7%）、「ひとり親と子供から成る世帯」は 5,839 世帯の増加（増加率 90.2%）、「その他の一般世帯」は 3,332 世帯の増加（増加率 53.1%）となっている。

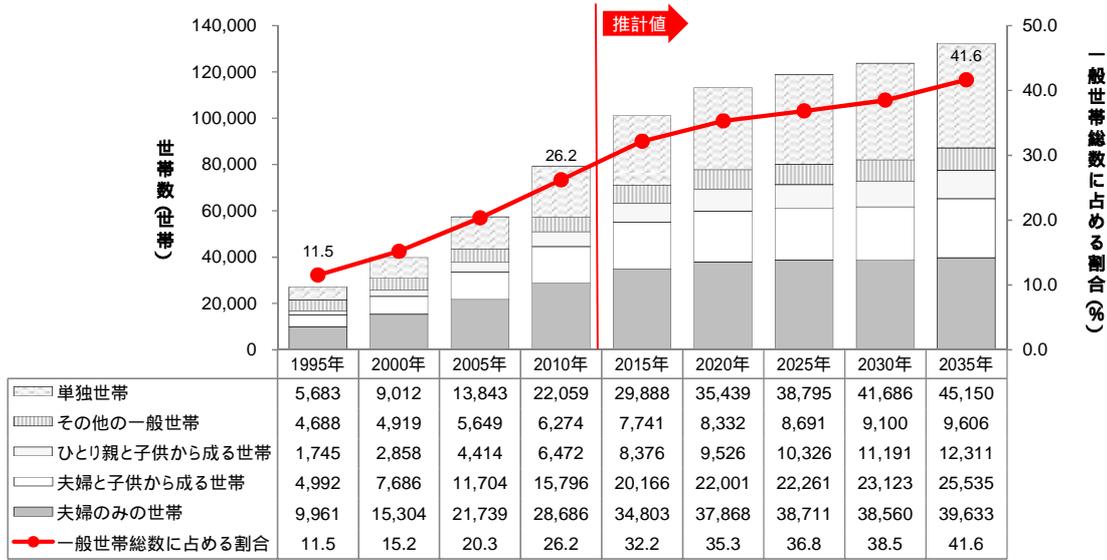
#### 構成比の推移

図表 1-8 は世帯主が 65 歳以上の一般世帯における家族類型別構成比の推移を示したグラフである。

図表 1-8 を見ると、「ひとり親と子供から成る世帯」及び「単独世帯」は上昇を続け、「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」及び「その他の世帯」は 2010（平成 22）年と比べて割合が減少する結果となっている。

また、2010（平成 22）年では「夫婦のみの世帯」が最も多い家族類型、次いで「単独世帯」であったが、2025（平成 37）年には逆転し、「単独世帯」が最も多い家族類型となっている。

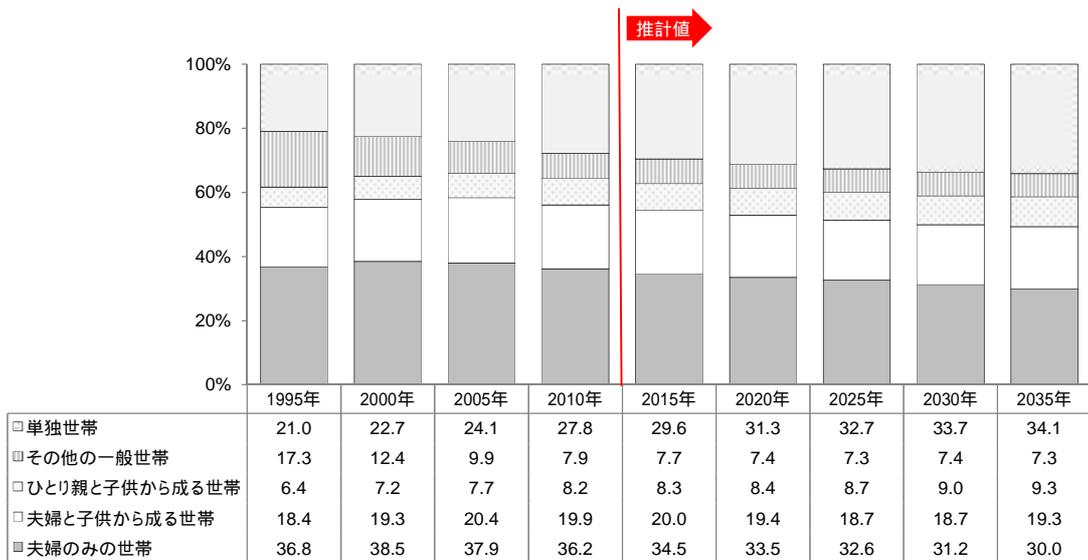
図表 1-7 世帯主が 65 歳以上の一般世帯数の推移



	実数(世帯)						世帯分類別一般世帯総数に占める割合(%)					
	総数	夫婦のみの世帯	か夫婦と子供から成る世帯	かひと成る親と子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫婦と子供から成る世帯	かひと成る親と子供	その他の一般世帯	単独世帯
1995年	27,069	9,961	4,992	1,745	4,688	5,683	11.5	28.2	5.1	11.9	22.0	8.7
2000年	39,779	15,304	7,686	2,858	4,919	9,012	15.2	33.5	7.7	15.9	23.1	11.6
2005年	57,349	21,739	11,704	4,414	5,649	13,843	20.3	41.3	12.1	20.5	26.0	15.5
2010年	79,287	28,686	15,796	6,472	6,274	22,059	26.2	49.4	16.7	26.4	28.7	21.3
2015年	100,977	34,803	20,166	8,376	7,741	29,888	32.2	56.0	21.5	32.0	35.4	27.2
2020年	113,164	37,868	22,001	9,526	8,332	35,439	35.3	58.3	23.8	34.8	38.3	31.0
2025年	118,786	38,711	22,261	10,326	8,691	38,795	36.8	58.2	24.7	36.8	40.7	33.3
2030年	123,660	38,560	23,123	11,191	9,100	41,686	38.5	57.3	26.5	39.4	43.6	35.5
2035年	132,237	39,633	25,535	12,311	9,606	45,150	41.6	58.8	30.4	43.2	47.5	38.5

	増加数(世帯)						増加率(%)					
	総数	夫婦のみの世帯	か夫婦と子供から成る世帯	かひと成る親と子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫婦と子供から成る世帯	かひと成る親と子供	その他の一般世帯	単独世帯
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2000年	12,710	5,343	2,694	1,113	231	3,329	47.0	53.6	54.0	63.8	4.9	58.6
2005年	17,570	6,435	4,018	1,556	730	4,831	44.2	42.0	52.3	54.4	14.8	53.6
2010年	21,938	6,947	4,092	2,058	625	8,216	38.3	32.0	35.0	46.6	11.1	59.4
2015年	21,690	6,117	4,370	1,904	1,467	7,829	27.4	21.3	27.7	29.4	23.4	35.5
2020年	12,187	3,065	1,835	1,150	591	5,551	12.1	8.8	9.1	13.7	7.6	18.6
2025年	5,622	843	260	800	359	3,356	5.0	2.2	1.2	8.4	4.3	9.5
2030年	4,874	-151	862	865	409	2,891	4.1	-0.4	3.9	8.4	4.7	7.5
2035年	8,577	1,073	2,412	1,120	506	3,464	6.9	2.8	10.4	10.0	5.6	8.3
1995年 2010年	52,218	18,725	10,804	4,727	1,586	16,376	192.9	188.0	216.4	270.9	33.8	288.2
2010年 2035年	52,950	10,947	9,739	5,839	3,332	23,091	66.8	38.2	61.7	90.2	53.1	104.7

図表 1-8 世帯主が 65 歳以上の一般世帯における構成比の推移



#### (4) 世帯主が75歳以上の一般世帯の見通し

##### 世帯数の推移

図表 1-9 は世帯主が 75 歳以上の一般世帯数の推移を示したグラフである。

図表 1-9 を見ると、2010(平成 22)年に 28,921 世帯であった世帯主が 75 歳以上の世帯数は、2030(平成 42)年の 74,547 世帯をピークに減少に転じ、2035(平成 47)年には 73,635 世帯となる見込みであり、25 年間で 44,714 世帯の増加(増加率 154.6%)となった。

また、一般世帯総数(市全体)に占める割合は、1995(平成 7)年においては 3.3%であったものの、2010(平成 22)年には 9.6%となり、2035(平成 47)年には 23.2%まで上昇する見込みである。

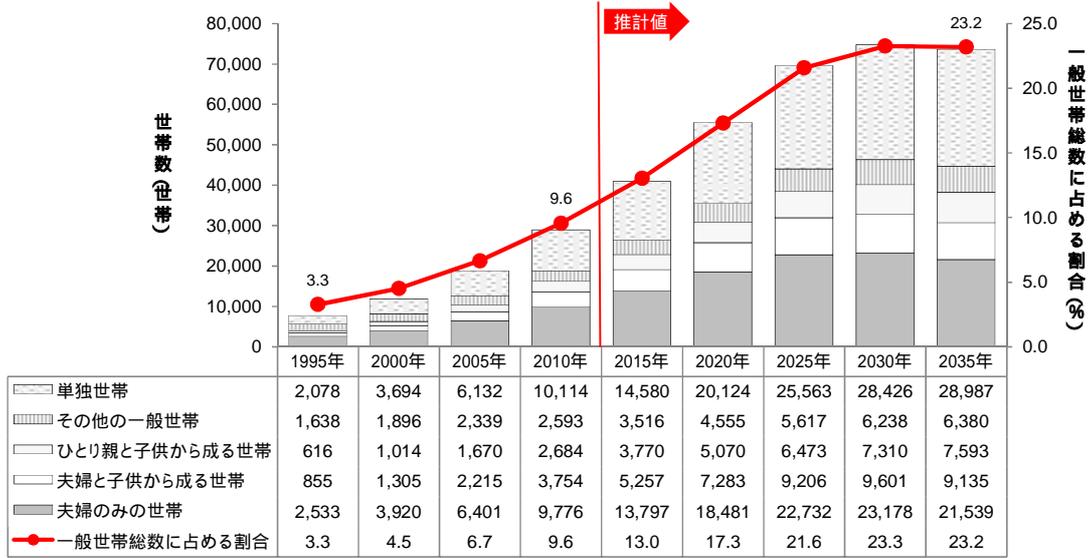
家族類型別に見ると、どの家族類型も 2010(平成 22)年より世帯数が増加している。最も増加するのは「単独世帯」で 18,873 世帯の増加(増加率 186.6%)となる。「夫婦のみの世帯」は 11,763 世帯の増加(増加率 120.3%)、「夫婦と子供から成る世帯」は 5,381 世帯の増加(増加率 143.3%)、「ひとり親と子供から成る世帯」は 4,909 世帯の増加(増加率 182.9%)、「その他の一般世帯」は 3,787 世帯の増加(増加率 146.0%)となっている。

##### 構成比の推移

図表 1-10 は世帯主が 75 歳以上の一般世帯における家族類型別構成比の推移を示したグラフである。

図表 1-10 を見ると、世帯主が 65 歳以上の一般世帯同様、「ひとり親と子供から成る世帯」及び「単独世帯」は上昇を続け、「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」及び「その他の世帯」は 2010(平成 22)年と比べて割合が減少する結果となっている。

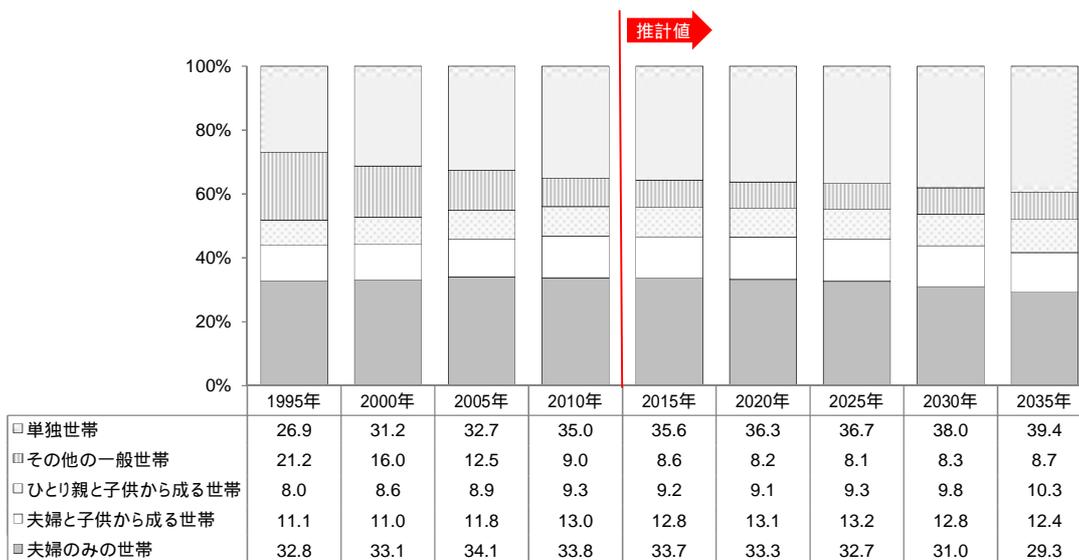
図表 1-9 世帯主が 75 歳以上の一般世帯数の推移



	実数(世帯)						世帯分類別一般世帯総数に占める割合(%)					
	総数	夫婦のみの世帯	から夫婦と子供成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	から夫婦と子供成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯	その他の一般世帯	単独世帯
1995年	7,720	2,533	855	616	1,638	2,078	3.3	7.2	0.9	4.2	7.7	3.2
2000年	11,829	3,920	1,305	1,014	1,896	3,694	4.5	8.6	1.3	5.6	8.9	4.8
2005年	18,757	6,401	2,215	1,670	2,339	6,132	6.7	12.2	2.3	7.8	10.8	6.9
2010年	28,921	9,776	3,754	2,684	2,593	10,114	9.6	16.8	4.0	11.0	11.9	9.8
2015年	40,922	13,797	5,257	3,770	3,516	14,580	13.0	22.2	5.6	14.4	16.1	13.3
2020年	55,511	18,481	7,283	5,070	4,555	20,124	17.3	28.5	7.9	18.5	21.0	17.6
2025年	69,592	22,732	9,206	6,473	5,617	25,563	21.6	34.2	10.2	23.0	26.3	21.9
2030年	74,754	23,178	9,601	7,310	6,238	28,426	23.3	34.4	11.0	25.7	29.9	24.2
2035年	73,635	21,539	9,135	7,593	6,380	28,987	23.2	32.0	10.9	26.7	31.5	24.7

	増加数(世帯)						増加率(%)					
	総数	夫婦のみの世帯	から夫婦と子供成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	から夫婦と子供成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯	その他の一般世帯	単独世帯
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2000年	4,109	1,387	450	398	258	1,616	53.2	54.8	52.6	64.6	15.8	77.8
2005年	6,928	2,481	910	656	443	2,438	58.6	63.3	69.7	64.7	23.4	66.0
2010年	10,164	3,375	1,539	1,014	254	3,982	54.2	52.7	69.5	60.7	10.9	64.9
2015年	12,001	4,021	1,503	1,086	923	4,466	41.5	41.1	40.0	40.5	35.6	44.2
2020年	14,589	4,684	2,026	1,300	1,039	5,544	35.7	33.9	38.5	34.5	29.6	38.0
2025年	14,081	4,251	1,923	1,403	1,062	5,439	25.4	23.0	26.4	27.7	23.3	27.0
2030年	5,162	446	395	837	621	2,863	7.4	2.0	4.3	12.9	11.1	11.2
2035年	-1,119	-1,639	-466	283	142	561	-1.5	-7.1	-4.9	3.9	2.3	2.0
1995年 2010年	21,201	7,243	2,899	2,068	955	8,036	274.6	285.9	339.1	335.7	58.3	386.7
2010年 2035年	44,714	11,763	5,381	4,909	3,787	18,873	154.6	120.3	143.3	182.9	146.0	186.6

図表 1-10 世帯主が 75 歳以上の一般世帯における構成比の推移



(5)統計表

年齢	一般世帯数							構成比(%)					
	総数	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯
			総数	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と 子供から成る 世帯			総数	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と 子供から成る 世帯	
<b>2010年(実績値)</b>													
総数	302,555	103,377	177,345	58,122	94,730	24,493	21,833	34.2	58.6	19.2	31.3	8.1	7.2
15歳未満	32	24	2	0	0	2	6	75.0	6.3	-	-	6.3	18.8
15～19歳	3,748	3,657	34	6	15	13	57	97.6	0.9	0.2	0.4	0.3	1.5
20～24歳	14,861	12,984	947	274	486	187	930	87.4	6.4	1.8	3.3	1.3	6.3
25～29歳	18,725	12,060	5,535	2,155	2,809	571	1,130	64.4	29.6	11.5	15.0	3.0	6.0
30～34歳	23,001	9,777	12,192	3,414	7,733	1,045	1,032	42.5	53.0	14.8	33.6	4.5	4.5
35～39歳	29,057	9,513	18,264	3,439	12,653	2,172	1,280	32.7	62.9	11.8	43.5	7.5	4.4
40～44歳	28,920	8,095	19,320	3,025	13,387	2,908	1,505	28.0	66.8	10.5	46.3	10.1	5.2
45～49歳	25,835	6,367	17,532	2,466	12,059	3,007	1,936	24.6	67.9	9.5	46.7	11.6	7.5
50～54歳	22,574	5,227	15,210	2,236	10,199	2,775	2,137	23.2	67.4	9.9	45.2	12.3	9.5
55～59歳	25,740	6,387	16,670	4,070	9,974	2,626	2,683	24.8	64.8	15.8	38.7	10.2	10.4
60～64歳	30,775	7,227	20,685	8,351	9,619	2,715	2,863	23.5	67.2	27.1	31.3	8.8	9.3
65～69歳	28,036	6,537	19,378	9,961	7,294	2,123	2,121	23.3	69.1	35.5	26.0	7.6	7.6
70～74歳	22,330	5,408	15,362	8,949	4,748	1,665	1,560	24.2	68.8	40.1	21.3	7.5	7.0
75～79歳	15,092	4,589	9,362	5,767	2,412	1,183	1,141	30.4	62.0	38.2	16.0	7.8	7.6
80～84歳	8,911	3,285	4,759	2,923	990	846	867	36.9	53.4	32.8	11.1	9.5	9.7
85歳以上	4,918	2,240	2,093	1,086	352	655	585	45.5	42.6	22.1	7.2	13.3	11.9
(再掲)													
65歳以上	79,287	22,059	50,954	28,686	15,796	6,472	6,274	27.8	64.3	36.2	19.9	8.2	7.9
75歳以上	28,921	10,114	16,214	9,776	3,754	2,684	2,593	35.0	56.1	33.8	13.0	9.3	9.0

年齢	一般世帯数							構成比(%)					
	総数	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯
			総数	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と 子供から成る 世帯			総数	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と 子供から成る 世帯	
<b>2015年(推計値)</b>													
総数	313,939	109,813	182,238	62,133	93,899	26,207	21,886	35.0	58.0	19.8	29.9	8.3	7.0
15歳未満	10	7	1	0	0	1	2	70.0	10.0	-	-	10.0	20.0
15～19歳	3,551	3,462	40	10	17	13	49	97.5	1.1	0.3	0.5	0.4	1.4
20～24歳	13,691	11,815	840	217	453	170	1,035	86.3	6.1	1.6	3.3	1.2	7.6
25～29歳	15,938	10,328	4,545	1,653	2,499	393	1,065	64.8	28.5	10.4	15.7	2.5	6.7
30～34歳	20,479	9,292	10,285	2,875	6,515	895	903	45.4	50.2	14.0	31.8	4.4	4.4
35～39歳	24,508	8,586	14,833	2,993	9,960	1,880	1,090	35.0	60.5	12.2	40.6	7.7	4.4
40～44歳	30,915	9,364	19,962	3,348	13,437	3,177	1,589	30.3	64.6	10.8	43.5	10.3	5.1
45～49歳	30,275	8,186	20,130	2,989	13,607	3,534	1,960	27.0	66.5	9.9	44.9	11.7	6.5
50～54歳	26,210	6,730	17,178	2,602	11,275	3,301	2,302	25.7	65.5	9.9	43.0	12.6	8.8
55～59歳	22,237	5,717	14,410	4,127	7,979	2,304	2,110	25.7	64.8	18.6	35.9	10.4	9.5
60～64歳	25,148	6,439	16,669	6,516	7,990	2,163	2,040	25.6	66.3	25.9	31.8	8.6	8.1
65～69歳	31,912	8,060	21,561	10,542	8,592	2,427	2,291	25.3	67.6	33.0	26.9	7.6	7.2
70～74歳	28,143	7,248	18,960	10,464	6,317	2,179	1,934	25.8	67.4	37.2	22.4	7.7	6.9
75～79歳	20,684	6,490	12,744	7,827	3,313	1,604	1,449	31.4	61.6	37.8	16.0	7.8	7.0
80～84歳	12,789	4,625	7,004	4,435	1,432	1,137	1,159	36.2	54.8	34.7	11.2	8.9	9.1
85歳以上	7,449	3,465	3,076	1,535	512	1,029	908	46.5	41.3	20.6	6.9	13.8	12.2
(再掲)													
65歳以上	100,977	29,888	63,345	34,803	20,166	8,376	7,741	29.6	62.7	34.5	20.0	8.3	7.7
75歳以上	40,922	14,580	22,824	13,797	5,257	3,770	3,516	35.6	55.8	33.7	12.8	9.2	8.6

年齢	一般世帯数							構成比(%)					
	総数	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯
			総数	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と 子供から成る 世帯			総数	夫婦のみ の世帯	夫婦と子供 から成る世帯	ひとり親と 子供から成る 世帯	
<b>2020年(推計値)</b>													
総数	320,614	114,194	184,687	64,920	92,365	27,401	21,734	35.6	57.6	20.2	28.8	8.5	6.8
15歳未満	9	6	1	0	0	1	2	66.7	11.1	-	-	11.1	22.2
15～19歳	3,337	3,251	37	9	16	12	48	97.4	1.1	0.3	0.5	0.4	1.4
20～24歳	12,654	10,841	749	175	421	153	1,064	85.7	5.9	1.4	3.3	1.2	8.4
25～29歳	15,481	10,044	4,337	1,500	2,463	374	1,101	64.9	28.0	9.7	15.9	2.4	7.1
30～34歳	17,248	8,081	8,357	2,320	5,299	738	809	46.9	48.5	13.5	30.7	4.3	4.7
35～39歳	21,555	7,837	12,791	2,720	8,399	1,672	927	36.4	59.3	12.6	39.0	7.8	4.3
40～44歳	25,280	8,034	16,035	2,793	10,657	2,585	1,211	31.8	63.4	11.0	42.2	10.2	4.8
45～49歳	32,590	9,287	21,501	3,313	14,377	3,811	1,801	28.5	66.0	10.2	44.1	11.7	5.5
50～54歳	30,871	8,534	20,169	3,124	13,076	3,969	2,167	27.6	65.3	10.1	42.4	12.9	7.0
55～59歳	26,302	7,017	16,775	5,351	8,757	2,667	2,511	26.7	63.8	20.3	33.3	10.1	9.5
60～64歳	22,122	5,822	14,540	5,748	6,900	1,892	1,760	26.3	65.7	26.0	31.2	8.6	8.0
65～69歳	26,245	7,062	17,449	8,107	7,337	2,005	1,734	26.9	66.5	30.9	28.0	7.6	6.6
70～74歳	31,408	8,253	21,112	11,280	7,381	2,451	2,043	26.3	67.2	35.9	23.5	7.8	6.5
75～79歳	26,598	8,445	16,482	9,975	4,473	2,034	1,672	31.8	62.0	37.5	16.8	7.6	6.3
80～84歳	17,805	6,426	9,861	6,282	2,044	1,535	1,519	36.1	55.4	35.3	11.5	8.6	8.5
85歳以上	11,108	5,253	4,491	2,224	766	1,501	1,364	47.3	40.4	20.0	6.9	13.5	12.3
(再掲)													
65歳以上	113,164	35,439	69,395	37,868	22,001	9,526	8,332	31.3	61.3	33.5	19.4	8.4	7.4
75歳以上	55,511	20,124	30,834	18,481	7,283	5,070	4,555	36.3	55.5	33.3	13.1	9.1	8.2

年齢	一般世帯数							構成比(%)						
	総数	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	
			総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯			総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯		
	<b>2025年(推計値)</b>													
総数	322,613	116,593	184,659	66,533	90,028	28,097	21,361	36.1	57.2	20.6	27.9	8.7	6.6	
15歳未満	8	6	1	0	0	0	1	2	75.0	12.5	-	-	12.5	25.0
15～19歳	3,218	3,133	37	9	16	12	4	97.4	1.1	0.3	0.5	0.4	1.5	
20～24歳	11,866	10,074	690	146	403	141	1,102	84.9	5.8	1.2	3.4	1.2	9.3	
25～29歳	14,296	9,229	3,985	1,316	2,328	341	1,081	64.6	27.9	9.2	16.3	2.4	7.6	
30～34歳	15,790	7,534	7,470	2,061	4,744	665	785	47.7	47.3	13.1	30.0	4.2	5.0	
35～39歳	18,999	7,070	11,134	2,434	7,208	1,492	796	37.2	58.6	12.8	37.9	7.9	4.2	
40～44歳	21,889	7,137	13,770	2,469	9,071	2,230	982	32.6	62.9	11.3	41.4	10.2	4.5	
45～49歳	26,861	7,874	17,568	2,797	11,698	3,073	1,419	29.3	65.4	10.4	43.6	11.4	5.3	
50～54歳	33,419	9,643	21,728	3,429	13,958	4,341	2,048	28.9	65.0	10.3	41.8	13.0	6.1	
55～59歳	31,205	9,070	19,785	6,329	10,216	3,240	2,351	29.1	63.4	20.3	32.7	10.4	7.5	
60～64歳	26,275	7,027	17,193	6,833	8,125	2,235	2,055	26.7	65.4	26.0	30.9	8.5	7.8	
65～69歳	23,285	6,360	15,486	7,004	6,669	1,813	1,439	27.3	66.5	30.1	28.6	7.8	6.2	
70～74歳	25,909	6,872	17,401	8,975	6,386	2,040	1,635	26.5	67.2	34.6	24.6	7.9	6.3	
75～79歳	30,254	9,685	18,837	11,188	5,342	2,307	1,732	32.0	62.3	37.0	17.7	7.6	5.7	
80～84歳	23,246	8,271	13,087	8,392	2,746	1,949	1,888	35.6	56.3	36.1	11.8	8.4	8.1	
85歳以上	16,092	7,607	6,487	3,152	1,118	2,217	1,997	47.3	40.3	19.6	6.9	13.8	12.4	
(再掲)														
65歳以上	118,786	38,795	71,298	38,711	22,261	10,326	8,691	32.7	60.0	32.6	18.7	8.7	7.3	
75歳以上	69,592	25,563	38,411	22,732	9,206	6,473	5,617	36.7	55.2	32.7	13.2	9.3	8.1	

年齢	一般世帯数							構成比(%)						
	総数	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	
			総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯			総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯		
	<b>2030年(推計値)</b>													
総数	321,354	117,557	182,945	67,290	87,228	28,429	20,849	36.6	56.9	20.9	27.1	8.8	6.5	
15歳未満	8	5	1	0	0	0	1	2	62.5	12.5	-	-	12.5	25.0
15～19歳	2,986	2,905	35	8	15	12	4	97.3	1.2	0.3	0.5	0.4	1.6	
20～24歳	11,642	9,802	670	128	405	137	1,170	84.2	5.8	1.1	3.5	1.2	10.0	
25～29歳	13,627	8,745	3,805	1,201	2,280	324	1,078	64.2	27.9	8.8	16.7	2.4	7.9	
30～34歳	14,203	6,862	6,603	1,808	4,202	593	737	48.3	46.5	12.7	29.6	4.2	5.2	
35～39歳	17,687	6,687	10,286	2,299	6,579	1,408	714	37.8	58.2	13.0	37.2	8.0	4.0	
40～44歳	20,386	6,790	12,745	2,352	8,305	2,088	851	33.3	62.5	11.5	40.7	10.2	4.2	
45～49歳	23,531	7,012	15,403	2,494	10,147	2,762	1,116	29.8	65.5	10.6	43.1	11.7	4.7	
50～54歳	27,982	8,334	18,172	2,907	11,586	3,679	1,475	29.8	64.9	10.4	41.4	13.1	5.3	
55～59歳	34,281	10,269	21,841	7,428	10,846	3,567	2,171	30.0	63.7	21.7	31.6	10.4	6.3	
60～64歳	31,361	8,461	20,510	8,105	9,739	2,666	2,389	27.0	65.4	25.8	31.1	8.5	7.6	
65～69歳	25,684	7,090	17,136	7,550	7,549	2,037	1,458	27.6	66.7	29.4	29.4	7.9	5.7	
70～74歳	23,222	6,170	15,649	7,832	5,973	1,844	1,404	26.6	67.4	33.7	25.7	7.9	6.0	
75～79歳	25,319	8,114	15,903	9,310	4,665	1,928	1,301	32.0	62.8	36.8	18.4	7.6	5.1	
80～84歳	27,024	9,718	15,167	9,533	3,353	2,281	2,139	36.0	56.1	35.3	12.4	8.4	7.9	
85歳以上	22,411	10,594	9,019	4,335	1,583	3,101	2,798	47.3	40.2	19.3	7.1	13.8	12.5	
(再掲)														
65歳以上	123,660	41,686	72,874	38,560	23,123	11,191	9,100	33.7	58.9	31.2	18.7	9.0	7.4	
75歳以上	74,754	28,426	40,089	23,178	9,601	7,310	6,238	38.0	53.6	31.0	12.8	9.8	8.3	

年齢	一般世帯数							構成比(%)						
	総数	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	単独世帯	核家族世帯				その他の一般世帯	
			総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯			総数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯		
	<b>2035年(推計値)</b>													
総数	317,567	117,381	179,944	67,363	84,113	28,470	20,239	37.0	56.7	21.2	26.5	9.0	6.4	
15歳未満	7	5	1	0	0	0	1	2	71.4	14.3	-	-	14.3	28.6
15～19歳	2,702	2,627	31	7	13	11	4	97.2	1.1	0.3	0.5	0.4	1.6	
20～24歳	10,722	8,963	605	106	373	126	1,154	83.6	5.6	1.0	3.5	1.2	10.8	
25～29歳	13,467	8,626	3,728	1,142	2,267	319	1,114	64.1	27.7	8.5	16.8	2.4	8.3	
30～34歳	13,107	6,443	5,952	1,640	3,766	546	711	49.2	45.4	12.5	28.7	4.2	5.4	
35～39歳	16,266	6,287	9,339	2,153	5,866	1,320	638	38.7	57.4	13.2	36.1	8.1	3.9	
40～44歳	19,993	6,842	12,370	2,371	7,925	2,074	782	34.2	61.9	11.9	39.6	10.4	3.9	
45～49歳	21,819	6,683	14,194	2,376	9,256	2,562	942	30.6	65.1	10.9	42.4	11.7	4.3	
50～54歳	24,257	7,484	15,646	2,566	9,833	3,247	1,127	30.9	64.5	10.6	40.5	13.4	4.6	
55～59歳	28,558	8,781	17,912	6,350	8,583	2,979	1,865	30.7	62.7	22.2	30.1	10.4	6.5	
60～64歳	34,431	9,489	22,687	9,019	10,695	2,973	2,255	27.6	65.9	26.2	31.1	8.6	6.5	
65～69歳	30,826	8,733	20,489	8,900	9,101	2,488	1,604	28.3	66.5	28.9	29.5	8.1	5.2	
70～74歳	27,776	7,430	18,723	9,194	7,299	2,230	1,622	26.7	67.4	33.1	26.3	8.0	5.8	
75～79歳	22,709	7,319	14,339	8,336	4,269	1,734	1,051	32.2	63.1	36.7	18.8	7.6	4.6	
80～84歳	22,528	8,223	12,552	7,763	2,868	1,921	1,752	36.5	55.7	34.5	12.7	8.5	7.8	
85歳以上	28,398	13,445	11,376	5,440	1,998	3,938	3,577	47.3	40.1	19.2	7.0	13.9	12.6	
(再掲)														
65歳以上	132,237	45,150	77,479	39,633	25,535	12,311	9,606	34.1	58.6	30.0	19.3	9.3	7.3	
75歳以上	73,635	28,987	38,267	21,539	9,135	7,593	6,380	39.4	52.0	29.3	12.4	10.3	8.7	

## 2. まちづくり区域別の将来世帯推計

### 1. 推計の枠組み

#### (1) 推計期間

市全体の推計と同様に、推計期間は2010（平成22）年～2035（平成47）年の5年毎の25年間とした。

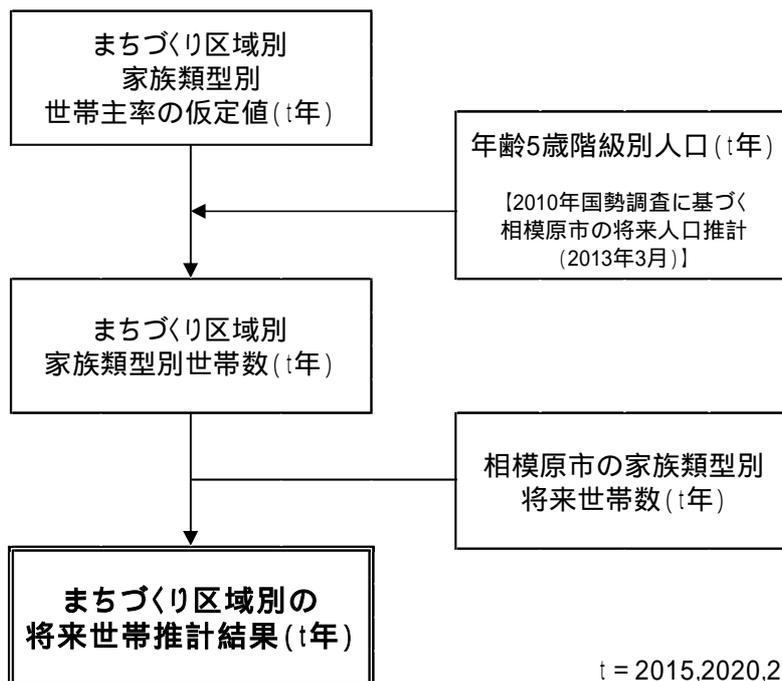
#### (2) 推計方法

市全体の推計と同様に世帯主率法を用いた。将来の世帯主率の仮定値設定においては、1995（平成7）年～2010（平成22）年国勢調査の結果から傾向を推測し、将来の世帯主率を設定した。なお、小山地区・清新地区・横山地区・中央地区・星が丘地区・光が丘地区は2010（平成22）年の政令指定都市移行に伴い、従来の「本庁地区」が分割された地区である。過去の国勢調査では本庁地区という1つの地区として結果が出されており、現在のまちづくり区域別の調査結果が無いため、本推計では上記6つのまちづくり区域は本庁地区として推計を行った。

本推計では、世帯主率を家族類型別に区分して扱う。家族類型は「単独世帯」、「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」、「ひとり親と子供から成る世帯」、「その他の一般世帯」の5類型である。

また、まちづくり区域別の家族類型別一般世帯数の合計が、相模原市全体の推計結果に一致するように補正した。更に各まちづくり区域の結果を合計して、行政区別の推計結果とした。本推計の枠組みは図表2-1のフローチャートの通りである。

図表 2-1 推計の枠組み



### (3) 基準世帯数・人口等

本推計の対象は国勢調査における一般世帯数であり、推計の起点となる基準世帯数と基準人口はそれぞれ、国勢調査による 2010（平成 22）年 10 月 1 日現在の家族類型別一般世帯数、年齢 5 歳階級別総人口である。

年齢不詳人口は男女・年齢 5 歳階級別に按分して含めた。また、2010（平成 22）年国勢調査から一般世帯数に家族類型不詳の世帯数が含まれるようになったため、これについても家族類型別に按分して含めた。

なお、本推計は世帯主の男女・年齢 5 歳階級別一般世帯数の調査結果が得られないため、家族類型別のみで行った。

将来人口として利用するのは、市全体の推計同様、既存推計で推計した人口である。

### (4) 将来の世帯主率仮定値の設定

世帯主率法を用いて将来の世帯数を求めるためには、将来の世帯主率を仮定する必要がある。将来の世帯主率は 1995（平成 7）年～2010（平成 22）年の家族類型別世帯主率の実績値から、近似曲線を求め、その近似曲線から得られた関数により算出した。

近似曲線については、過去の伸び率が徐々に低くなっていることから、これまでの趨勢は続くものの、変化の度合いは次第に収束していくという前提に立ち、対数曲線を用いた。なお、対数曲線の当てはまりが良くない場合は、変動パターンに応じて次のように設定した。

図表 2-2 対数曲線の変動パターンによる将来の動向の設定方法

過去の動向	将来の動向
: 過去 15 年間（5 年ごと 3 期間）に一貫して減少している	2010 年の値で固定する
: 過去 15 年間（5 年ごと 3 期間）に一貫して増加している	2010 年の値で固定する
: 上記以外	実績値の平均値で固定する

### (5) 1 世帯当たりの人員の算出

1 世帯当たりの人員は「一般世帯人員 ÷ 一般世帯数」によって算出できる。しかし、世帯推計に使用する将来推計人口には一般世帯人員に加えて施設等の世帯人員が含まれているため、平均世帯人員を算出するには将来の一般世帯人員を別途求める必要がある。本推計では 2010（平成 22）年国勢調査から得られる総人口に対する一般世帯人員の割合が将来にわたって維持されると仮定し、その割合を使って既存推計で推計した人口から将来の一般世帯人員を算出した。

## 2.推計結果の概要

### (1)一般世帯数の推移

図表 2-3 は市全体とまちづくり区域別の一般世帯数の推移を示した表である。なお、1995（平成 7）年～2005 年（平成 17）年の緑区、中央区、南区の数字は、現在の各区に含まれるまちづくり区域の結果を合計したものである。

図表 2-3 市全体とまちづくり区域別の一般世帯数の推移

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
相模原市	235,330	261,924	282,023	302,555	313,939	320,614	322,613	321,354	317,567
緑区	53,283	58,507	64,914	69,989	72,590	74,056	74,552	74,735	74,717
橋本	20,880	24,440	29,009	32,067	34,164	35,737	36,828	38,124	39,562
大沢	9,099	9,847	11,084	12,032	12,664	13,073	13,214	13,353	13,495
城山	7,200	7,661	8,033	8,916	9,183	9,276	9,226	9,033	8,711
津久井	9,022	9,479	9,655	10,012	9,981	9,755	9,516	8,973	8,275
相模湖	3,789	3,706	3,738	3,606	3,403	3,226	3,009	2,749	2,459
藤野	3,293	3,374	3,395	3,356	3,195	2,989	2,759	2,503	2,215
中央区	85,599	96,355	104,526	112,398	116,107	117,797	117,594	116,279	113,887
本庁	50,184	55,915	59,338	62,741	64,388	64,928	64,429	63,560	62,334
大野北	18,491	21,314	23,930	26,424	27,447	27,928	27,869	27,405	26,550
田名	7,943	8,840	10,091	10,960	11,271	11,387	11,365	11,196	10,880
上溝	8,981	10,286	11,167	12,273	13,001	13,554	13,931	14,118	14,123
南区	96,448	107,062	112,583	120,168	125,242	128,761	130,467	130,338	128,961
大野中	20,210	22,450	24,194	25,386	25,878	25,988	25,735	25,159	24,307
大野南	24,725	28,815	30,834	34,199	37,183	39,377	41,103	42,416	43,388
麻溝	4,883	5,378	5,801	6,334	6,689	7,361	7,825	7,939	7,953
新磯	3,721	4,104	4,279	4,812	5,034	5,345	5,584	5,748	5,858
相模台	17,309	19,210	19,476	20,497	21,392	21,971	22,240	22,214	21,987
相武台	8,590	8,904	9,102	9,202	9,122	8,859	8,437	7,870	7,207
東林	17,010	18,201	18,897	19,738	19,944	19,860	19,543	18,992	18,261

市全体では 2025（平成 37）年に一般世帯数のピークを迎え、その後減少していくと推計しているが、行政区別及びまちづくり区域別に見ると大きな違いが見られる。

行政区別では、緑区は 2030（平成 42）年まで増加し、以降はほぼ横ばいとなるが、中央区、南区はそれぞれ 2020（平成 32）年、2025（平成 37）年にピークを迎え、減少していく。これは、緑区では広域交流拠点整備事業によって人口増加が見込まれており、人口増加に伴って世帯数も増加するためと推測される。

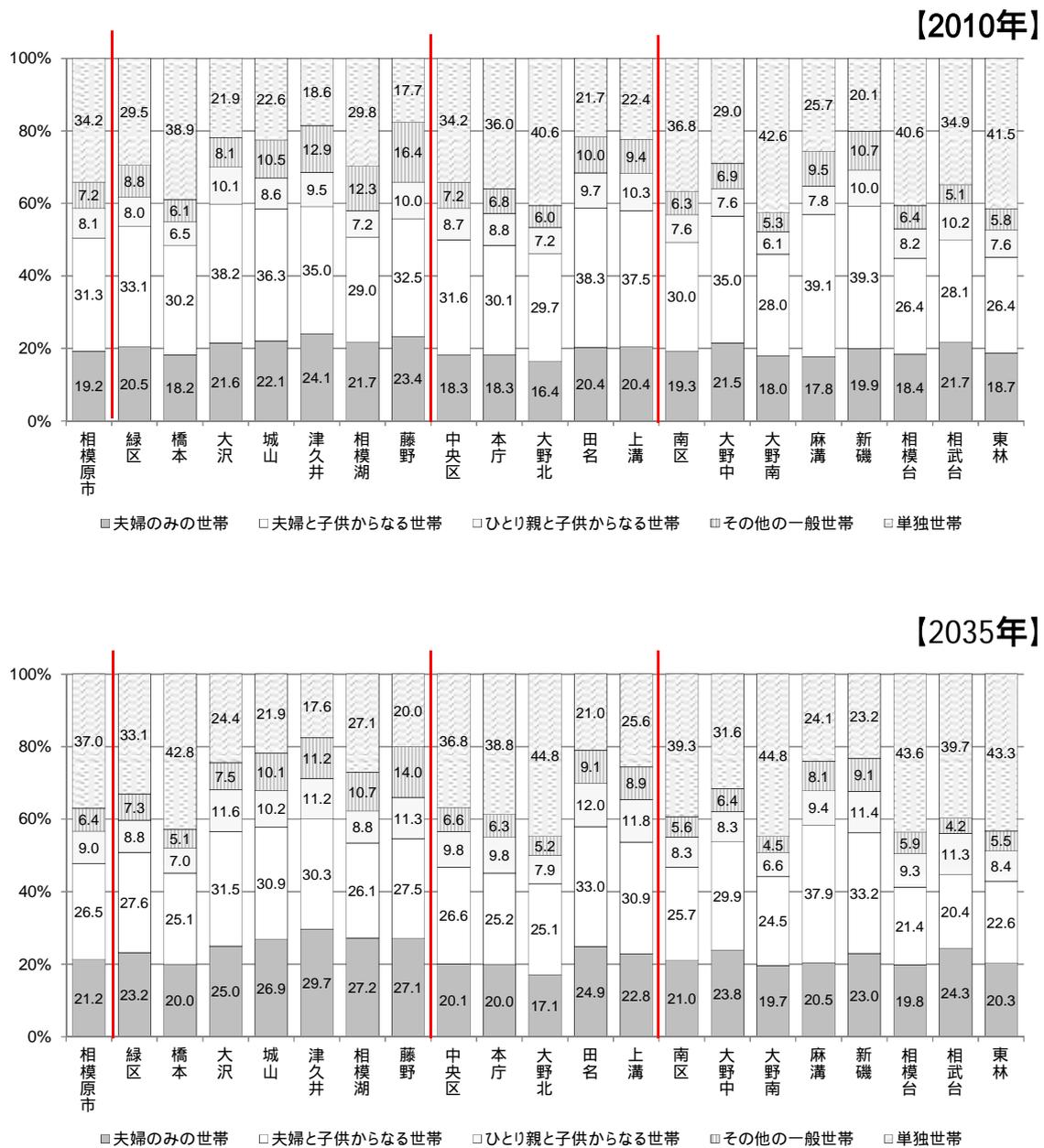
また、まちづくり区域別では、広域交流拠点整備事業や土地整備事業が予定されている橋本地区、麻溝地区などでは 2035（平成 47）年まで世帯数が増加する。一方、既に人口が減少に転じている津久井地区及び相武台地区では概ね 20%、相模湖地区及び藤野地区では 30%以上、世帯数が減少する見込みである。

## (2) 家族類型別一般世帯数の割合

図表 2-4 は 2010（平成 22）年と 2035（平成 47）年の市全体とまちづくり区域別の家族類型別一般世帯数の割合を示したグラフである。

25 年間で、「夫婦のみの世帯」及び「ひとり親と子供から成る世帯」はいずれの地区も割合が上昇しており、「単独世帯」もほとんどの地区で上昇している。一方、「夫婦と子供から成る世帯」及び「その他の一般世帯」は全ての地区で割合が減少している。

図表 2-4 市全体とまちづくり区域別の家族類型別世帯数の割合（2010 年、2035 年）



### (3)まちづくり区域別推計結果

#### 緑区

緑区の世帯数は1995（平成7）年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」及び「その他の一般世帯」は既に減少に転じている。

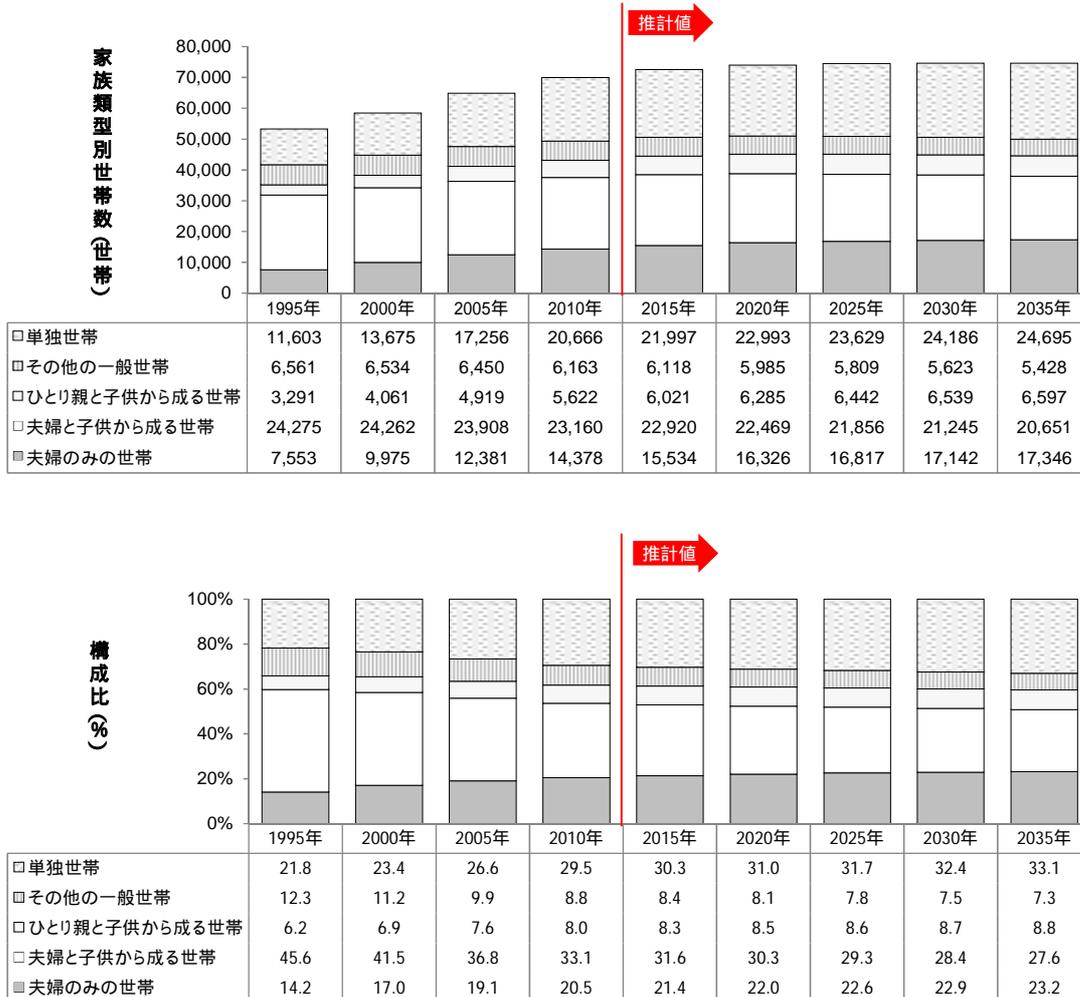
相模原インターチェンジ周辺のまちづくり事業や広域交流拠点整備事業により、今後、人口増加が見込まれるため、世帯数は2030（平成

42）年の74,735世帯まで増加するが、その後、減少に転じ、2035（平成47）年には74,717世帯になると推計した。なお、2035年（平成47）年における増減率は、2010（平成22）年比6.8%増である。

図表 2-5 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移（緑区）



図表2-6 家族類型別一般世帯数及び割合の推移（緑区）

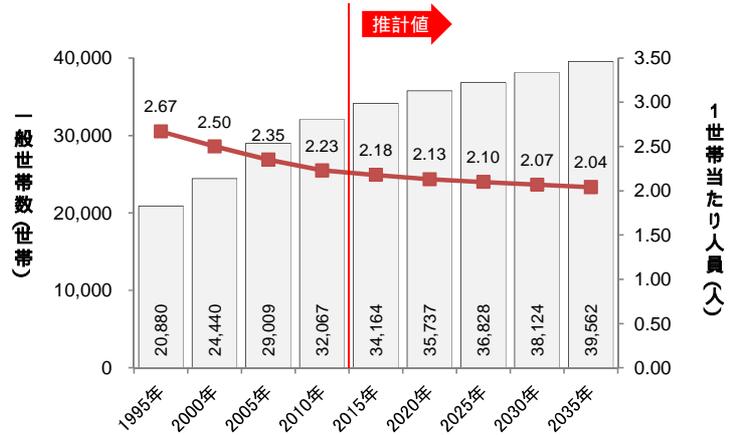


## -1 緑区 - 橋本地区

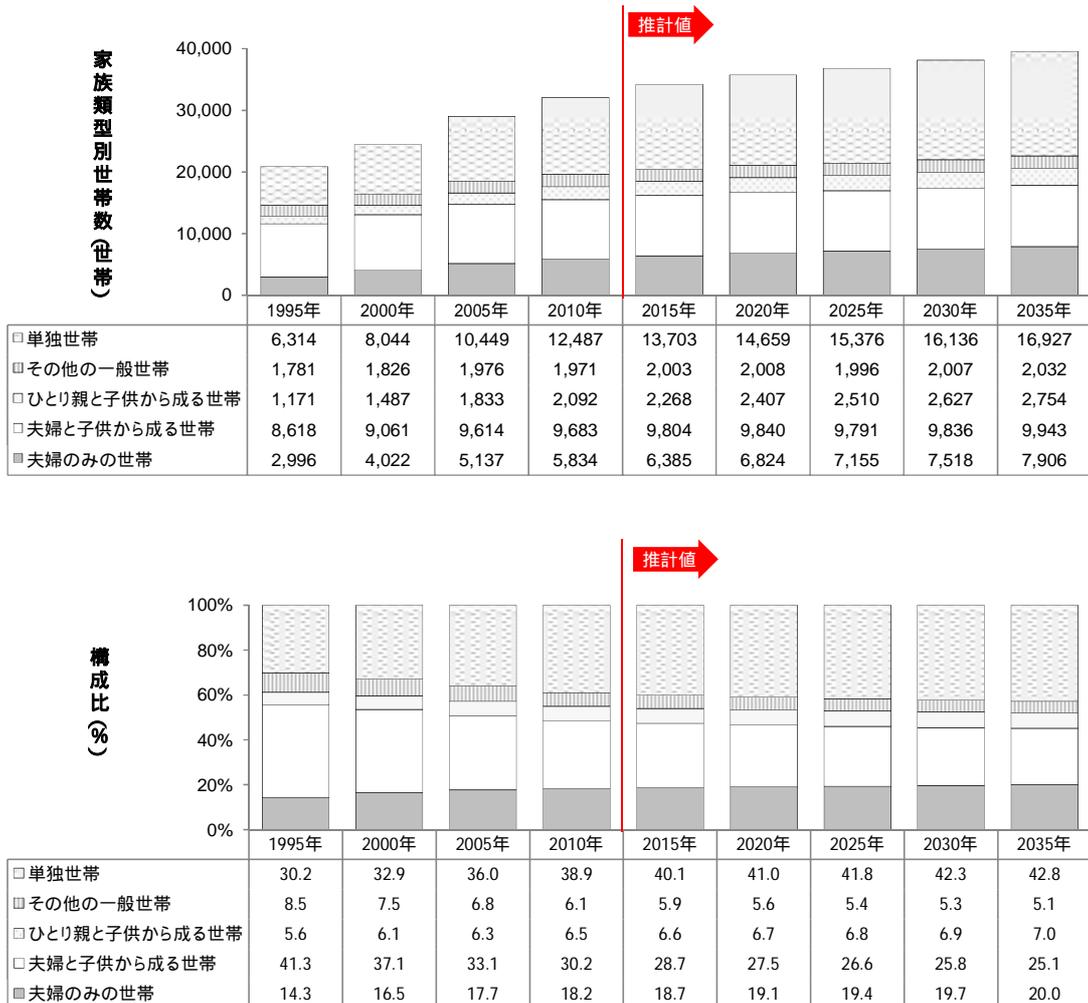
橋本地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、「単独世帯」及び「夫婦のみの世帯」は、1995(平成7)年から2010(平成22)年の15年間で2倍近く増加している。また、一時的な減少はあるものの、全ての家族類型で増加を維持している。

今後も広域交流拠点整備事業による人口増加が見込まれる地域であるため、世帯数も2035(平成47)年まで増加が続くことが見込まれ、2035(平成47)年における増減率は、2010(平成22)年比23.4%増である。

図表 2-7 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移  
(橋本地区)



図表2-8 家族類型別一般世帯数及び割合の推移(橋本地区)



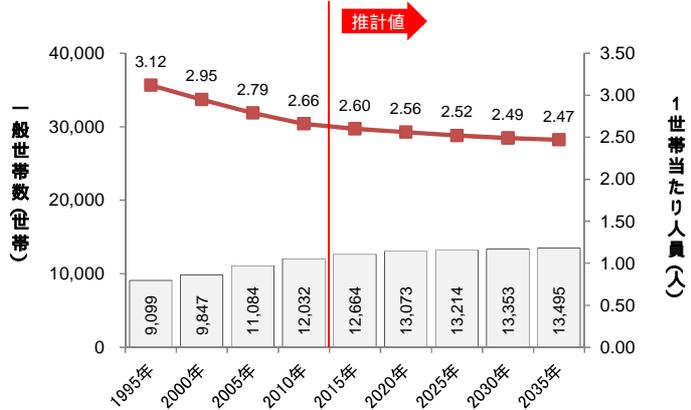
## -2 緑区 - 大沢地区

大沢地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、1995(平成7)年から2010(平成22)年の15年間で「夫婦のみの世帯」は2倍以上となっている。

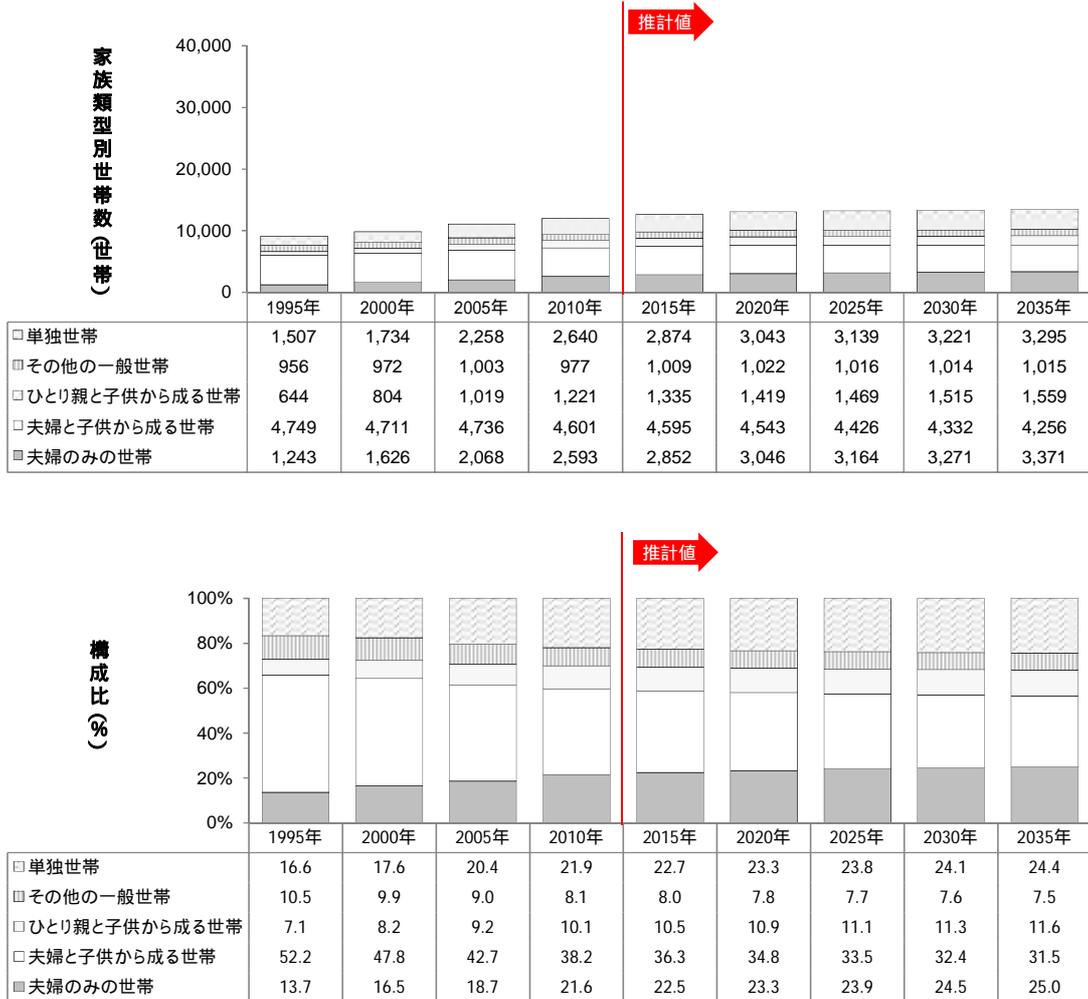
一方、「夫婦と子供から成る世帯」は既に減少に転じている。

大沢地区は、宅地開発やリニア中央新幹線の駅設置に伴う波及的な人口増加が見込まれる地域であるため、世帯数も2035(平成47)年まで増加することが見込まれ、2035年における増減率は、2010(平成22)年比12.2%増である。

図表 2-9 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (大沢地区)



図表2-10 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (大沢地区)



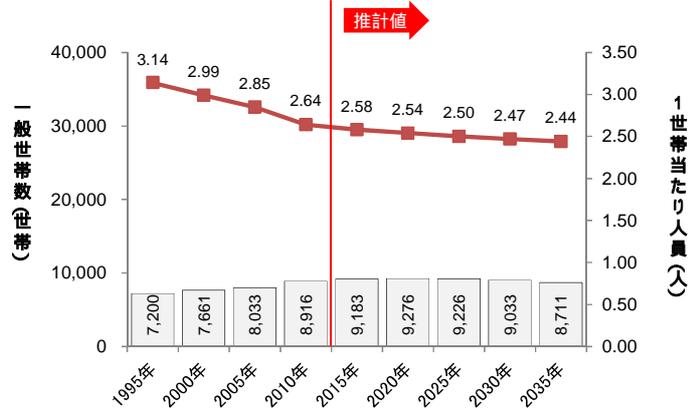
### -3 緑区 - 城山地区

城山地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、市内でも「夫婦と子供から成る世帯」の割合が高い地区である。

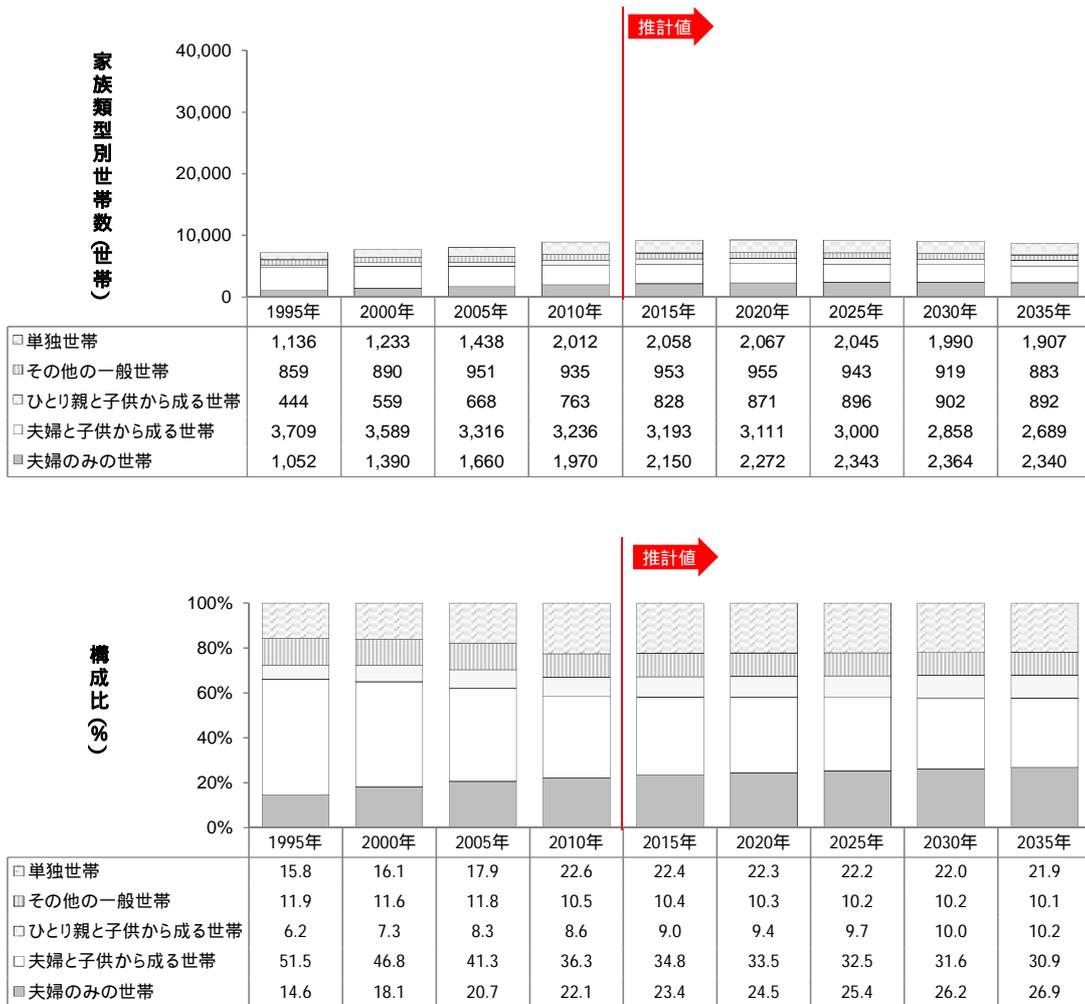
今後は、2020(平成32)年の9,276世帯をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には8,711世帯となる見込みである。

また、2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比2.3%減である。

図表 2-11 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (城山地区)



図表2-12 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (城山地区)



#### -4 緑区 - 津久井地区

津久井地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加しているものの、「夫婦と子供から成る世帯」及び「その他の一般世帯」は既に減少に転じている。

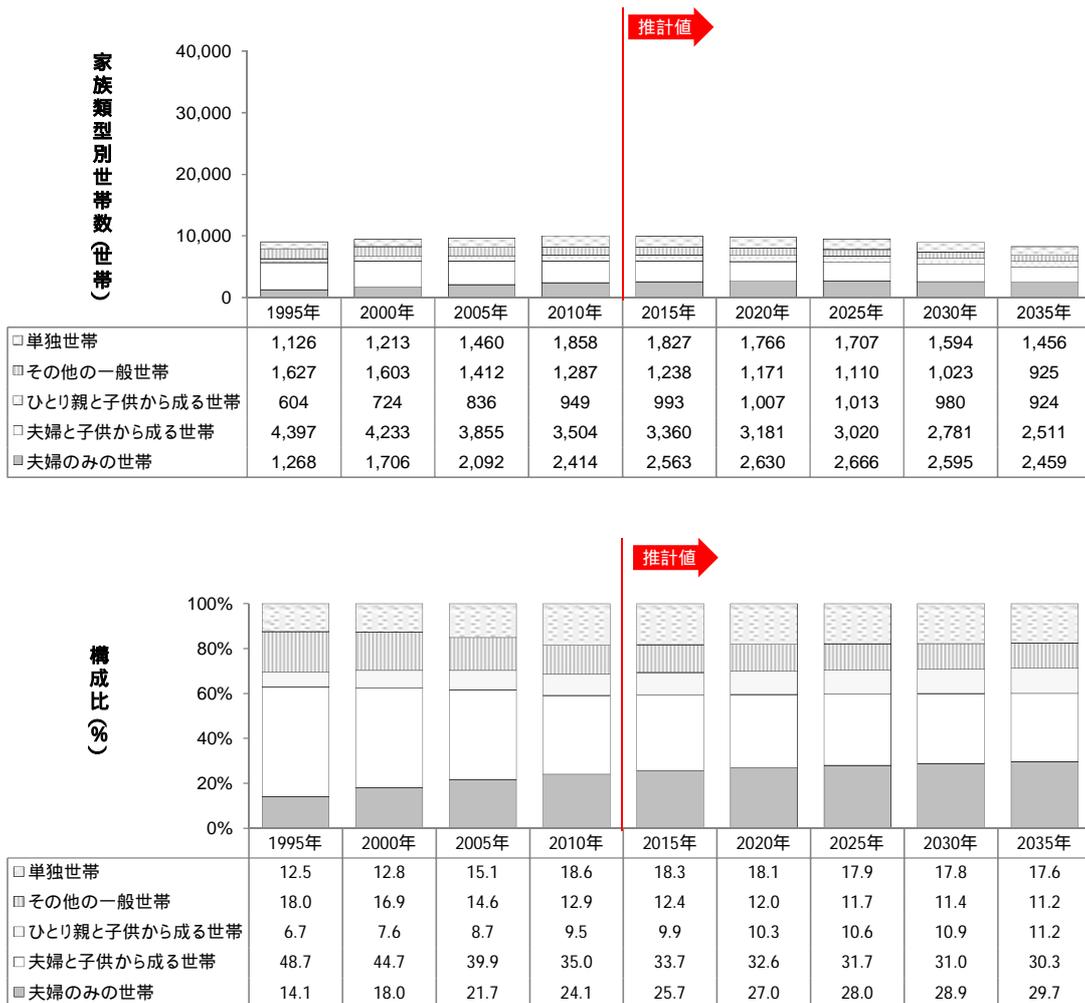
世帯数のピークは2010(平成22)年の10,012世帯であり、今後は徐々に減少し、2035(平成47)年には8,275世帯となる。

2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比17.3%減で、減少幅が大きい地区であるが、「総世帯」に占める「単独世帯」の割合が17.6%と市内で一番低く、一世帯当たり人員が2.49と高いのが特徴である。

図表 2-13 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (津久井地区)



図表2-14 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (津久井地区)

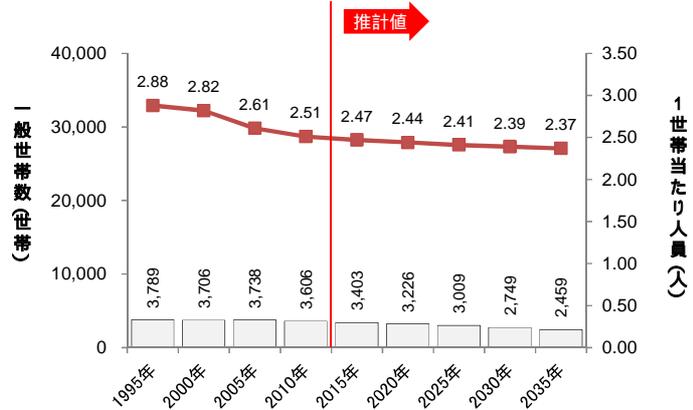


## -5 緑区 - 相模湖地区

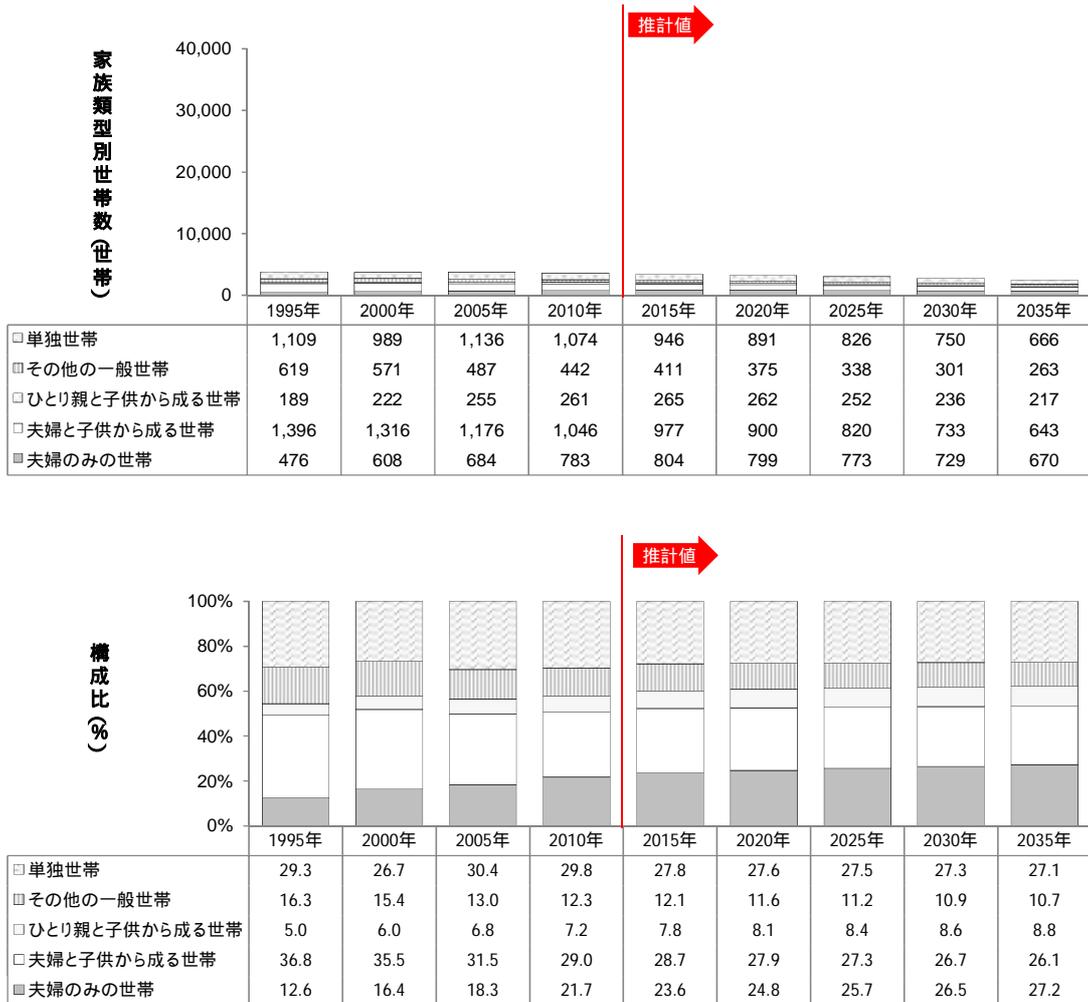
相模湖地区の世帯数は1995(平成7)年以降、減少を続けており、2010(平成22)年時点で3,606世帯である。

今後は減少に拍車がかかり、2035(平成47)年の世帯数は2,459世帯となり、2035年における増減率は2010(平成22)年比、31.8%減となる。特に「単独世帯」及び「夫婦と子供から成る世帯」の減少幅は「単独世帯」は38.0%減、「夫婦と子供から成る世帯」は38.5%減となっており、減少幅が著しい。

図表 2-15 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移  
(相模湖地区)



図表2-16 家族類型別一般世帯数及び割合の推移(相模湖地区)



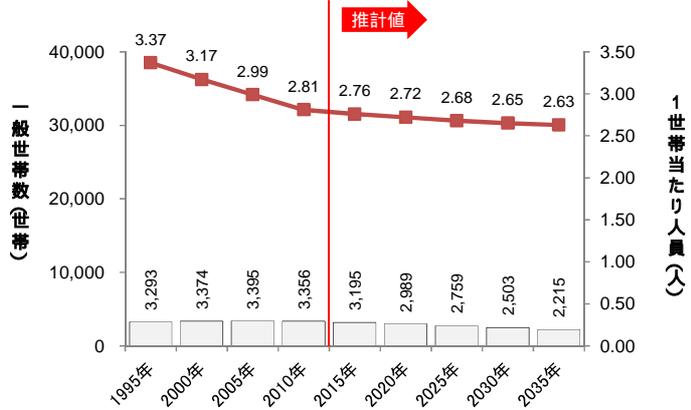
-6 緑区 - 藤野地区

藤野地区の世帯数は、2005（平成17）年の3,395世帯をピークに減少に転じており、今後は、相模湖地区と同様に減少に拍車がかかる。

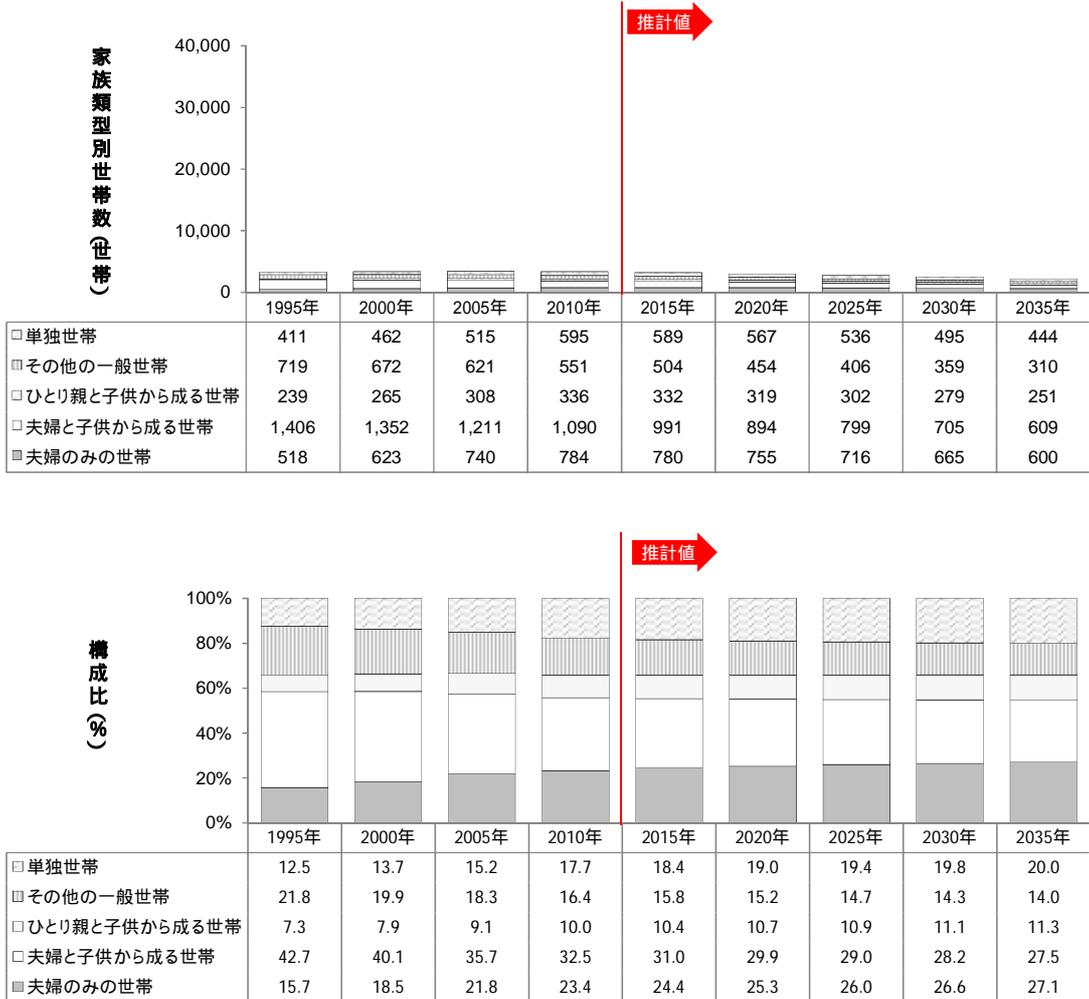
2035（平成47）年の世帯数は2,215世帯で、増減率は、2010（平成22）年比34.0%減となっている。

減少幅が市内で一番大きい地区である一方で、2035（平成47）年の1世帯当たり人員数は2.63人と市内で最も高く、また、「その他の一般世帯」の割合も14.0%と市内で最も高い。世帯の多様性を残している地区である。

図表 2-17 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移（藤野地区）



図表2-18 家族類型別一般世帯数及び割合の推移（藤野地区）

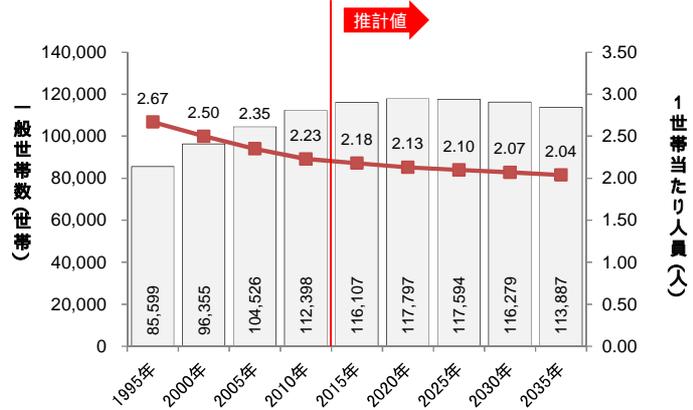


## 中央区

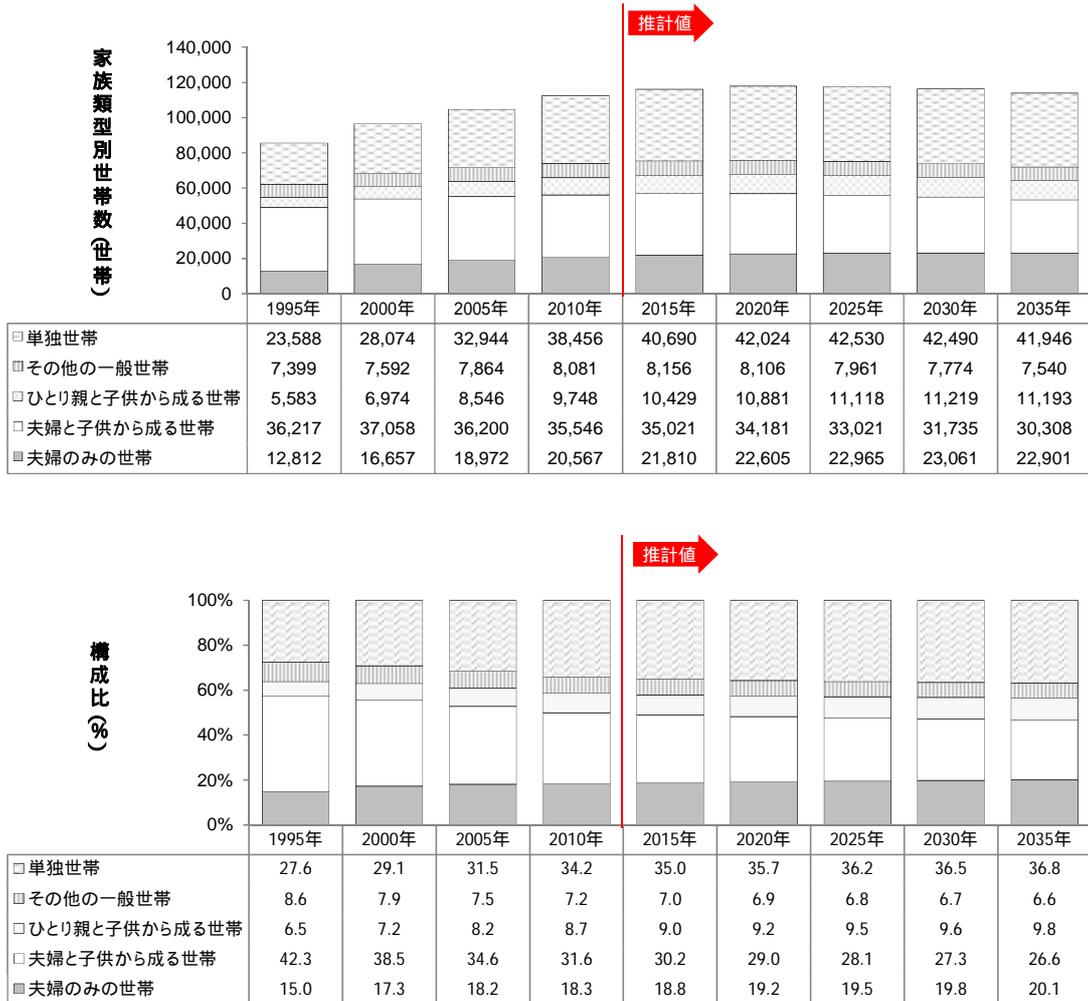
中央区の世帯数は1995（平成7）年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は2000（平成12）年をピークに減少に転じている。

今後は2020（平成32）年の117,797世帯をピークに減少に転じ、2035（平成47）年には113,887世帯となる見込みである。なお、2035（平成47）年における増減率は2010（平成22）年比1.3%増となり、3区の中では一番増減率が低い。

図表 2-19 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移  
（中央区）



図表2-20 家族類型別一般世帯数及び割合の推移（中央区）



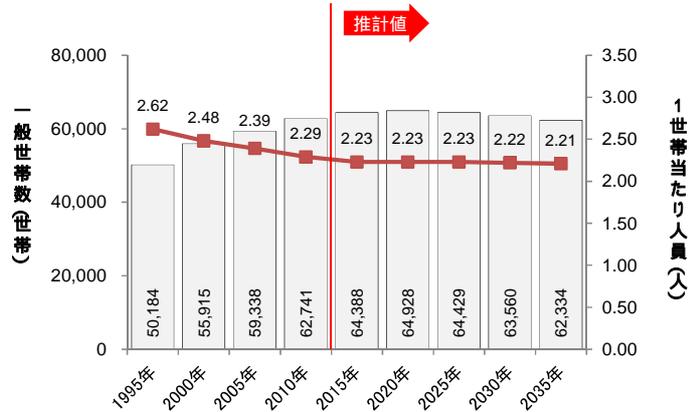
## -1 中央区 - 本庁地区

本庁地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は既に減少に転じている。

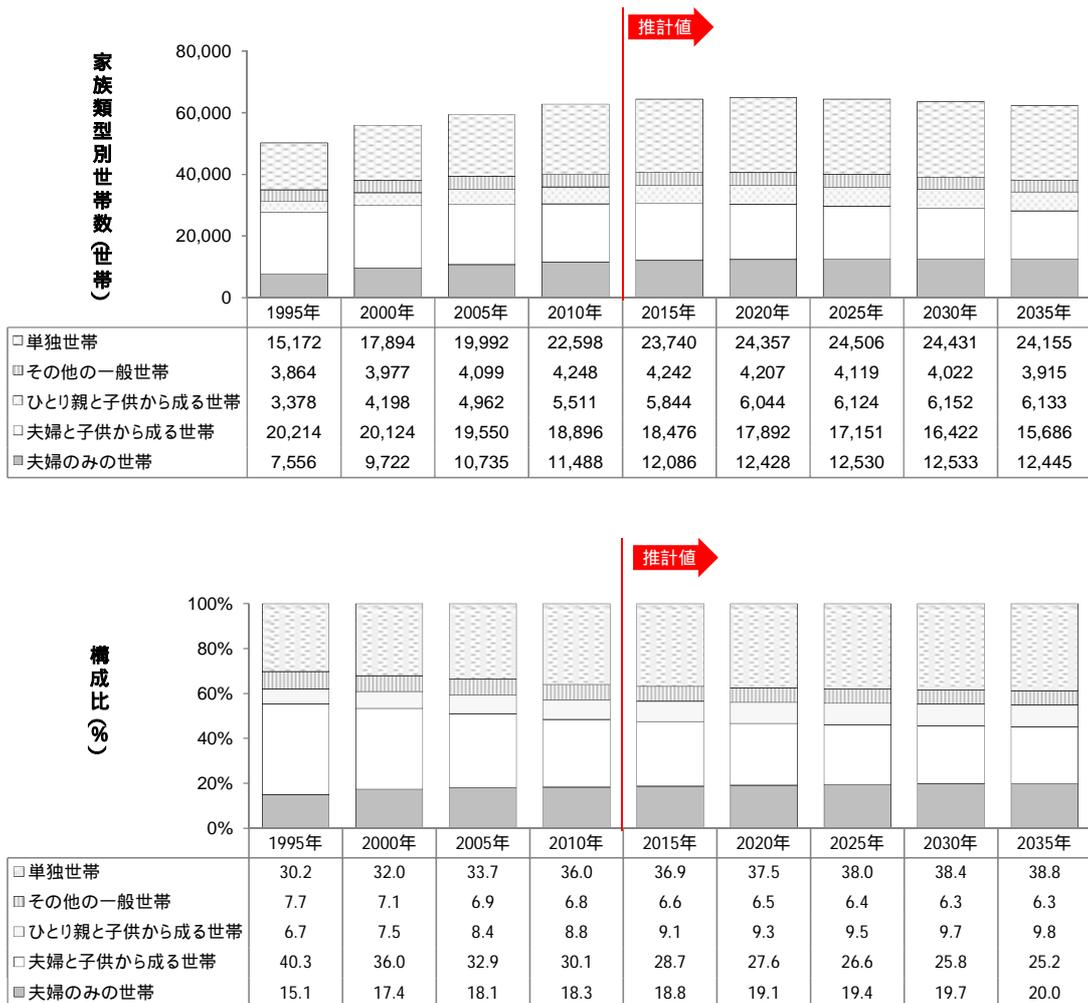
今後は2020(平成32)年の64,928世帯をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には62,334世帯となる見込みである。なお、2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比0.6%減である。

また、一般世帯数は2020(平成32)年にピークを迎えるものの、「夫婦のみの世帯」及び「ひとり親と子供から成る世帯」は2030(平成42)年まで増加を続ける見込みである。

図表 2-21 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (本庁地区)



図表2-22 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (本庁地区)



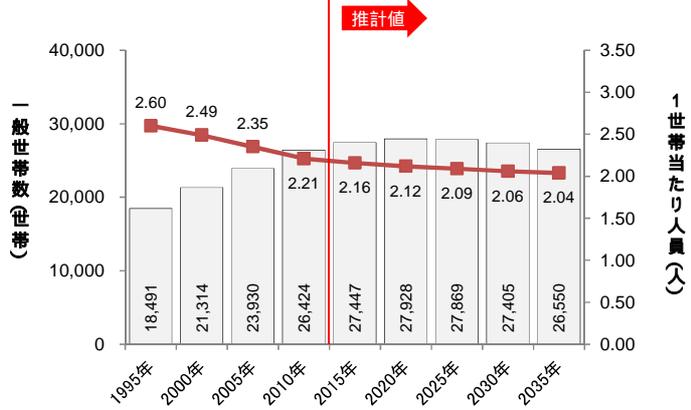
## -2 中央区 - 大野北地区

大野北地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は2000(平成12)年をピークに減少に転じている。

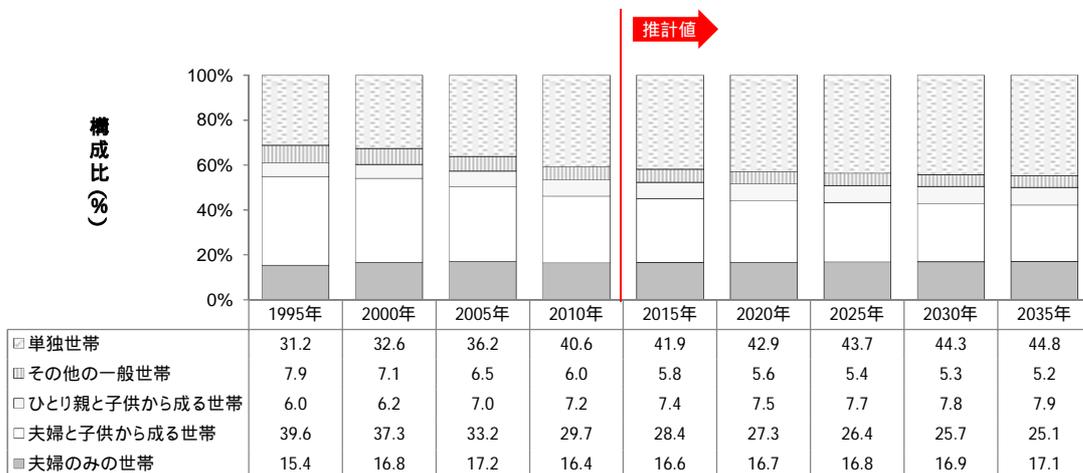
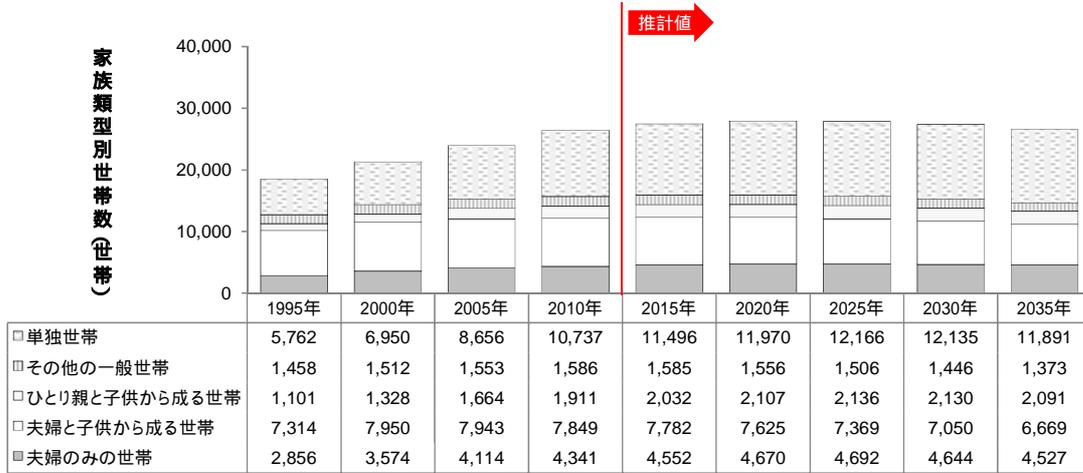
今後は2020(平成32)年の27,928世帯をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には26,550世帯となる見込みである。なお、2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比0.5%増である。

また、大野南地区と並んで、2035(平成47)年の「単独世帯」の割合が44.8%と一番高いのがこの地区の特徴である。2010(平成22)年国勢調査後に淵野辺駅周辺での大規模マンションの建設が相次いでいることから、今後、「夫婦と子供から成る世帯」の減少に歯止めがかかることが期待される。

図表 2-23 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (大野北地区)



図表2-24 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (大野北地区)



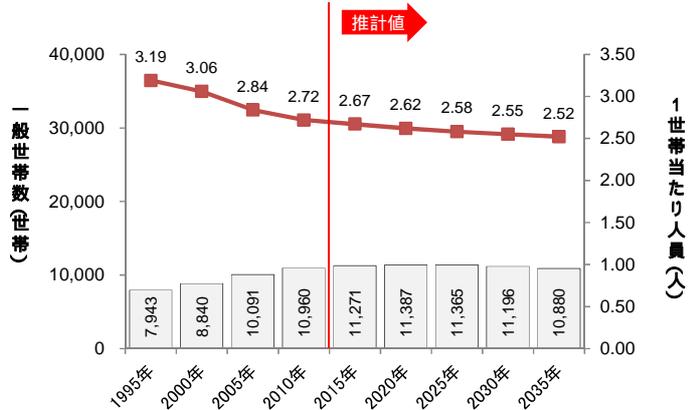
### -3 中央区 - 田名地区

田名地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、1995(平成7)年から2010(平成22)年の15年間で「夫婦のみの世帯」及び「ひとり親と子供から成る世帯」は2倍以上になっている。

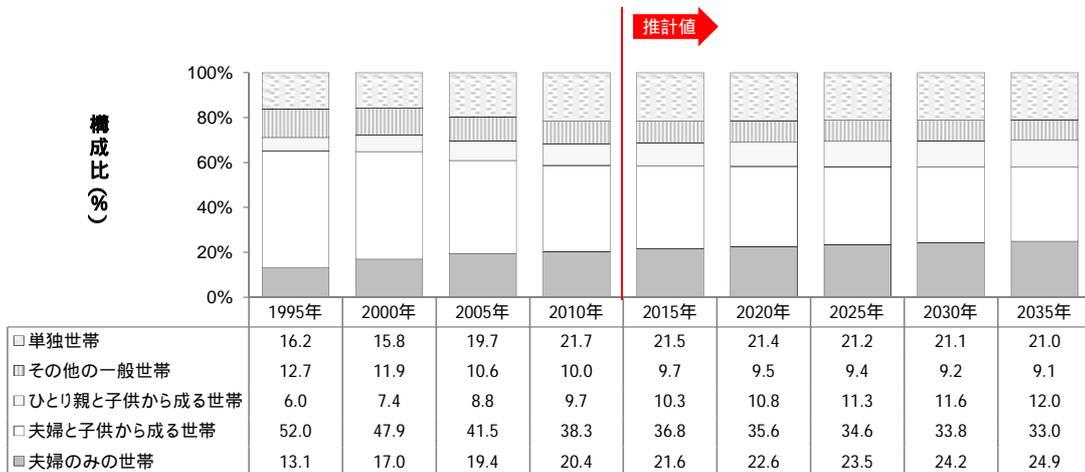
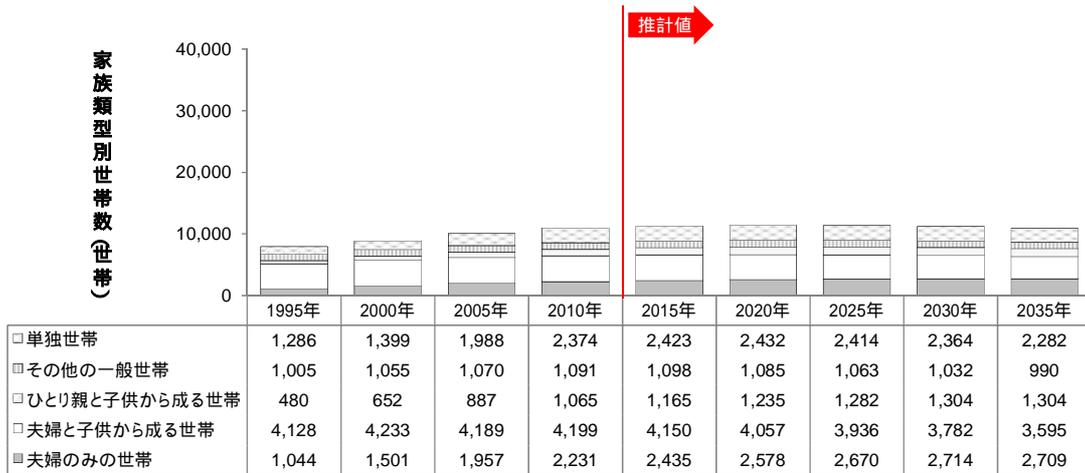
今後は2020(平成32)年の11,387世帯をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には10,880世帯となる見込みである。なお、2035(平成47)年における増減率は2010年比0.7%減である。

また、中央区の中では「単独世帯」の割合が一番低く、世帯の多様性が維持されている。

図表 2-25 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (田名地区)



図表2-26 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (田名地区)

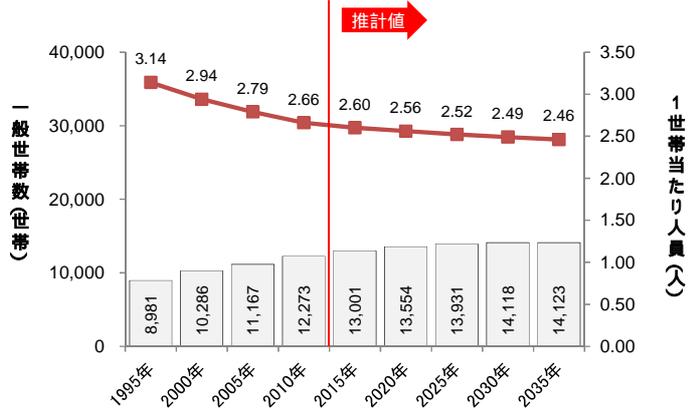


#### -4 中央区 - 上溝地区

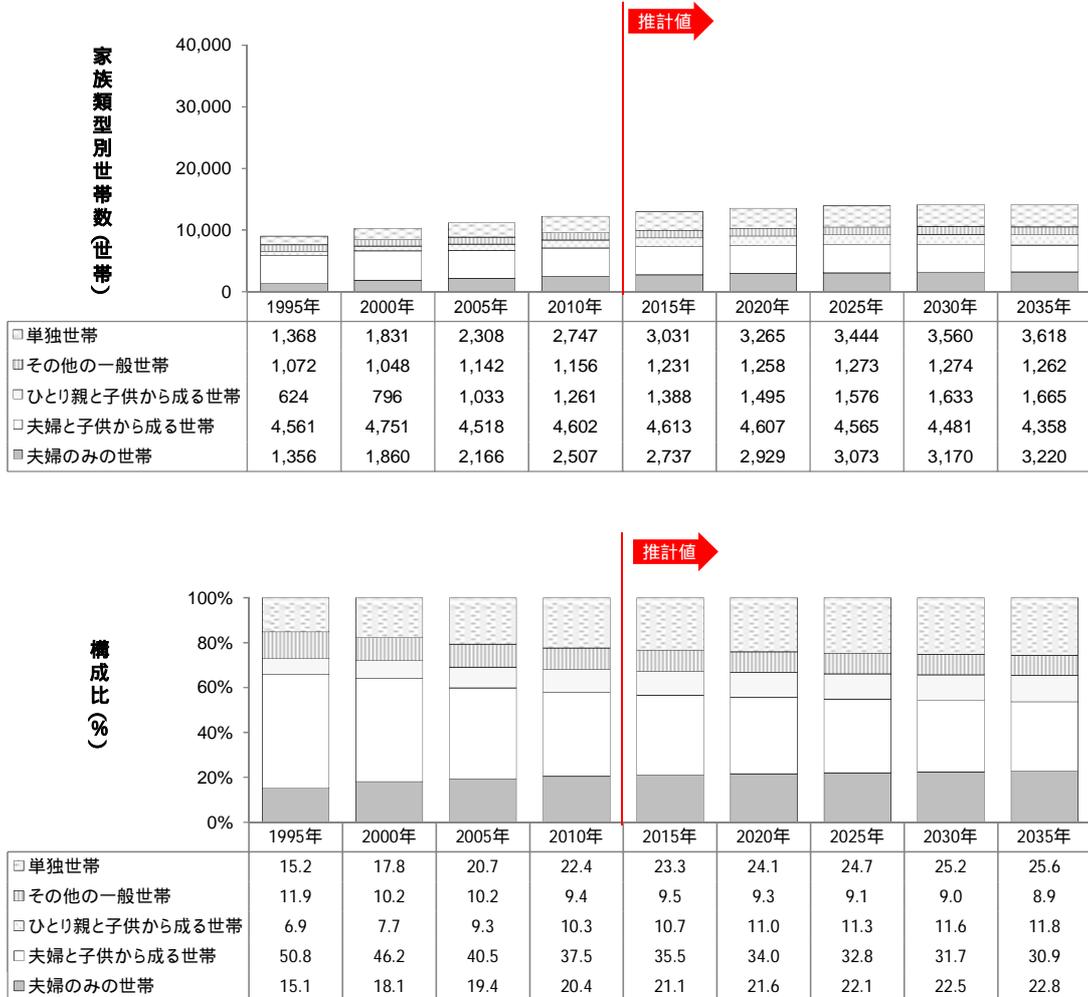
上溝地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、1995(平成7)年から2010(平成22)年の15年間で「ひとり親と子供から成る世帯」及び「単独世帯」は2倍以上になっている。

今後は2035(平成47)年まで増加を続ける見込みであり、2035(平成47)年における増減率は15.1%増と中央区の中では一番高い。

図表 2-27 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (上溝地区)



図表2-28 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (上溝地区)

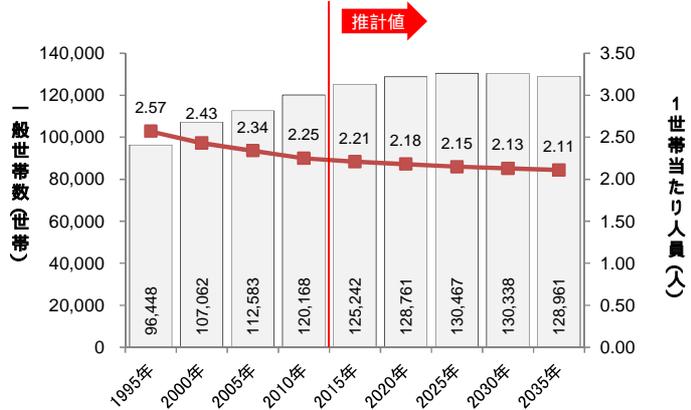


## 南区

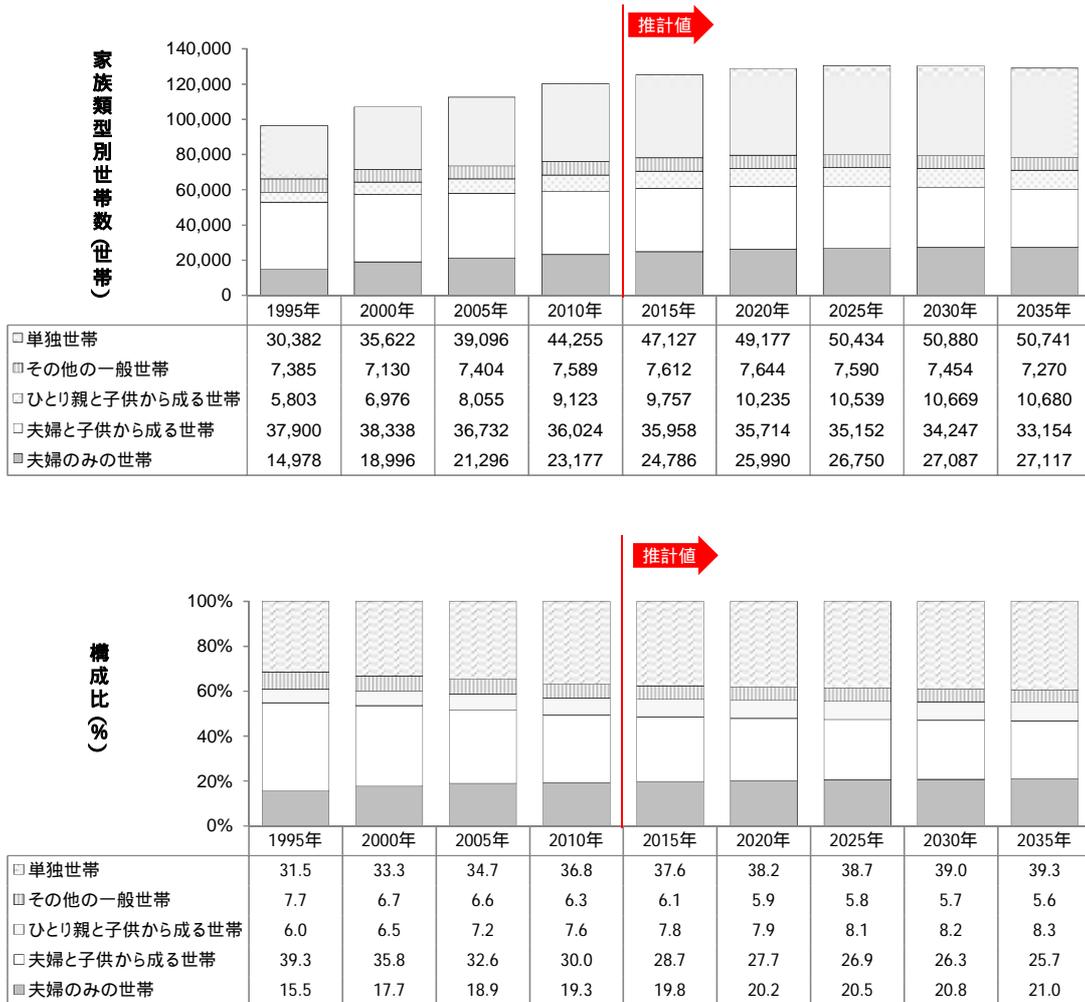
南区の世帯数は1995（平成7）年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は2000（平成12）年の38,338世帯をピークに減少に転じている。

今後は2025（平成37）年の130,467世帯をピークに減少に転じ、2035（平成47）年には128,961世帯となる見込みである。なお、2035（平成47）年における増減率は2010（平成22）年比7.3%増となり、3区の中では一番増加する。

図表 2-29 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移（南区）



図表2-30 家族類型別一般世帯数及び割合の推移（南区）

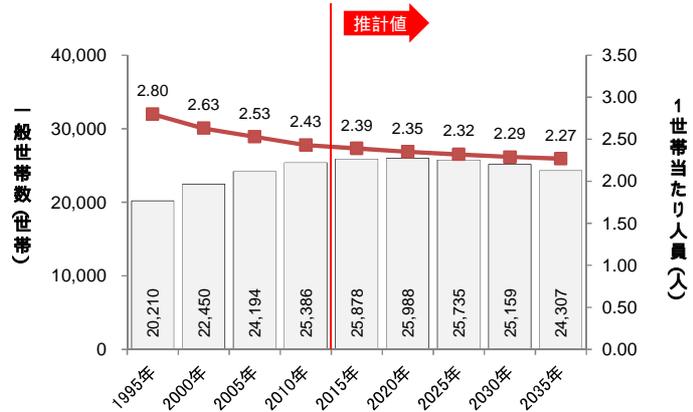


## -1 南区 - 大野中地区

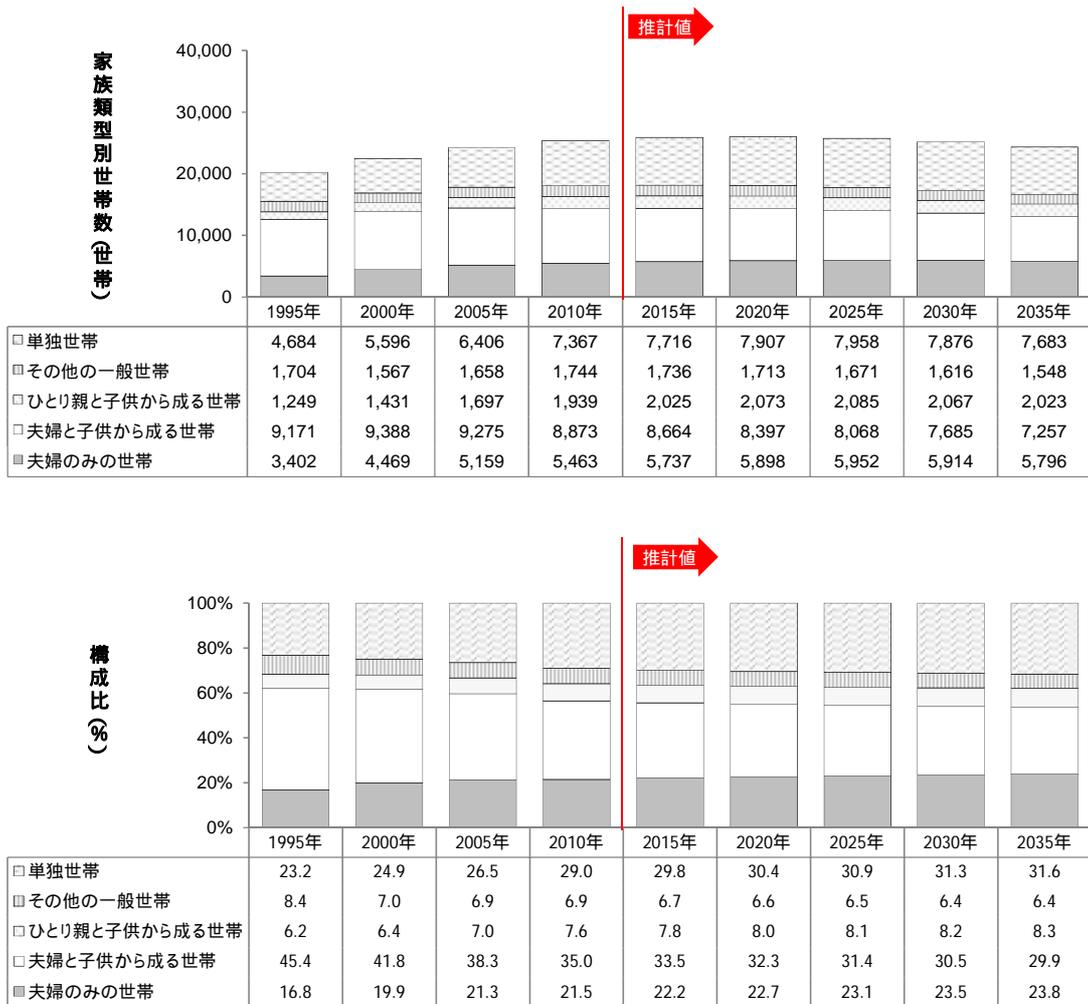
大野中地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は2000(平成12)年の9,388世帯をピークに減少に転じている。

今後は2020(平成32)年の25,988世帯をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には24,307世帯となる見込みである。なお、2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比4.3%減である。

図表 2-31 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移  
(大野中地区)



図表2-32 家族類型別一般世帯数及び割合の推移(大野中地区)



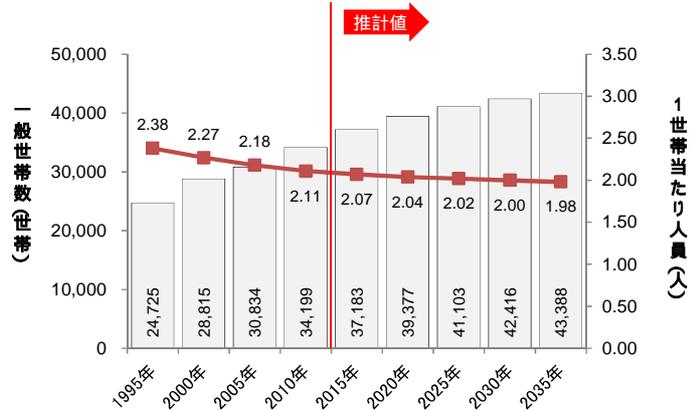
## -2 南区 - 大野南地区

大野南地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、一時的な減少はあるものの、全ての家族類型で増加を維持している。

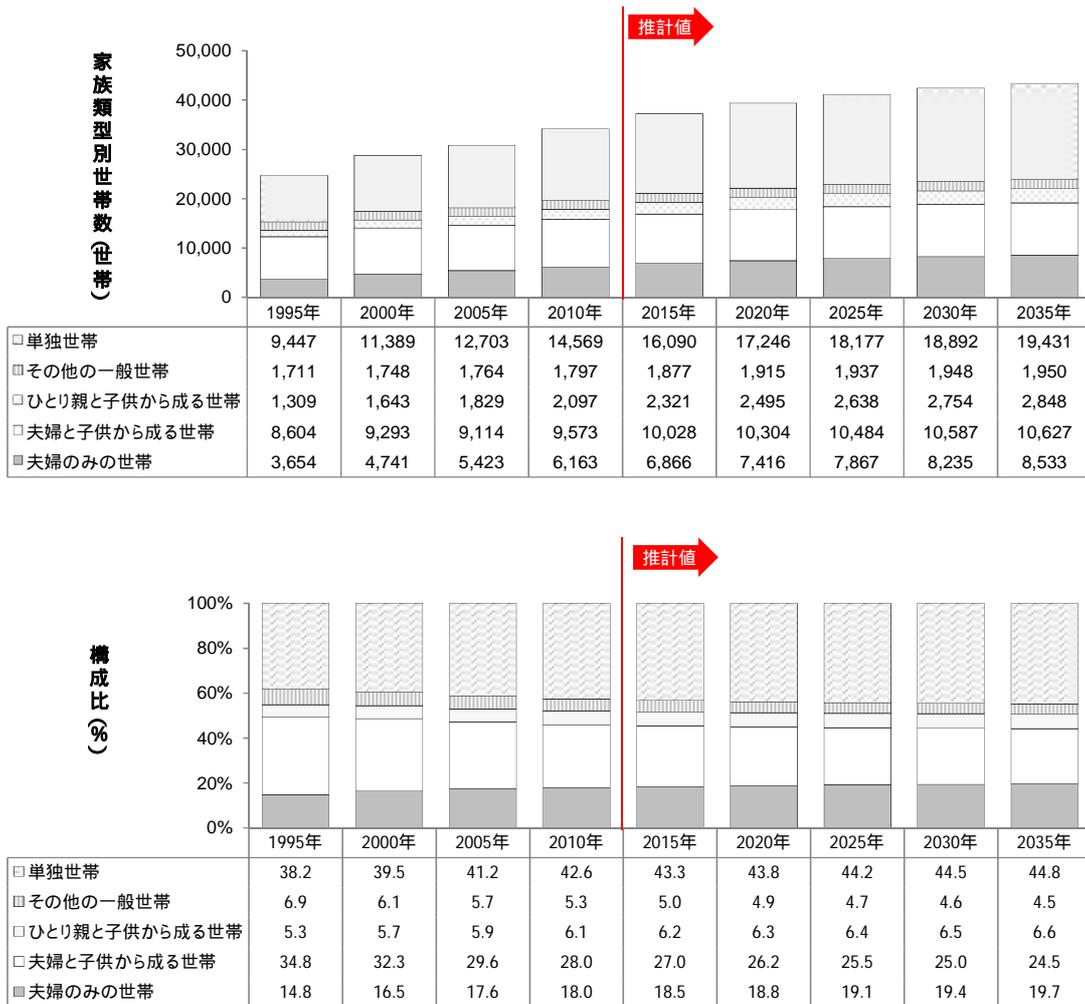
今後も2035年(平成47)年まで増加を続ける見込みであり、2035(平成47)年における増減率は26.9%増と市内で一番高い。

また、大野北地区と並んで2035(平成47)年の単独世帯の割合が44.8%と一番高く、一世帯当たり人員が1.98と市内で一番低い。

図表 2-33 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (大野南地区)



図表2-34 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (大野南地区)



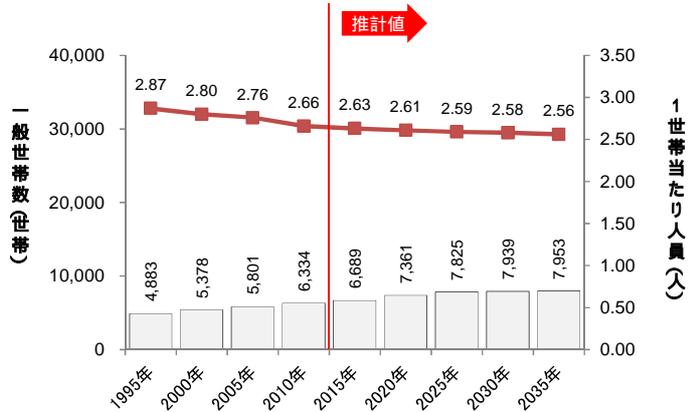
### -3 南区 - 麻溝地区

麻溝地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、一時的な減少はあるものの、全ての家族類型で増加を維持している。特に「ひとり親と子供から成る世帯」は1995(平成7)年から2010(平成22)年の15年間で2倍以上となっている。

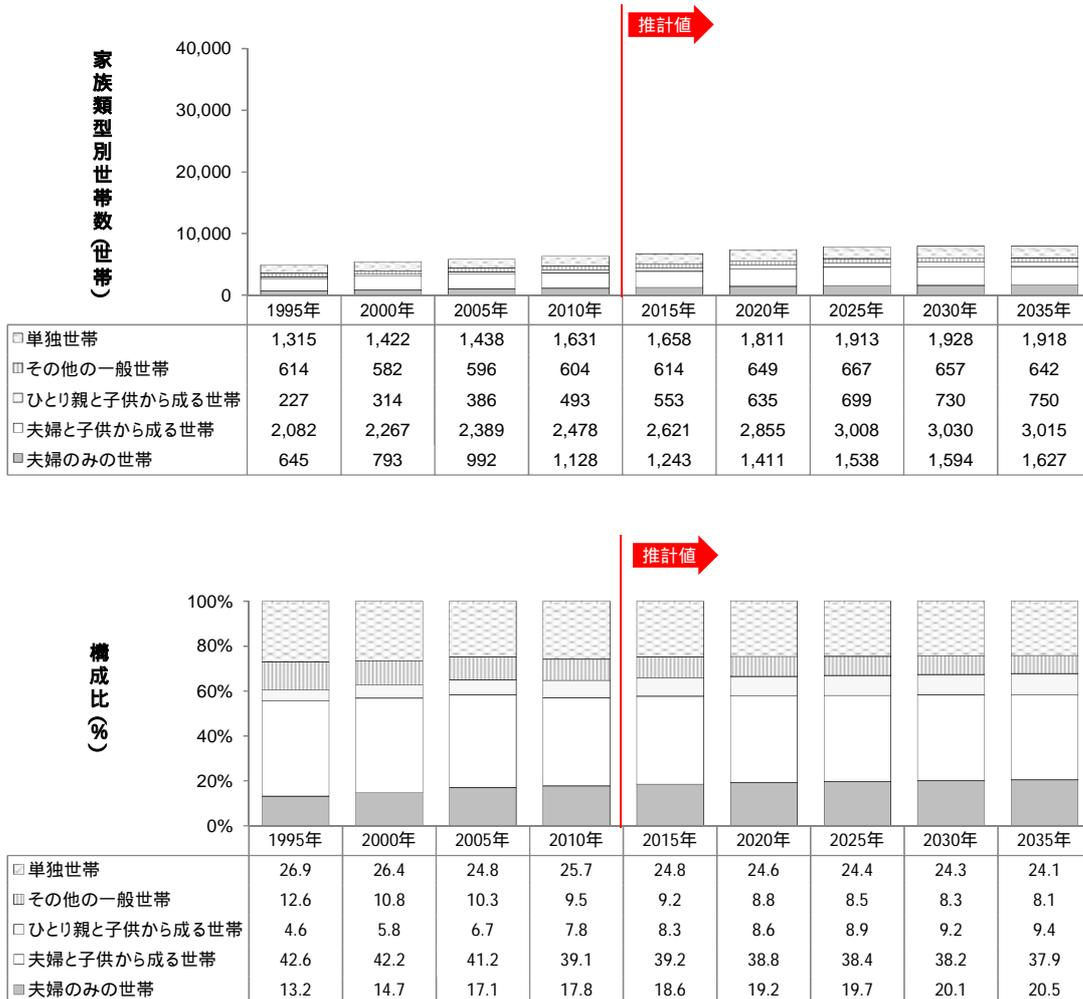
今後も2035(平成47)年まで増加を続ける見込みであり、2035(平成47)年の増減率は2010(平成22)年比25.6%増と大野南地区に次いで高い。

また、「夫婦のみの世帯」、「夫婦と子供から成る世帯」及び「ひとり親と子供から成る世帯」の増減率が市内で一番高く、一世帯当たり人員は2.56と市内で2番目に高い。開発事業の成否にもよるが、今後活気を増す地区と期待される。

図表 2-35 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (麻溝地区)



図表2-36 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (麻溝地区)



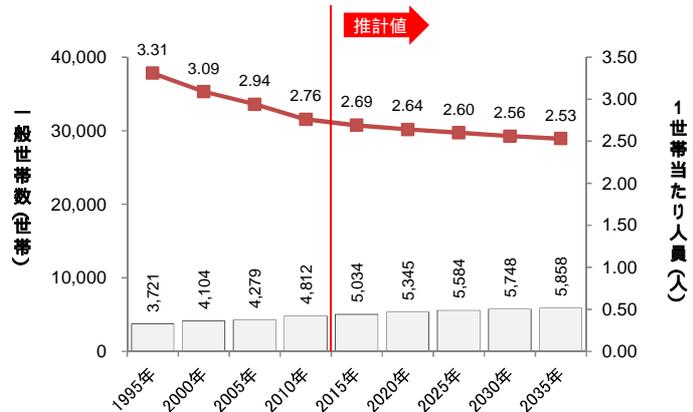
#### -4 南区 - 新磯地区

新磯地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けており、「夫婦のみの世帯」及び「単独世帯」は1995(平成7)年から2010(平成22)年の15年間で2倍近くに増えている。また、2010(平成22)年の「夫婦と子供から成る世帯」の割合が39.3%と市内で一番高い。

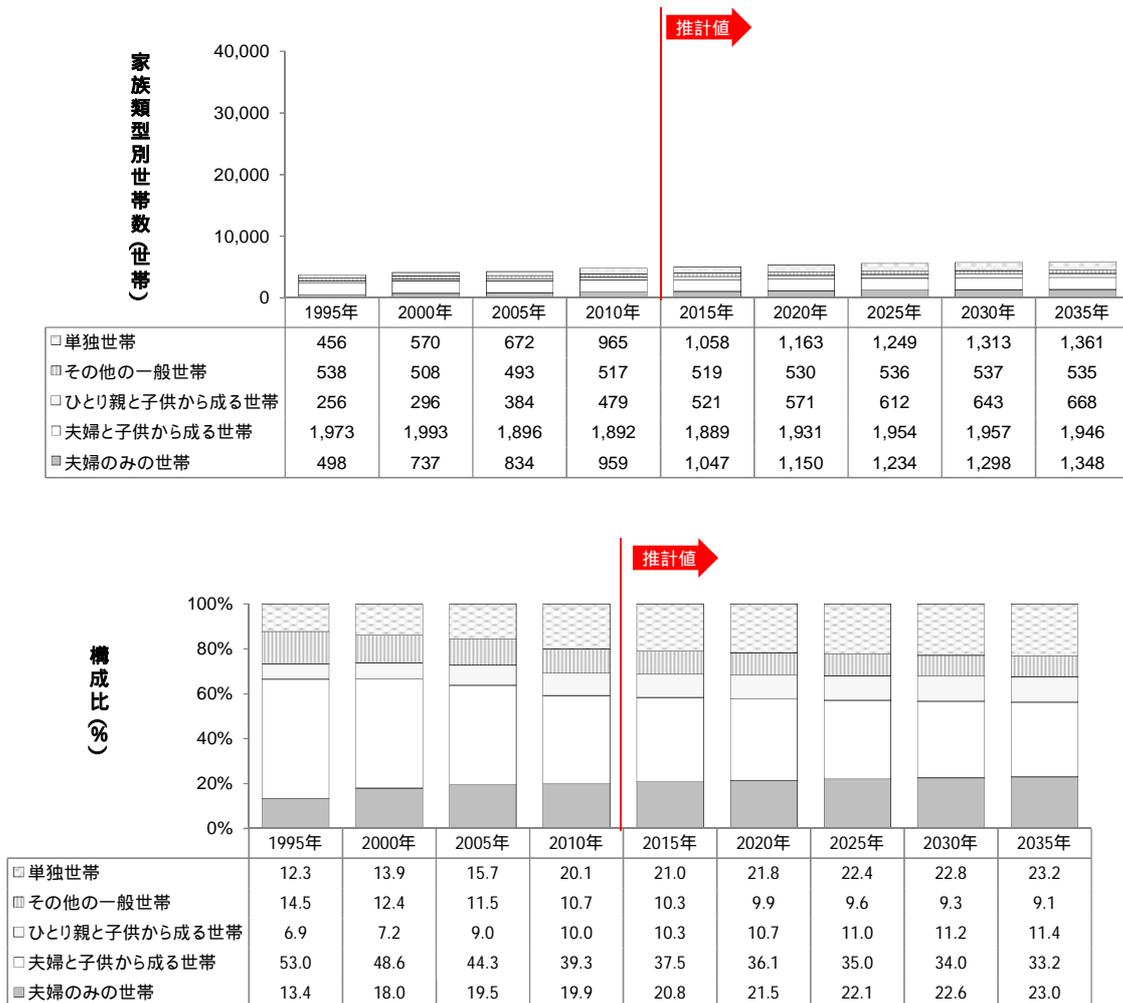
今後も2035(平成47)年まで増加を続ける見込みであり、2035(平成47)年の増減率は2010年比21.7%増である。

また、「単独世帯」の増減率は41.0%増と市内で一番高いものの、「夫婦と子供から成る世帯」が占める割合は高い水準を維持している。

図表 2-37 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (新磯地区)



図表2-38 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (新磯地区)

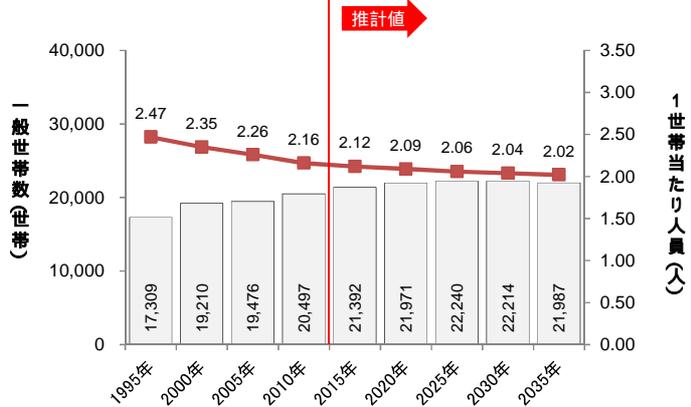


## -5 南区 - 相模台地区

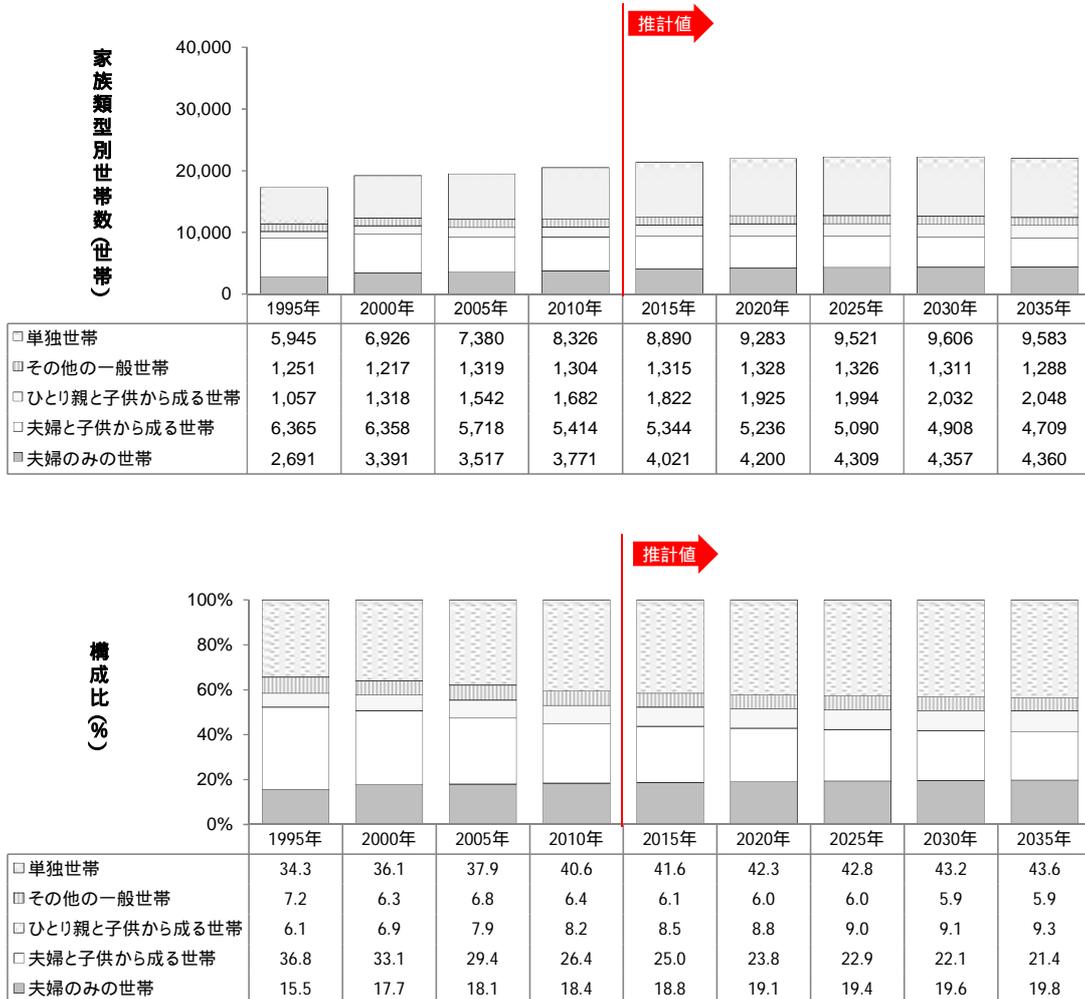
相模台地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けているものの、「夫婦と子供から成る世帯」は既に減少に転じており、2010(平成22)年(基準年)の総世帯に占める「夫婦と子供から成る世帯」の割合が26.4%と東林地区と並んで市内で一番低い。

今後は2025(平成37)年の22,240世帯をピークに減少に転じ、2035(平成47)年には21,987世帯となる見込みである。また、総世帯に占める「夫婦と子供から成る世帯」の割合は更に低くなり、21.4%となる見込みである。なお、2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比7.3%増である。

図表 2-39 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (相模台地区)



図表2-40 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (相模台地区)



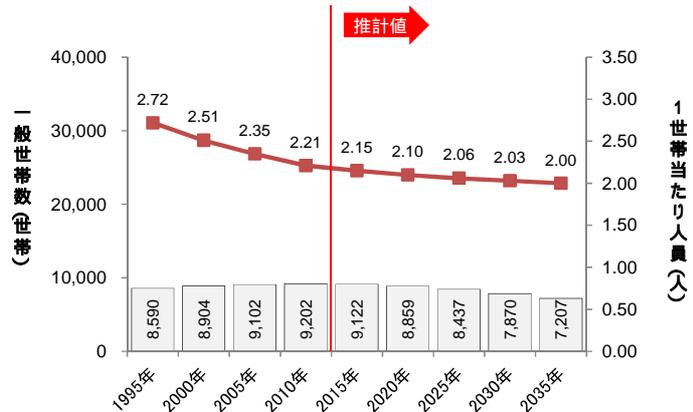
## -6 南区 - 相武台地区

相武台地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は既に減少に転じている。

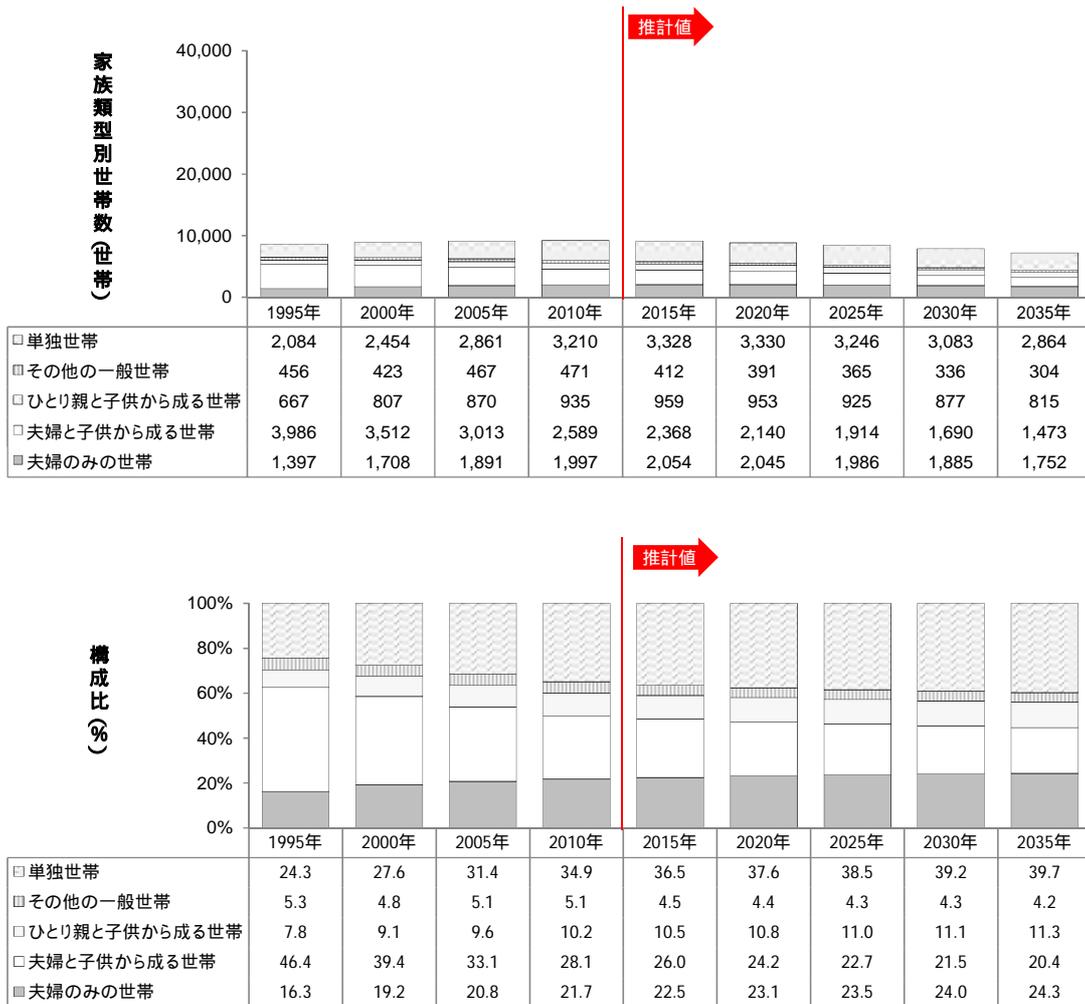
世帯数のピークは2010(平成22)年の9,202世帯であり、今後は徐々に減少し、2035(平成47)年には7,207世帯となる見込みである。

2035(平成47)年における増減率は2010(平成22)年比21.7%減であり、南区の中では一番減少幅が大きい。また、一世帯当たり人員が2.00と大野南地区に次いで低い。

図表 2-41 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移 (相武台地区)



図表2-42 家族類型別一般世帯数及び割合の推移 (相武台地区)



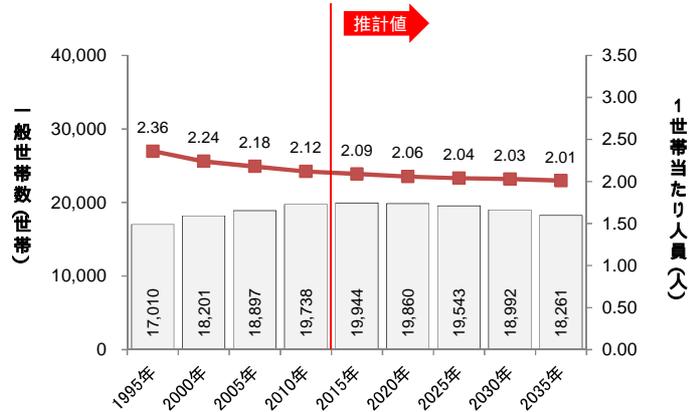
## -7 南区 - 東林地区

東林地区の世帯数は1995(平成7)年以降、増加を続けているが、「夫婦と子供から成る世帯」は既に減少に転じており、2010(平成22)年(基準年)の総世帯に占める「夫婦と子供から成る世帯」の割合が26.4%と相模台地区と並んで市内で一番低い。

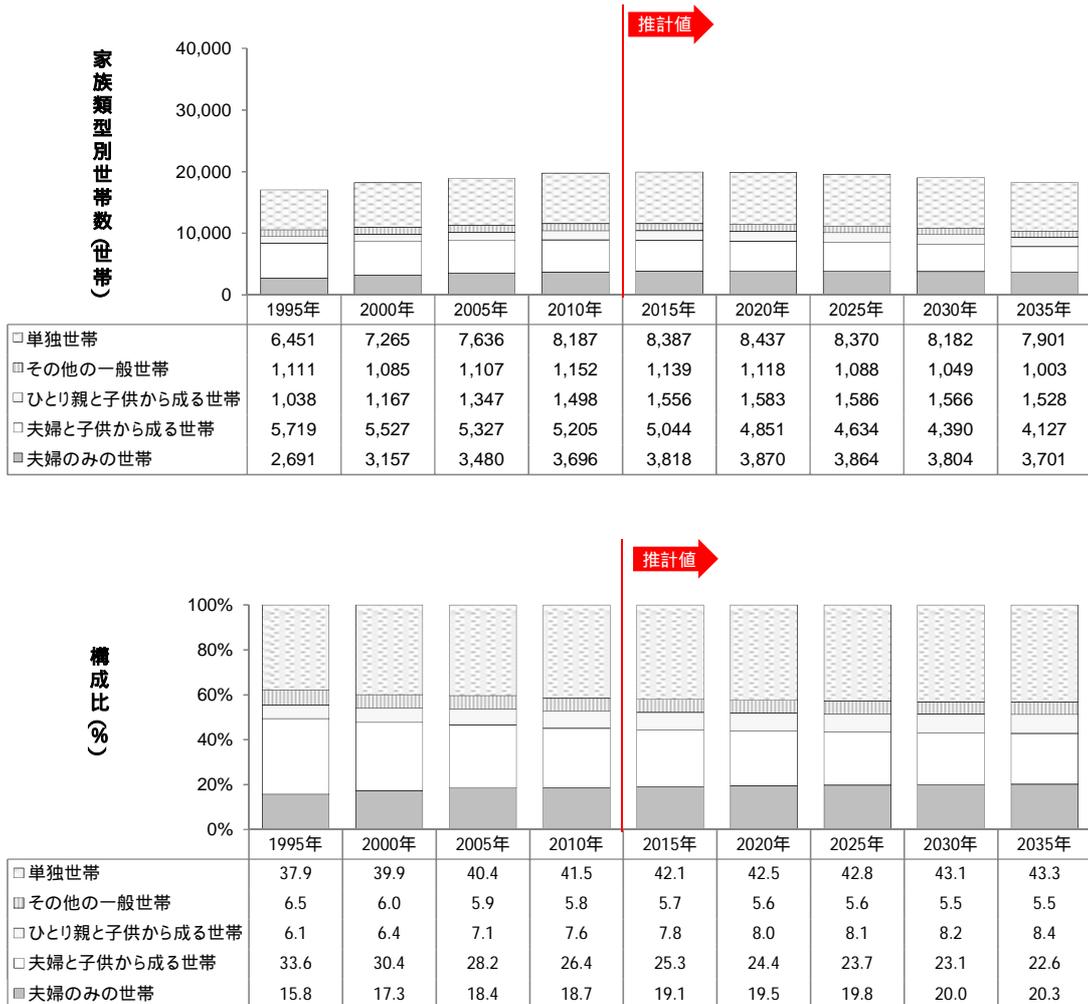
今後は2015(平成27)年の19,944世帯をピークに2035(平成47)年には18,261世帯となる見込みである。

なお、2035(平成47)年の増減率は2010(平成22)年比7.5減%である。

図表 2-43 一般世帯数及び1世帯当たり人員の推移  
(東林地区)



図表2-44 家族類型別一般世帯数及び割合の推移(東林地区)



(4)統計表

緑区	実数						構成比						増加数						増加率											
	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	
1995年	53,283	7,553	24,275	3,291	6,561	11,603	14.2%	46.6%	6.2%	12.3%	21.8%	100.0%	14.2%	46.6%	6.2%	12.3%	21.8%	5,224	2,422	-13	770	-27	2,072	9.8%	32.1%	-0.1%	23.4%	-0.4%	-	17.9%
2000年	58,507	9,975	24,262	4,061	6,534	13,675	17.0%	41.5%	6.9%	11.2%	23.4%	100.0%	17.0%	41.5%	6.9%	11.2%	23.4%	5,224	2,422	-13	770	-27	2,072	9.8%	32.1%	-0.1%	23.4%	-0.4%	-	17.9%
2005年	64,914	12,381	23,908	4,919	6,450	17,256	19.1%	36.8%	7.6%	9.9%	26.6%	100.0%	19.1%	36.8%	7.6%	9.9%	26.6%	6,407	2,406	-354	858	-84	3,581	11.0%	24.1%	-1.5%	21.1%	-1.3%	26.2%	
2010年	69,989	14,378	23,160	5,622	6,163	20,666	20.5%	33.1%	8.0%	8.8%	29.5%	100.0%	20.5%	33.1%	8.0%	8.8%	29.5%	5,075	1,997	-748	703	-287	3,410	7.8%	16.1%	-3.1%	14.3%	-4.4%	19.8%	
2015年	72,590	15,534	22,920	6,021	6,118	21,997	21.4%	31.6%	8.3%	8.4%	30.3%	100.0%	21.4%	31.6%	8.3%	8.4%	30.3%	2,601	1,156	-240	399	-45	1,331	3.7%	8.0%	-1.0%	7.1%	-0.7%	6.4%	
2020年	74,056	16,326	22,469	6,285	5,985	22,993	22.0%	30.3%	8.5%	8.1%	31.0%	100.0%	22.0%	30.3%	8.5%	8.1%	31.0%	1,466	792	-451	264	-133	996	2.0%	5.1%	-2.0%	4.4%	-2.2%	4.5%	
2025年	74,552	16,817	21,856	6,442	5,809	23,629	22.6%	29.3%	8.6%	7.8%	31.7%	100.0%	22.6%	29.3%	8.6%	7.8%	31.7%	496	491	-613	157	-176	636	0.7%	3.0%	-2.7%	2.5%	-2.9%	2.8%	
2030年	74,735	17,142	21,245	6,539	5,623	24,166	22.8%	28.4%	8.7%	7.5%	32.4%	100.0%	22.8%	28.4%	8.7%	7.5%	32.4%	183	325	-611	97	-186	557	0.2%	1.9%	-2.8%	1.5%	-3.2%	2.4%	
2035年	74,717	17,346	20,651	6,597	5,428	24,695	23.2%	27.6%	8.8%	7.3%	33.1%	100.0%	23.2%	27.6%	8.8%	7.3%	33.1%	-18	204	-594	58	-195	509	0.0%	1.2%	-2.8%	0.8%	-3.5%	2.1%	
1995年 2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16,706	6,825	-1,115	2,331	-398	9,063	23.9%	47.5%	-4.8%	41.5%	-6.5%	43.9%
2010年 2035年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4,728	2,968	-2,509	975	-735	4,029	6.8%	20.6%	-10.8%	17.3%	-11.9%	19.5%

緑区 橋本地区	実数						構成比						増加数						増加率											
	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	総数	夫婦のみ世帯	かたち成る世帯	かたち成る親と世帯	その他の一般世帯	単身世帯	
1995年	20,880	2,986	8,618	1,171	1,781	6,314	14.3%	41.3%	5.6%	8.5%	30.2%	100.0%	14.3%	41.3%	5.6%	8.5%	30.2%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2000年	24,440	4,022	9,061	1,487	1,826	8,044	16.5%	37.1%	6.1%	7.5%	32.9%	100.0%	16.5%	37.1%	6.1%	7.5%	32.9%	3,560	1,026	443	316	45	1,730	17.0%	34.2%	5.1%	27.0%	2.5%	27.4%	
2005年	29,009	5,137	9,514	1,833	1,976	10,449	17.7%	33.1%	6.3%	6.8%	36.0%	100.0%	17.7%	33.1%	6.3%	6.8%	36.0%	4,569	1,115	553	346	150	2,405	18.7%	27.7%	6.1%	23.3%	8.2%	29.9%	
2010年	32,067	5,834	9,683	2,092	1,971	12,487	18.2%	30.2%	6.5%	6.1%	38.9%	100.0%	18.2%	30.2%	6.5%	6.1%	38.9%	3,058	697	69	259	-5	2,038	10.5%	13.6%	0.7%	14.1%	-0.3%	19.5%	
2015年	34,164	6,385	9,804	2,268	2,003	13,703	18.7%	28.7%	6.6%	5.9%	40.1%	100.0%	18.7%	28.7%	6.6%	5.9%	40.1%	2,097	551	121	176	32	1,216	6.5%	9.4%	1.2%	8.4%	1.6%	9.7%	
2020年	35,737	6,824	9,940	2,407	2,008	14,659	19.1%	27.5%	6.7%	5.6%	41.0%	100.0%	19.1%	27.5%	6.7%	5.6%	41.0%	1,573	439	36	139	5	956	4.6%	6.9%	0.4%	6.1%	0.2%	7.0%	
2025年	36,828	7,155	9,791	2,510	1,996	15,376	19.4%	26.6%	6.8%	5.4%	41.8%	100.0%	19.4%	26.6%	6.8%	5.4%	41.8%	1,091	331	-49	103	-12	717	3.1%	4.9%	-0.5%	4.3%	-0.6%	4.9%	
2030年	38,124	7,518	9,836	2,627	2,007	16,136	19.7%	25.8%	6.9%	5.3%	42.3%	100.0%	19.7%	25.8%	6.9%	5.3%	42.3%	1,296	363	45	117	11	760	3.5%	5.1%	0.5%	4.7%	0.6%	4.9%	
2035年	39,562	7,906	9,943	2,754	2,032	16,927	20.0%	25.1%	7.0%	5.1%	42.8%	100.0%	20.0%	25.1%	7.0%	5.1%	42.8%	1,438	388	107	127	25	791	3.8%	5.2%	1.1%	4.8%	1.2%	4.9%	
1995年 2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11,187	2,838	1,065	921	190	6,173	34.9%	46.6%	11.0%	44.0%	9.6%	49.4%
2010年 2035年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7,495	2,072	260	682	61	4,440	23.4%	35.5%	2.7%	31.6%	3.1%	35.6%

緑区 大沢地区	実数						構成比						増加数						増加率													
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯		
																															1995年	2000年
1995年	9,099	1,243	4,749	644	956	1,507	100.0%	13.7%	52.2%	7.1%	10.5%	16.6%	-	-	383	160	16	-	-	748	383	160	16	-	-	82%	30.8%	-0.8%	24.8%	1.7%	-	15.1%
2000年	9,847	1,626	4,711	804	972	1,734	100.0%	16.5%	47.8%	8.2%	9.0%	17.6%	748	442	215	31	524	227	1,237	442	215	31	524	12.6%	27.2%	0.5%	26.7%	3.2%	30.2%			
2005年	11,064	2,068	4,736	1,019	1,003	2,258	100.0%	18.7%	42.7%	9.2%	9.0%	20.4%	1,237	525	202	-26	382	1,237	525	202	-26	382	8.6%	25.4%	-2.9%	19.8%	-2.6%	16.9%				
2010年	12,032	2,593	4,601	1,221	977	2,640	100.0%	21.6%	38.2%	10.1%	8.1%	21.9%	948	525	202	-26	382	948	525	202	-26	382	5.3%	10.0%	-0.1%	9.3%	3.3%	8.9%				
2015年	12,664	2,862	4,595	1,335	1,009	2,874	100.0%	22.5%	36.3%	10.3%	8.0%	22.7%	632	525	202	-26	382	632	525	202	-26	382	3.2%	6.8%	-1.1%	6.3%	1.3%	5.9%				
2020年	13,073	3,046	4,543	1,419	1,022	3,043	100.0%	23.3%	34.8%	10.9%	7.8%	23.3%	409	194	84	13	169	409	194	84	13	169	1.1%	3.9%	-2.6%	3.5%	-0.6%	3.2%				
2025年	13,214	3,164	4,426	1,469	1,016	3,139	100.0%	23.9%	33.5%	11.1%	7.7%	23.8%	141	118	50	-6	96	141	118	50	-6	96	1.1%	3.9%	-2.6%	3.5%	-0.6%	3.2%				
2030年	13,353	3,271	4,332	1,515	1,014	3,221	100.0%	24.5%	32.4%	11.3%	7.6%	24.1%	139	107	46	-2	82	139	107	46	-2	82	1.1%	3.4%	-2.1%	3.1%	-0.2%	2.6%				
2035年	13,495	3,371	4,256	1,559	1,015	3,295	100.0%	25.0%	31.5%	11.6%	7.5%	24.4%	142	100	44	1	74	142	100	44	1	74	1.1%	3.1%	-1.8%	2.9%	0.1%	2.3%				
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,833	1,350	-148	577	21	1,133	24.4%	1,350	-148	577	21	1,133	52.1%	52.1%	-3.2%	47.3%	2.1%	42.9%		
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,463	778	-345	338	38	655	12.2%	778	-345	338	38	655	30.0%	30.0%	-7.5%	27.7%	3.9%	24.8%		

緑区 城山地区	実数						構成比						増加数						増加率											
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯
1995年	7,200	1,062	3,709	444	859	1,136	100.0%	14.6%	51.5%	6.2%	11.9%	15.8%	-	-	338	115	31	97	461	338	115	31	97	6.4%	32.1%	-3.2%	25.9%	3.6%	8.5%	
2000年	7,661	1,390	3,689	559	890	1,233	100.0%	18.1%	46.8%	7.3%	11.6%	16.1%	461	270	109	61	205	461	270	109	61	205	4.9%	19.4%	-7.6%	19.5%	6.9%	16.6%		
2005年	8,033	1,660	3,316	668	951	1,438	100.0%	20.7%	41.3%	8.3%	11.8%	17.9%	372	270	109	61	205	372	270	109	61	205	4.9%	19.4%	-7.6%	19.5%	6.9%	16.6%		
2010年	8,916	1,970	3,236	763	935	2,012	100.0%	22.1%	36.3%	8.6%	10.5%	22.6%	883	310	80	-16	574	883	310	80	-16	574	11.0%	18.7%	-2.4%	14.2%	-1.7%	39.9%		
2015年	9,183	2,150	3,193	828	953	2,058	100.0%	23.4%	34.8%	9.0%	10.4%	22.4%	267	180	-43	18	46	267	180	-43	18	46	3.0%	9.1%	-1.3%	8.5%	1.9%	2.3%		
2020年	9,276	2,272	3,111	871	955	2,067	100.0%	24.5%	33.5%	9.4%	10.3%	22.3%	93	122	-82	2	9	93	122	-82	2	9	1.0%	5.7%	-2.6%	5.2%	0.2%	0.4%		
2025年	9,226	2,343	3,000	896	943	2,045	100.0%	25.4%	32.5%	9.7%	10.2%	22.2%	-50	71	-111	25	-22	-50	71	-111	25	-22	-0.5%	3.1%	-3.6%	2.9%	-1.3%	-1.1%		
2030年	9,033	2,364	2,858	902	919	1,990	100.0%	26.2%	31.6%	10.0%	10.2%	22.0%	-193	21	-142	6	-24	-193	21	-142	6	-24	-2.1%	0.9%	-4.7%	0.7%	-2.5%	-2.2%		
2035年	8,711	2,340	2,689	892	883	1,907	100.0%	26.9%	30.9%	10.2%	10.1%	21.9%	-322	-24	-169	-10	-36	-322	-24	-169	-10	-36	-3.6%	-1.0%	-5.9%	-1.1%	-3.9%	-4.2%		
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,716	918	-473	319	76	876	12.2%	918	-473	319	76	876	46.6%	46.6%	-14.6%	41.8%	8.1%	43.5%
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-205	370	-547	129	-52	-205	-2.3%	370	-547	129	-52	-205	18.8%	18.8%	-16.9%	16.9%	-5.6%	-5.2%



緑区 藤野地区	実数					構成比					増加数					増加率				
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯		
																			1995年	2000年
1995年	3,283	518	1,406	239	719	411	100.0%	15.7%	42.7%	7.3%	21.8%	12.5%	-	-	-	-	-	-	-	
2000年	3,374	623	1,352	265	672	462	100.0%	18.5%	40.1%	7.9%	19.9%	13.7%	81	105	-54	26	-47	51		
2005年	3,385	740	1,211	308	621	515	100.0%	21.8%	35.7%	9.1%	18.3%	15.2%	21	117	-141	43	-51	53		
2010年	3,356	784	1,090	336	551	595	100.0%	23.4%	32.5%	10.0%	16.4%	17.7%	-39	44	-121	28	-70	80		
2015年	3,185	780	991	332	504	589	100.0%	24.4%	31.0%	10.4%	15.8%	18.4%	-161	-4	-89	-4	-47	-6		
2020年	2,989	755	884	319	454	567	100.0%	25.3%	29.9%	10.7%	15.2%	19.0%	-206	-25	-97	-13	-50	-22		
2025年	2,759	716	799	302	406	536	100.0%	26.0%	29.0%	10.9%	14.7%	19.4%	-230	-39	-95	-17	-48	-31		
2030年	2,503	665	705	279	359	495	100.0%	26.6%	28.2%	11.1%	14.3%	19.8%	-256	-51	-94	-23	-47	-41		
2035年	2,215	600	609	251	310	444	100.0%	27.1%	27.5%	11.3%	14.0%	20.0%	-288	-65	-96	-28	-49	-51		
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	63	266	-316	97	-168	184		
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-1,141	-184	-481	-85	-241	-151		
2035年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-340%	-23.5%	-44.1%	-25.3%	-30.5%	-25.4%		

中央区	実数						構成比						増加数						増加率														
	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯									
																									1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
1995年	85,599	12,812	36,217	5,583	7,399	23,588	100.0%	15.0%	42.3%	6.5%	8.6%	27.6%	-	-	3,845	1,391	193	-	-	10,756	3,845	841	1,391	193	-	-	12,681	3,000%	2.3%	24.9%	-	-	19,000%
2000年	96,355	16,657	37,058	6,974	7,592	28,074	100.0%	17.3%	38.5%	7.2%	7.5%	29.1%	10,756	3,845	841	1,391	193	-	10,756	3,845	841	1,391	193	-	-	12,681	30.0%	2.3%	24.9%	-	-	19.0%	
2005年	104,526	18,972	36,200	8,546	7,864	32,944	100.0%	18.2%	34.6%	8.2%	7.9%	31.5%	8,171	2,315	-858	1,572	272	4,486	8,171	2,315	-858	1,572	272	4,486	-	8.5%	-2.3%	22.5%	3.6%	17.3%	17.3%		
2010年	112,398	20,587	35,546	9,748	8,081	38,456	100.0%	18.3%	31.6%	8.7%	7.2%	34.2%	7,872	1,595	-654	1,202	217	5,512	7,872	1,595	-654	1,202	217	5,512	-	7.5%	-1.8%	14.1%	2.8%	16.7%	16.7%		
2015年	116,107	21,810	35,021	10,429	8,156	40,690	100.0%	18.8%	30.2%	9.0%	7.0%	35.0%	3,709	1,243	-525	681	75	2,234	3,709	1,243	-525	681	75	2,234	-	3.3%	-1.5%	7.0%	0.9%	5.8%	5.8%		
2020年	117,594	22,965	34,181	10,881	8,106	42,024	100.0%	19.2%	29.0%	9.2%	6.9%	35.7%	1,690	795	-840	452	-50	1,334	1,690	795	-840	452	-50	1,334	-	1.5%	-2.4%	4.3%	-0.6%	3.3%	3.3%		
2025年	117,594	22,965	33,021	11,118	7,961	42,530	100.0%	19.5%	28.1%	9.5%	6.8%	36.2%	-203	360	-1,160	237	-145	506	-203	360	-1,160	237	-145	506	-	-0.2%	-3.4%	2.2%	-1.8%	1.2%	1.2%		
2030年	116,279	23,061	31,735	11,219	7,774	42,490	100.0%	19.8%	27.3%	9.6%	6.7%	36.5%	-1,315	96	-1,286	101	-187	-40	-1,315	96	-1,286	101	-187	-40	-	-1.1%	0.4%	0.9%	-2.3%	-0.1%	-0.1%		
2035年	113,887	22,901	30,308	11,193	7,540	41,946	100.0%	20.1%	26.6%	9.8%	6.6%	36.8%	-2,392	-160	-1,427	-26	-234	-544	-2,392	-160	-1,427	-26	-234	-544	-	-2.1%	-0.7%	-0.2%	-3.0%	-1.3%	-1.3%		
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26,799	7,755	-671	4,165	682	14,868	26,799	7,755	-671	4,165	682	14,868	-	23.8%	37.7%	-1.9%	42.7%	8.4%	38.7%	38.7%	
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,489	2,334	-5,238	1,445	-541	3,490	1,489	2,334	-5,238	1,445	-541	3,490	-	1.3%	-14.7%	14.8%	-6.7%	-6.7%	9.1%	9.1%	

中央区 本庁地区	実数						構成比						増加数						増加率														
	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯	総数	夫婦のみの世帯	か夫ら成る世帯	かひと成る親と世帯子供	その他の一般世帯	単独世帯									
																									1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
1995年	50,184	7,556	20,214	3,378	3,864	15,172	100.0%	15.1%	40.3%	6.7%	7.7%	30.2%	-	-	2,166	820	113	-	-	5,731	2,166	-90	820	113	-	-	11.4%	28.7%	-0.4%	24.3%	2.9%	17.9%	17.9%
2000年	55,915	9,722	20,124	4,198	3,977	17,894	100.0%	17.4%	36.0%	7.5%	7.1%	32.0%	5,731	2,166	-90	820	113	-	5,731	2,166	-90	820	113	-	-	6.1%	10.4%	-2.9%	18.2%	3.1%	11.7%	11.7%	
2005年	59,338	10,735	19,550	4,962	4,099	19,992	100.0%	18.1%	32.9%	8.4%	6.9%	33.7%	3,423	1,013	-574	764	122	2,098	3,423	1,013	-574	764	122	2,098	-	6.1%	10.4%	-2.9%	18.2%	3.1%	11.7%	11.7%	
2010年	62,741	11,488	18,896	5,511	4,248	22,598	100.0%	18.3%	30.1%	8.8%	6.8%	36.0%	3,403	753	-654	549	149	2,606	3,403	753	-654	549	149	2,606	-	5.7%	7.0%	-3.3%	11.1%	3.6%	13.0%	13.0%	
2015年	64,388	12,086	18,476	5,844	4,242	23,740	100.0%	18.8%	28.7%	9.1%	6.6%	36.9%	1,647	598	-420	333	-6	1,142	1,647	598	-420	333	-6	1,142	-	2.6%	5.2%	-2.2%	6.0%	-0.1%	5.1%	5.1%	
2020年	64,928	12,428	17,892	6,044	4,207	24,357	100.0%	19.1%	27.6%	9.3%	6.5%	37.5%	540	342	-584	200	-35	617	540	342	-584	200	-35	617	-	0.8%	2.8%	-3.2%	3.4%	-0.8%	2.6%	2.6%	
2025年	64,429	12,530	17,151	6,124	4,119	24,506	100.0%	19.4%	26.6%	9.5%	6.4%	38.0%	-499	102	-741	80	-88	149	-499	102	-741	80	-88	149	-	-0.8%	0.8%	-4.1%	1.3%	-2.1%	0.6%	0.6%	
2030年	65,560	12,533	16,422	6,152	4,022	24,431	100.0%	19.7%	25.8%	9.7%	6.3%	38.4%	-869	3	-729	28	-97	-75	-869	3	-729	28	-97	-75	-	-1.3%	0.0%	-4.3%	0.5%	-2.4%	-0.3%	-0.3%	
2035年	62,334	12,445	15,686	6,133	3,915	24,155	100.0%	20.0%	25.2%	9.8%	6.3%	38.8%	-1,226	-88	-736	-19	-107	-276	-1,226	-88	-736	-19	-107	-276	-	-1.9%	-0.7%	-4.5%	-0.3%	-2.7%	-1.1%	-1.1%	
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12,557	3,932	-1,318	2,133	384	7,426	12,557	3,932	-1,318	2,133	384	7,426	-	20.0%	34.2%	-7.0%	38.7%	9.0%	32.0%	32.0%	
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-407	957	-3,210	622	-333	1,557	-407	957	-3,210	622	-333	1,557	-	-0.6%	8.3%	-17.0%	11.3%	-7.8%	6.8%	6.8%	

中央区 大野北地区	実数						構成比						増加数						増加率										
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯					
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2010年	2035年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
	18,491	2,856	7,314	1,101	1,458	5,762	100.0%	15.4%	39.6%	6.0%	7.9%	31.2%	-	-	718	636	227	54	1,188	-	25.1%	8.7%	20.6%	-	15.3%	20.6%	3.7%	20.0%	-
	21,314	3,574	7,950	1,328	1,512	6,950	100.0%	16.8%	37.3%	6.2%	7.1%	32.6%	2823	718	636	227	54	1,188	-	15.3%	8.7%	20.6%	-	15.3%	20.6%	3.7%	20.0%	-	
	23,930	4,114	7,943	1,664	1,553	8,656	100.0%	17.2%	33.2%	7.0%	6.5%	36.2%	2,616	540	-7	336	41	1,706	12.3%	15.1%	-0.1%	25.3%	2.7%	12.3%	25.3%	2.7%	24.5%	24.5%	
	26,424	4,341	7,849	1,911	1,586	10,737	100.0%	16.4%	29.7%	7.2%	6.0%	40.6%	2,494	227	-94	247	33	2,081	10.4%	5.5%	-1.2%	14.8%	2.1%	10.4%	14.8%	2.1%	24.0%	24.0%	
	27,447	4,562	7,782	2,032	1,585	11,496	100.0%	16.6%	28.4%	7.4%	5.8%	41.9%	1,023	211	-67	121	-1	759	3.9%	4.9%	-0.9%	6.3%	-0.1%	3.9%	6.3%	-0.1%	7.1%	7.1%	
	27,928	4,670	7,625	2,107	1,556	11,970	100.0%	16.7%	27.3%	7.5%	5.6%	42.9%	481	118	-157	75	-29	474	1.8%	2.6%	-2.0%	3.7%	-1.8%	1.8%	3.7%	-1.8%	4.1%	4.1%	
	27,869	4,692	7,369	2,136	1,506	12,166	100.0%	16.8%	26.4%	7.7%	5.4%	43.7%	-59	22	-256	29	-50	196	-0.2%	0.5%	-3.4%	1.4%	-3.2%	-0.2%	1.4%	-3.2%	1.6%	1.6%	
	27,405	4,644	7,050	2,130	1,446	12,135	100.0%	16.9%	25.7%	7.8%	5.3%	44.3%	-464	-48	-319	-6	-31	-31	-1.7%	-1.0%	-4.3%	-0.3%	-4.0%	-1.7%	-4.0%	-0.3%	-0.3%	-0.3%	
	26,550	4,527	6,669	2,091	1,373	11,891	100.0%	17.1%	25.1%	7.9%	5.2%	44.8%	-855	-117	-381	-39	-73	-244	-3.1%	-2.5%	-5.4%	-1.8%	-5.0%	-3.1%	-5.4%	-1.8%	-5.0%	-2.0%	-2.0%
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7,933	1,485	535	810	128	4,975	30.0%	34.2%	6.8%	42.4%	8.1%	30.0%	42.4%	8.1%	46.3%	46.3%	
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	126	186	-1,180	180	-213	1,154	0.5%	4.3%	-15.0%	9.4%	-13.4%	0.5%	9.4%	-13.4%	10.7%	10.7%	

中央区 田名地区	実数						構成比						増加数						増加率										
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯					
	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年		
	7,943	1,044	4,128	480	1,005	1,286	100.0%	13.1%	52.0%	6.0%	12.7%	16.2%	-	-	457	105	172	50	113	-	43.8%	2.5%	35.8%	-	11.3%	43.8%	2.5%	35.8%	8.8%
	8,840	1,501	4,233	652	1,055	1,399	100.0%	17.0%	47.9%	7.4%	11.9%	15.8%	897	457	105	172	50	113	11.3%	15.3%	1.0%	36.0%	1.4%	11.3%	36.0%	1.4%	42.1%	42.1%	
	10,091	1,957	4,189	887	1,070	1,988	100.0%	19.4%	41.5%	8.5%	10.6%	19.7%	1,251	456	-44	235	15	589	14.2%	30.4%	-1.0%	36.0%	1.4%	14.2%	36.0%	1.4%	42.1%	42.1%	
	10,960	2,231	4,199	1,065	1,081	2,374	100.0%	20.4%	38.3%	9.7%	10.0%	21.7%	869	274	10	178	21	366	8.6%	14.0%	0.2%	20.1%	2.0%	8.6%	20.1%	2.0%	19.4%	19.4%	
	11,271	2,435	4,150	1,165	1,088	2,423	100.0%	21.6%	36.8%	10.3%	9.7%	21.5%	311	204	-49	100	7	49	2.8%	9.1%	-1.2%	9.4%	0.6%	2.8%	9.4%	0.6%	2.1%	2.1%	
	11,387	2,578	4,057	1,235	1,085	2,432	100.0%	22.6%	35.6%	10.8%	9.5%	21.4%	116	143	-83	70	-13	9	1.0%	5.9%	-2.2%	6.0%	-1.2%	1.0%	6.0%	-1.2%	0.4%	0.4%	
	11,365	2,670	3,936	1,282	1,063	2,414	100.0%	23.5%	34.6%	11.3%	9.4%	21.2%	-22	92	-121	47	-22	-18	-0.2%	3.6%	-3.0%	3.8%	-2.0%	-0.2%	3.8%	-2.0%	-0.7%	-0.7%	
	11,196	2,714	3,782	1,304	1,032	2,364	100.0%	24.2%	33.8%	11.6%	9.2%	21.1%	-169	44	-154	22	-31	-50	-1.5%	1.6%	-3.9%	1.7%	-2.9%	-1.5%	1.7%	-2.9%	-2.7%	-2.7%	
	10,880	2,709	3,595	1,304	990	2,282	100.0%	24.9%	33.0%	12.0%	9.1%	21.0%	-316	-5	-187	0	-42	-82	-2.8%	-0.2%	-4.9%	0.0%	-4.1%	-2.8%	0.0%	-4.1%	-3.5%	-3.5%	
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,017	1,187	71	585	86	1,088	27.5%	53.2%	1.7%	54.9%	7.9%	27.5%	53.2%	1.7%	45.8%	45.8%	
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-80	478	-604	239	-101	-92	-0.7%	21.4%	-14.4%	22.4%	-8.3%	-0.7%	21.4%	-14.4%	-8.3%	-8.3%	

中央区 上溝地区	実数						構成比						増加数						増加率						
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と り 成 る親 と子 供 世 帯	そ の 他 の 一 般 世 帯	単 独 世 帯	
																									1995年
1995年	8,981	1,356	4,561	624	1,072	1,368	100.0%	15.1%	50.8%	6.9%	11.9%	15.2%	-	-	190	172	-	463	14.5%	37.2%	-	27.6%	-	-	33.8%
2000年	10,286	1,860	4,751	796	1,048	1,831	100.0%	18.1%	46.2%	7.7%	10.2%	17.8%	1,305	504	190	172	-24	463	14.5%	37.2%	-	27.6%	-	463	33.8%
2005年	11,167	2,166	4,518	1,033	1,142	2,308	100.0%	19.4%	40.5%	9.3%	10.2%	20.7%	881	306	-233	237	94	477	8.6%	16.5%	-4.9%	29.8%	9.0%	477	26.1%
2010年	12,273	2,507	4,602	1,261	1,156	2,747	100.0%	20.4%	37.5%	10.3%	9.4%	22.4%	1,106	341	84	228	14	439	9.9%	15.7%	1.9%	22.1%	1.2%	439	19.0%
2015年	13,001	2,737	4,613	1,388	1,231	3,031	100.0%	21.1%	35.5%	10.7%	9.5%	23.3%	728	230	11	127	75	284	5.9%	9.2%	0.2%	10.1%	6.5%	284	10.3%
2020年	13,554	2,929	4,607	1,495	1,258	3,265	100.0%	21.6%	34.0%	11.0%	9.3%	24.1%	553	192	-6	107	27	234	4.3%	7.0%	-0.1%	7.7%	2.2%	234	7.7%
2025年	13,931	3,073	4,565	1,576	1,273	3,444	100.0%	22.1%	32.8%	11.3%	9.1%	24.7%	377	144	-42	81	15	179	2.8%	4.9%	-0.9%	5.4%	1.2%	179	5.5%
2030年	14,118	3,170	4,481	1,633	1,274	3,560	100.0%	22.5%	31.7%	11.6%	9.0%	25.2%	187	97	-84	57	1	116	1.3%	3.2%	-1.8%	3.6%	0.1%	116	3.4%
2035年	14,123	3,220	4,358	1,665	1,262	3,618	100.0%	22.8%	30.9%	11.8%	8.9%	25.6%	5	50	-123	32	-12	58	0.0%	1.6%	-2.7%	2.0%	-0.9%	58	1.6%
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,292	1,151	41	637	84	1,379	26.8%	45.9%	0.9%	50.5%	7.3%	1,379	50.2%
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,850	713	-244	404	106	871	15.1%	28.4%	-5.3%	32.0%	9.2%	871	31.7%





南区 新磯地区	実数						構成比						増加数						増加率																
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯					
																															1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
1995年	3,721	498	1,973	256	538	456	100.0%	13.4%	53.0%	6.9%	14.5%	12.3%	-	-	20	40	-30	114	103%	48.0%	1.0%	15.6%	-	-	509	461	-81	223	189	-21	509	22.7%	48.1%	-4.1%	52.7%
2000年	4,104	737	1,993	296	508	570	100.0%	18.0%	48.6%	7.2%	12.4%	13.9%	383	239	20	40	-30	114	103%	48.0%	1.0%	15.6%	-	-	396	389	54	189	18	396	21.7%	40.6%	2.9%	41.0%	
2005年	4,279	834	1,896	384	493	672	100.0%	19.5%	44.3%	9.0%	11.5%	15.7%	175	97	-97	88	-15	102	4.3%	13.2%	-4.9%	29.7%	-30.0%	17.9%	105	103	22	9.8%	2.2%	9.8%	2.1%	9.9%			
2010年	4,812	959	1,892	479	517	965	100.0%	19.9%	39.3%	10.0%	10.7%	20.1%	533	125	-4	95	24	283	12.5%	15.0%	-0.2%	24.7%	4.9%	43.6%	64	84	23	41	6	86	4.5%	7.3%	1.1%	7.4%	
2015年	5,034	1,047	1,889	521	519	1,058	100.0%	20.8%	37.5%	10.3%	10.3%	21.0%	222	88	-3	42	2	93	4.6%	9.2%	-0.2%	8.8%	0.4%	9.6%	64	84	23	41	6	86	2.9%	5.2%	0.2%	5.1%	
2020年	5,345	1,150	1,931	571	530	1,163	100.0%	21.5%	36.1%	10.7%	9.9%	21.8%	222	103	42	50	11	105	6.2%	9.8%	2.2%	9.6%	2.1%	9.9%	64	84	23	41	6	86	2.9%	5.2%	0.2%	5.1%	
2025年	5,584	1,234	1,954	612	536	1,249	100.0%	22.1%	35.0%	11.0%	9.6%	22.4%	239	84	23	41	6	86	4.5%	7.3%	1.2%	7.2%	1.1%	7.4%	64	84	23	41	6	86	2.9%	5.2%	0.2%	5.1%	
2030年	5,748	1,298	1,957	643	537	1,313	100.0%	22.6%	34.0%	11.2%	9.3%	22.8%	164	64	3	31	1	64	2.9%	5.2%	0.2%	5.1%	0.2%	5.1%	64	84	23	41	6	86	2.9%	5.2%	0.2%	5.1%	
2035年	5,858	1,348	1,946	668	535	1,361	100.0%	23.0%	33.2%	11.4%	9.1%	23.2%	110	50	-11	25	-2	48	2.9%	5.2%	-0.6%	3.9%	-0.4%	3.7%	64	84	23	41	6	86	2.9%	5.2%	-0.6%	3.7%	
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,091	461	-81	223	-21	509	22.7%	48.1%	-4.3%	46.6%	-4.1%	52.7%	1,046	389	54	189	18	396	21.7%	40.6%	2.9%	39.5%	
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,046	389	54	189	18	396	21.7%	40.6%	2.9%	39.5%	3.5%	41.0%	1,046	389	54	189	18	396	21.7%	40.6%	2.9%	39.5%	

南区 相模台地区	実数						構成比						増加数						増加率																	
	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯	総数	夫婦のみ の世帯	か夫 ら成 る世 帯	かひ と成 る親 と子 供	そ の他 の一般 世帯	単 独世 帯						
																															1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
1995年	17,309	2,691	6,365	1,057	1,251	5,945	100.0%	15.5%	36.8%	6.1%	7.2%	34.3%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2000年	19,210	3,391	6,358	1,318	1,217	6,926	100.0%	17.7%	33.1%	6.9%	6.3%	36.1%	1,901	700	-7	261	-34	981	11.0%	26.0%	-0.1%	24.7%	-2.7%	16.5%	1,901	700	266	126	102	454	1.4%	3.7%	17.0%	8.4%	6.6%	
2005年	19,476	3,517	5,718	1,542	1,319	7,380	100.0%	18.1%	29.4%	7.9%	6.8%	37.9%	266	126	-640	224	102	454	1.4%	3.7%	-10.1%	17.0%	8.4%	6.6%	266	126	266	126	102	454	1.4%	3.7%	17.0%	8.4%	6.6%	
2010年	20,497	3,771	5,414	1,682	1,304	8,326	100.0%	18.4%	26.4%	8.2%	6.4%	40.6%	1,021	254	-304	140	-15	946	5.2%	7.2%	-5.3%	9.1%	-1.1%	12.8%	1,021	254	254	254	140	946	5.2%	7.2%	-5.3%	9.1%		
2015年	21,392	4,021	5,344	1,822	1,315	8,990	100.0%	18.8%	25.0%	8.5%	6.1%	41.6%	895	250	-70	140	11	564	4.4%	6.6%	-1.3%	8.3%	0.8%	6.8%	895	250	250	250	140	564	4.4%	6.6%	-1.3%	8.3%		
2020年	21,971	4,200	5,236	1,925	1,328	9,283	100.0%	19.1%	23.8%	8.8%	6.0%	42.3%	579	179	-108	103	13	393	2.7%	4.5%	-2.0%	5.7%	1.0%	4.4%	579	179	179	179	103	393	2.7%	4.5%	-2.0%	5.7%		
2025年	22,240	4,309	5,090	1,994	1,326	9,521	100.0%	19.4%	22.9%	9.0%	6.0%	42.8%	269	109	-146	69	-2	238	1.2%	2.6%	-2.8%	3.6%	-0.2%	2.6%	269	109	109	109	69	238	1.2%	2.6%	-2.8%	3.6%		
2030年	22,214	4,357	4,908	2,032	1,311	9,606	100.0%	19.6%	22.1%	9.1%	5.9%	43.2%	-26	48	-182	38	-15	85	-0.1%	1.1%	-3.6%	1.9%	-1.1%	0.9%	-26	48	48	48	38	85	-0.1%	1.1%	-3.6%	1.9%		
2035年	21,987	4,360	4,709	2,048	1,288	9,583	100.0%	19.8%	21.4%	9.3%	5.9%	43.6%	-227	3	-199	16	-23	-23	-1.0%	0.1%	-4.1%	0.8%	-1.8%	-0.2%	-227	3	3	3	16	-23	-1.0%	0.1%	-4.1%	0.8%		
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,188	1,080	-951	625	53	2,351	15.6%	28.6%	-17.6%	37.2%	4.1%	28.6%	3,188	1,080	589	589	625	2,351	15.6%	28.6%	-17.6%	37.2%		
2010年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,490	589	-705	366	-16	1,257	7.3%	15.6%	-13.0%	21.8%	-1.2%	15.1%	1,490	589	589	589	366	1,257	7.3%	15.6%	-13.0%	21.8%		



相模原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン策定に係る基礎調査報告書

2016(平成 28)年 4 月発行

相模原市 企画財政局企画部 企画政策課  
さがみはら都市みらい研究所

住 所 〒252 - 5277 相模原市中央区中央2 - 11 - 15

T E L 042 - 769 - 9224

E - mail [surv@city.sagamihara.kanagawa.jp](mailto:surv@city.sagamihara.kanagawa.jp)